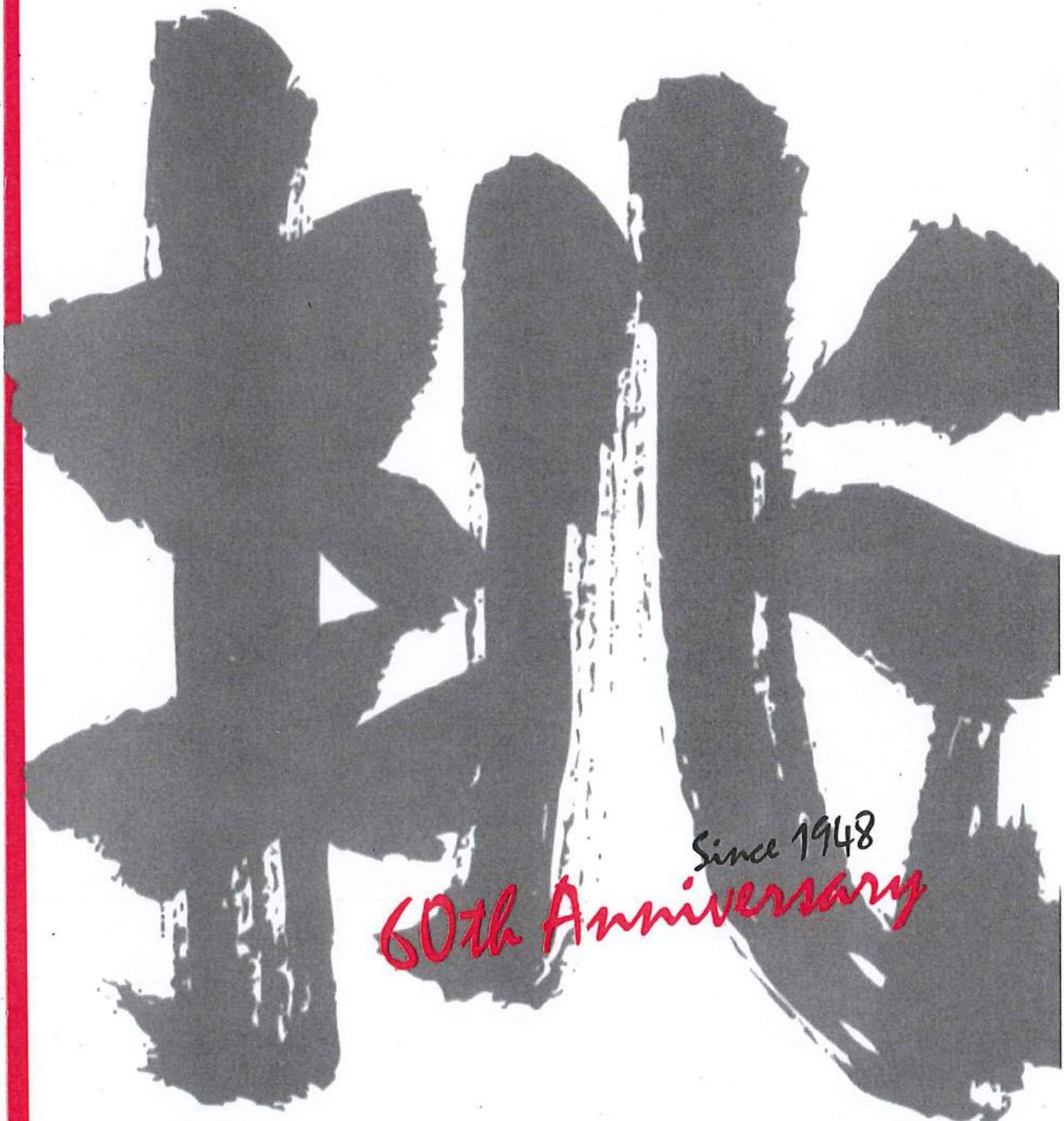


創立 **60** 周年記念誌

日本鍍金協会 十日会



新嘉坡新嘉坡立憲
新嘉坡立憲

新嘉坡立憲

創立 **60** 周年記念誌

日本鍍金協会 **十日会**

Since 1948
60th Anniversary

創立 60周年記念誌

日本鍍金協会 十日会

もくじ

4 はじめに ◆十日会 会長 石川 英孝
◆60周年実行委員長 遠藤 清孝

7 祝辞

- ◆全国鍍金工業組合連合会 会長 鈴木 喜代壽
- ◆東京都鍍金工業組合 東京鍍金公害防止協同組合 理事長 姫野 正弘
- ◆日本鍍金協会 会長 神谷 篤
- ◆名鍍会 会長 清水 謙一
- ◆青研会 会長 前田 浩孝

17 十日会とは

18 十日会60年間の軌跡 昭和23～平成20年

34 マンガで見る十日会 ①
「十日会誕生物語」

42 十日会なんでもQ&A
十日会への一般的なQ&Aコーナー

46 十日会は〇〇〇会だ！
会員による寄せ書き

コラム(十日会の歴史を作った男たち-1)

49 10年間を振り返って

50 平成10～19年度 会活動の回顧

コラム(十日会の歴史を作った男たち-2)

91 今後の十日会

92 著名人対談

「環境問題はなぜウソがまかり通るのか」の著者 武田邦彦氏との対談
～めっきの社会貢献と環境問題～

100 歴代会長から現役員へ 「語り継ぎたいこと」

コラム(JES ご当地の美味しい食べ物&美味しいスイーツ)
コラム(湯島の丘の赤い屋根)

109 めっき業界はココが面白い

110 素人171人に聞きました へえ～世の中の人って「めっき」についてこう感じてるんだあ～

設問は
3つ

- ★めっきって何?
- ★めっきのイメージは?
- ★めっきってどこに使われているの?

114 これが2008年の最先端技術!! めっきは進化し成長する

124 マンガで見る十日会 ②「ろ過機開発物語」

132 マンガで見る十日会 ③「液分析とペロメーター」

コラム(上村福子さんと役員会)

141 十日会名簿とJES

142 十日会名簿(会員紹介)

148 マンガで見る十日会 ④「日本鍍金協会設立物語」

156 日本鍍金協会(JES)の紹介

コラム(JESでの交流について)

159 十日会賞・十日会会則

160 十日会会則

162 年度別十日会賞受賞者名簿・十日会賞表彰規程

167 ゴルフ会リザルト

コラム(十日会運営について)

171 業界タウンページ

172 広告INDEX

226 編集後記 齋藤 晴久

はじめに

■十日会創立60周年を迎えて

十日会 会長 石川 英孝



十日会がここに創立60周年を迎えるにあたりひと言ご挨拶を申し上げます。

人間で60歳は「還暦」にあたり、「再び生まれた時に帰る」の意味があるとのことですが、十日会もここに創立60周年を迎へ盛大な記念式典が挙行されることに大きな喜びを感じます。会員も現在66名を数えますが、ここ数年で世代交代が進み半数以上の会員が3世となり、役員も若き人での運営となりました。その意味においては、まさに十日会も「還暦」を迎え再び創立時の気持ちに立ち返るのかも知れません。

創立時の気持ちと書きましたが、過去の記念誌を紐解いてみると十日会は故高浜二郎先生が昭和23年11月15日正午に文京区小石川の後楽園「涵徳亭」に於いて、9名の諸氏が集い発足したものとあります。

このメンバーは高浜先生が昭和23年10月初めより、モンペ姿に地下足袋で大森、滝野川、尾久と歩き回り説得・勧誘したそうです。先生はその理由について「学校が同じであれば級友・校友として顔を合わせるだろうが、青年めっき人は殆ど学校を異にしているため顔を合わせる機会もなく、ばらばらのままであるのが気になった。例え学ぶところは別々であろうとも理解は早い筈であり、特に同業として親睦されるならば、きっと業界を勇気づけるものであろう。そして、将来における公私の行動の、討論する、司会する、協力するの練習をさりげなく技術研究の場で行なおうと考えた」と記されています。当時、高浜先生は歳65才だったそうですが、復興の足取りも未だしの東京を、めっき人を集結して業界の興隆を図るべく歩き回ったそうです。その訪問を受けた一人、坂手氏は「その当時、東京のめっき業界には向島の若葉会、城東の鍍友会という二つの

青年層の団体があり、それぞれ活発な活動をしているが、いずれも限られた地域の活動になってしまふ。全東京を一つの地域とする幅広い団体をつくり、お互いの情報交換、技術的な勉強をする目的とする団体を作ったらどうか、と熱心に説かれた」と回想されています。

今こそ十日会は毎月の例会がごく自然に行なわれていますが、歴史をさかのぼると、その創立時の凄まじい背景が目に浮かぶと同時に、高浜先生をはじめ諸先輩方の将来に対する業界への想いが切々と感じられます。

現在も創立時の精神は、我々十日会会員に確実に受け継がれ、年間通じて活発な活動を行なっていますが、この60年、確実に時代は変化を遂げて今日に至っています。技術中心に始まった会も今は、技術、経営、環境、健康と様々なテーマでの討論の場として活かされています。そしていつも変わらず意識していること、それが「討論する、司会する、協力する」なのです。

話は変りますが、十日会は愛知の名鍍会、大阪の青研会の三会で日本鍍金協会を構成しています。一年ごとに担当幹事を各会で持回り、会員の工場見学をメインとした企画と総会を年2回行ないます。本来自社の工場見学を同業同士で行なうことは少なからず抵抗のあるものかもしれません、日本鍍金協会では業界全体が良くなることが、自社の発展に繋がるものと信じ、快く引き受けてくれます。時には九州の九青会、京都の鍍秀会とも交流を持つ機会がありますが、このような場での交流や情報交換は我々にとって一番の刺激と財産になります。

日本鍍金協会も数年後に創立50周年を迎へ、益々地域間のつながりを増して、めっき業界を支えていく存在になるものと思います。

さて、現在の日本経済はしばらく続いた、いざなぎ景気も完全に終わりを告げ、またしても我々中小企業にとって厳しい時代になりました。売値は変わらずのコストダウンを要求される一方で、各原材料は歯止めの利かない値上がりが続き収益を圧迫し対応に必死です。合わせて土壌汚染問題や環境対応と様々な難題が我々に襲い掛かってきて



います。冒頭にも書きましたが、十日会会員も次世代を担う若手にバトンタッチされつつあります。めっき業界の明るい未来を目指して、我々は常に「討論する、司会する、協力する」を実行し続けなければならないと感じます。

十日会はこれからも「日進月歩」で長き未来を築いていく事を約束し70年、80年と邁進していきたいと思います。

最後に、この記念誌の編集にあたり、関連業界から賜りましたご協力、そして編集委員長はじめ委員各位の熱い想いに感謝申し上げ、挨拶とさせていただきます。

■十日会創立60周年を迎えて

60周年実行委員長 齊藤 清孝



十日会は戦後の混乱期である昭和23年11月15日に発足以来ここに創立60周年を迎える。組合組織とは異なり法的に何のバックアップのない任意団体が60年もの長きに亘って存続してきたことはまさに感無量の思いである。十日会は戦後の何もない時代に技術研究と同志的団結をもって「めっきを天職とすることによって日本に奉仕する」との高潔な理想を掲げ、以来今日までその精神を不変のものとして受け継ぎ「討論する、司会する、協力する」の修練を通じてめっき業界に多くの指導者を輩出してきた。これまでの先輩諸兄が常に業界の先駆者として活動された偉大な事跡に対して深い感謝と深甚なる敬意を表するものである。十日会は節目ごとに周年行事を行い先人の歩んだ道を辿り創立の精神を思い起こし団結をより強固にしてきている。十日会にとって周年事業は重きにおいた活動のひとつであり、この60周年事業も50周年式典が終了した時から準備が始まったといつても過言ではない。私自身50周年時の会長であり新たな十日会の歴史を築いていくことを使命とし この60周年を迎えることができただけに感慨一入

の思いである。今回の60周年事業ではこの記念誌編纂は特に力を注いできた。記念誌表紙の“挑”は十日会の60年が業界発展の推進力となり“果敢に挑戦”を続けた歴史であり、これからも“挑む”精神を忘れることなくやり抜く気持ちが込められている。“挑”表紙もそうであるが齊藤編集委員長の斬新なアイデアがいたるところで發揮されこれまでとはまったくちがった記念誌が出来上がった。マンガで見る十日会の歴史や武田先生との対談など盛り沢山な企画のなかで担当した各編集委員の苦労は大変なものがあった。月に数回の編集委員会のほかにそれぞれがかなりの時間を費やし会社の仕事どころではなかったことと思う。この“挑”記念誌が十日会の新たな時代を開く一ページとなり後世に読み継がれていくものとなれば望外の喜びである。

振り返るとめっき業界の歴史は苦難の連續であった。過去50周年時にも40周年時にもさらにはそれ以前にも「今ほど困難な時代はない」と表現されてきた。どの時代が一番大変だったかはともかく、はっきり言えることは過去のどんな困難な時代も我々はそれを乗り越えてきたことに間違はない。そして、我々はその困難な時代を乗り越えるたびに成長してきたこともまぎれもない事実であるはずだ。その成長が次の困難をも克服する力になるものと確信する。中国の後漢書に「疾風に勁草を知る」という言葉がある。吹きすさぶ嵐のなか、倒れないのは強い草だけである。それと同じく苦境にあるとき、強靭な意志をもつ者だけが耐えることができるるのである。人間の真の強さは疾風が吹いて初めて表れるものであり、いよいよ我々の本当の力が試されようとしている。この60周年を機にこれから先待ち受けている困難にひるむことなく十日会の創立の精神を今一度思い起こし団結を一層強固にして業界発展の推進力として挑戦し続け10年後の十日会70周年に繋げていく覚悟を新たにしたところである。

最後にこの記念誌の編纂にあたり会員ならびに関連業界各位から賜りましたご協力に対し衷心より感謝申し上げ発刊のことばと致します。

祝辭

全国鍍金工業組合連合会
会長 鈴木 喜代壽

東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合
理事長 姫野 正弘

日本鍍金協会
会長 神谷 篤

名鍍会
会長 清水 謙一

青研会
会長 前田 浩孝

創立60年を迎えて



全国鍍金工業組合連合会
会長 鈴木 喜代壽

貴会におかれましては、本年で60周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。貴会が創立された昭和23年の日本。

東京をはじめ主要都市の各地は焼け野原の状態で、社会は極度の混乱の時代でした。めっき企業にとりましても、原材料のほとんどを配給制や輸入に頼らざるを得ない状況下であり、使用する電力の新增設もままならず、当時のめっき工場の操業は困難な時代がありました。

そんな時代に貴会が創立され、当時の高浜二郎先生は、「情報の収集、技術の習得と共に、将来にわたり公私の活動において、『討論する・司会する・協力する』のもと修練の場所とする」目的で、めっきを志す青年に対する技術、技能の育成のためにご尽力されました。まさに業界の将来とめっき業界を担う人材育成についての氏の高い理念と深い愛情を感じつつ、先生の先見の目に深い感銘を受けました。その意思を受け継いだ人たちは、高度成長期のめっき業界の発展に寄与され、めっき業界の地位向上に大いにご活躍されました。私自身、その諸先輩方に地域の垣根を越えてご指導を賜ったことは今でも思い出され、人と人の繋がりの大切さを貴会の先輩方より学ばさせて頂きました。

さて、全鍍連では高度成長期に3,000社を超えていた組合員は、その後の経済情勢の変化により、1,721社（平成20年4月1日現在）となりました。昨今の経済景況も、いわゆる「サブプライム住宅ローン問題」を背景とするアメリカの景気後退懸念や金融不安、原油価格の変動などから、景気の下振れリスクが高まり、厳しい状況が続く様相を呈する気配です。しかし、電気めっき業の重要性は、いささかも減じておらず、最近では、国が重要な基盤産業に指定され、我が国の製造業にとって欠かせない技術であることは認知されております。近年においては、アジア諸国との競争激化やさまざまな環境問題において、常に対応を求められながら操業することが続いております。従って今後はより、国内のめっき企業にしかできない独自の技術開発、他国・他社にはない付加価値を有することも必要かと思います。

昨年全鍍連において、第45回全国大会で発表したスローガン「ものづくりはひとづくり－環境との共生を図り次の世代につなげるひとづ

くり」は、子孫の代まで残せるよう環境と共生したものづくりに取り組むことを表明したものです。すでに、先進企業では、次の時代を担う人材育成を強化するとともに、環境に配慮した企業活動が顧客からも評価され新たな付加価値を生み出しております。そのためには、ものづくりの変化に対応するひとつくりは欠かせません。また経営者だけではなく、個々の従業員が前向きに取り組む職場づくりも肝要と思います。これがひとつくりであり、ゆめづくりの実現の一歩と考えております。

全鍛連も、貴会と同じく本年で創立60周年を迎えることになります。今後も組合事業を通じて更に研鑽に励み、新たな時代に即した組織化の推進と電気めっき業の発展のために全力で取り組んで参りたいと思います。

貴会におかれましては、この創立60周年を契機に、これまで赫々たる活動の成果を踏まえて更に一層団結を強固にされ、益々のご活躍をお祈り申し上げてお祝いの祝辞とさせて頂きます。

十日会創立60周年を祝う



東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合
理事長 姫野 正弘

十日会が創立60周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。十日会は昭和23年、東京の「青年メッキ人」に勉強の場を設けようと、技術の研究、情報交換の団体として創立されました。爾来毎月10日、研究討論、講演会、工場見学などが熱心に行われ、毎回、まさに談論風発という雰囲気だったと伝えられています。

その後、研究テーマも技術上のことなどまらず、次第に経営全般に関する事に広がっていくとともに、各種の情報交換や親睦行事を通じて会員同士の相互団結が強化され、めっき業界の牽引車的な存在となりました。

昭和36年には大阪の鍍友会、愛知の名鍍会とともに日本鍍金協会を結成し、業界の次代を担う若手経営者の連携を全国的に広げられたことも、業界にとって大きな功績といえましょう。

また、昭和42年には東京のめっき業界が大同団結して誕生した東京都鍍金工業組合に、十日会所有の会館建物等の売却代金を技術・技能向上のための資金として寄贈され、44年には「十日会創立20周年記念基金」を別途寄贈されました。組合ではこれを今日の「十日会賞」の基金として、業界発展に貢献された方々を表彰するために活用させていただいております。

そして特筆すべきは、十日会がこのような活動の積み重ねを通じて多くの優れた人材を輩出してこられ、業界内外の多方面で広くご活躍になっていることです。当組合においても、これまでに正副理事長・理事・監事・委員等の要職に、会員の中から歴代会長をはじめ多数の方々が就任されております。

ちなみに、手元にある十日会の各周年記念誌発行時の会長名を拝見しますと、20周年が石川進氏、30周年が八幡順一氏、40周年が菊池忠男氏、50周年が遠藤清孝氏となっております。石川氏は組合の各委員を歴任され、現在も組合が運営する職業訓練校講師としてご活躍中ですし、続く八幡氏は現副理事長、菊池氏は現常任理事、遠藤氏は現支部長・理事としてそれぞれご活躍いただいており、改めて感銘を深くしているところです。

さて、60年という年月は人間では「還暦」に相当し、サラリーマンなら定年に達します。折しも、高度成長期に大量採用されたいわゆる「団塊の世代」が定年を迎える始めており、モノづくり業界では彼らが保有する技術・技能をいかに継承していくかが重要な課題となっています。

また、今日のめっき業界には60年前には想像すらできなかつた厳しい排水規制、特定有害物質の使用制限、土壤汚染問題など、深刻で解決困難な課題が山積しています。よく「企業は人なり」と言いますし、「モノづくりはヒトづくり」という言葉もよく聞きます。いま、こうした困難な課題に的確に対応できる人材を確保・育成することが業界の急務だと思います。

60年間にわたってめっき業界をリードし続けてこられた十日会が、「めつきを天職とすることによって日本に奉仕する」という創立精神のもとに、わが業界の諸課題に的確に対応できる優秀な人材をこれからも送り出し、石川英孝会長を先頭に、あらゆることに果敢にチャレンジし続けられることを祈念して、私のお祝いの言葉をいたします。

十日会創立60周年おめでとうございます



日本鍍金協会
会長 神谷 篤

十日会創立60周年おめでとうございます。いつも日本鍍金協会事業へのご理解とご協力ありがとうございます。日本鍍金協会の活動としては東京十日会、大阪青研会、名古屋名鍍会で年に2~3度しかお会いできる機会がありませんが、いつも先輩方をお誘いいただき大勢参加していただく姿勢にその結束力と組織の強さを感じます。十日会の「討論する」「司会する」「協力する」というスローガンの元で若いメンバーが伸び伸び活躍されているのを見ています。何事にも積極的に関わる姿勢が60年という歴史を作ってきたのだと思います。

何度か例会に参加させていただいたことがあります、活発な意見交換と貪欲な情報収集で圧倒されたことを思い出します。学ぶときは学ぶ、遊ぶ時は遊ぶという良き伝統も徹底して受け継がれていると感じました。日本経済の中心である関東地区ということもあり、地価も高くけっして製造業に向いている地域ではないと思いますが、みなさん非常に前向きに事業展開されています。技術の向上に熱心で高付加価値処理を目指しておられるようです。

このところ世界的に原材料、原油が高騰し、一般消費財まで値上がりでいいよいよ事業に影響がでてきてています。そればかりか金融そのものまで投機対象となり株価や景気を左右し個々企業の努力とは関係の無いチカラに翻弄されています。中でも影響の大きいのはやはり金属材料価格の異常な高騰でしょう。中国市場での需要拡大もあるでしょうが投機対象であるとの見方が強いようです。通常の製造活動の使用量であれば金属そのものが現時点で品薄になること自体が異常であるといえます。日々はじめに事業を営んでいることと無関係の場所で取引価格が引き上げられていくという不条理、更にそれらの値上げを認められない業界内の位置にも問題があります。

そしてどこまでも高騰する原油に至っては政治的な思惑やら世界企業の駆け引きやら、どんなチカラが絡んでいるのかすらまるでわかりません。原油埋蔵量も識者のコメントによるともう数年前に枯渇しているはずであったように記憶しています。しかし今だに世

界中で石油はどんどん燃やされ快適な生活を謳歌しています。CO₂削減もかけ声だけで世界的な合意すらできない状況を見ていればいかに原油マーケットに関わる人間が多いのかがわかります。しかしさすがにこれだけ高くなると消費者も使い方を考えるでしょう。ムダには使いませんし、これからは化石燃料から他のエネルギーへの転換が急速に進むのではないでしょうか。これこそ私たちの業界にとって大きな影響のある事象でしょう。当然、自動車は内燃機関から電気への移行に拍車がかかっていくでしょうし、業界を取り巻く環境が激変する可能性があります。

近未来には自動車が空中に浮くとも言われています。リニアモーターカーが東京大阪間を一時間で結び、超音速飛行機が成層圏を飛び回り、情報は瞬時に世界を駆けめぐってしまう。しかも環境負荷を押さえたきれいな地球で快適な生活があるかもしれません。まさに我々が子供のころの漫画のような世界が近づいているといえるでしょう。日本鍍金協会のメンバーを見ているとこんな夢を描ける元気をもらうことができます。

このように社会情勢は常に変化し我々に対応を迫ってきます。今はまさに大きな変化の時が訪れていると考えて良いと思います。この変化を大チャンスと捕らえ新技術に対応していきたいものです。若いみなさんの柔らかい頭と元気なからだで時代の先頭を走っていきましょう。

60年という長い歴史に支えられた貴会のますますの繁栄を祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

創立60周年を祝して



名鍍会
会長 清水 謙一

十日会が創立60周年を迎えられました事、心よりお祝い申し上げます。

また、十日会の皆様には、日本鍍金協会を通じ平素からお世話になり、ありがとうございます。

名鍍会も、本年創立50周年記念事業を行い、お祝い事が続けて出来るということは、とても喜ばしく嬉しく思います。

私がこの業界にかかわりを持ったのは、青研会の賛助会員として初めて参加した、平成3年の日本鍍金協会の30周年記念大会でした。もちろん十日会、青研会、名鍍会と三会が集まる場に参加したのも初めてで、出席されている皆さんの、ものすごいパワーと団結力を肌で感じたことを今でもよく覚えています。

そして今、私自身が名鍍会の会長として力不足ながらも会を運営していますが、日本鍍金協会での合同役員会、秋季大会、年次大会という場で情報交換、技術交流、会員相互の親睦などを通じ深い繋がりが持て、頼りになる仲間が他の地域にも居るということは、私にとって本当に心強い財産になっています。

さて、昨年までは景気拡大の10年だったといわれていましたが、現在の日本経済を取り巻く状況は、米国サブプライムローン問題、株安、ドル安、材料高、原油高と景気の急速な減速懸念が強まっている中、品質やコスト削減の要望は益々厳しくなり、生産拠点の海外シフト、人材不足、有害物質の使用規制、排水の規制強化、土壌汚染対策といった難問ばかりが山積みしているのが現状です。今後、こうした状態が一挙に解決する見込みもなく、これまで以上の努力と忍耐が必要とされるでしょう。

このような状況下で、十日会は多くの参加者のもと、例会、工場見学会、講演会、親睦会など活発に行われており、後輩の育成や会員の団結等の素晴らしい活動力は私たち名鍍会の励みになると共に、指針を与えてもらっています。

最後に、60年という人の還暦にあたります。還暦とは生まれたときに還るという意味があるそうです。十日会もまた原点に戻られ気持ちも新たに、先の100周年、また大還暦にあたる120周年に向って大きく更なる発展をされますよう心より祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

十日会創立60周年を祝して



青研会

会長 前田 浩孝

この度、十日会におかれましては、創立60周年を迎えられ、誠におめでとうございます。また、十日会会員の皆様方には、日本鍍金協会を通じまして、平素より大変お世話になり、ありがとうございます。

十日会が設立された60年前というと、まだ戦後間もない頃、日本経済もどん底で、国民生活も共に苦しい時代であったことと思います。そのような時代を乗り越えられ、昭和30年代の日本の高度成長期を経て、めっき業界発展の推進力として活躍して来られたことに敬意を表します。

その後、平成に時代が変わってからはバブル経済の崩壊と共に、我々めっき業界を取り巻く状況は、環境問題など非常に厳しい状態にあります。

このような状況下でも、十日会が精力的にめっき技術の向上や、様々な問題に対する勉強会など活発な活動を続けられ、めっき業界の確固たる地位を確立して来られましたことは、諸先輩方をはじめ、会員の皆様方の多大なる努力の成果であると感じております。

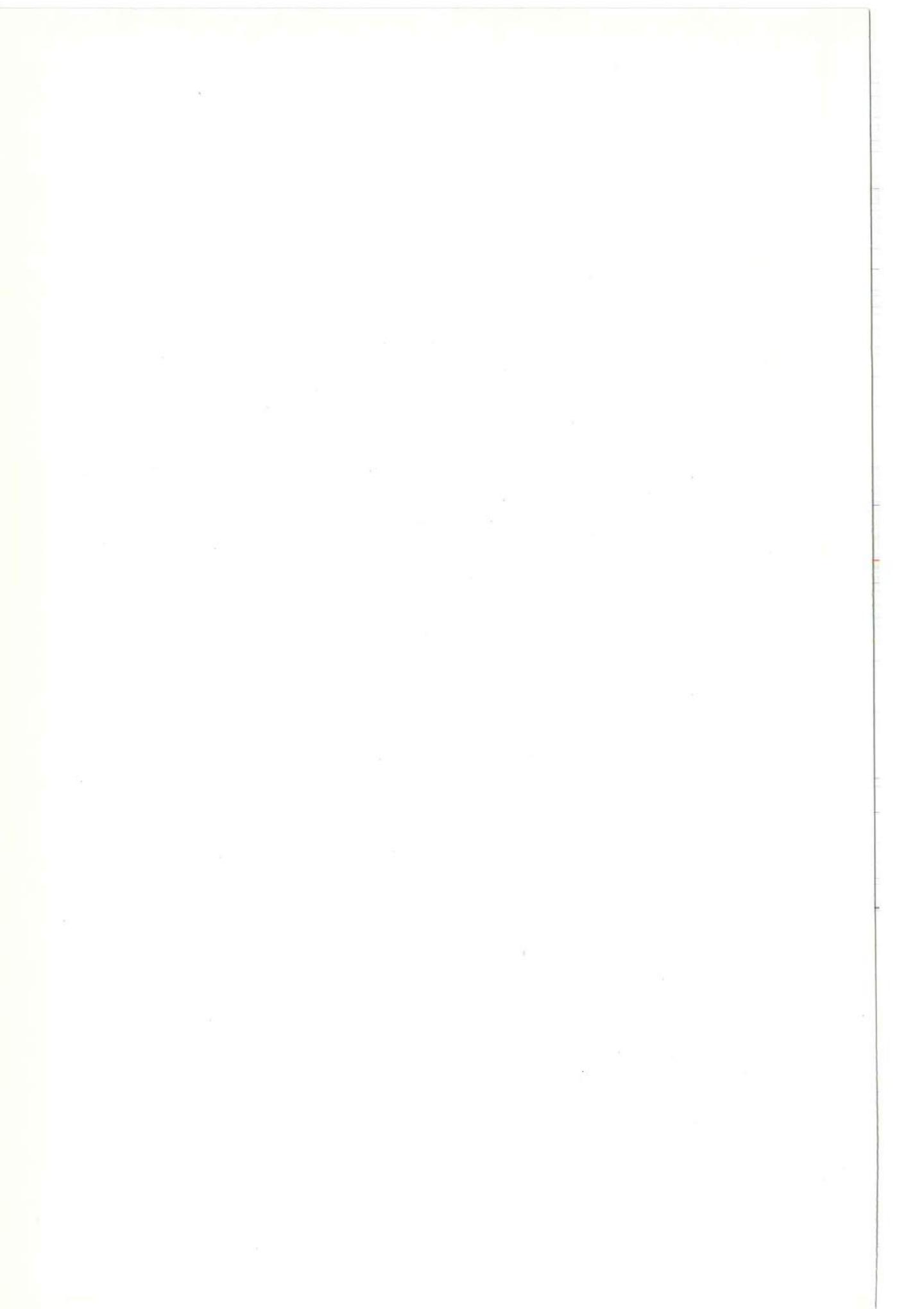
我々が活動を共にしている日本鍍金協会では、会員相互間の親睦や情報交換を図り、めっき技術または企業経営、人格形成の場として活動を続けております。

毎年開催される秋季大会と年次大会での十日会の事業報告や現況報告では、大阪と同じく比較的規模の小さなめっき業者の現場の生の声として参考になることが多いです。

この日本鍍金協会も、あと数年で創立50周年を迎えることとなります。諸先輩方が築き上げて来られた歴史ある会を引き継いで行く為にも、十日会、名鍍会、青研会の3会で互いに協力し合って運営していくことの重要さを感じております。

今後も、日本鍍金協会を通じて、我々3会が精力的な活動に努め、お互い切磋琢磨しながらめっき業界の発展の一助となればと思います。

最後に、十日会がこれからも70年、80年と更なる発展されることを心より祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



十日会 とは

十日会60年間の軌跡

マンガで見る十日会 ①
「十日会の発足」

十日会なんでもQ&A

十日会とはこんな会だ！

コラム
(十日会の歴史を作った男たち-1)

⑥ いろいろあった、めつき業界！

十日会60年間の軌跡



昭和20年8月15日終戦。

国会議事堂の背後に広がる一面の焼け野原。
その3年後、十日会は産声を上げ、
めつきを天職とする者たちの**歴史**が始まる。

2008

いろいろあつた、めっき業界！

十日会60年間の軌跡



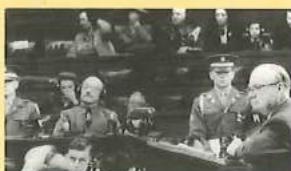
幹事 清水 竜一

情報の収集、技術の習得と共に将来における公私の活動を討論する、司会する、協力するの修練をさりげなく技術研究の場で行うことを目指した同志が11月15日、高浜二郎氏を中心にして10名が、小石川後楽園涵徳亭ビードロ茶屋で初めて顔を合わせた。それを機に第2回会合は12月10日組合事務所にて開かれ、毎月10日に例会を開くこととし「めっきを天職とすることによって、日本に奉仕する」を創立の精神とした十日会が発足した。

備考及び社会ニュース

- ・十日会創立
- ・向島若葉会発足
- ・城東シアン会発足

- ①帝銀毒殺事件
- ②東京裁判の判決
- ③古橋選手の世界最高記録



23 昭和 年度

24 昭和 年度

25 昭和 年度

26 昭和 年度

27 昭和 年度

幹事 清水 竜一
鵜飼 義一

業務の研鑽、討論などを協力に推し進めている大阪鍍友会を通じて大阪の代表的企業、名古屋方面の工場を再三見学した。一方、例会においては電源関係、濾過機など現場に直結する技術の習得、研究を盛んに行い会員相互の技術交換をした。

備考及び社会ニュース

- ①古橋選手が相次ぐ世界新
- ②湯川博士にノーベル賞
- ③三鷹事件

幹事 能勢 稔章・小林 憲

ニッケル助成法に基づくニッケル等使用制限規制が公布され、より一層深刻化するニッケル対策としてニッケル消費の節約、再利用の工夫が紹介された。12月20日米空軍技術中佐エズラ・エー・ブラウント氏を招館「隔膜タンクの詳細と電解洗浄」について講演を頂き聴聞した。

備考及び社会ニュース

- ①平和条約締結
- ②マッカーサー元帥の解任
- ③貞明皇后の崩御

幹事 福井 通祐・中村 敏一・後藤 哲夫・梅沢 茂雄

実行第一の十日会面目躍如、立案から半年足らず5月末、洋風2階建ての会館が竣工、名称を「東京鍍金会館」とされた。9月には服部講座として、めっきの基礎知識講習会が開催され会員外に門戸が開かれた。

備考及び社会ニュース

- ・東京鍍金会館完成
- ・「鍍金」懸賞論文に井上喜夫氏が入選
- ・田嶋栄博士藍綬褒章受章

- ①日共幹部の追放
- ②警察予備隊の発足
- ③日米対抗水上競技

幹事 清水 竜一

湯島の丘の赤い屋根・・・東京鍍金会館が希望の扉を開いてから満3年になる。十日会が結成され6年目である。わずか10名に過ぎなかった会員が、今では総員で6倍にも達した。会館研究室には世界水準に迫るめっき装置や分析装置などが設置された。

備考及び社会ニュース

- 5.23 東京鍍金学校第1回入学式
- ① 皇太子殿下の外遊
- ② 全国的な風水害
- ③ 衆議院解散・総選挙



幹事 木下 文良・中村 敏一

友野理平氏の交流法・PR法による光沢銅めっき方法について講演があった。経営面での難題に立ち向かう為、光沢めっきへの転換、自動化など人件費の削減、生産量の拡大を計る会員工場がみえはじめ、その結果を例会にて発表。

備考及び社会ニュース

- 9.28 毒物、劇物取締法施行令公布
- 高浜二郎氏栃木県文化功労賞を受賞
- ① 紫雲丸沈没事件
- ② 保守合同と第3次鳩山内閣
- ③ 砂川基地闘争

28 昭和年度

29 昭和年度

30 昭和年度

31 昭和年度

32 昭和年度

幹事 綱島 清隆・小見山 正道

石田武男先生より我々の良きライバルである大阪めっき業界の現状の講演を聴き、会員諸氏が大いに奮起した。井上喜夫氏をはじめ次々と研究、工夫がされた実験結果を聞き会員相互の一層の研究心を駆り立てた。

備考及び社会ニュース

- ① 洞爺湖丸の遭難
- ② ビキニ被災と久保山さんの死
- ③ 陸運、造船、保全汚職

幹事 羽成 利一・山中 吉己

大企業と中小企業の格差の問題から中小企業における労務問題について会員各位の関心が高まり、組合結成・人間関係の細論について聽講がなされた。入会金を千円から1万円に改めた。

備考及び社会ニュース

- 5.20 大沢直太郎氏逝去
- ① 日ソ交渉妥結
- ② 参宮線列車転覆の惨事
- ③ 弥彦神社惨事

幹事 井上 喜夫・小篠 義男

10年を迎えた当会は、会員相互の利益のため経営の本質でもある“大いに儲ける事”を今後の目標と掲げ強調した。総会において日本鍍金協会の会員工場であることを表示すべき門表を会員番号に基づいて順次配布され、会員は自覚と自信を持って表示した。

備考及び社会ニュース

- 11.17 鍍友会10周年記念
- ① ジラード事件
- ② 原子炉に太陽の火
- ③ 南極基地に日章旗

昭和33 42年度



幹事 井上 喜夫・小篠 義男

当会設立10周年記念事業施行の年に当たると共に、鍍金会館増築、高浜二郎氏著「メッキ語源考」の出版記念があった。10周年記念式典は10月12日会館に於いて厳粛に行われ、次いで赤坂のプリンスホテルで盛大な野外パーティーを行った。

備考及び社会ニュース

- 4.25高浜二郎氏「メッキ語源考」出版
- 10.12第2期会館工事完成
- 10.12十日会10周年記念式典

- ①皇太子妃決定 ②「南海丸」沈没
- ③勤評反対闘争

幹事 井上 喜夫 小篠 義男

ナベ底景気が回復して、業界も明るさを取り戻した。PR映画としては、我が国初めてのものであると思われる16mm映画「鍍金と生活」が十日会により完成、交通博物館に於いて関係者に披露された。

備考及び社会ニュース

- 工場排水等の規制に関する法律公布
- 下水道法施行令公布

- ①皇太子殿下御結婚
- ②伊勢湾台風
- ③東京オリンピック決まる

会長 八幡 健

十日会・鍍友会・名鍍会の三団体による日本鍍金協会が結成された。

鍍金技術、経営合理化の研究および会員の親睦を目的とし、これに関する情報の交換、文書の発刊、研究団体への援助を主事業とすることを約し、初代会長に小嶋政夫氏が推举された。

備考及び社会ニュース

- 最低賃金1日260円に決定
- 日本鍍金協会結成
- 日本鍍金協会会長に小嶋政夫氏就任

- ①松川事件被告に無罪判決
- ②大阪市釜ヶ崎の騒ぎ
- ③鳴中事件

33 昭和年度

34 昭和年度

35 昭和年度

36 昭和年度

37 昭和年度

会長 八幡 健

十日会では大阪業界の著しい進展を見学するため、有志30名にて主要工場を見学し、意見の交換を行った。我が国の鍍金技術向上の助言者、プラウント氏が来日し業界の現状を見て頂く為に工場見学会・講演会などに招待した。

備考及び社会ニュース

- 4.10総会にて会則、改正会長を定
- 初代会長に八幡氏就任

- ①浅沼社会党委員長刺殺事件
- ②浩宮様御誕生
- ③新安保条約成立と反対闘争

会長 坂手 勇

昭和34年頃から岩戸景気によつて鍍金業界も我が世の春を謳歌した。しかし景気過熱の兆しが見えてきたので経済情勢の変化に対処すべく内容の講演会を開催し互いに率直な意見交換を行い、企業改善に役立った。

備考及び社会ニュース

- 鍍友会15周年記念

- ①三河島の列車衝突
- ②ニセ千円札の横行
- ③堀江青年の太平洋横断



会長 福井 通祐 幹事 木下 文良・遠藤 文男・寒川 輝久・三宅 大蔵・山本 桂吉

来日のブラウント氏より米国の現状を「人件費高騰のため大部分の業者が省力化による三交代制をとりコストを低減させ、生産性を高める努力をしている」と報告された。この頃から我が国でも自動化の導入に強い関心を示した。

会長 坂手 勇

十日会は本来めっき技術の研究を主体にして運営されてきたが、現状の不況を乗り切るために、今年度は経営の合理化を目指して運営し、現状に甘んじることなく一層の合理化を進める為の勉強をした。

備考及び社会ニュース

- 十日会設立15周年祝典挙行
- ①三池炭鉱爆発事故
- ②吉展ちゃん誘拐事件
- ③国鉄鶴見事故
- ④ケネディ大統領暗殺

38 昭和年度

39 昭和年度

40 昭和年度

41 昭和年度

42 昭和年度

会長 井上 喜夫 幹事 小見山 正道・大和田 博・石川 進・大沢 秀夫
山下 伊太郎・網島 清隆・大木 康弘

日本の成長と共に十日会も発展し続けてきた。今年は経営のあり方、労働問題、職場の健康管理、経営者の健康など基礎の拡充に力を入れ、強固な基盤を築き、なお一層の飛躍を成し遂げるため例会を開催した。



備考及び社会ニュース

- 第1回秋季大会開く(浜名湖)
- 7.10毒劇物取締法改正
- 日本鍍金協会会長に荒木実氏就任
- ①オリンピック東京大会 ②新潟大地震
- ③東海道新幹線開通

会長 福井 通祐

幹事 木下 文良・三宅 大蔵・植平 輝雄
石川 進・遠藤 文男・寒川 輝久
山本 桂吉

十日会の生みの親でも有り育ての親でもある高浜先生が逝去された。十日会の活動としては積年の懸案であった従業員テスト問題を作成し実施した。また排水処理問題がクローズアップされた年である。

備考及び社会ニュース

- 10.25東京都鍍金工業組合創立総会
- 12.10高浜先生逝く

- ①羽田沖で全日空機墜落
- ②国会の“黒い霧”
- ③鈴木医師の集団チフス事件

昭和43 52年度

会長 石川 進 幹事 綱島 清隆・瀬田 新二・小島 一郎・寒川 輝久・植平 輝雄・仲俣 一三

経営面を主体とした基本方針で会の運営が進められ、その一貫として広く海外に目を向けるために米国めっき業界の視察を実施し帰国後、会員参加者による報告会が行われた。

備考及び社会ニュース
 • 4.13米国鍍金業界視察
 ①日本初の心臓移植 ②川端氏にノーベル文学賞
 ③飛騨川バス転落惨事 ④三億円事件

会長 寒川 輝久 幹事 仲俣 一三・大木 康弘・大沢 章二・植平 輝雄・金田 留雄・木下 義夫・八幡 順一
 直海 和夫・大戸 勝博・小松 康宏

本年度より20周年記念事業の一環として組合に贈呈した記念基金が「十日会賞」という形で業界に功績のあった人に授与された。第1回十日会賞は静岡方式で業界に貢献した静岡県工業試験場の永井淑晴氏が受賞された。

備考及び社会ニュース

- 第11回年次大会総会にて日本鍍金協会10周年記念式典行われる
- 6.1城南処理センター落成
- 11月プラウント夫妻来日
- 48.2.18鍍友会25周年記念式典
- ①連合赤軍浅間山莊事件
- ②ガム島で横井さん救出
- ③日中交正常化



43 昭和年度



44 昭和年度

45 昭和年度

46 昭和年度

47 昭和年度

会長 石川 進

幹事 小見山 正道・大木 康弘・小松 康宏
 小西 陽夫・中井 国彰・大沢 章二
 植平 輝雄・小島 一郎・寒川 輝久
 仲俣 一三

本年度は十日会が設立20周年を迎え、記念式典が盛大に行われた。業界を取り巻く公害規制にもリーダーシップをとり例会ごとの詳しい会報を発刊、配布し極めて盛況な年度であった。

備考及び社会ニュース

- 4.13十日会創立20周年記念祝賀会
- 10.13組合より十日会への道標が贈呈される

- ①「沖縄72返還」決まる
- ②東大安田講堂占拠の学生排除
- ③衆院解散・初の師走選挙
- ④アポロ11号月面着陸



会長 小島 一郎

幹事 寒川 輝久・小西 陽夫・中井 国彰
 小松 康宏・大木 康弘・大沢 章二
 仲俣 一三

本年度、運営の基本方針として①公害問題②経営問題③その時に起きた問題を取り上げ、①は研究会で②と③を例会のテーマとして取り上げて行った。十日会の門戸を開放しようと入会案内書を作成した。

備考及び社会ニュース

- 工場排水改正
- ①日航「よど号事件」
- ②日本万国博開催
- ③三島事件



会長 小島 一郎

幹事 寒川 輝久・小西 陽夫・中井 国彰・小松 康宏
 大木 康弘・大沢 章二・仲俣 一三・大戸 勝博
 木下 義夫

発明と工夫という講演で小企業は大企業の前には手も足もないと思われているが、発明によって大企業にも負けない、立派に生きる道が開けるという話があった。

備考及び社会ニュース

- アメリカ鍍金協会会長来日
- 十日会賞規程決まる
- 日本鍍金協会会長に井上喜夫氏就任

- ①全空機と自衛隊機空中衝突
- ②天皇、皇后陛下ご訪欧
- ③大久保清連続女性殺人事件

会長 大木 康弘 幹事 直海 和夫・大戸 勝博・中井 久二
木下 義夫・八幡 順一

本格的な不景気の波が我が国を襲い、物価が高騰し、業界に与えた影響は大なるものであった。この現状を踏まえ、会本来の目標であつた技術研究を徹底し、この不況を乗り切る方針のもと、めつき技術を中心に勉強した。

備考及び社会ニュース

- ・石田武男氏勲三等瑞宝章受賞

- ①田中退陣、三木内閣誕生
- ②小野田元少尉の救出
- ③公共料金値上げと不況
- ④長嶋茂雄引退



48 昭和年度

49 昭和年度

50 昭和年度

51 昭和年度

52 昭和年度

会長 大木 康弘

幹事 直海 和夫・大戸 勝博・中井 久二
木下 義夫・八幡 順一

打ち続くな況の中、十日会運営にも斬新な発想が期待され、会長のユニークな人柄が發揮された年であった。公害処理ではクローズドシステムの研究が発表され、節水と電解による金属の回収が強調された。

備考及び社会ニュース

- ・十日会名誉会員、安部東代吉氏逝去
- ・中小企業信用保険に基づき、めつき業が不況業種に指定
- ・日本鍍金協会会长に石川進氏就任

- ①天皇、皇后両陛下ご訪問
- ②エリザベス英女王来日
- ③沖縄海洋博覧会開催

会長 仲俣 一三

幹事 大木 康弘・大沢 章二
山田 茂・植平 輝雄
中井 久二・直海 和夫
小沢 栄男・木下 義夫
大戸 勝博・小松 康宏
八幡 順一

備考及び社会ニュース

- ・服部久一郎氏勲五等双光旭日賞を受賞
- ・3.25年次大会、山陰皆生温泉にて開催

- ①石油危機
- ②インフレ世界一
- ③金大中事件

会長 直海 和夫 幹事 植平 輝雄・大場 桃寅・小林 邦雄
永田 一雄・八幡 順一・木下 義夫
三宅 直・大戸 勝博

新しいめっき方法として三価クロムによるクロムめっき法、鉄ニッケル合金めっきのナイロンプロセスの講演、実験工場を見学した。例会では経営者の健康増進により経営意欲を盛り上げる為に充分な健康管理の見直しをした。

備考及び社会ニュース

- ・服部久一郎氏逝去
- ・下水道法の一部改正(直罰制度採用)
- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律一部改正

- ①ロッキード事件 ②田中角栄前首相逮捕 ③五つ子誕生



会長 直海 和夫

幹事 八幡 順一・大場 桃寅・永田 一雄・木下 義夫
大戸 勝博・三宅 直・小林 邦雄

ディスカッションを主体として行く事業方針通りに、各支部の青年部を招いて、各会の運営について聞いたり当会の事業についても説明しながら悩んでいる事を出し合って、いかに会を円滑に運営していく事が出来るか討論した。

備考及び社会ニュース

- ・三宅大蔵氏逝去
- ・鍛友会30周年
- ・八幡健氏、都産功労賞を受賞

- ①王選手、世界新756号
- ②日航ハイジャック事件
- ③有珠山爆発
- ④青酸コラ事件

より良い人ととの触れ合いを求める為、その実践論として例会では従業員の心理のつかみ方、活かし方について、研究会では対人関係におけるテクニックとしての話し方教室を開催した。



昭和53 62年度

会長 直海 和夫

幹事 八幡 順一・大場 植寅・永田 一雄
木下 義夫・大戸 勝博・三宅 直
小林 邦雄

経営問題を中心に本年度の事業方針を打ち出し、講演、工場見学会を行った。めっき業が不況業種に指定され「不確実性時代」とか「低成長時代」という言葉が数多く使われて経営者一人一人が身を引き締めて景気の回復を願った。

備考及び社会ニュース

- 11.19鍍友会30周年記念
- 水質汚濁防止法の改正(総量規制の導入)

- ①大平政権発足
- ②日中平友好条約調印
- ③成田新空港、波乱の開港

53 昭和年度

54 昭和年度

55 昭和年度

56 昭和年度

57 昭和年度

会長 八幡 順一

幹事 小林 邦雄・木下 義夫
三宅 直・永田 一雄
大戸 勝博・神谷 博行
今泉 好隆・小原 俊幸

十日会も戦後の混乱期からたくましく発展し、本年度は30周年の節目に当たる。そこで十日会創立30周年記念式典を4月22日東京プリンスホテルで盛大に行い、会の原点を回顧すると共に新たなる飛躍を誓った。

備考及び社会ニュース

- 4.22十日会創立30周年記念式典
- 日本鍍金協会会長に小島一郎氏就任

- ①東名日本坂トンネル事故
- ②三菱銀行強銃人質事件
- ③東京サミット

会長 八幡 順一

幹事 小林 邦雄・木下 義夫・永田 一雄
大戸 勝博・三宅 直・神谷 博行
今泉 好隆・小原 俊幸

日本鍍金協会の創立20周年記念事業で西欧視察が行われ十日会会員より多くの人が参加した。帰朝報告がなされ日本と西欧とでは生産形態が異なることが分かり生産システムとして学ぶことが多かった。

備考及び社会ニュース

- 鍍生会創立20周年記念
- 白瀬憲全鍍連専務理事叙勲

- ①大平首相急死、同日選挙で自民党圧勝
- ②富士見病院の乱療事件
- ③巨人軍長嶋監督辞任、王選手現役引退

会長 小林 邦雄

幹事 永田 一雄・菊池 忠男・神谷 博行・今泉 好隆・小松 国浩
上村 福子・石川 雅一・黒須 吉雄・内野 孝・渡辺 政男
小原 俊幸

本年度は優良工場の見学会を開催した。特別講習会として省エネルギー研究会を開催し、省エネルギー対策は無駄を省くということと基本的には生産管理の一つの手段であることを学んだ。昔のようにエネルギー設備が「大は小を兼ねる」という時代が終わったことを痛感した。



備考及び社会ニュース

- 十日会10代会長直海和夫氏逝去

- ①ホテルニュージャパン火災
- ②500円硬貨発行
- ③中曾根内閣発足
- ④日航機羽田沖墜落

会長 八幡 順一

幹事 小林 邦雄・木下 義夫
永田 一雄・大戸 勝博
三宅 直・神谷 博行
今泉 好隆・小松 国浩
小原 俊幸

次代を担う若手会員の参加が増え、会社においても世代交代を迎えつつある。2世の育成は大事な問題であるが今まで汗と努力で培ってきた先代の資産を合法的に継承し、保全を計るため相続税の概要について勉強した。

備考及び社会ニュース

- ブラウント氏来日
- 柳下相三郎氏受賞
- 八幡健氏逝去、叙勲

- ①北炭夕張新鉱ガス惨事、93名犠牲に
- ②神戸ポートピア81開幕
- ③福井教授ノーベル化学賞

会長 小林 邦雄

幹事 永田一雄・菊池忠男・小松国浩
神谷博行・今泉好隆・石川雅一
黒須吉雄・内野孝・渡辺政男
権田節造・上村福子・小原俊幸

本年度は十日会が企画し米国視察を実施した。昨年より引き続き「省エネルギー対策」の研究会を12日間(延べ30時間)掛けて開催した。本年度より新たに村積利弘、土井正両先生を特別会員として会へ迎えた。

備考及び社会ニュース

- 3.26日本鍍金協会会長に仲俣一三氏就任
- 6.24?7.3第5次海外視察米国へ
- 7.17鍍友会・鍍生会が発展的解消し新たに青研会として一本化した

- ①大韓航空機がサハリン沖でソ連機に撃墜される
- ②国債発行残高100兆円を突破
- ③青函トンネル先進道坑貫通、着工以来19年ぶり

58 昭和年度

59 昭和年度

60 昭和年度

61 昭和年度

62 昭和年度

会長 神谷博行 幹事 菊池忠男・石川雅一・今泉好隆・山田英佐夫・権田節造
上村福子・遠藤清孝・吉崎晴好・飯塚フミ

例会では「この円高をどう乗り切るか」という演題で豊富な知識と経験を持つ経営者を講師に迎え企業体質の改善の実例を挙げ講演していただいた。また、パソコンの導入についても積極的に勉強した。

会長 永田一雄

幹事 菊池忠男・渡辺政男・神谷博行・今泉好隆・石川雅一
権田節造・上村福子・山田英佐夫・後藤哲・飯塚フミ

景気は依然として低迷し、先行きが全く不透明である。このような時代これから会社を運営していく若い世代には確かな経営戦略を持たなくてはならない。そこで経営戦略を練るために数多くの例会や研究会を行った。

備考及び社会ニュース

- 8.29鶴飼義一氏逝去
- 全鍍連未来青年会議
- 足立めっき文化展開催

- ①グリコ・森永脅迫事件
- ②新札発行
- ③長野県西部地震で死者不明29名



会長 永田一雄

幹事 菊池忠男・神谷博行・今泉好隆・石川雅一
渡辺政男・権田節造・上村福子・山田英佐夫
後藤哲・飯塚フミ

アジア新興工業国家の実力は日増しに強くなり、我々の経営環境も視野を国際的に開かなくてはならなくなつた。付加価値の高い新しい技術に着目し、今後起こりうるめっき需要について模索した。

備考及び社会ニュース

- ①日航ジャンボ機御巣鷹山墜落
- ②プラザ合意により円高加速
- ③阪神優勝フィーバー



備考及び社会ニュース

- 3.29日本鍍金協会会長に八幡順一氏就任
- ①三原山200年ぶりに大噴火
- ②衆参同日選挙で自民党が空前の勝利
- ③社会党に初の女性委員長が就任

会長 神谷博行

幹事 菊池忠男・山田英佐夫・今泉好隆・石川雅一
権田節造・上村福子・遠藤清孝・吉崎晴好
繩田敏治・飯塚フミ

5月には韓国めっき業界の視察を行い多数の会員が参加した。そこでNIESの脅威を肌で感じたわけであるが、今後の会社経営においてはより一層の合理化、生産性の向上に努力しなければならないことを再確認した。

備考及び社会ニュース

- ①竹下新政権発足
- ②新生JRスタート
- ③利根川教授にノーベル賞
- ④大韓航空機爆破テロ事件

昭和63 年度 平成9年度

会長 菊池 忠男

幹事 石川 雅一・山田 英佐夫・繩田 敏治
遠藤 清孝・長谷川 一郎・保坂 晃一
権田 節造・上村 福子・二木 一郎
飯塚 フミ

4月2日十日会40周年記念式典および祝賀会を東京会館において約300名の出席者のもと盛大に挙行された。また、記念事業の一環として日本鍍金協会主催のAESクリーブランド大会視察団に派遣するなど多彩な事業を実施。

備考及び社会ニュース

• 3.25日本鍍金協会会長に小林邦雄氏就任
• 11.29東京都鍍金工業組合100周年

- ①昭和天皇崩御
- ②消費税3%実施
- ③吉野ヶ里遺跡発掘
- ④ペルリンの壁崩壊



63 昭和
年度

会長 菊池 忠男

幹事 石川 雅一・山田 英佐夫・繩田 敏治
遠藤 清孝・保坂 晃一・権田 節造
上村 福子・二木 一郎・飯塚 フミ

十日会40周年記念事業実行委員会が結成され、11月20日東京会館において式典ならびに祝賀会を行う予定であったが、昭和天皇の御不列が続き諸般の事情を勘案し延期することとなった。記念誌の「十日会40年の足跡」は発行した。

備考及び社会ニュース

- ①瀬戸大橋開通
- ②なだしお、第一富士丸衝突事故
- ③ソウルオリンピック開幕



元 平成
年度

2 平成
年度

3 平成
年度

4 平成
年度

会長 石川 雅一

幹事 山田 英佐夫・繩田 敏治・遠藤 清孝・今泉 好隆
長谷川 一郎・保坂 晃一・権田 節造・上村 福子
二木 一郎・堀米 清・飯塚 フミ

日本鍍金協会年次大会をサンルートプラザ東京において開催した。東京ディズニーランドという場を選んだのが幸いしたか、多数の会員・ご家族に参加して戴き、参加者好評のうち無事終了した。

**備考及び
社会ニュース**

- 5.26井上喜夫氏逝去 | ①即位の礼
- 7.9名鍍会30周年 | ②花の万博

会長 山田 英佐夫

幹事 繩田 敏治・遠藤 清孝・保坂 晃一・長谷川 一郎
権田 節造・二木 一郎・上村 福子・仲俣 雅行
近藤 澄男・齊藤 晴久・菊地 利博・小原 俊幸
中島 望

例会ではディベート（討論会）やパネルディスカッションを行い、お互い前向きの情報を交換し合い、世の中の大波に翻弄されながらも少しあは踏みとどまって自身の判断で独自の道を探ることを目指した。

**備考及び
社会ニュース**

- 3.28日本鍍金協会会長に永田一雄氏就任
- ①東京佐川急便事件
- ②日本人初の宇宙士毛利衛宇宙へ
- ③モントリオール議定書でフロンを95年末全廃を決定



会長 石川 雅一

幹事 山田 英佐夫・繩田 敏治・遠藤 清孝・長谷川 一郎
保坂 晃一・今泉 好隆・堀米 清・権田 節造・二木 一郎
上村 福子・仲俣 雅行・近藤 澄男

全鍍連、外国人問題特別委員会委員長の吉川弘二氏に「めっき業からみた労働問題」と題した有意義な講演をいただいた。また、十日会の大先輩である福井通祐氏に「40年間の十日会」という講演をしていただいた。

備考及び社会ニュース

- ①新都庁舎落成
- ②雲仙普賢岳で大火砕流
- ③若貴ブーム
- ④湾岸戦争勃発



会長 山田 英佐夫 **幹事** 繩田 敏治・遠藤 清孝・保坂 晃一・長谷川 一郎・権田 節造・二木 一郎・上村 福子
仲俣 雅行・斎藤 晴久・菊地 利博・大沢 俊孝・直海 弘明・中島 望

十日会設立の原点に立って「開拓者の精神」で難局を乗り切るべく、創造性を持ってたゆまぬ努力を重ね、がむしゃらに行動することも必要であると考える。例会では新製品紹介、優良工場見学会も新潟県のめっき工場を見学。

備考及び社会ニュース

- 7.18青研会創立10周年記念祝典

- ①皇太子御成婚
- ②Jリーグ(日本プロサッカーリーグ)開幕
- ③米40年ぶり不作、タイ米輸入
- ④環境基本法成立

**会長** 山田 英佐夫

幹事 繩田 敏治・遠藤 清孝・保坂 晃一・長谷川 一郎・権田 節造・二木 一郎・上村 福子・仲俣 雅行・斎藤 晴久・菊地 利博・大沢 俊孝・直海 弘明・中島 望

隣国中国では、市場経済化を加速させ活況を呈している。日本鍍金協会では中国視察を実施、十日会からも多数参加し、現実に上海の活況を肌で感じ、「負けてはいられない」という思いを強くした。

備考及び社会ニュース

- 4.2志田和陽氏結婚
 - 十日会バンド「テンディーズ」結成
- ①村山連立内閣発足
②F1セナ選手激突死
③大江健三郎氏にノーベル文学賞

5 平成 年度

6 平成 年度

7 平成 年度

8 平成 年度

9 平成 年度

**会長** 繩田 敏治

幹事 遠藤 清孝・保坂 晃一・長谷川 一郎・二木 一郎・上村 福子・志田 和陽・坂手 保弘・内田 悅美・仲俣 雅行・大沢 俊孝・菊地 利博・斎藤 晴久・直海 弘明・中島 望

Windows95の発売以来ブームとなって出荷台数を延ばしている“パソコン”にスポットを当て、話題のインターネットやパソコンをめっきの仕事に活用する方法などを山田前会長に解説していただき、繩田会長による書道教室も開催した。

備考及び社会ニュース

- ①ペルーの日本大使公邸をゲリラ占拠
- ②病原性大腸菌O157食中毒禍
- ③携帯、PHSの普及200万台

会長 遠藤 清孝

幹事 大沢 俊孝・仲俣 雅行・菊地 利博・斎藤 晴久・保坂 晃一・上村 福子・志田 和陽・直海 弘明・坂手 保弘・内田 悅美・梅田 高広・中島 望

不況下でも立派な業績を上げている優良工場の見学会を行い、このような企業は、経営者が強いリーダーシップを發揮していることに感心した。例会では税制や助成金について学んだ。

備考及び社会ニュース

- ①消費税5%に引き上げ
- ②ダイアナ元英皇太子妃事故死
- ③京都で地球温暖化防止会議



平成10 14年度

会長 遠藤 清孝 副会長 大沢 俊孝・仲俣 雅行

幹事 菊地 利博・斎藤 晴久・保坂 晃一・上村 福子・志田 和陽・内田 悅美・梅田 高広
二木 一郎・小島 一浩

長引く不況の中で倒産する企業の経営姿勢を教訓として、これから経営方針を学んだり、品質保証システムISO9000の取得体験談、また先輩会員を招いた討論会など未来に向けてどう進んでいくかを考えさせられる1年であった。また、矢部賢氏を講師に迎え好況を呈するアメリカ、そのめっき業界をどう見るかそしてどうあるべきかについて講演して頂いた。今年度の6月に一人勝ちを呈するアメリカ

を視察しその報告会を行った。十日会創立50周年記念式典を第一ホテル東京で開催し来賓など総勢230名で盛大に執り行われた。

備考及び社会ニュース

・日本鍍金協会会长に神谷博行氏就任

- ①冬季オリンピックが長野県で開催
- ②サッカーワールドカップ日本初出場
- ③小渕内閣発足



SAJ21 承認第115号

10 平成
年度

11 平成
年度

12 平成
年度

会長 遠藤 清孝 副会長 大沢 俊孝・仲俣 雅行

幹事 菊地 利博・斎藤 晴久・保坂 晃一
上村 福子・志田 和陽・内田 悅美
梅田 高広・新井 嘉喜雄・小島 一浩

この年は医療（日本の臓器移植についてアメリカとの相違また展望などについて）、金属資材（ステンレス鋼について技術者の立場からの意見など）、建築（高齢化社会に対応するべく建築事例など）、ファッション（ビジネスシーンにおける服装のマナーや自己表現などについて）など多方面にわたり勉強会を開き見識を深めた。十日会の特別会員でもある土井先生に21世紀に生き残るためにめっき技術についてご講演いただいた。会員企業による見積もり大会を開催し、めっき単価について徹底的に論議した。また名鍍会の神谷氏の特別参加で東京と名古屋との比較も出来た。

備考及び社会ニュース

- ①東海村で国内初の臨界事故発生
- ②神奈川県警の不祥事相次ぐ
- ③初の脳死判定による心臓・肝臓移植

会長 仲俣 雅行 副会長 大沢 俊孝・菊地 利博

幹事 斎藤 晴久・内田 悅美・保坂 晃一
上村 福子・梅田 高広・新井 嘉喜雄
太田 幸一・宮部 圭典

社会生活する中で人とのコミュニケーションの大切さを学んだり、PRTRと新しい水質規制への取り組み方、現場的な考え方などを会員の永田一雄氏講演して戴きました。また「社長よもやま話」と題して先輩方をパネラーに迎え会社経営・社員教育についてディスカッション形式で行い、有意義な時間を過ごしました。経営者として会社経営に必要な法律を約束手形・小切手・抵当などに絡んだ実例をもとに学んだ。

備考及び社会ニュース

- ①大手百貨店そごうが倒産
- ②白川英樹氏にノーベル賞
- ③雪印乳業製の乳製品から食中毒菌汚染が発覚

会長 仲俣 雅行

副会長 大沢 俊孝・菊地 利博

幹事 斎藤 晴久・内田 悅美・上村 福子・梅田 高広
新井 嘉喜雄・太田 幸一・石川 英孝・宮部 圭典

会員による見積り大会を行い、ざっくばらんな意見交換など他社との比較が認識できた。経営者として健康な体作りの大切さを知る為に生活習慣病(糖尿病、高血圧など)について症状や予防法について詳しく講習していただいた。近年、環境問題がささやかれる中でISO14000

シリーズについて星野芳明氏を招き講演して頂き、自社の積極的なアピールの為にも新しい品質システムの導入が必要であると再認識させられる勉強会となった。2月には村楨氏に日欧米の経営体質の違いと中国の脅威について講演していただいた。

備考及び社会ニュース

・日本鍍金協会会长に石川雅一氏就任

- ①原子力潜水艦と実習船えひめ丸が衝突事故
- ②国内初の狂牛病見つかる
- ③北朝鮮の不審船が巡視船により沈没
- ④皇太子夫妻に第1子御誕生
- ⑤米国同時多発テロ事件



13 平成
年度

14 平成
年度

会長 菊地 利博 副会長 新井 嘉喜雄・斎藤 晴久 幹事 太田 幸一・石川 英孝・内田 悅美
上村 福子・柴田 徹・宮部 圭典

昨年行われた、中国鍍金工場視察の報告会を行い、隣国の脅威を改めて感じさせられた。近年の厳しい水質規制に対応するために新技術のクエン酸ニッケル鍍金技術を特別会員の土井正先生を講師に迎え講演して頂きました。十日会の真髓である「討論する、司会する、協力する」にちなんで会員の困り事、問題点などを参加者全員で解決を図るべく知恵を出し合い討論会を行いました。ユニークな例会として、その使い方の差で人生観が変わると言う「笑顔」について門川義彦氏に講演していただいた。2月には㈱協和代表取締役社長由田猛氏に中国進出の経緯と現状についてお話を聞いていただいた。



備考及び社会ニュース

- ①偽装牛肉事件
- ②小柴昌俊、田中耕一氏にノーベル賞
- ③サッカーW杯が日韓共同開催される
- ④欧州通貨統一
- ⑤北朝鮮から拉致被害者帰国

平成15 19年度

会長 菊地 利博 副会長 新井 嘉喜雄・斎藤 晴久

幹事 太田 幸一・石川 英孝・内田 悅美・上村 福子・柴田 徹・梅田 伊三夫・宮部 圭典

十日会の創設メンバーである福井通祐氏を迎え、設立に至るまでのエピソードや「開拓者の精神」を常に持ち続ける立場でいることが十日会のメンバーであると力強いエールを戴きました。東京都鍛金工業組合連合青年部の皆様と合同に「新素材の前処理法」について特別会員であられる土井正先

生にご講演して頂きました。新しく施行された土壤汚染対策法の現状と対策について東京都環境科学研究所所長志賀孝作氏、十日会から永田一雄、遠藤清孝氏をパネラーに招いて勉強会を開きました。会員企業の(株)ヒキワエ石川英孝氏に欧州めっき企業視察の感想など聞きました。

備考及び社会ニュース

・十日会相談役吉川弘二氏逝去

- ①総選挙で民主党が躍進
- ②日本の宇宙開発が岐路に立つ
- ③自衛隊のイラク派遣が決定

会長 斎藤 晴久 副会長 太田 幸一・坂手 保弘

幹事 石川 英孝・柴田 徹・上村 福子・梅田 伊三夫・八幡 義一・宮部 圭典

新しい水質規制法のホウ素・フッ素の排水処理技術について環境科学研究所所長志賀孝作氏から学んだ。大先輩である福井電化工業株式会社様を見学し福井通祐会長の貴重なお話を拝聴し改めて先人の常に前向きな姿勢に共感した。企業が抱えているリスクを最小限に留

める為のリスクマネジメントについて学び、そして製造物責任（PL）保険については適用範囲を確認しながらの講演を開いた。低迷する日本社会の中で、突出するアピール力を養うためにコンサルティング会社の方に講演していただいた。

15 平成
年度

16 平成
年度

17 平成
年度

会長 斎藤 晴久

副会長 太田 幸一・坂手 保弘

幹事 石川 英孝・柴田 徹・上村 福子・八幡 義一・梅田 伊三夫・宮部 圭典

十日会主催の中国視察の前に会員企業の内外ハイグラス株式会社竹ヶ原社長をお招きし中国のめっきの現状と景況について講演をしていただいた。中国視察では鍛金工場、メンテナンス工場などを見学し帰国報告会では結果レポートのCDを八幡幹事が編集、作成し会員企業の方に配布した。2009年5月までに実施される裁判員制度について東京弁護士会裁判員制度センター委員長西尾則雄氏に今後の課題など解りやすく説明していただきました。

備考及び社会ニュース

・十日会会員 佐藤英男氏逝去 ・上市李志氏結婚

- ①愛知万博が開催
- ②ローマ法王ヨハネ・パウロ2世死去
- ③JR福知山線脱線事故





十日会誕生物語

作 西谷 朋子



会長 太田 幸一

副会長 石川 英孝・柴田 徹

幹事 上原 裕司・八幡 義一・内藤 喜達・梅田 伊三夫・宮部 圭典

先輩方をパネラーに迎え、ご自身の体験談や後継者育成などについて普段では聞く事の出来ない貴重なご意見を拝聴した。例会では石原祥江氏を講師に迎え、節水と再利用のための水洗方法など実体験に基づいた講義を聴講した。

品質検査が年々厳しくなる中で検査道具として光源にスポットを当て光を応用した新技術などを勉強した。業界の問題として原材料の高騰に伴う適正価格の要望や不正取引などを防ぐために公正取引委員会の方をお招きし新改正となった下請法などを学んだ。

備考及び社会ニュース

- 第18代会長 繩田敏治氏逝去
- 日本鍍金協会会长に遠藤清孝氏就任
- 石川進造氏ものづくり日本大賞
内閣総理大臣賞と現代の名工受賞
- 八幡順一氏東京都知事表彰受賞

- ①参議院選挙で自民党惨敗
- ②新潟県中越沖地震発生
- ③福田内閣発足
- ④ハニカミ王子
- ⑤郵政民営化スタート

JP 日本鍍金グループ
(日本鍍金株式会社)



備考及び社会ニュース

- 日本鍍金協会会长に山田英佐夫氏就任
- 遠藤清孝氏結婚
- 十日会名誉顧問 田嶋栄氏逝去

- ①東海村で国内初の臨界事故発生
- ②神奈川県警の不祥事相次ぐ
- ③初の脳死判定による心臓・肝臓移植



18 平成
年度



19 平成
年度



20 平成
年3月



会長 太田 幸一 副会長 石川 英孝 幹事 柴田 徹・八幡 義一・上村 福子・梅田 伊三夫・上原 裕司・内藤 喜達・宮部 圭典

各地で起こった大地震や水害などの甚大な災害に対する準備やシステムの構築(BCP)を中小企業庁の児島氏をお招きしBCPの公開の主旨とその利用法などについて学んだ。また環境規制のRoHS指令などに対応する鍍金技術の習得のため当会会員企業でもある株式会社ヒキフネ

の小林道雄氏を講師に迎え、技術面・営業戦略面など真に実のある内容であった。特別会員の土井正先生をお招きし、クエン酸ニッケルめっきの現状と今後の進展について詳しくお話をいただきました。

備考及び社会ニュース

- 山田英佐夫氏「現代の名工」として卓越技能章授与
- EUが2006.07 RoHS指令施行

- ①耐震強度偽装事件 ②安部政権発足 ③秋篠宮家に男児誕生
- ④トリノ冬季五輪で荒川静香が金メダル ⑤ハンカチ王子
- ⑥WBC(ワールドベースボールクラシック)日本が優勝



亭徳涵

昭和23年11月15日
小石川後楽園涵徳亭

戦争終結以来

真っ黒になって働いてきた
業界青年諸君らの努力
まことに素晴らしい——が

我々は
何が何でも

祖国を
再建せねば
ならない！

高浜二郎

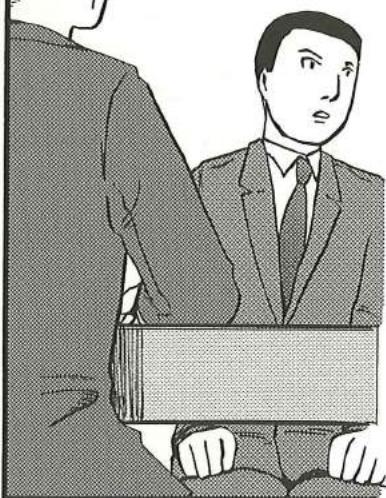
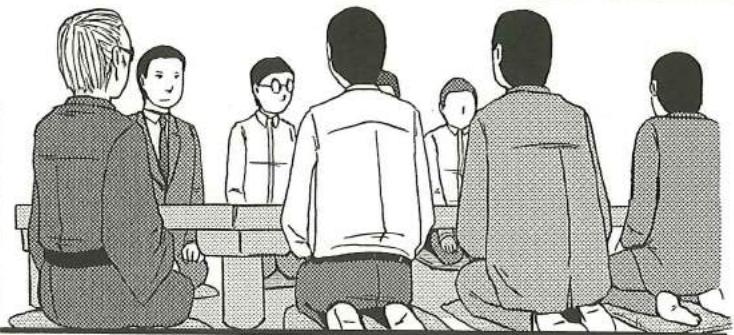
それには
自分の利益のため
ばかりでなく
業界全体の事を考え

討論し
互いに
協力し

高め合う場が
必要である！

「めっきを愛する
同志としての会合」

この日集まったのは
高浜二郎氏はじめ
十名のめっき職人
であった

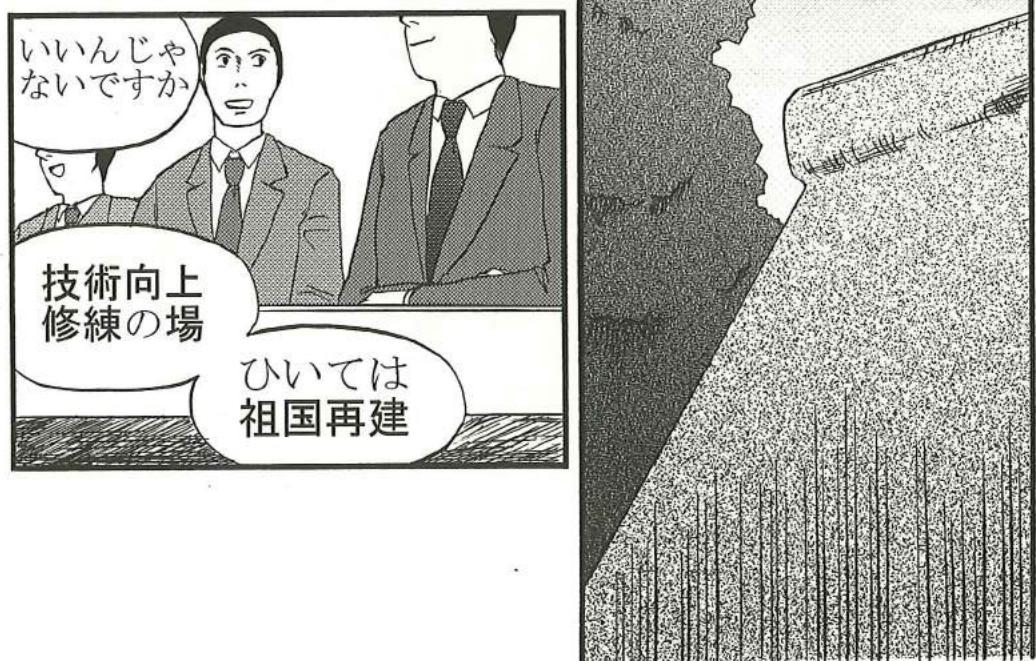


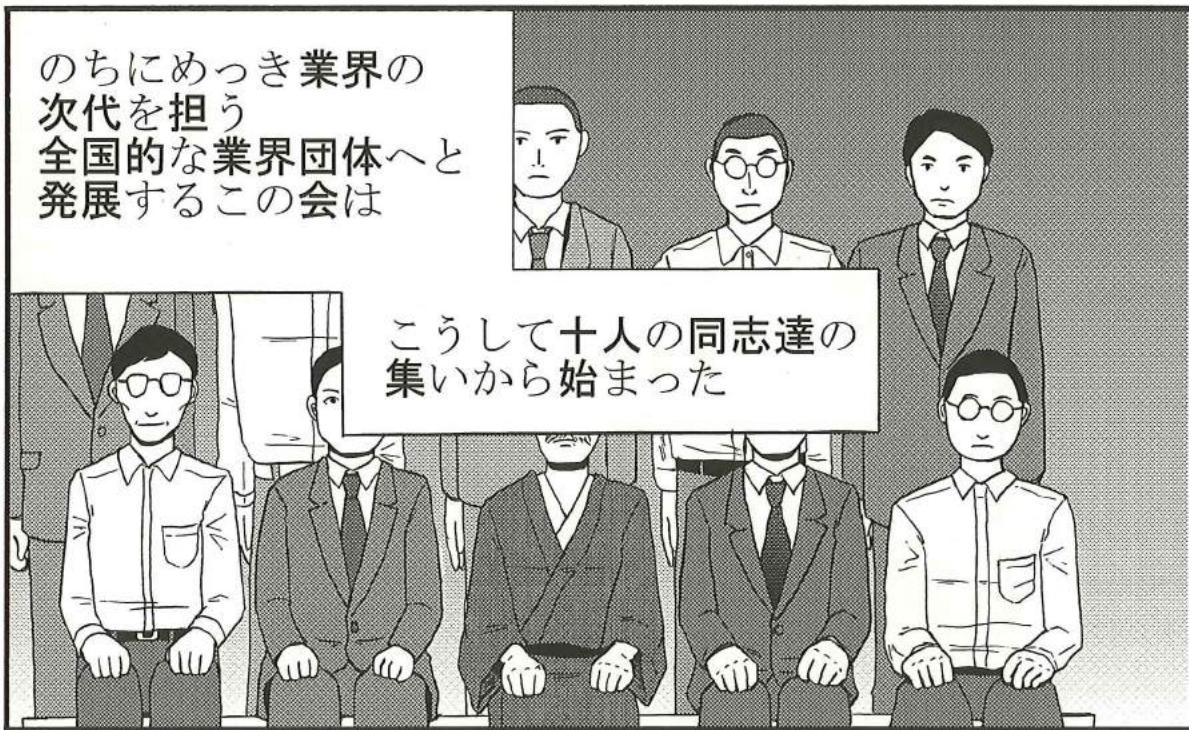
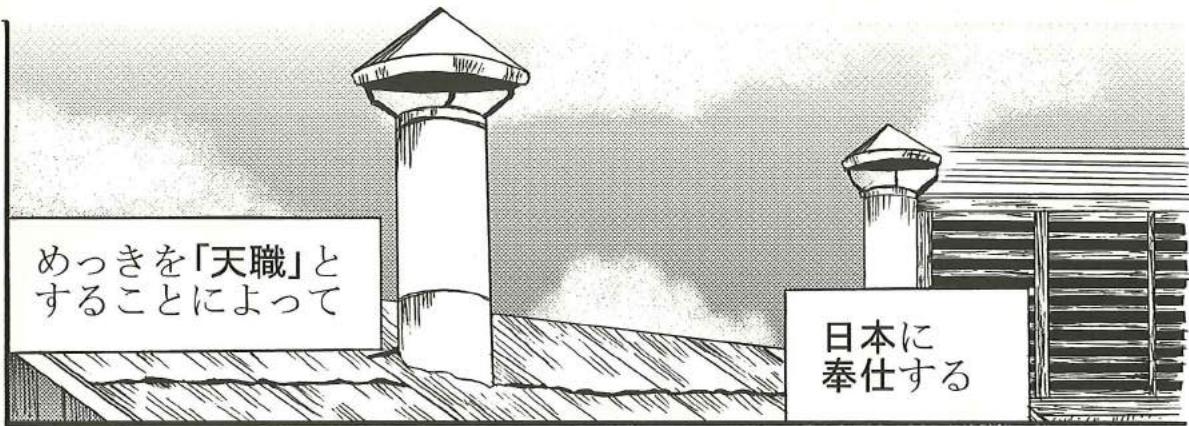


国際社会
で！









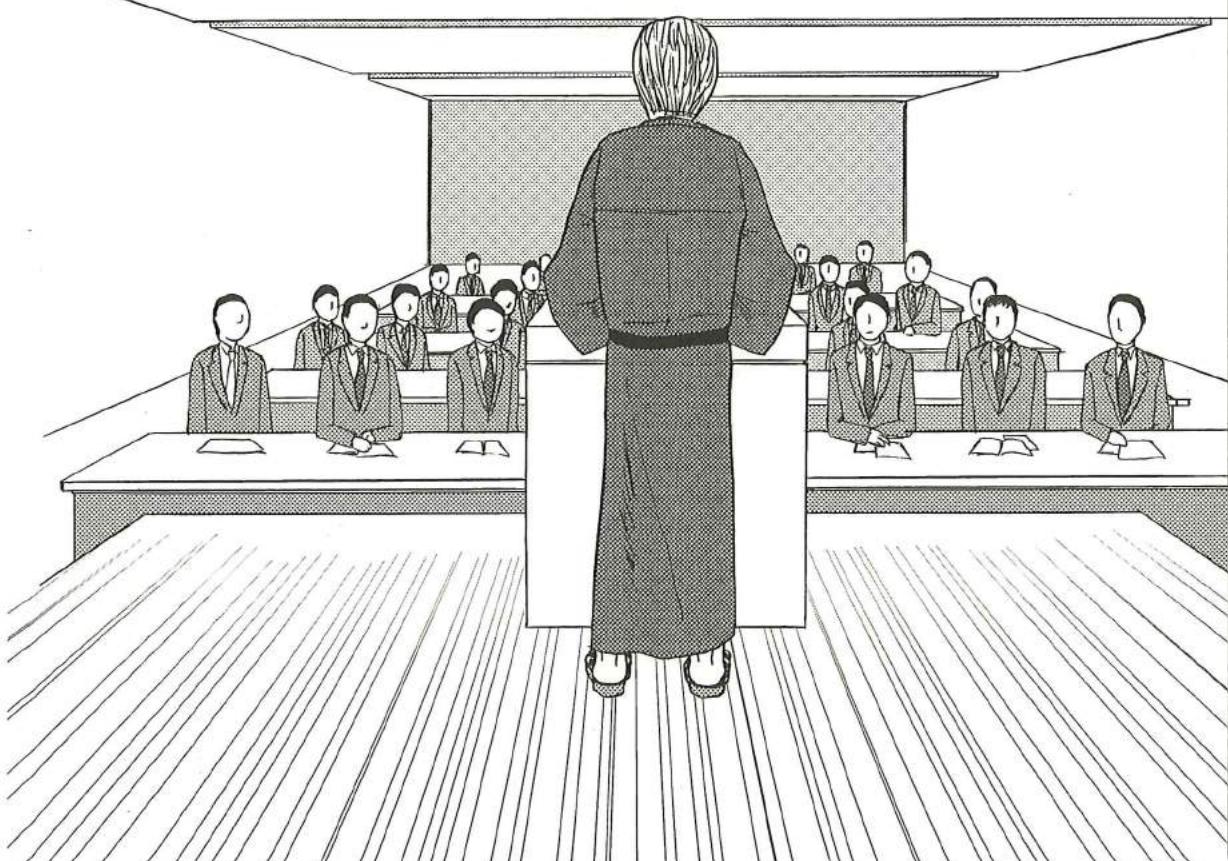


高浜はこののちも
十日会の——めつき業界の
発展のために奔走する

日本のため次世代のため…
その志は常に高潔であった

“人生は二度と通れない
道を歩みつつある”

“我々はもっとしっかり
歩かねばならない”
——高浜二郎



十日会 なんでも Q&A

1

十日会って なんですか？

十日会とは昭和23年に情報の収集、技術の習得と共に将来における公私の活動を討論する、司会する、協力するの修練をさりげなく技術研究の場で行なうことを目指した同志10名が11月15日高浜二郎氏を中心とし、小石川後楽園涵徳亭ビードロ茶屋で初めて顔を合わせた。そこで「めっきを天職とすることによって、日本に奉仕する」を創立の精神とした十日会が発足しました。

A

現在も約70社の会員で毎月の勉強会から工場見学、そして懇親会と勢力的に活動しています。

「一生懸命勉強して、一生懸命遊ぶ」がモットーです。

2

十日会って 勉強会ばっかり なんですか？

A いいえ、決してそんな事はありません。1年間に12回の例会のうち、勉強会が行なわれるは例年6～7回程度です。勉強会のほかに工場見学会や納涼会、忘年会、新年会などの親睦会を行なっています。

また、春と秋には希望者によるゴルフコンペも行なっています。

でい年入会会費はや
すくから

3

A 入会金1万円、年会費4万円をお願いしています。

4

A いいえ、十日会には年齢制限はありません。めっきおよび関連業界の2世達の会というイメージがあるかもしれません、あくまで任意団体ですので、なによりご本人の「やる気」重視です。

年齢制限はありますか

5

「討論する、司会する、協力する」ってなに？

十日会の創設者、高浜二郎氏の名言「我々は二度と通れない道を歩みつつある、我々はもつとしっかり歩まねばならない」この言葉を根底とした、十日会創立の精神の一つです。それは「公私の行動において、お互いに討論し、それを巧みに司会し、決まったことはみんなで協力する。この修練をさりげなく実施する」と言う内容で、その精神は50年以上経った現在でも脈々と受け継がれ、十日会の真髓であると言われています。

6

例会はどこで行なわれるのですか

A 勉強会と総会は文京区湯島の「めっきセンター」(JR御茶ノ水駅より徒歩5分)で行なっています。また、忘年会等の親睦会はその都度場所を厳選しています。

7

日本鍍金協会は、東京の「十日会」、名古屋の「名鍍会」、大阪の「青研会」、これら3会で構成される会で、毎年3会合同での「秋季大会」「年次大会」などを開催し、各会の活動状況や各地域の景況などの情報交換や研修事業を通じて、親睦を深めております。めっき業界の次代を担う全国的な業界団体へと発展しております。

日本鍍金協会ってなに？

忙しいので、なかなか会活動に参加できないかもしれないのですが・・・。

8

もちろん、可能な限りでの参加で結構です。会員の皆様は、それぞれ会社の中心となっておられる方ばかりですので、会活動も出来る限り仕事に影響のないよう、例会は19:00～であったり工場見学会は週末に企画したりと配慮しています。

9

十日会の名前の由来はなんですか

創立当初は「おしゃかの会」という名称でした。「おしゃか」とは不良品の意味・・・。すなわち技術の向上によって不良品をなくす会です。しかし毎月10日に集まっていた（当時はメールや携帯電話も無く連絡が着きづらかったことから、予め毎月決めた日に集まっていた）ことから、「十日会」と呼ぶようになりました。

10

入会するにはどうしたら良いですか？

事務局に申し込みの連絡、あるいはホームページへのメールでの連絡等で構いません。場合により面談等もございますが、積極的に会活動にご参加いただける方なら大歓迎です。例会の様子など見てみたい方もご連絡いただければ、体験もOKです。

十日会は

誇り高き 遠藤 清孝

融和な 八幡 順一

個を重んじる 山田 英佐夫

元気が出る 上原 裕司

歴史に挑戦する 野澤 宗司

HOTな 太田 幸一

フレンドリーな 石川 雅一

報恩の 永田 一雄

体育 近藤 澄男

元気な 梅田 伊三夫

仲が良い 石垣 安浩

思いやりのある 上村 福子

温故知新の 廣嶋 力

人と人を繋げる 菊池 忠男

仕事も遊びも全力疾走の 吉岡 英則

情熱的な一期一 木村 享史

互いに高めあう 大村 雅史

桃李成蹊な 音羽 伸哉

灯火(明日の道を照らす) 坂手 保弘

酒語学実の(酒を飲み語り合い、学んだ事を実行する) 神谷 博行

- 何かに役立つ 笹川 孝司
- インテリな 風見 浩司
- ALL IN ONEな 村松 康裕
- 美味しい 斎藤 晴久
- 火天(ふあちょん) 上市 孝志
- 近か! 玉村 聰二郎
- とてもためになる 稲田 晴喜
- 勤勉な 内藤 喜達
- 何事にも真剣な 宮部 圭典
- 仲間作りの 柴田 徹
- 勉強も遊びも極めた 石川 英孝
- 刺激ある 江原 弾
- 二次会も勉強になる 福井 通人
- 熱い勉強 神谷 昌孝
- めっきの明日を担う 塚越 祐介
- 勉学オンラインの 小室 昭進
- 知識集団の 狐塚 保之
- 和衷協同な 八幡 義一
- 研、修、勉、遊、飲、論、進の 草間 誠一郎
- 表面処理情報発信 大塚 淳生
- 常に前向きな 小平 哲也

○
○
○
会だ!

金言集

十日会の歴史を作った男たち 1

ほとぼしの情熱に溢れ、
めつきにこだわり続けた
男たちの言葉である。

PART1 高浜二郎

「負けたあとで、ぐずぐず言うのは渾である」
 「何が何でも祖国を再建せねばならぬ」
 「君たち青年が決起せねばならぬ時がきている」

昭和23年11月15日十日会初会合で集まった青年たちへ熱く語る

※高浜二郎……十日会創設者

PART2 高浜二郎

「人生は二度と通れない道を歩みつつある。
 我々はもっとしっかり歩かねばならない」

会員に人生を説く。師と仰がれる先生の重みのある言葉

PART3 高浜二郎

「例会に出ることは会員の義務でもなく、権利でもなく、
 責任とし、みんなが自治によって協力する」

十日会設立から創世記にかけての言葉

PART4 田嶋 栄

「経験のみを尊び秘伝のみを金科玉条とし
 学問を軽んじると実用新案的進歩はあっても
 原理的革新的飛躍はありえない」

勘やコツをたよりに仕事していた時代。
 分析や研究の重要性を説く。

※田嶋 栄……都立大名誉教授 十日会名誉顧問

10年間を 振り返って

平成10年度 会活動の回顧

平成11年度 会活動の回顧

平成12年度 会活動の回顧

平成13年度 会活動の回顧

平成14年度 会活動の回顧

平成15年度 会活動の回顧

平成16年度 会活動の回顧

平成17年度 会活動の回顧

平成18年度 会活動の回顧

平成19年度 会活動の回顧

コラム
(十日会の歴史を作った男たち-2)

平成10年度

会活動の回顧

◆ 平成10年度会員の状況

正会員77社 名誉会員2名 相談役2名 特別会員2名 報道5社

◆ 会員の動静

※会期中入会者 1社 (株)共和機器製作所
※会期中脱会者 2社 明盛鍍金工業(株) 高松鍍金工業(株)

◆ 役員 (任期:平成10年4月1日~平成11年3月31日)

| | | | |
|------|------------------|------|-------------------|
| 会長 | 遠藤清孝 (有)朝日鍍金工場 | 副会長 | 仲俣雅行 (株)中央メタル |
| 副会長 | 大沢俊孝 (株)大沢鍍金工業所 | 幹事会計 | 齊藤晴久 シルバーメッキ工業(株) |
| 幹事会計 | 菊地利博 菊地鍍金工業 | 幹事 | 上村福子 (株)上村正商店 |
| 幹事 | 保坂晃一 保坂鍍金(有) | 幹事 | 内田悦美 光鍍金工業(株) |
| 幹事 | 志田和陽 (有)大森広尾鍍金工場 | 幹事 | 小島一浩 (有)小島鍍金工業所 |
| 幹事 | 梅田高広 ミナモト電機(株) | | |



平成10年3月10日 定例総会

会場:めっきセンター 参加者35名

内容:会長には(有)朝日鍍金工場の遠藤清孝氏が選任された。

平成10年3月28日~29日

日本鍍金協会 (JES) 第37回年次大会

会場:神戸産業振興センター 参加者14名 (十日会)



平成10年4月13日 4月例会

会場:めっきセンター 参加者40名

演題:『新製品紹介』

内容:三明化成(株)、無電解ニッケル用ろ過機、蛍光X線膜厚計
多目的膜厚計EMXについて

(株)川本物産、強化ポリプロピレン製カートリッジフィルター
超小型高効率インペラ-採用ケミカルミキサー



平成10年4月26日 第46回ゴルフコンペ

場所:西山荘カントリー倶楽部 (茨城県)

◎優勝 内田悦美氏

◎2位 二木一郎氏

◎3位 高倉利守氏

平成10年5月11日 5月例会

会場：めっきセンター 参加者34名

演題：『会社はこうして潰していく』

講師：小林孝好氏（帝国データバンク情報部情報取材課長）

内容：この不況の中で相次いで倒産する有名企業の経営姿勢を教訓として、これから経営方針を帝国データバンクの小林孝好氏より学んだ。

平成10年6月6日 日本鍍金協会（JES）合同役員会

会場：両国 ザ・ホテルベルグランデ 参加者14名（十日会）

議題：『ニッケル、ほう素について』



平成10年6月11日 6月例会

会場：めっきセンター 参加者30名

演題：『北米のめっき業と私達』

講師：矢部賢氏（矢部技術事務所 技術士）

内容：日本や東南アジアの不況をよそに、すでに6年以上の好況が続いているアメリカ、そのめっき業界をどう観るか、彼らに対し我々がどうあるべきか、というテーマで矢部賢氏に講演をしていただいた。

平成10年6月20日～6月28日（9日間）

十日会第7次アメリカ視察 参加者12名

内容：9日間という短い日程ではあったが、サンフランシスコ、ミネソタ、ラスベガスの3都市を訪れ、工場視察、AESF SUR/FIN'98の参加はもとより、団員一同「何でも見てやろう」の精神でいろいろなアメリカを見ることができた。団員もそれぞれが幅広く見聞を広め多くのことを学んだ。



平成10年7月13日 7月例会

会場：めっきセンター 参加者32名

演題：『ISO9002取得の体験談』

講師：大竹了雄氏（関東化成工業株・株マルチ取締役）

内容：企業の品質保証体制を客観的に証明するISO9000シリーズを取得された大竹了雄氏に、取得までの体験談を語っていただいた。



平成10年8月21日 8月例会 納涼会

会場：ジャパンエナジー六本木クラブ 参加者28名

内容：恒例の納涼大会で日頃の暑さと憂さを吹き飛ばし皆で

語り合う楽しい一時を過ごした。

平成10年9月9日 9月例会

会場：めっきセンター 参加者27名

演題：『十日会第7次アメリカ視察帰朝報告会』

内容：6月のアメリカ視察の報告ということで、永田氏と遠藤氏よりシリコンバレーでの工場見学・ミネソタでのAESF大会の様子などをうかがった。



平成10年10月2日 日本鍍金協会（JES）秋季大会

会場：東京ホテル浦島 参加者25名（十日会）

工場見学会・平和工業㈱・新日東電化協業組合



平成10年11月8日 十日会50周年記念祝典

会場：第一ホテル東京

内容：創立50周年を迎えた十日会の記念祝典をご来賓並びに会員あわせて230名の参加で盛大に開催することができた。

平成10年12月15日 12月例会 忘年会

会場：うどん会席 鳥茶屋 参加者33名

内容：うどん料理の専門店"鳥茶屋"にて今年1年を振り返った。

平成11年1月24日 1月例会 新年会

会場：めっきセンター 参加者35名

内容：家族交歓を兼ねて実施し、会員のご家族にもお楽しみいただいた。



平成11年2月18日 2月例会

会場：めっきセンター 参加者36名

演題：『21世紀に向けてめっき業としてどう生き残っていくか』

内容：十日会の会員7名をパネラーに迎え、この不況の中どうやって生き残っていくかを探るためのパネル討論会を行った。

平成11年度

会活動の回顧

◆ 平成11年度会員の状況

正会員76社 名誉会員2名 相談役2名 特別会員2名 報道5社

◆ 会員の動態

※会期中入会者 2社 東新工業(株) タイホーテクノ(株)

※会期中脱会者 1社 高橋メッキ工業(有)

◆ 役員(任期:平成11年4月1日~平成12年3月31日)

| | | | | | |
|------|------|-------------|------|-------|--------------|
| 会長 | 遠藤清孝 | (有)朝日鍍金工場 | 副会長 | 仲俣雅行 | (株)中央メタル |
| 副会長 | 大沢俊孝 | (株)大沢鍍金工業所 | 幹事会計 | 齊藤晴久 | シルバーメッキ工業(株) |
| 幹事会計 | 菊地利博 | 菊地鍍金工業 | 幹事編集 | 上村福子 | (株)上村正商店 |
| 幹事 | 保坂晃一 | 保坂鍍金(有) | 幹事 | 内田悦美 | 光鍍金工業(株) |
| 幹事 | 志田和陽 | (有)大森広尾鍍金工場 | 幹事 | 新井嘉喜雄 | (有)いわき製作所 |
| 幹事 | 梅田高広 | ミナモト電機(株) | 幹事 | | |
| 幹事 | 小島一浩 | (有)小島鍍金工業所 | | | |

平成11年3月10日 定例総会

会場:めっきセンター 参加者30名

内容:会長には(有)朝日鍍金工場の遠藤清孝氏が選任された。

平成11年3月27日~28日

日本鍍金協会(JES)第38回年次大会

会場:東京ホテル浦島 参加者18名(十日会)



平成11年4月12日 4月例会

会場:めっきセンター 参加者37名

演題:『新製品紹介』

内容:(株)三進製作所:新型ろ過機、メルテックス(株):リサイクル型無電解ニッケルめっき液、(株)アペックスワールド:水中ケミカルポンプ及び磁気水発生装置



平成11年4月25日 第47回ゴルフコンペ

場所:イトーピア栃木ゴルフ倶楽部

◎優勝 清村進之氏

◎2位 上村福子氏

◎3位 新井嘉喜雄氏



平成11年5月10日 5月例会

会場：めっきセンター 参加者26名

演題：『転換期を迎える日本の臓器移植』

講師：鈴木正矩氏（日本移植者協議会会長）

内容：講師の鈴木氏はご自身が移植を受けられた実体験から、外国と日本の移植に対する意識のずれやシステムの違いや今後の臓器移植の展望を語られた。

平成11年6月5日～6日

日本鍍金協会（JES）合同役員会

会場：中日パレス（名古屋）（十日会）

親善ゴルフ大会

場所：ワールドレイクゴルフクラブ



平成11年6月17日 6月例会

会場：めっきセンター 参加者33名

演題：『ステンレス鋼は未だに新素材なのか？』

講師：八代利之氏（日本金属株技術部門 技術研究所所長）

内容：鉄、アルミニウムに続き「素材を考える」シリーズの第3回目としてステンレス鋼にスポットをあて、ステンレスメーカーの技術者の立場からの意見等の興味深いお話しを聞くことができた。



平成11年7月12日 7月例会

会場：めっきセンター 参加者31名

演題：『めっき見積り大会』

内容：客先本位になりがちな、めっきの加工単価を実物を目の前にして見積り単価を算出する等、会員同士で徹底的に論議した。また、名鍍会の神谷氏が特別参加して頂いたことで東京と名古屋のめっき加工単価に相違があることを感じた。



平成11年8月27日 8月例会 納涼会

会場：オーシャン・ディッシュ・クオン（港区海岸）

参加者27名

内容：お台場の夜景を展望しながら、会食をし会員の親睦を深めた。

平成11年9月13日 9月例会

会場：めっきセンター 参加者22名

演題：『これからの建築を考える』

講師：岸成行氏（㈲岸・上原総合計画研究所 代表取締役）
内容：建築に対して設計する立場から日頃感じていることを
中心に今後、迎えるであろう高齢化社会に対応するべく建築
を事例をあげて詳細に説明された。

平成11年9月19日 第48回ゴルフコンペ

場所：オークビレッジゴルフクラブ

- ◎優勝 繩田敏治氏
- ◎2位 小林邦雄氏
- ◎3位 中川士郎氏



平成11年10月8日 日本鍍金協会（JES）秋季大会

会場：通信会館（名古屋）参加者12名（十日会）
工場見学会・太陽電化工業㈱・新日東電化協業組合
秋季大会

平成11年11月8日 11月例会

会場：めっきセンター 参加者24名

演題：『カラー・ワードローブ・アクセサリー等のセンスアップ講座』

講師：廣田雅美女史（Color 1イメージ&スタイルコンサルタント）

内容：ビジネスシーンにおける服装のマナーや自分を印象付ける色調を見つけ出す方法などのご講演を頂いた。日頃なにげなくしているネクタイやスーツの色や柄でその人の印象が全く違ってくることを学び、経営者としての服装術の重要性を認識した。



平成11年12月4日

第49回ゴルフコンペ（年忘れゴルフコンペ）

場所：東雲ゴルフクラブ

- ◎優勝 池田憲治氏
- ◎2位 山田英佐夫氏
- ◎3位 清村進之氏

平成11年12月8日 12月例会 忘年会

会場：みずたき料理屋『玄海』（東京・新宿） 参加者29名

内容：みずたき料理を囲み平成11年の会の活動の締めくくりを行った。



平成12年1月30日 1月例会 新年会

会場：『今半』（中央区日本橋人形町） 参加者34名

内容：ここ数年、新年会は「めっきセンター」で行ってきたが、
今回は趣向を変え『日本橋七福神めぐり』を行い1年の商売
繁盛を祈念した後『今半』にて会食を行った。



平成12年2月17日 2月例会

会場：めっきセンター 参加者32名

演題：『21世紀に向けてのめっき技術』

講師：土井正氏（東京都立産業技術研究所 主任研究員）

内容：2000年という区切りの年を迎えた新たな抱負を胸に
活動すべく、『21世紀に向けてのめっき技術』と題して、十
日会の特別会員でもある土井先生にご講演と21世紀に生き
残るための技術についての提言をいただいた。

平成12年度

会活動の回顧

◆ 平成12年度会員の状況

正会員68社　名譽会員2名　相談役2名　特別会員2名　報道5社

◆ 会員の動静

※会期中入会者 0社

※会期中脱会者 6社　四国電機(株) (有)都鍍金工業所 吉野電化工業(株)

(有)横井電気メッキ工業 保坂鍍金(有) (株)セテック

◆ 役員(任期:平成12年4月1日~平成13年3月31日)

会長 仲俣雅行 (株)中央メタル

副会長 大沢俊孝 (株)大沢鍍金工業所

副会長 菊地利博 菊地鍍金工業

幹事会計 斎藤晴久 シルバーメッキ工業(株)

幹事編集 内田悦美 光鍍金工業(株)

幹事 保坂晃一 保坂鍍金(有)

幹事 上村福子 (株)上村正商店

幹事 梅田高広 ミナモト電機(株)

幹事 新井嘉喜雄 (有)いわき製作所

幹事 太田幸一 太田鍍金工業(株)

事務局 宮部圭典 東京都鍍金工業組合

平成12年3月10日 定例総会

会場:めっきセンター 参加者30名

内容:会長には(株)中央メタルの仲俣雅行氏が選任された。



平成12年3月18日~19日

日本鍍金協会(JES)第39回年次大会

会場:三谷温泉 明山荘(愛知県) 参加者19名(十日会)



平成12年4月10日 4月例会

会場:めっきセンター 参加者43名

演題:『新製品紹介』

内容:(株)共和機器製作所 スーパーバレル 乾燥機スーパー

ドライヤー、搖動装置スーパークリーナー

セイコーインスツルメンツ(株) 融光X線法による鉛フリー

めっきの分析について

宇治電化学工業(株) 乾式バレル研磨について

平成12年4月14日 第1回HP作成委員会

場所:めっきセンター

平成12年5月15日 5月例会

会場：めっきセンター 参加者23名

演題：『初対面の人とのコミュニケーション』

講師：小出繁美（株）オールウェイズ

内容：コミュニケーションの基本とは自己中心の考えではなく、相手の立場や考え方を第一とすることで相手が心を開くということを実例を交えながら講演をいただいた。

平成12年5月24日 第2回HP作成委員会

場所：めっきセンター会議室



平成12年5月27日 第50回ゴルフコンペ

場所：大厚木カントリークラブ

●優勝 内田悦美氏（光鍍金工業株）

○2位 岡田茂氏（株）オカダテックス

○3位 中川士郎氏（株）川本物産

平成12年6月10日～11日

日本鍍金協会（JES）合同役員会

会場：ホテル セイリュウ（東大阪）参加者5名（十日会）

親善ゴルフ大会

場所：城陽カントリー倶楽部

●優勝 加藤千博氏

●団体戦優勝 青研会

平成12年6月12日

会場：めっきセンター 参加者33名

演題：『P R T R 法と新しい水質規制への取り組み方』

講師：（株）梅田鍍金工業所 永田一雄氏

内容：十日会会員である永田氏が積み重ねたデータをもとに、P R T R 法及びホウ素の規制に対する取り組み方、考え方を現場的な立場で講演いただいた。



平成12年7月15日～16日 7月例会 工場見学

場所：四国（高松・高知）参加者23名

ナベプロセス（株）（株）ユーミック 宇治電化学工業（株）

内容：四国の優秀工場3社を見学して、又、夜の懇親会では会員相互の親睦を深めた。

平成12年8月24日 8月例会 納涼会

会場：香港ガーデン（広尾） 参加者34名

内容：会員の奥様を交え飲茶料理を楽しみ、ゲーム・会話で懇親を深めた。



平成12年9月14日 9月例会

会場：めっきセンター 出席者29名

内容：米・シリコンバレー在住の遠藤氏より、アメリカのIT産業の実態、また経済状況など現地の企業人の立場として講演いただいた。会員からも質疑応答が交わされた。

平成12年10月6日

日本鍍金協会（JES）第37回秋季大会

会場：新・都ホテル（京都）出席者17名（十日会）

工場見学会・上田鍍金㈱・旭金属工業㈱

第2部 秋季大会 JES事業経過報告及び第40回年次大会について

各会事業報告、現況報告

第3部 懇親会

平成12年11月9日 11月例会

会場：めっきセンター 出席者30名

演題：パネルディスカッション『社長業よもやま話』

講師：十日会の先輩方（小林氏・菊池氏・永田氏・神谷氏・近藤氏・岡田氏）

内容：十日会の先輩方をパネラーにお迎えし、社長業についてのディスカッションで大変貴重なお話を聞くことができ、有意義な時間を過ごした。



平成12年12月13日 忘年会

会場：すき焼き『伊勢重』 出席者40名

内容：20世紀最後の十日会行事ということもあってか、総勢40名という大盛会であった。すき焼きなべを囲み、和気あいあいとしたひと時を過ごした。



平成13年1月21日 新年会

会場：アンティパスタ銀座店 出席者39名

内容：会員の奥様、子供達を交え21世紀の幕明けにふさわしくにぎやかなひと時を過ごした。





平成13年2月19日 2月例会

会場：めっきセンター 出席者26名

演題：『知ってて得する、知らなきゃ損する経営法律』

講師：公認会計士 土屋 晴行氏

内容：会社経営に必要な法律を約束手形・小切手・抵当権などに絡んだ実例をもとに、わかりやすく学んだ。

平成13年度

会活動の回顧

◆ 平成13年度会員の状況

正会員69社 名誉会員2名 相談役2名 特別会員2名 報道5社

◆ 会員の動静

※会期中入会者 4社 (有)大啓ケアー (株)テクノオオツカ (有)扶桑電化 上平井工業所
(株)渡邊熱理興業

※会期中脱会者 3社 大戸鍍研薬品(株) (株)コサク (有)ハルナ鍍研材

◆ 役員 (任期:平成13年4月1日~平成14年3月31日)

| | | | | | |
|------|------|--------------|------|-------|-----------|
| 会長 | 仲俣雅行 | (株)中央メタル | 副会長 | 菊地利博 | 菊地鍍金工業 |
| 副会長 | 大沢俊孝 | (株)大沢鍍金工業所 | 幹事編集 | 内田悦美 | 光鍍金工業(株) |
| 幹事会計 | 斎藤晴久 | シルバーメッキ工業(株) | 幹事 | 新井嘉喜雄 | (有)いわき製作所 |
| 幹事 | 上村福子 | (株)上村 | 幹事 | 石川英孝 | (株)ヒキフネ |
| 幹事 | 太田幸一 | 太田鍍金工業(株) | | | |
| 事務局 | 宮部圭典 | 東京都鍍金工業組合 | | | |

平成13年3月8日 定例総会

会場:めっきセンター 参加者33名

内容:会長には(株)中央メタルの仲俣雅行氏が選任された。



平成13年4月14日~15日

日本鍍金協会 (JES) 第40回年次大会

会場:三井アーバンホテル大阪ベイタワー

参加者24名 (十日会)

内容:会長には(株)三恵工業所の石川雅一氏が選任された。



平成13年4月16日 4月例会

会場:めっきセンター 参加者50名

演題:【新製品紹介】

内容:ディップソール(株) ZT-444 (3価クロメート剤)

メルテックス(株) メルプレートMGプロセス (マグネシウム合金上の無電解めっきプロセス)
マグトリートプロセス (マグネシウム上ノンクロム化成処理プロセス)

日本表面化学(株) トライナープロセス (クロメート代替処理)
日本表面化学(株) トライナープロセス (クロメート代替処理)

平成13年5月10日 5月例会

会場：めっきセンター 参加者26名

演題：『見積もり大会2』

内容：見積もりという共通テーマをもとに、出席者全員が参加する有意義な例会となった。また、最近のデフレ傾向が反映される見積もり単価が目立った。



平成13年6月2日 第52回ゴルフコンペ

場所：ダイヤグリーン俱楽部

◎優勝 繩田敏治氏

◎2位 荒井博氏

◎3位 太田多一氏

平成13年6月9日 日本鍍金協会（JES）合同役員会

会場：めっきセンター 参加者13名（十日会）

平成13年6月11日 6月例会

会場：めっきセンター 参加者30名

演題：『生活習慣病について』

講師：鈴木政登氏（医学博士）

内容：糖尿病、高血圧等の生活習慣病についての症状や予防法についてわかりやすい講義であった。

平成13年7月12日 7月例会

会場：めっきセンター 参加者27名

演題：『ISO14000シリーズについて』

講師：星野芳明様（星野技術士事務所）

内容：ISO14000シリーズについての意義やメリットを、再認識する上で大変わかりやすい講義であった。



平成13年9月12日 9月例会

会場：めっきセンター 参加者42名

演題：『新製品紹介Ⅱ』

内容：日本プラント㈱、デルテックコーポレーション㈱ 排水フルクローズドシステム

上村工業㈱ ジェニック排水フロー



平成13年10月15日 10月例会

会場：めっきセンター 参加者29名

演題：『これからの資産運用』

講師：阿部義夫氏（ファイナンシャルプランナー）

内容：現在の日本経済の問題点、資産運用についての留意点、
また老後の資金についての考え方について講義を受けた。

平成13年11月17日 日本鍍金協会（JES）秋季大会

会場：めっきセンター

第1部 第38回秋季大会

第2部 講演会

講演者：西田善夫先生（元NHKアナウンサー・解説委員）

演題：『選手を元気付ける監督の会話術』

第3部 懇親会

会場：レストラン「ラ・ステラ」



平成13年12月1日 第53回ゴルフコンペ

場所：宍戸ゴルフクラブ

◎優勝 新井嘉喜雄氏

◎2位 繩田敏治氏

◎3位 中川士郎氏

平成13年12月19日 12月例会 忘年会

会場：東京ガーデンパレス『梅里』 参加者34名

内容：今年、そして来年からの話に、花を咲かせながら、懐石料理を楽しんだ。



平成14年1月27日 1月例会 新年会

会場：サンシャイン・クルーズクルーズ 参加者32名

内容：会の途中より雲が晴れて200メートルの景色を楽しむことができた。このように、今年の景気も雲が晴れて、好天となる事を祈念した八幡先輩のお言葉が、印象に残った。



平成14年2月21日 2月例会

会場：めっきセンター

演題：『日本・アメリカ・ヨーロッパ、経営観や考え方について』

講師：特別会員 村楨利弘氏（デグサ・ジャパン株）

内容：現在、日本の置かれている状況を、ドイツ、中国、アメリカといった諸外国と比べることによってどうなるか、その対応策についての講義を行い、今後の日本はどうあるべきかを話し合った。



平成14年度

会活動の回顧

◆ 平成14年度会員の状況

正会員65社　名譽会員2名　相談役2名　特別会員2名　報道5社

◆ 会員の動静

※会期中入会者 0社

※会期中脱会者 4社 (株)黒須メッキ(平成13年度退会) (株)島鍍金工場 東新工業(株)
(株)エスティエンジニアリング

◆ 役員 (任期:平成14年4月1日~平成15年2月28日)

会長 菊地利博 菊地鍍金工業

副会長 新井嘉喜雄 (有)いわき製作所

副会長 斎藤晴久 シルバーメッキ工業(株)

幹事 会計 太田幸一 太田鍍金工業(株)

幹事 編集 石川英孝 (株)ヒキフネ

幹事 内田悦美 光鍍金工業(株)

幹事 上村福子 (株)上村

幹事 柴田徹 (有)扶桑電化上平井工業所

事務局 宮部圭典 東京都鍍金工業組合



平成14年3月8日 定例総会

会場:めっきセンター 参加者27名

内容:会長には菊地鍍金工業の菊地利博氏が選任された。

平成14年3月30日~31日

日本鍍金協会 (JES) 第41回年次大会

会場:東京ベイホテル東急 (千葉県浦安市)

参加者24名 (十日会)



平成14年4月8日 4月例会

会場:めっきセンター 参加者34名

演題:『新製品紹介』

内容:荏原ユージライト(株) モバイル・アナライザー T Y
P E - T (表面処理浴用多用途対応可搬型自動分析装置)

メルテックス(株) MD-Fシリーズ (金めっき専用マグネットポンプ)

ミナモト電機(株) 角パイプステンレスヒーター、液晶デジタル温度計

平成14年4月22日 特別例会

会場:めっきセンター 参加者35名

演題：『中国鍍金業界視察報告会』

内容：3月21日～24日の4日間、東京都鍍金工業組合の有志による、中国深圳、東莞めっき業界視察が行われた。この視察に参加された、十日会会員の八幡順一氏、永田一雄氏、菊池忠男氏、遠藤清孝氏、福井順子氏から、今回見学された、プリント基板工場、プラスチック上のめっき工場、日系のめっき工場2社、めっき設備の生産工場についてご報告いただいた。



平成14年5月13日 5月例会

会場：めっきセンター 参加者31名

演題：『クエン酸を用いた、電気ニッケルめっき』

講師：十日会特別会員 土井正先生

(東京都立産業技術研究所表面処理グループ)

内容：今話題のクエン酸を用いた新しいニッケルめっき浴「レモン酸ニッケル浴」の開発者である土井先生に、その詳細についてご講演頂いた。ワット浴のほう酸をクエン酸に置き換えたこのめっき浴をワット浴と比較しながら、また十日会でだけのお話なども交えてご講演いただいた。



平成14年5月18日 第54回ゴルフコンペ

場所：霞ヶ浦国際ゴルフコース

◎優勝 斎藤晴久氏

◎2位 太田幸一氏

◎3位 石川英孝氏



平成14年6月8日 日本鍍金協会（JES）合同役員会

会場：鵜匠の宿 すぎ山（岐阜県）参加者5名（十日会）



平成14年6月13日 6月例会

会場：めっきセンター 参加者25名

演題：『ズバリ解決！？あなたの会社の問題点』

内容：十日会の真髓である「討論する、司会する、協力する」にちなんで、十日会会員の会社の困り事、技術的な問題点、社員への対応などを出席者全員で解決を図るべく、知恵を出し合い討論を行った。



平成14年7月11日 7月例会

会場：めっきセンター 参加者29名

演題：『笑顔のチカラ』

講師：門川義彦先生

(株)笑顔アメニティ研究所代表、実務コンサルタント)

内容:7月例会では、世界でただ一人の「笑顔コンサルタント」でいらっしゃる門川義彦先生にご講演頂き、私達が普段気づかないでいる「笑顔」について、テレビなどのマスメディアも注目の楽しいお話をしていただいた。



平成14年8月22日 8月例会 納涼会

会場:ソーセージレストラン『スマーキー』 参加者42名

内容:今年の納涼会は、都内のオシャレな場所、南青山骨董通りにあるソーセージレストラン『スマーキー』で、欧風料理とビール、ワインを楽しんだ。沢山の料理とともに趣向を凝らしたゲームなどで、奥様も交えて大いに盛り上がった。



平成14年9月9日 9月例会

会場:めっきセンター 参加者37名

演題:『6価クロムフリー処理剤の現状と対応』

講師:青江徹博先生(OEAガルバノ事務所 所長)

内容:亜鉛めっきの専門家でいらっしゃる青江徹博先生に、6価クロムフリー処理剤の現状と対応、今後の展望をご講演頂いた。従来のクロメート処理皮膜の性質と、現在市販されている6価フリークロメート処理剤の性能、問題点などを非常に判りやすく解説して顶いた。



平成14年10月25日 日本鍍金協会(JES)秋季大会

第1部 工場見学(トヨタ自動車(株))

参加者18名(十日会)

第2部 第39回秋季大会

会場:レセプションハウス名古屋通信会館 6階 葵の間

第3部 懇親会

会場:レセプションハウス名古屋通信会館 3階 楓の間



平成14年11月14日 11月例会

会場:めっきセンター 参加者34名

演題:『町工場のIT革命』

講師:高橋明紀代氏(有)メディアハウスA&S 代表取締役

内容:11月例会では、東京都鍍金工業組合・ホームページ特別委員会との共催にて、ビジネス・コミュニケーションの手段としての情報技術について、「町工場向けのIT」「ITで変わる経営」などをテーマに「インターネットを利用した受注」の実例と、今、元気な中小企業の紹介等をご講演いただいた。

平成14年12月7日～8日

12月例会 忘年会・ゴルフ第55回記念大会

会場：忘年会 ホテル日光石亭 参加者27名

内容：今年の十日会忘年会は、東武特急スペーシアで東京を離れ温泉にゆっくりつかりながら一年を振り返り、また来る年に向けての抱負などを大いに飲んで、大いに語った。

また、第55回記念ゴルフコンペを、名門コースとして知られる「日光カンツリークラブ」で同時開催した。午後からは雪が降る中でのプレーとなり、後々まで語り続けられるであろう大会になった。



第55回ゴルフコンペ

場所：日光カンツリークラブ

◎優勝 上野啓司氏

◎2位 上市孝志氏

◎3位 八幡義一氏

平成15年1月26日 1月例会 新年会

会場：品川プリンスホテル 39F 「トップオブシナガワ」

VIPルーム 参加者46名

内容：十日会恒例の新年会を、再開発が進み、高層ビルが林立し東海道新幹線の停車駅にもなる品川のプリンスホテルにて開催した。地上39階からの眺めと料理を楽しみ、またビンゴゲームに興じたりと、楽しいひと時を過ごした。



平成15年2月13日 2月例会

会場：めっきセンター 参加者42名

演題：『中国進出の苦労話』

講師：由田猛氏（㈱協和 代表取締役）

（東京都鍍金工業組合 副理事長）

内容：安価な労働力により、今や「世界の工場」とまで言われるほどに発展を続け、我が国の製造業にとって、大変な脅威であると言われている中国に、めっき業として進出された、㈱協和 代表取締役社長 由田猛氏に、中国進出の苦労話をテーマに御講演いただいた。中国経済の懸念材料などをご説明頂くとともに、デフレ時代を生き抜くための「これからの日本めっき業」への提言をいただいた。



平成15年度

会活動の回顧

◆ 平成15年度会員の状況

正会員64社　　名誉会員2名　　相談役1名　　特別会員2名　　報道5社

◆ 会員の動静

※会期中入会者 1社 不二メッキ資材(株)

※会期中脱会者 2社 新日本機械工業(株) 株山晴

◆ 役員(任期:平成15年4月1日~平成16年3月31日)

会長 菊地利博 菊地鍍金工業

副会長 新井嘉喜雄 (有)いわき製作所

副会長 斎藤晴久 シルバーメッキ工業(株)

幹事 会計 太田幸一 太田鍍金工業(株)

幹事 編集 石川英孝 (株)ヒキフネ

幹事 上村福子 (株)上村

幹事 内田悦美 光鍍金工業(株)

幹事 柴田徹 (有)扶桑電化上平井工業所

幹事 梅田伊三夫 ミナモト電機(株)

事務局 宮部圭典 東京都鍍金工業組合

平成15年3月13日 定例総会

会場:めっきセンター 参加者31名

内容:会長には菊地鍍金工業の菊地利博氏が選任された。



平成15年3月29日~30日

日本鍍金協会(JES)第42回年次大会

会場:長島温泉ホテル花水木、ガーデンホテルオリーブ

参加者10名(十日会)



平成15年4月10日 4月例会

会場:めっきセンター 参加者36名

演題:『十日会の生い立ち』

講師:十日会会員 福井通祐氏 (福井電化工業(株) 代表取締役 会長)

内容:十日会設立時からの会員である福井通祐氏に、草創期の十日会の様子や高浜二郎先生の活動、また、戦前・戦後から高度経済成長、そしてバブル崩壊に至るまでのめっき業界の様子や、ご自身の苦労などを紹介いただいた。

平成15年4月20日 第56回ゴルフコンペ

場所:宍戸ヒルズカントリークラブ

- 優勝 上村福子氏
- ◎2位 池田憲治氏
- ◎3位 石川英孝氏

平成15年5月12日 5月例会

会場：めっきセンター 参加者40名

演題：『新製品紹介』

内容：上村工業㈱

「ニムデンNKY」（光沢性に優れた無電解ニッケルめっき浴）

㈱三進製作所

「エコエースTタイプ」（ランニングコスト低減型ろ過機）

ユケン工業㈱

「メタスYFAシリーズ」（3価クロムクロメート）



平成15年6月7日 日本鍍金協会（JES）合同役員会

会場：大阪府鍍金工業組合・環境技術センター

参加者7名（十日会）

平成15年6月21日～22日 7月例会 工場見学

場所：㈱協和 群馬県高崎市 参加者28名

内容：工場見学は高崎第二工場より始まり、プラスチックや亜鉛、アルミダイカスト用金型の設計、製作工場を見学。コールドチャンバー式ダイカストマシンを間近に見ながら、成形品をプレスしたり、ショットを打ったりしている様子を、興味深く見学。第一工場に移り、携帯電話や自動車部品向けプラスチック上のめっき工程を見学。会議室にて由田猛社長、仲二見高崎第一工場長、山田高崎第二工場長と質疑応答。二年前に取得されたISO 14001に関する事などを中心に、多くのお話を伺い、非常に意義深い工場見学会となった。見学終了後は伊香保温泉のホテル木暮に宿泊し、十日会の真髄の一つである「大いに飲んで、大いに語る」を実践するとともに、懇親を深めた。



平成15年7月10日 7月例会

会場：めっきセンター 参加者41名

演題：『めっき難素材の前処理法～新しいめっき技術へのアプローチ』

講師：十日会 特別会員 土井正先生（東京都産業技術研究所 主任研究員）

内容：7月例会は、東京都鍍金工業組合連合青年部の皆様と



合同の講演会として、十日会特別会員である土井正先生に、めっき難素材の前処理法を解説した全鍍連発行の冊子「新素材の前処理法」をテキストとして用いて、チタン、セラミクス、マグネシウム等のめっき難素材の前処理法を解説していくとともに、先生の「クエン酸を用いたニッケルめっき法」の開発のご経験から、我々が新しいめっき技術等を開発するには、どのようなアプローチが必要か、などをご講演いただいた。



平成15年8月23日 8月例会 納涼会

会場：月島 スペインクラブ（東京都中央区） 参加者35名
内容：倉庫を改造したスペニッシュレストランで、スペイン人シェフが作り出す本場の料理とビール、ワインとスペインの甘いお酒「シャングリラ」を楽しむとともに、会員相互の親睦を深めた。



平成15年9月17日 9月例会

会場：めっきセンター 参加者37名
演題：パネル討論会『土壤汚染の実態と、ますます厳しくなる水質基準』
講師：志賀孝作氏（東京都鍍金工業組合 環境科学研究所 所長）、永田一雄氏、遠藤清孝氏

内容：土壤汚染対策法に基づく指定調査機関である東京都鍍金工業組合環境科学研究所の志賀孝作所長に、土壤汚染の実態を説明していくとともに、環境省の中央環境審議会にパブリック・コメントを提出された十日会の会員である永田一雄氏と遠藤清孝氏をパネラーに迎え、環境省が新たな水質環境基準の制定にあたり募集した「パブリック・コメント」とは、どんなものなのか、効果はあるのかなどをテーマにディスカッションを行った。



平成15年10月24日～25日

日本鍍金協会（J E S）第40回秋季大会
第1部 工場見学 アスカコーポレーション株・株旭日プレイティング
第2部 懇親会 熊本県菊池温泉 菊池グランドホテル 熊本県菊池市
第3部 第40回秋季大会 参加者9名（十日会）
会場：熊本県菊池温泉 菊池グランドホテル 熊本県菊池市

平成15年11月10日 11月例会

会場：めっきセンター 参加者33名

演題：『1000億円を失って知った価値の根源』

講師：㈱ツカサ 代表取締役社長 川又三智彦氏

内容：川又氏は家業の不動産業を継承し、老朽化したアパートの有効利用として始めた「ウィークリーマンション」を6室よりスタート。1980年代のバブル経済の時代に大きく業績を伸ばし、1988年2月発売の週刊現代に「日本の金満家」の一人として掲載される。しかし、バブル崩壊により、1,000億円の資産家から、1,000億円の債務者に。しかし、その逆境に負けず、現在は、地域密着型不動産事業をはじめ、情報サービス事業、介護・医療福祉事業などを展開。また、起業家支援のため、7m程の広さのレンタルオフィス事業や、セミナーを開催されていらっしゃる川又氏に、大変ユニークな御講演をいただいた。



平成15年11月16日 第57回ゴルフコンペ

場所：阿見ゴルフクラブ

◎優勝 新井嘉喜雄氏

◎2位 狐塚保之氏

◎3位 上村福子氏

平成15年12月10日 12月例会 忘年会

会場：水月ホテル「鴎外荘」東京都台東区 参加者33名

内容：忘年会は、ホテルの敷地内にある、118年前に宮大工により建築された森鴎外の旧宅内の「舞姫」を執筆した部屋『舞姫の間』を会場として、京懐石料理を味わいつつ、皆でこの一年を振りかえり、また、来年に向けて大いに飲んで、大いに語った。



平成16年1月25日 1月例会 新年会

会場：トニー ローマ 三番町店 東京都千代田区

参加者45名

内容：十日会恒例の新年家族交歓会を、皇居千鳥ヶ淵近くのトニーローマ三番町店にて、ご来賓として東京都鍍金工業組合の大村功作理事長をお迎えし、会員の奥様、お子様、多数のご参加をいただき開催した。





平成16年2月16日 2月例会

会場：めっきセンター 参加者37名

演題：欧州めっき企業の生き残り戦略と現状

講師：石川英孝氏

内容：最近の我々業界において、中国を始めアジアへの製造拠点のシフトによる空洞化が大きな問題となっているが、冷戦終結後、東欧諸国へのシフトにより同様の経験をしている欧州のめっき企業を視察してきた十日会会員である石川英孝氏に、欧州企業、特にドイツのめっき業についてめっき業者としての視点から解説していただいた。

平成16年度

会活動の回顧

◆ 平成16年度会員の状況

正会員66社 名誉会員1名 相談役1名 特別会員2名 報道5社

◆ 会員の動静

※会期中入会者 3社 (有)上原メッキ工業 キザイ(株) 株電測

※会期中脱会者 1社 (有)大森広尾鍍金工場

◆ 役員(任期:平成16年4月1日~平成17年3月31日)

会長 斎藤晴久 シルバーメッキ工業(株)

副会長 太田幸一 太田鍍金工業(株)

幹事会計 石川英孝 (株)ヒキフネ

幹事 上村福子 (株)上村

幹事 八幡義一 八幡鍍金工業(株)

副会長 坂手保弘 (株)トーテック

幹事 編集 柴田徹 (有)扶桑電化上平井工業所

幹事 梅田伊三夫 ミナモト電機(株)

事務局 宮部圭典 東京都鍍金工業組合

平成16年3月10日 定例総会

会場:めっきセンター 参加者23名

内容:会長にはシルバーメッキ工業(株)の斎藤晴久氏が選任された。



平成16年3月27日~28日

日本鍍金協会(JES)第43回 年次大会

会場:春日ホテル(奈良県)・会議室 参加者15名(十日会)

内容:会長には(株)東電工舎の山田英佐夫氏が選任された。



平成16年4月14日 4月例会

会場:めっきセンター 参加者36名

演題:『新製品紹介』

内容:(株)三進製作所

ニッケルめっき専用「減圧型濃縮装置・ニッケルパック」

奥野製薬工業(株)

亜鉛メッキ用3価クロム系化成処理剤「E Sコートシリーズ」

(株)タイホー

亜鉛メッキ用黒色クロメート「パワーコート910」

日本表面化学(株) 亜鉛メッキ用3価クロメート「トライナーシリーズ」



平成16年5月16日 第58回ゴルフコンペ

場所：美浦ゴルフ倶楽部

◎優勝 内藤隆夫氏

◎2位 石川英孝氏

◎3位 山田英佐夫氏



平成16年5月17日 5月例会

会場：めっきセンター 参加者40名

演題：『ほう素・ふつ素の排水処理技術の現状』

講師：志賀孝作氏（東京都鍍金工業組合 環境科学研究所所長）

内容：「現在、ほう素・ふつ素等の処理システムは、現場実績が少なくビーカーテストの結果をもとにまとめたもので、簡便な処理法は確立されていない。また、スラッジ量が大量に発生することも問題であり、ランニングコストも非常に高く経営に負担のかかることなど、今後の改善課題であるといえる。」と話した。



平成16年6月5日 6月例会 工場見学

場所：福井電化工業㈱ 千葉県市川市 参加者30名

内容：十日会員の福井順子氏の「福井電化工業㈱」を工場見学させて頂いた。千葉県市川市にあり、工場内では、パレルを使って小さい品物に各種めっきを行っていた。銅やニッケル自動ライン、後処理機や自動脱水乾燥機、溶剤脱脂用の自動機をはじめ、手付けラインまで、様々なパレルラインが並び、他に全自動静電塗装ラインや全自动アルマイドルインもあり、排水設備も充実していた。福井電化工業㈱の会長、福井通祐様に有意義な話をいただいた。

平成16年6月7日 日本鍍金協会（JES）合同役員会

会場：めっきセンター 参加者13名（十日会）



平成16年7月15日 7月例会

会場：めっきセンター 参加者30名

演題：『企業におけるリスクマネジメント』

講師：海野雅敬氏（ニッセイ同和損害保険㈱ 東京支社）

内容：企業は、さまざまなりスクを抱えながら事業の運営を行なっている。このリスク発生を出来る限り少なくし、もしもリスクが発生した場合、その影響を最小限にとどめるようにする事がリスクマネジメントといわれている。今回は、人

的災害による火災発生メカニズムとPL(製造物責任)保険の適用される範囲を確認しながらの講演となった。

平成16年8月27日 8月例会 納涼会

会場: 東京都港区「月の庭」 参加者27名

内容: 今年度の十日会納涼会は、六本木に近い星条旗新聞社前にある四季折々の庭を眺めながら楽しむ美味しい和食料亭『月の庭』で、都下の月を見ながら懇親を深め、大いに盛り上がった。



平成16年9月13日 9月例会

会場: めっきセンター 参加者40名

演題: 『たった一つのシンプルな仕掛けで「会社が変わる!』

講師: 白湯敏郎氏

(株)トーマツ 環境品質研究所取締役コンサルティング本部長)

内容: 「シンプルな仕掛けで会社が変わる」と題して、(株)トーマツ環境品質研究所取締役コンサルティング本部長 白湯敏郎氏からお話を伺った。

勉強会やミーティングを行い、社長と社員の会話を増やし、社員のやる気の出させ方や、会社の部署を関係なく席替えをしてしまう方法など、社長と社員のコミュニケーションを図り、良い環境を作り出す方法などの講演となった。



平成16年10月1日 日本鍍金協会(JES)秋季大会

会場: 重慶飯店(横浜中華街) 参加者26名(十日会)



平成16年11月11日 11月例会

会場: めっきセンター 参加者23名

演題: 「ISOマネジメントシステムの現状及び今後」

講師: 古田智子氏(アオイ環境㈱ 環境システム課 次長)(ISO9001主任審査員 ISO14001主任審査員)

内容: 現在日本国内におけるISO取得件数が世界各国から突出しているが現在では認証取得は行なわず、ISOシステムのみを導入し、自己宣言での認証取得やエコアクション(EA)21などもあり、そこで今回は古田氏にISO9001、14001主任審査員としての観点から、またコンサルタントとしての観点からISOを取り巻く現状について講義をして頂いた。



平成16年11月14日 第59回大会ゴルフコンペ

場所：阿見ゴルフ倶楽部

◎優勝 狐塚保之氏

◎2位 梅田伊三夫氏

◎3位 山田英佐夫氏



平成16年12月2日 12月例会 忘年会

場所：『たらふく』両国店（墨田区両国） 参加者32名

内容：煮ごはん、てっさ、てっちり、焼きふぐに舌鼓を打ちながら飲み交わすひれ酒、そして真打は雑炊〆。今年は災害の多い年だったが、互いに力を合わせ前進して行く事を胸に新年を迎えることとなった。



平成17年1月23日 1月例会 新年会

会場：『醍醐味』丸ビル店（千代田区） 参加者49名

内容：会員、ご夫人、お子様の約50名で和風会席料理を戴きながら途中、bingoゲームなど行ない、和気あいあいと時間を過ごし“今年も良い年になる”そう実感できる新年会の盛り上がりだった。



平成17年2月16日 2月例会

会場：めっきセンター 参加者32名

演題：「がんばれ中小企業！会社の攻め方・守り方」

講師：荒和雄氏（ブレーン・サービス代表 経済評論家）

内容：講演内容は「がんばれ！明日のニッポン 心で語る勇気と元気の出る話」「がんばれ！女性経営者・社長夫人」「がんばれ！若手経営者二代目・三代目社長」「がんばれ！社長新ミレニアム時代の同族経営」の著書、その他百数十冊の著作物の中から抜粋し、ユーモアを交えながら講演された。

平成17年度

会活動の回顧

◆ 平成17年度会員の状況

正会員63社 名誉会員1名 相談役1名 特別会員2名 報道5社

◆ 会員の動静

※会期中入会者 0社

※会期中脱会者 3社 (株)小嶋メッキ工業所 (株)中央メタル トキワ鍍金工業所

◆ 役員(任期:平成17年4月1日~平成18年3月31日)

会長 斎藤晴久 シルバーメッキ工業(株)

副会長 太田幸一 太田鍍金工業(株)

副会長 坂手保弘 (株)トーテック

幹事会計 石川英孝 (株)ヒキフネ

幹事編集 柴田徹 (有)扶桑電化上平井工業所

幹事 上村福子 (株)上村

幹事 梅田伊三夫 ミナモト電機(株)

幹事 八幡義一 八幡鍍金工業(株)

事務局 宮部圭典 東京都鍍金工業組合

平成17年3月10日 定例総会

会場:めっきセンター 参加者30名

内容:会長にはシルバーメッキ工業(株)の斎藤晴久氏が選任された。



平成17年3月26日~27日

日本鍍金協会(JES)第44回年次大会

会場:第一ホテル東京 参加者30名(十日会)



平成17年4月14日 4月例会

会場:めっきセンター 参加者46名

演題:『新製品紹介』

内容:キザイ(株)

Sn、Ag複合めっき浴「ナノシルバー・ティン」

電解治具剥離液中のスラッジ捕捉用濾過機「スラッジキャッチャー K-R10」

(株)クリタ

環境に配慮した設備と最高の技術水準ですすめる新しいリサイクルシステム 「土壤サイクル(株環境テクノ)」

ユケン工業(株)

業界初のカチオン電着のバレル処理プロセス。クロムを全く

含有しない環境に配慮した新製品。(98%無排水を可能にした)
「完全クロムフリー」



平成17年5月12日 5月例会

会場：めっきセンター 参加者22名

演題：『裁判員制度について』

講師：西尾則雄氏（東京弁護士会裁判員制度センター委員長
弁護士）

内容：2009年5月までに実施される裁判員制度について、
制度が実施される背景、実施方法、及び今後の課題など、解
りやすく説明していただいた。

平成17年5月22日 第60回ゴルフコンペ

場所：太平洋クラブ美野里コース

◎優勝 石川英孝氏

◎2位 内藤喜達氏

◎3位 今泉勇氏



平成17年6月17日（金）～18日（土）工場見学

場所：(株)サーテックカリヤ 小垣江工場（愛知県小垣江市内）

参加者20名

内容：お客様の多様な要求に応えるべく、ラインの工夫、技術の追求、品質保証など、サポートインダストリーとしての役割を十二分に発揮している会社だった。

平成17年6月18日 日本鍍金協会（JES）合同役員会

会場：中日パレス 参加者8名（十日会）

平成17年6月23日 6月例会

会場：めっきセンター 参加者24名

演題：『新製品紹介』

内容：奥野製薬工業(株)

C R P プロセス 「環境を考えた新しい樹脂めっきプロセス」

(株)電測

蛍光X線式膜厚計 Cosmos - 1 X 「小型省スペースタイプ」

過電流式膜厚計 ダーメス DMC - 211 「ノート型パソコン
タイプ」

平成17年7月11日 7月例会

会場：めっきセンター 参加者20名

演題：『めっき業界再編成にともなうM&A』

講師：吉尾雅紀氏（㈱コーポレイトディレクション）

内容：今回の演題である「めっき業界再編成にともなうM&A」

についてお話を伺った。

平成17年8月24日 8月例会 納涼会

会場：「銀座 楼蘭」 東京都中央区銀座4丁目

参加者34名

内容：今年の納涼会は、中央区銀座の真ん中「銀座 楼蘭」にて開催した。台風接近の中、暑さを吹き飛ばし美味しい中華料理を頂きながら、大いに飲み語り“元気な十日会”を実感した。

平成17年9月15日 9月例会

会場：めっきセンター 参加者37名

演題：「中国のめっきの現状と景況について」

講師：竹ヶ原攻氏（内外ハイグラス㈱ 代表取締役）

通訳：桂銀平氏

内容：中国と日本の文化や習慣の違いから、取引の難しさ・駆け引きなど、現在中国に進出されている竹ヶ原氏にお話を伺った。



平成17年10月15日～16日

日本鍍金協会（JES）秋季大会

会場：ホテル葛城（愛媛県） 参加者3名（十日会）

平成17年10月23日 第61回ゴルフコンペ

場所：静ヒルズカントリークラブ

◎優勝 狐塚保之氏

◎2位 山田英佐夫氏

◎3位 繩田敏治氏



平成17年11月10日～13日 11月例会（中国視察）

場所：中国・蘇州、太倉参加者14名

内容：9月例会の講師として講演して頂いた内外ハイグラス

㈱代表取締役・竹ヶ原攻氏のご協力により中国視察を行った。

今回の視察は、機械メーカー やめっき工場6ヶ所を見学することによって、今後我々の技術向上に役立てられる視察となつた。

平成17年12月2日 12月例会 忘年会

会場：「たらふく」両国 参加者37名

内容：昨年に引き続き、十日会の平成17年度忘年会は両国にあるふぐ料理「たらふく」にて開催した。会員の懇親を深めながら楽しいひと時を過ごした。



平成18年1月22日 1月例会 新年会

会場：「L'E S T A S I」六本木 けやき坂通りゲートタワー3F 参加者40名

内容：今年の新年会は、前日に降り積もった大雪で東京は一面の雪景色の中、六本木ヒルズにあるイタリア料理「レスタジ」にて会員、ご夫人や子供たち総勢40名で行われました。店内にはワインセラーや石釜もありパスタ&ピッツァも美味しく頂き、会員も懇親を深めた。



平成18年2月15日 2月例会

会場：めっきセンター 参加者24名

演題：中国視察の報告について

講師：中国視察参加メンバー

内容：11月10日～13日に中国視察を行ったメンバーが、現在の中国のモノづくりについて、PCを使いながら説明していただいた。めっき製品だけでなくめっき槽やバケル装置といった設備まで、様々なめっき関係のものが製造されていて、日本のめっき業もがんばっていかなければならないと感じた。

平成18年度

会活動の回顧

◆ 平成18年度会員の状況

正会員64社 名誉会員1名 相談役1名 特別会員2名 報道4社

◆ 会員の動静

※会期中入会者 0社

※会期中脱会者 3社 (正会員2名、特別会員1名)

(株)アペックスワールド 菊地鍍金工業 日本表面処理工業新聞社

◆ 役員(任期:平成18年4月1日~平成19年3月31日)

会長 太田幸一 太田鍍金工業(株)

副会長 石川英孝 (株)ヒキフネ

幹事会計 柴田徹 (有)扶桑電化上平井工業所

幹事 上村福子 (株)上村

幹事 上原裕司 (有)上原メッキ工業

事務局 宮部圭典 東京都鍍金工業組合

幹事 編集 八幡義一 八幡鍍金工業(株)

幹事 梅田伊三夫 ミナモト電機(株)

幹事 内藤喜達 平和工業(株)

平成18年3月15日 定例総会

会場:めっきセンター 参加者24名

内容:会長には太田鍍金工業(株)の太田幸一氏が選任された。



平成18年3月25日~26日

日本鍍金協会 (JES) 第45回年次大会

会場:名古屋国際ホテル 名古屋市中区

参加者9名(十日会)



平成18年4月20日 4月例会

会場:めっきセンター 参加者31名

演題:『新製品紹介』

内容:谷口ヒーターズ(株)

「液中ヒーターの不安全事故の実態」について

メルテックス(株)

「ノーシアンアルカリ電気銅めっき浴」について

メルカパー CF-2120:ストライク銅用

メルカパー CF-2130:厚付け銅用

平成18年5月14日 第62回ゴルフコンペ

場所:プレステージC.C

- ◎優勝 繩田敏治氏
- ◎2位 二木一郎氏
- ◎3位 石川英孝氏

平成18年5月22日 5月例会

会場：めっきセンター 参加者37名

演題：『環境負荷物質の規制に対抗するめっき技術』

講師：小林道雄氏（㈱ヒキフネ 取締技術部長）

内容：RoHS 指令をはじめとする環境負荷物質に関する規制への今後の対応について、営業戦略的な観点から、技術的な内容にいたるまで解説していただいた。規制に対してポジティブに向き合う会員企業にとっては真に実りある内容となった。



平成18年6月12日 6月例会

会場：めっきセンター 参加者28名

演題：『中小企業 BCP 策定運用指針』の公開趣旨と利用法』

講師：児嶋秀平氏（中小企業庁 経営安定対策室長）

内容：BCP（Business Continuity Plan 緊急時企業存続計画）とは、中小企業が緊急時（地震や火事等）においても、中核となる事業を継続あるいは早期復旧することで、顧客からの信用と従業員の顧客を維持し、企業価値を向上させる計画のことであり、「企業体力の少ない中小企業こそ積極的に取り込むべき」と話された。

平成18年6月24日 日本鍍金協会（JES）合同役員会

会場：大阪なんばワシントンホテルプラザ 大阪市中央区

参加者7名（十日会）



平成18年7月14日 7月例会 工場見学

場所：ニシハラ理工㈱（武藏村山市伊奈平）

京王電化工業㈱（調布市調布ヶ丘）

参加者28名

内容：今回の工場見学では、初めにニシハラ理工㈱の見学をさせていただき、めっき加工としてはフープめっきを主にされていて、表面処理全般にわたる高度な技術開発力を基礎にされたスタッフと加工設備をもって、設計・製造・販売及び技術指導を含めた生産立ち上げのエンジニアリングを行っていた。

又、京王電化工業㈱では、3価オリーブクロメート、3価クロム、クエン酸ニッケル、鉛フリーなどに代表されるように高い技

術開発力と営業力で、環境にやさしいめっきを実現し、業界全体のイメージアップに貢献されていると話された。

平成18年8月24日 8月例会 納涼会

会場：「中国大陸料理 過門香 銀座店」 東京都中央区銀座1丁目 参加者31名

内容：今年の納涼会は、中央区銀座の「過門香」にて開催した。「過門香」とは、門の前を通り過ぎる人々が漂う香りに惹きつけられ、思わず門をくぐってしまう様子を表現している言葉といわれ、その名のとおり四川、広東、上海、それぞれを代表する特級料理師が腕をふるう本格中国料理を堪能し、8月の暑さを吹き飛ばした。



平成18年9月20日 9月例会

会場：めっきセンター 参加者26名

演題：『新会社法と税制改正』について

講師：中村克宏氏（㈱プロジェクト 取締役 税理士）

内容：平成18年5月1日より施行された、旧商法と商法特例法及び有限会社法をひとまとめにして、規制を緩和し、経営の自由度を高めたといわれる新会社法を分かりやすく、また中小企業の経営者の視点で講義していただいた。



平成18年10月21日～22日

日本鍍金協会（JES）秋季大会

工場見学会（㈱太洋工作所 鶴見事業部

秋季大会 参加者14名（十日会）



平成18年11月12日 63回ゴルフコンペ

場所：千代田C.C

◎優勝 太田幸一氏

◎2位 清村進之氏

◎3位 石川英孝氏



平成18年11月13日 11月例会

会場：めっきセンター 参加者26名

演題：『ここまでできたか！クエン酸Niめっき』

講師：土井正氏（地方独立行政法人 東京都産業技術センター

研究開発部 資源環境グループ めっき研究室 主任研究員 工学博士）

内容：クエン酸Niめっきといえば、ホウ素規制に対応した環

境や人体にやさしいというイメージだけが先行してしまっている感があるが、それ以外にもワット（ホウ酸）浴との比較でクエン酸浴の皮膜自体の優れた特性に焦点を絞って講義が進められた。Ni地金の高騰もついに4000円/kgを突破するという異常事態にあるが、意欲ある会員企業が多数集まつた。

平成18年12月13日 12月例会 忘年会

会場：「近江源氏」（新宿区西新宿） 参加者29名

内容：十日会の忘年会は新宿にある「近江源氏」で、しゃぶしゃぶを存分に味わいながら、大いに食べ・飲み・語り合い、親睦を深めた。また、平成18年11月に会員の山田英佐夫氏が「現代の名工」に選ばれ、会長よりお祝いの言葉をいただいた。



平成19年1月28日 1月例会 新年会

会場：「シンポジオン」（渋谷区猿楽町） 参加者34名

内容：旧山手通り沿いの代官山フォーラム地下にあるレストラン&バー「シンポジオン」。優雅で幻想的な雰囲気なお店で、数組がご家族で参加し、太田会長の挨拶で「受身で状況が変わるもの待っているのではなく、自分たちで何とかしなければならない。」と新年の抱負を話していただいた。

来賓の挨拶を東京都鍍金工業組合副理事長八幡順一氏から頂き、菊池元会長の乾杯の発声ではじまり、懇談・ビンゴゲーム等であつという間の二時間半だった。



平成19年2月5日 2月例会

会場：めっきセンター 参加者29名

演題：『中小企業の事業継承問題について』

講師：山口仁氏（中小企業庁）

内容：中小企業庁から講師の山口先生をお招きし、平成18年6月に策定した「事業継承のガイドライン」の資料を使いながら、めっき業社の事業継承についてのお話をいただいた。最後の質疑応答では、各企業に実際にあったケースに基づいての内容などが出され、事業継承についての問題意識が高まった。

平成19年度

会活動の回顧

◆ 平成19年度会員の状況

正会員62社 名誉会員1名 相談役1名 特別会員2名 報道4社

◆ 会員の動静

※会期中入会者 1社 (株)都南ビーピー

※会期中脱会者 0社

◆ 役員(任期:平成18年4月1日~平成19年3月31日)

会長 太田幸一 太田鍍金工業(株)

副会長 石川英孝 (株)ヒキフネ

幹事会計 上原裕司 (有)上原メッキ工業

幹事 内藤喜達 平和工業(株)

事務局 宮部圭典 東京都鍍金工業組合

副会長 柴田徹 (有)扶桑電化上平井工業所

幹事編集 八幡義一 八幡鍍金工業(株)

幹事 梅田伊三夫 ミナモト電機(株)

平成19年3月12日 定例総会

会場:めっきセンター 参加者28名

内容:会長には太田鍍金工業(株)の太田幸一氏が選任された。



平成19年3月25日~26日

日本鍍金協会(JES)第46回年次大会

会場:ホテル京阪ユニバーサル・シティ 3階 エデンの間

参加者15名(十日会)

内容:会長には(有)朝日鍍金工場の遠藤清孝氏が選任された。



平成19年4月9日 4月例会

会場:めっきセンター 参加者35名

演題:『新製品紹介』

内容:(株)中央製作所

「インバーター式 ハイベルトーロ整流器シリーズ」

ユケン工業(株)

「環境対応型ボロンフリー塩化浴 FZ-100」

日本表面処理化学(株)



平成19年4月22日 第64回ゴルフコンペ

場所:若洲ゴルフリンク

●優勝 斎藤晴久氏

◎2位 石川英孝氏

◎3位 遠藤清孝氏



平成19年5月10日 5月例会

会場：めっきセンター 参加者33名

演題：『事業継承の体験談』

講師：八幡順一氏（八幡鍍金工業㈱ 代表取締役）

神谷博行氏（神谷電化工業㈱ 代表取締役）

永田一雄氏（株梅田鍍金工業所 代表取締役）

山田英佐夫氏（株東電工舎 代表取締役）

内容：昨年度の2月例会で中小企業庁の講師の先生に、事業継承を行政の立場から講演していただいた内容を、今回は当事者である代表取締役の立場から講師として諸先輩方を招き、各々の体験談を交えて話していただいた。

参加者の中には数社、親子で参加している企業があり、講師の先輩達の話を真剣に聞き、さらに自分の今の状況を話し、それに対しての意見を活発に交わしていた。どこの企業にとっても深刻な問題であるにも係わらず、相談しにくい話題なので、いい機会になったのではないだろうかと思った。



平成19年6月9日 日本鍍金協会（JES）合同役員会

会場：めっきセンター 参加者13名（十日会）



平成19年6月15日～16日 6月例会 工場見学会

場所：研磨学校 小林工業㈱ 株ダイヤモンド製作所 株佐藤メック 参加者25名

内容：『研磨学校 燕市磨き屋一番館』では、金属加工業の基盤技術である金属研磨業に携わる後継者の育成や、新規開業者の促進・技術の高度化による産地産業の振興及び研磨技術を普及させることを目的とし、燕市が1億7000万円投じ、今年3月から開校した研磨学校を見学させていただいた。

『小林工業㈱』では、ラッキーウッドのブランドで名を馳せる六代続く老舗洋食器メーカーで、なじみのある1000円以下のもので22工程、高級品になると120工程をかけて出来上がる。製造、加工、仕上げまで一貫生産で、日産2万本のスプーンを生産している。

『ダイヤモンド製作所』では、量産型のエレベーターラインから多品種小ロットのキャリアタイプに切り替えるべきさつや、苦労話、他では聞かせてもらえないような貴重な話を聞かせていただいた。



『株佐藤メッキ』では、建築金物の6価の亜鉛めっきのバレルで、工場の隅々まできれいに整理されており、休みの日は社長と奥様二人で回すこともあると話されていた。全体が暇になっている中でこの仕事量を確保してやっていくのが、いかに難しいか改めて考えさせられた。

平成19年7月9日 7月例会

会場：めっきセンター 参加者29名

演題：「節水とリサイクルのための水洗方法」

講師：石原祥江氏（株ハイテクノ）

内容：基本に立ち返り、めっき業界は水を大切にしなければならないが、量を単純に減らすことでのコストダウンや、質を分別することで排水のスラッジがお金に換わるお話、さらには金属の値段の高騰の影響がまだまだある中で、金属回収のノウハウ的のものが盛り込まれる内容まで講義していただいた。



平成19年8月9日 8月例会 納涼会

会場：maison de caviar 『ベルーガ』（渋谷区神宮前）

参加者27名

内容：世界の三大珍味と称される高級食材『キャビア』。日本初そして日本唯一のキャビア専門レストラン「メゾン・ド・キャビア ベルーガ」で納涼会は行われた。親睦を深めつつ、料理を堪能した。最後に歴代会長の神谷氏より三本締めで暑さを吹き飛ばした。



平成19年9月10日 9月例会

会場：めっきセンター 参加者28名

演題：『光による視覚環境の改善と光応用製品』

講師：野田聰志氏（岩崎電気㈱ 光応用営業部 主任）

内容：今後さらに厳しくなる検査の基準。そこで外観の検査などで使用する『光』を題材にして講師をお招きし、亜鉛クロメート、クロムめっき、その他装飾めっきなどの外観検査で多くの企業が使用している光源について、傷や欠陥、歪みなども見やすくなる視覚環境の提案をしていただいた。

例会に2種類の光源をお持ちいただき、普通の蛍光灯では見つけづらい傷やめっき不良など自分の目で確認した。



平成19年10月12日

日本鍍金協会（J E S）第44回秋季大会

第1部 工場見学会 日東亜鉛㈱ (株)三ツ矢



第2部 秋季大会 品川プリンス

第3部 懇親会

参加者30名（十日会）



平成19年11月11日 第65回ゴルフコンペ

場所：紫カントリークラブ

◎優勝 山田亮氏

◎2位 新井嘉喜雄氏

◎3位 山田英佐夫氏



平成19年11月12日 11月例会

会場：めっきセンター 参加者27名

演題：『電力供給の自由化・料金体系・事事故例』

講師：坂口勇氏（日本テクノ㈱保安部第1課）

福山忠司氏（日本テクノ㈱営業部第7課）

内容：点検、監視、工事、保証と他社には無い電力供給の形を持つ日本テクノ株式会社より『電力供給の自由化・料金体系・事事故例』と題し講演をしていただいた。

定期点検はもちろんのこと、私達の大切な電気設備を安全に監視し、機械の故障となる小さな異常も見逃さない24時間のコールセンターや、緊急工事また波及事故時の保証として最高で500万円（条件付で）まで支払うなど、サービスも充実。また、事事故例など詳しく説明がなされ会員企業一同、電気設備についていろいろなことを再認識した。最後の質疑応答では、実際におきた事故や保証条件、責任問題について厳しい意見・質問も出るなど、電力エネルギーをテーマに活発な意見交換が行われた。



平成19年12月14日 12月例会 忘年会

会場：天ぷら割烹「金泉」（台東区浅草） 参加者31名

内容：太田会長から「今年は様々な出来事があり、悲しい事、嬉しい事、また、日本鍍金協会の担当で忙しい日々の一年でした。さらに来年は十日会の60周年を迎える年となるので、遠藤実行委員長のもと、齊藤編集委員長と役員一同で頑張って動いてまいりますので、皆様に何かとお願いすることが多くなると思いますが、ご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。」と挨拶があり、十日会60周年遠藤実行委員長より「60周年を迎え、十日会ここにありとアピールをして行きたい。」と話され、会員一同、おいしい料理を堪能しながら、来年に向けて英気を養い、親睦を深めた。

平成20年1月27日 1月例会 新年会

会場：銀座シリアル（中央区銀座） 参加者54名

内容：ノスタルジックな雰囲気の「銀座シリアル」にて開催された。ここ数年では最多参加の50人（会員のご家族も含む）を越え、にぎやかな新年会となった。御来賓の姫野理事長にご祝辞を頂き、会員各位あらためて「めっき業界を強い業界へと」士気を高めた。ゲームでは、受付時に配布した番号札を会員の家族が引き賞品をお持ち帰りされるなど和やかに進み、宴たけなわの中、中締めを神谷先輩より三本で締め、今年の飛躍をするための一歩を踏み出した。



平成20年2月4日 2月例会

会場：めっきセンター 参加者31名

演題：『下請事業者にとっての下請法のメリットと運用について』

講師：保住正保氏（公正取引委員会 取引部企業取引課長）

内容：平成19年度、最後の例会は、いわゆる『下請法』。独占禁止法に比較してより簡易な手続きで、迅速かつ効果的下請け業者を保護することが可能な優越的地位の濫用規制に関する特別法で、下請取引の公正化、下請事業者の利益保護を目的としている。公正取引委員会より講師の先生をお招きしご講演頂き、質疑応答などの時間も設け、下請法の理解を深めた。



十日会の歴史を作った男たち 2

ほとばしる情熱に溢れ、
めつきにこだわり続けた
男たちの言葉である。

PART5 福井通祐

「出てくる出てくる、水道のように美しい緑の液が出てくる」

ほしくてほしくて夢にまでみたろ過機、試行錯誤の末、完成したろ過機から出てきた液を見て

※福井通祐……昭和41、42年十日会会长

PART6 坂手勇

「我々は十日会の会員である以前に組合員である」

“十日会は組合と別派行動をとる”と異端的な見方もされていたころ。
この後、東京鍍金会館を売却しその全額を組合に寄贈する。

※坂手勇……昭和38年十日会会长

PART7 井上喜夫

「めつきは天職である。
めつき以外のことを考えてはならない」

ある会員の“これからはめつき以外の仕事も選択肢のひとつとして考えてもいいのではないか”という意見をうけて

※井上喜夫……昭和39年十日会会长

PART8 後藤哲夫

「私にとって十日会は鍍金の技術や工場見学を学んだり見学したりするために入会したのではなく、真の目的は人生に於ける得難い友人と強い友情によって鎖のような連帯感を持てたことに大きな意義を感じるのである」

十日会30周年迎えての思い出の言葉から

※後藤哲夫……十日会設立時から会員として活躍

今後の 十日会

著名人対談
「環境問題はなぜウソがまかり通るのか」
の著者 武田邦彦氏との対談
～めつきの社会貢献と環境問題～

歴代会長から現役員へ
(語り継ぎたいこと)

コラム
(JES ご当地の美味しい食べ物&美味しいスイーツ)

コラム(湯島の丘の赤い屋根)



著名人対談

「環境問題はなぜウソがまかり通るのか」の著者 武田邦彦氏との対談

～めっきの社会貢献と環境問題～

環境問題は錦の御旗。この言葉を聞かない日はない。環境に悪いと言われば、当然のように従う。そんな今、地球温暖化、ダイオキシン、紙やペットボトルのリサイクル等に異論を唱える「環境問題はなぜウソがまかり通るのか」という本がベストセラーになっている。紙のリサイクルでは偽装が発覚し、ペットボトルリサイクルでは地域によって回収をやめている。この本の著者武田邦彦氏との対談で、今後のめっき業界に新たな考え方や行動が生まれるか。十日会現会長石川英孝、60周年実行委員長遠藤清孝の両氏が問う。

環境問題に対する関心

司会 先生の書かれた「環境問題はなぜウソがまかり通るのか」は50万部に達するベストセラーとなっていますが、先生がこの本を執筆されるきっかけは何だったか、また、この様にベストセラーとなった事についてどのような感想を持たれていますか？

武田 環境問題というのは「錦の御旗」みたいなもので、環境と言えばどのような不合理な事でも通ると言う風潮が1990年頃から始まりました。大体、世界的には環境の問題が重要であると分かってきたのは1960年代ですから、環境問題の歴史的には浅いので、必ずしも何もかもに分かっているわけではないのです。でも大変社会的な勢いがあって、それで強い関

心事になったのですね。1990年代から、リサイクルとかダイオキシン、重金属汚染だと温暖化が取り上げられてきたのだけれど、情報は一方的で、間違が多い。うすうす皆さんも感じてはいるのだけれど、それをどう打開して良いか必ずしもはっきりしていないという状態でした。これではだめじゃないかと何かしなければと思っていました。

直接的な動機としては、一昨年の夏、本を出す8ヶ月前その当時名古屋大学にいたのですが、名古屋大学を20年ほど前に卒業した40才くらいの卒業生が、来て、比較的大きなところに勤めておられました。彼は「会社でリサイクルの仕事をしているのだけれど、しかしその「リサイクル」は建前で物が入荷すると全部焼いている。これでは、何のために自分は工学部で

武田邦彦

昭和18年(1943)6月3日、東京都生まれ。東京大学教養学部基礎科学科卒業。昭和41年旭化成工業㈱に入社、同社ウラン濃縮研究所長、平成5年より芝浦工業大学工学部教授、平成14年に名古屋大学教授を経て、平成19年より中部大学総合工学研究所 教授(副所長)となる。専門は資源材料工学。

著書(共著を含む)に:「環境問題はなぜウソがまかり通るのか」(洋泉社、2007)、「食糧がなくなる!本当に危ない環境問題」(朝日新聞出版、2008)、「間違いだらけのエコ生活」(主婦と生活、2008)、「偽善エコロジー」(幻冬舎、2008)、「バイオ燃料で、パンが消える」(PHP、2008)など多数。

**遠藤清孝**

昭和29年8月12日、東京都生まれ。昭和58年10月会入会。第19代十日会会長。葉品商社、化学機器商社を経て、昭和58年(角川)朝日鍛金工場に入社。平成2年にジェトロのODA技術支援でインドにめっき技術指導員として派遣される。豊富な技術と経験から様々なアイデアを生み出し、今回の対談の発案者である。環境問題は新聞やテレビの報道を鵜呑みにするところがあるが、武田先生の本に接し環境問題に疑問を抱くようになった。業績が良くなったら、会社の「環境」を良くしていこうと思っているものだから一向に良くならない。

**石川英孝**

昭和42年5月14日、東京都生まれ。平成8年㈱ヒキネに入社。第23代十日会会長。今期より会長に就任し、会の活性化に奮闘中。新規会員獲得を今期の目標のひとつに掲げ、十日会のすばらしさをアピール。環境については、社内でもISO14000の取得をきっかけに、各エネルギーの削減に取り組む。地域住民とのコミュニケーションも図り、地域共生環境経営を目指す。今回の対談では環境問題のどんなところに「ウソ」があるのかを理解し、間違った認識を改めたいと臨む。また、めっきは「究極の省資源産業」であるをボリシートに、めっきのすばらしさを特に若い人たちに広めたいと願う。



勉強したのか分からない、この様なウソを長く続けてはいられない」と相談にきたのです。

私もこの様なことはかなり知っていました。そして知っていて言わないと若い人が苦労するのを目の前に見て、若い人が苦しむくらいなら少し自分が非難されても良いと思い、それで本を書きました。もっとも「リサイクルしてはいけない」と言う本を最初に書いたのは2000年です。

遠藤 ずいぶん前ですね。

武田 そのころは、まあその様なことも言っている先生もいるという扱いでしたし、誰もがペットボトルリサイクルだと紙のリサイクルはやるべきだと固まっていた時代でしたね。それでも10万冊近くは売れたのですが。今度は、若い人からの反響が強いということが特徴的でしたね。中学生、高校生、大学生の人が支持をしてくれる。幅が広がったと言うのが50万部もいった一つの理由ではないかなと思います。もう一つは、リサイクルが始まって10年位経つので、おかしなと皆さんがうすうす感じてきた。ということになるのでしょうかね。

司会 最近、自治体によっては原油高騰を理由にベッ

トボトルの回収をやめているところもあります。今後この様な動きが進んでいくとお考えでしょうか?

武田 先ほどもお話ししましたように環境問題というのは歴史が浅いので、未成熟な形で動いています。温暖化なんかもそうです。今後は少し冷静に考えた環境問題となっていくのでしょうね。

石川 私も中央区に住んでいるのですが、やはり分別が変わってペットボトルも燃えるごみというくくりになっています。それもやはり先生の言われてきたような再利用するのに資源を使うより、燃やす方が良いのではないかという考えが出てきたのでしょうか?

武田 理論的にもそうですね。リサイクルしてはいけないという本を出したときは、リサイクルはまだ実施されていませんでしたから、理論的に考えればこうだと言ったにすぎないのですが。例えばペットボトルですと、全国平均で分別回収するのに400円/Kg掛かっていてそれを40円で売り、40円で売れるから儲かってリサイクルは正常になったと言っているわけです。それで、あの400円は税金だからタダだと言うわけですね。私は400円で仕入れた物を40円で売るというのは360円の損と計算するけれど、お役所はこ

れをなんで40円の得なのですかと冷やかすんですね。そういう事実も出てきたので、リサイクルをこのまま長く続けるというのも難しいと思いますね。

学問の自由

司会 先生の本が50万部近い販売となっていて、読まれている層が広がったと言われましたが、逆に専門の方々の意識には何か変化があったのでしょうか？

武田 専門家はね、難しい問題があるんですよ。例えばダイオキシンは猛毒だと思っている専門家は殆どない。分かっている専門家が声を上げられない理由は、国から研究費の出るシステムによるのです。私も40才だったらこの本は書けないかも知れません。書いたら研究費なくなっちゃう。そのシステムが問題ですね。私は環境省や通産省に言ってきたのですが、地球温暖化と言っても温暖化が怖いという研究費に8割出すのであっても良いが、2割は・・・本当は国が一番栄えるのは5対5なんですが・・・自由にやらせることができ、国が一番栄える。方向性を国が付けたら失敗する。それで昔から学問の自由というのがあるのですが。だけど今10対0なんですよ。温暖化は怖くないとかリサイクルしない方が良いとか、ダイオキシンは無毒だという方に2割くらいは研究費を出した方が良いんじゃないかと、その方が日本の国として良いのではないかと思います。例えばめっきの亜鉛でも、亜鉛が毒物であると言う人はあまりないと思うけど、毒物だという人とそうではないという人と両方いなければわからぬ。そして、結果的には事実が分からなければ失敗するわけですから。

地球温暖化とメディア

遠藤 温暖化による海面上昇についてお話をいただけますか？

武田 社会に幻想が発生すると日本の様な科学立国でも変なことが起きる。一つは北極の氷ですが、北極は殆どが海水、つまり海に浮かんだ氷ですね。水は凍るときに体積が増えますからね、そのふくれた部分が海面から出ている。融ければ海面に出ている部分がなくなる。凍ればまた出る。まったく海水面には影響が無いのですね。南極はもちろん温暖化すれば（南極の

温度は-50℃である）海水の温度が上がるから、水蒸氣があがって雪が増えます。南極の氷は雪から出来たのですから雪が増えて南極の氷が増える。つまり、「温暖化すると南極の氷は増える」というのが本当で、IPCCにも書いてある。IPCCという正式な機関が北極の氷は凍っても融けても海平面は変わらない、南極の氷は温暖化すると増えると書いてあるにもかかわらず、日本語に訳すとき逆に訳す。もともと南極では中心部で雪が氷になって誕生し、その氷が氷河になって大陸の端に移動して、そこで融ける。大陸の端の氷は、地球が温暖化してようと寒冷化してようと、それには関係なく融けている。でも、こんなに簡単なことに、殆どテレビの映像を見て引っかかる。

やっぱりお役所もウソをつかないとか、科学技術立国なのだから科学者はどうしているのだとかいう問題はあるけど、もう少し国民も考えなければならない。紙のリサイクルもそうです。製紙会社は自分の仕事の原料になる森を壊しますか？普通は壊さないですよ。そのぐらいは国民も考えなければならない。もし疑問なら「製紙会社は自分たちの林を壊すことをするですか」と質問すれば良いのです。当たり前のことを質問できる社会、といえ日本は言論の自由があるわけです。質問できない雰囲気が問題です。めっき業界もなにか言おうものなら「お前達は規制逃れするつもりか」と言われる。それがいけない。日本の為にならない。私は、三年ぐらい前に山口県の高分子学会の年次大会があった時、塩ビは環境を破壊しないと言う招待講演をした。それを企画したのは高分子学会で、それは初めてだと思う。それまでは逃げ回っていたが、正面から塩ビは環境を破壊しないという講演をやり、私が説明した。それから私がダイオキシン問題で会場からものすごい反撃を受けたのは四年位前だった。でも一昨年、あの本が出る一年くらい前からはもう感情的な反撃は無かった。今はもうダイオキシンに毒性は無いですよと言ったって誰も感情的にならない。だからかなり世の中変わってきた。合理的にはなってきています。

環境問題とビジネス

司会 環境がビジネスとなっている様ですが、そのことについてはどのようにお考えでしょうか。

武田 色々考え方があるので、私は効率的なビジネス若しくは国際的に競争力のあるビジネスは、同時に環境には良いと思っています。効率が良いということは、結局は同じ製品を作るのにエネルギーが少ないし、物質も人手も少ない。それから更に色々な毒物とか管理物質を排出するような産業では、生産物に対する社会の汚染を含めて効率的なビジネスが結局の所、環境に良いのですね。ですから環境とビジネスはイコールだというのが私の考えで、コストが安くなるという事と、環境に良いということは比例していると思う。もしそうではない状態が起こったら、それは社会システムか規則か何かが間違っている。若しくは短期的に需給関係が混乱するなどの特別なときにその様なことになる場合がある。

それに対し、いわゆる環境ビジネスというものはまったく違って、不効率なビジネスを補助金とか税金という形でするということですからこれは不健全ですね。この様なことを多くするというのは、日本の発展も止めるし環境も必ずしも良くするわけではない。それで環境を汚してきた典型的なものはリサイクルビジネスです。これは環境を汚してきている。紙のリサイクルは典型的ですが、紙の偽装が分かること実は新しい紙を作るには紙1トン当たり366Kgの炭素（石油の量を炭素で表現）を使うのだけれども、リサイクルには712Kg使ったと発表されましたが、リサイクルを実施する前に言わなくてはいけないです。ですから環境ビジネスは、非常に曲がった形で現在の日本に存在すると思います。

思想信条と社会システム

武田 私の考えでは、「もったいない」と言うのは、これは思想信条の問題ですね。極端に言えばイエスキリストを信じますかというのと同じように、その人個人が持っている価値観の問題であって、社会システムの問題とはちょっと違うのですね。ところが、放送局を中心として、新聞社もそうですが、正義を唱えるある一定の傾向があって、それでその「もったいない」という本来ならば人の心の中にある思想、信条の自由のようなそういう領域にも社会システムとして持ち込んだわけですね。こここの所が非常に歪んだ原因です。ですから政治家も、みんなが思想信条で動いてしまった



から、そちらに動かざるをえなくなった。目の前にあるペットボトルを大事に使いましょうと、社会システムとしてペットボトルのリサイクルは成立するかどうかというのは違う訳ですね。「もったいない」という信条は大切です。特に家庭では大切ですが、それが社会システムとして成立するのかというとそれは全然次元の違う話だということです。

石川 例えば、私が子供の時なんかには、よく父に部屋にいないときには直ぐ電気消すようにと言われましたし、今も会社では、ISOとかを取り上げながら色々な削減をする。ただそれが本当に環境にとって良いのか、それともコストの削減なのかというところが、どちらが前面なのか混同している部分が私の中にあるような気がします。

めっき業界の印象

石川 我々はめっきという仕事をしているわけですが、先生にはめっきというのはどのようなイメージでとらえられていますか？

武田 僕は、めっきは世の中の腐食とか表面を保護して材料を長く使ったり、あるいはきれいに見せたりという重要な産業上の貢献をしていると思います。ですが、付け加えて言うならば、めっき工業会とかめっき業界から、自分の産業の価値を積極的にアナウンスする話は聞こえてこない。

一同 ほう

武田 めっき業界は、環境を汚しているというアナウンスは聞こえてくる。何故かというと工業会のホームページを見ると私達は環境を守っていますと、危険なめっき廃液はこう処理していますと最初に来るんですね。あれは最初ではいけないことです。最初には貢献が来ないと。めっき工業会の人は、社会貢献は当たり前じゃないかと思っているので、あのようなホームページ

ジになるのでしょうか。

この前新日鉄に行きました。鉄鋼業界でもこの頃CO₂削減を政府から迫られたのです。それでやっと今までのものを変えて鉄鋼業界の貢献というものを出しました。今まで鉄鋼業界の貢献というのは出してなかつた。それだけ商売が甘かった。要するに売っていれば良いと、それで防御してれば良い。自分たちが社会に貢献していることは言わなくても良い。そういうスタンスだった。それじゃまずいと、何でまずいかというと政府からばんばんCO₂で攻められて、それで反撃しました。鉄鋼業はCO₂出しているって言つたってこんなに貢献しているんだと、貢献の方を先に出すようにした。だから鉄鋼業界環境部は、非常に大きく変わりましたね。「めっき工業会というのはダーティである」という一般の意見に対抗するのに忙しくて、それでうっかり社会貢献のような前進的な事を言ってないという印象です。

遠藤 そうですか。ただ現実的には、われわれ中小零細めっき業者の歴史はですね、昭和40年代の半ばから公害問題というのが起こりまして、それまでは垂れ流しみたいな形でやっていたわけですが、公害問題では一番矢面に立たされた業種です。それでその当時みんな知識もなくて、ただ講習会へ行ったりあるいは色々勉強しながら施設をいれて廃水処理に取り組んできて、その間も規制値の強化が何回か有りましたね。その度に対応てきて我々今日に至っているのですけれども、日本のどの業種よりも我々めっき業者はですね、一番この環境問題に対しては真剣に誠実に取り組んできた業種だと自負しているんですが、社会貢献についてはあまり伝わって無いわけですね。

規制を設けること

司会 先生が書かれた本の中で私達に身近な話題では、「ある時誰かが亜鉛を毒物にしたいと思い。ヒラタカゲ

ロウという昆虫を例に出し亜鉛は毒物だと騒いだ」というお話があるのですが、亜鉛の規制が5 ppmから2 ppmとなり問題となっています。この様な規制をするについてどのように思われますか？

武田 私がズバリ言えば、環境をどう守って良いかという基本方針がないのですよ。私は原子力安全委員会の専門委員で、原子力の放射線規制とかしているのです。基準作りですね。その放射線のように非常に単純で歴史もある、大体人間に対してどれくらいかと分かれているものでもね、十分な議論が出来ない。学問として分かっていない。規制したら良いかどうかも分かっていない。分かっていないのを一方的に規制すると環境が壊れるわけですね。歴史的にはまず規制をして、そしてある問題が起きたら今度はバックするということが繰り返されると思うのです。その具体的なものが、コバルト事件というのがカナダのケベック州であったのですが、ビール瓶のリサイクルをする瓶です。このビール瓶の中というのは汚れが取れないもので、コバルト洗浄剤というものを使っていた。水を使って洗うが少し残るのです。そしたらある時、多くの心臓の病気の変死者が出た。何故かと調べたらアルコール中毒患者にある一定量のコバルトを超えると心臓が停止するということが分かった。そこでカナダのケベック州は急に止めたわけですよ。それでコバルト規制を掛けた。そしたら次何が起つたか。今度は重症の貧血患者がいっぱい出た。それで何だと調べたらコバルト不足でした。最初に死んだ人たちは、アルコール中毒患者のコバルトが若干多い。その時には健全な市民は被害を受けなかった。ところがコバルト規制をすることで一般市民が被害を受けてしまった。それで慌てて今度はゆるめるということになったのですね。もちろんコバルトというのは造血作用として重要だから、人間に必要なのです。机上で考えてしかもほとんどデータがないような物を規制した事による失敗例は世の中



いっぱいある。学会でも分かっていないのだから、どうしてもやらなければならなかつたら暫定的に何かの基準を決めて、それで周辺住民とかに傷害が出ないとかいう健康診断を繰り返すというようなことで、分からぬ基準をいきなり決めて、それでやるというのはかえつて危険で、安全サイドではない。

遠藤 我々はシアンでもクロームでも規制を受けながら処理をして流しているわけですよ。それで都内ですと殆ど下水道処理場へ行き、規制値をもちろん守って流している訳ですけど、下水処理場の基準値と我々の基準値が一緒なんですよ。亜鉛が今2ppmになりましたが、もちろん2以下で流して、下水処理場もやはり2で流さなくてはいけない。ただ現実として、我々は2クリアするのに大変な思いをして処理している訳ですよ。もともと下水処理場では遙かに低い状態です。5から2にする必要があったのか。それで我々が規制を受けてどんどん厳しくなっている。

武田 これはめっき業界ばかりでなくて、例えば電機業界なんかでもそうですし、色々なところが皆そうです。それらに対しきちんとした議論がされないというのは、最大の問題でしょうね。

農業の失敗とめつき業界

石川 今後この十日会も60年になるということは2世又その次の世代にちょうど変わっていくわけですけれど、そういう人たちが今環境問題という中で我々も特に水質に関すること、土壤に関すること、色々取り上げられて、何か続けていくのが困難だなと思われるようでは、我々本来のビジネスに目が向かないですから、そう言うことをいかに、法律はもちろん守らなくてはいけないでけれども、法律に妥当性があつて正しいなと思えるようなものであるために、これから先我々どう言うふうに働きかけいけば良いのかなと言うことになるのですが、何かそういうことに対して先生のほうから良いアドバイスは無いでしょうか？

武田 一番大きな日本の失敗は農業です。農業で農薬問題が1970年に出てくるのです。農薬問題が出てきても今までJAは、あんな大きな組織なのに手をこまねいていた。防戦だけ。その中でどんどん農業は魅力を失ってそして今65才以上が50%と世界各国でも珍し

い状態になってしまった。何でそんな状態になってしまったかというと魅力がないからです。では何でフランスとかイギリスとかは、30代の人が殆どかというと農業に魅力があるからですね。どうしてかというと農薬規制とかは、過酷にしないわけです。大体どこの人だって過酷にしたらその職業いやになっちゃいますからね。それじゃ農業で農薬はダメというと、夜中に起きて虫取ることになる。そんなことやりたくない。つまり農業は若い人に魅力無い。じゃ本当に農薬というのは人体に影響を及ぼしたのかというと、私の本にも書きましたが影響を及ぼしていないわけですよ。もし農業側が反撃できれば規制は妥当なところに落ち着くのです。無農薬なんてどこに落ち着くのではなくて、妥当なところに落ち着く。その妥当なところに落ち着く活動が日本は欠けている。

最近、私が名古屋大学を終わるときの最後の2年に、ある工業会が、全く今問題になっていない物質の危険性の調査を頼んできた。こう言う状態で世論が悪口を言い始めたら業界としてはきちっと言える事を準備しておくと言われたのです。それは大変結構だ、今まで業界は逃げようとしてきた。問題が起きたら対応しようとしていたのに、先手を打つのです。やっとそんな業界が出てきたという感じがしました。長期的にはめっき業界も、ある程度その学者の先生とかと當時つき合いをもってまともな意見が出てくるような素地を作つておくのは大事でしょうね。

土壤汚染法に対する考え方

遠藤 あと業界で環境の関心事は、土壤汚染ですよ。数年前に土壤汚染法が施行されましたね。それこそ昔のめっき屋はですね、土間でタンク並べてゴム前掛けして、じゃばじゃばやっていたんですよ。当然地下浸透して汚染はされていると思うのですが、汚染というのはその頃ですよ。この頃めっき工場というのは、コンクリートをFRPというプラスチック材で覆って土壤汚染というのはまず考えられないわけです。昔はそれが違反行為じゃなかったわけですよ。適法だった。数年前急にそれが出来まして。業界で言っているのは、交通違反に例えて、「この道は今日から一方通行ですよ。」「じゃ一方通行ならこれから気を付けます。」「で

もあなたは、昨日も走っていたし、実は先週の木曜日も走っていたので罰金です。」「だって今日からでしょう」と。要するに、我々にはちょっと納得のいかない法律で過去にさかのぼる。で今本当に辞めたくても辞められない様な、色々困ったことが起きています。

武田 この土壤汚染の問題はかつて規制がなかったというのではなく、別に量が少なかったり、社会に人口が少なかったりすれば問題にならなかった。若しくは国民や国会が問題にしなかった。だんだんある意味で規制をしなきゃいけないとなってきた。その時、過去に対して規制をかける。自分の家の下にある土をどけなさいと言うのであれば、それは国家がやらなくてはいけない。それをして後で「これから規制を守りなさいね」と言う。正当な事は法律家とかの助けをえてしっかりと反論していく必要があります。でもそれをするには一にも二にもめっき業界が社会に貢献してきて必要であるというイメージが必要です。そしたら世間もそりやそりだなと思います。今のところ、めっきなんか知らない、何をやっているのかよく分からない。何か汚い物扱っているのではないかと思っている。その様なイメージだとなかなか賛成者を得るのが難しい。でも、そう言うイメージはめっき業界が自ら作っていると厳しく考えた方がよい。社会貢献をもっともっと表面に出さないとダメです。

めっきはエコ産業

石川 私は、めっきは一つの社会貢献となると思うのですが、いかに薄い金属被膜で、ある物を覆って、その無垢の物と近い特性、あるいは近い見た目を表現できる技術であると。金属資源も有限です。金もこのまま使い続ければ23年で枯渇すると言われています。金を例にとると、無垢で作るともちろん値段も高くて手が出ない。それに輪を掛けて資源も使う。めっきは同じような物をごく僅かな金属で表現できる。これは究極の省資源産業だと、その意味で大きな社会貢献をしていると思うのですが。どのように省資源とエコの関係を説明すれば分かるでしょうか。

武田 環境というのは大きく言えば資源とそれから有害物質と二つですからね。ですから資源をいかに節約して、有害物質の量を人間に影響の無い範囲に納めるか、と

この二つです。その意味では、「めっき産業はエコ産業」だという事をはっきり打ち出すということはまず必要でしょうね。今多くの企業がエコとか言っているが、めっき業界は一番最初からエコをやっている。そのような打ち出し方を積極的にやるっていうのは大変必要だと思う。農協が失敗したというのは、そうは言ってもやっぱり農業は必要だとある意味では傲慢な気持ちがあった。農業は必要だ、どうせ皆食べなきゃならないのだから。無農薬とか騒いでいるが、ほっときゃ良いと思っているうちに、だんだんやられてきて、もう若い人がこなくなつた。ですから内部のその意識も必要でしょうね。常に社会に対して発信しなければいけない。

モノ作りの誠実

武田 日本人の誠、これは非常に重要なと言っています。要するにペットボトルリサイクルでいけないのは、二つあります。一つは、モノ作りは自分の作った物にプライドを持たなければいけない。ペットボトルみたいに飲んだら捨てなさいなんて言うことは、売り上げは増えるけど、自分の作った物は大切にして下さいと言うスタンスが無いと、製造業というのは駄目になってしまいます。もう一つは、ペットボトルをリサイクルすると決めたらやらなくてはいけない。発展の中核は誠実な魂がないと中核をなさない。個別の会社は苦しかったりするから誤魔化さざるを得ないかも知れないが、工業会とか、政府とか自治体とかの団体は、やっぱり誠実さが無いと保つていけないのではないかと思います。団体がダーティだと駄目なんですね。

資源・物の使い方

武田 私が何時も言っているのは、「物」を大切にしろと言いますが、「物」は人間の為にあるのだから、どんどん使い捨てて良いんです。節約しても意味がない。ただおそらくはどんどんものを捨ててもその人の幸福にはならない。その人の幸福を追求していくと自然とその人の物が減ると言うことです。私の「愛用品の5原則」というのは、国語の教科書に出てるわけですが、耐久品を使おうと言っているのではないのです。私の文章を読んだ人は、物を大切に使おうと言っていると答える。受

験問題の模範解答でもそうなっている。でも、私は、愛用品つまり愛する物に包まれた生活をおくれば結果的に長く使うので物が減ると言っているのです。心を大切にすればその結果として物が減ると言っているのです。順序が違うんです。決して人間は物に注目してはいけない。物をうんと使うのも間違い。節約するのも間違い。正しいのは自分の心を満足させるために自分の人生が幸福になるために、ものを使うわけです。

もう一つ、工業会の方なので言っておきます。宇部市に渡辺祐策さんという方が江戸時代に生まれ、明治の始め小学校に入ったけど両親が死んでしまった。そこで師範にいきずに働いた。その人が宇部の沖ノ山炭坑というのを発見したんですね。それで石炭を掘って非常に裕福になって大金持ちになるし、商工会議所の会頭にもなる。立身出世の人です。その人が偉かったのは、「節約は何も生まない」と言うのです。江戸時代生まれの人ですよ。石炭は有限だ。有限な物を節約してもダメだ。宇部の石炭が50年持つとすると、節約しても55年になるだけだ。50年を55年にしても子孫には関係ない。ということは石炭を節約することではなくて、石炭がある内にどんどん使って、新しく自分たちが子孫にプレゼントできる物を残そうじゃないか。そう言ったのです。そしてその投資の成果が宇部興産です。つまり石炭の富を飲んだり食べたりしなかった。節約もせずに、技術に投資した。それで出来たのが宇部興産。それで宇部興産が出来ると今度100年くらい保ちますから、宇部の町は40年は石炭で栄えた。その後60年は化学工業で栄えた。石炭がとれたところで、節約したところは全部駄目だった。北海道の夕張などがその例ですが、節約するとじり貧になるので、補助金を貰うことになり、延命して終わりです。

でも、宇部興産も長くはない。だから渡辺さんの意志を継いで、宇部興産の縮小とか節約をするのではなくて、今のうちに大きな工業の富を利用して、次の物を作ろうと一生懸命ですよ。節約は一人の人の思想信条としては必要だけど、社会システムとしては駄目だ。節約で次世代が開かれる事なんか無いですよ。めっき業界もそのところを考えて次世代を切り開いていく。節約は、暗くなつて、人の心がシュリンクする。めっ

き業界もこれを境にシュリンクは止めよう。社長さんは赤字と言っては駄目。市長さんは赤字といっては駄目。そうすれば、これをやってみようか、あれをやってみようかと気持ちが生まれてくるでしょう。人間の知恵というのはそのようなものだ。

司会 本日は貴重なお話を伺う事ができました。有り難うございました。

◎対談後記

今回の対談は、まさに今我々の業界で、いや全世界で一番の関心と興味のある話題、「環境」を取り上げ、執筆やメディアで「環境」をテーマに活躍されている武田先生をお招きしての運びとなりました。その中で将来に向けての2つのキーワードを得ることが出来ました。

ひとつは「社会貢献」。先生曰く「めっき業界から社会貢献についてのアナウンスが何も聞こえてこない。逆に環境を汚しているようなイメージを持たれてしまっているのではないか。」との事。我々が意図していることが、きちんと伝わっていないと言う事のショックと甘さを痛感しました。と、同時に一般消費者に対するめっきの「社会貢献性」をいかに「直」に伝えることが出来るのかを考えいくことが重要と考えました。

もうひとつは「発想と知恵」。これまた逆説的な発想の話でしたが「節約からは何も生まれてこない。有限資源ほど、どんどん使いそこで得た富を技術開発につぎ込み、新たな産業や展開を生むための心を養う。区長や市長や会社の社長は「赤字」といっては駄目。そしたら未来は開ける」という事。

いずれにしても、我々はめっきという仕事で社会に貢献し、これから未来に向けて経営者や後継者が明るい環境でやりがいを持っていけば、業界が発展していくと思いました。

今回の「環境」をテーマにした対談から「社会貢献」と「発想と知恵」について我々ひとり一人が考え、それを十日会で「討論する、司会する、協力する」、会としての貢献も出来たらと思いました。

記：石川 英孝



歴代会長から現役員へ

「語り継ぎたいこと」

十日会は今後どのような団体であり続けるべきか

今 回座談会の会場となる小石川後楽園潤徳亭、昭和23年の十日会第1回会合の会場である。会員にとっては特別な思い入れのある場所でもある。そこに歴代会長と現役員が集まり、先輩達から後輩へ語り継ぎたいことと題して二つのテーマについて話し合い、今後の会の運営を考えていく。



「今後どのような団体で
あり続けるべきか？」

KEY WORD

人間形成の場
融和な会

融和な会でコミュニケーションが取れることが有意義だと思います。例えば、全鍍連で、JESの人脈に色々と助けられています。そんなところが十日会や日本鍍金協会の長い歴史に蓄積された大きな財産だと思います。会をどうしろとか、どうあるべきかということは基本的には言う必要がなく、そういうことを自分達で学ぶ場として活用されてはどうでしょうか。最終的には人間形成の場になればいいとも思っています。

八幡順一（第11代会長）

KEY WORD

温故知新

歴代の編集委員達が、身を粉にして完成させた、赤本、緑本、黄本、青本。それぞれの立派な記念誌をたまには回顧してはどうだろう。60年という長い間、その時その時の時代の変遷を乗り越え、培われた偉大な資産を、充分に活用されて益々発展して頂きたい。

菊池忠男（第15代会長）

KEY WORD

技術追求型の集団

発足当時、お釈迦の会と銘して集まつた大先輩方の思いは、戦後の復興と日本産業発展への使命感で満ちあふれていたものと推測される。60年の間曲折はあったものの、今後も十日会にあっては技術追求型の集団であり続けるべきだと思う。

石川雅一（第16代会長）

KEY WORD

人脈作り・情報交換の場 出られる自分

昔の技術研究団体としての機能は今は薬品メーカーさんも色々とやってくれるのだからそちらに任せて、人脈作りや情報交換の場としての役割に力を入れるべきだと思う。メリット・デメリットは出ないと無い訳なのだから、私個人は、参加することを目的にして、「出られる自分」にしておくように常に心掛けています。

永田一雄（第13代会長）



めっき専業者以外との 緊密な関係

会員企業の中に薬品メーカーや設備メーカーがいます。難しいでしょうが、原点に戻ってテーマを決め、彼らとの緊密な関係を構築してはどうでしょうか。専業者は色々な提案をし、モニターになることで、メーカーはニーズとデータを手に入れ、この関係から、十日会独自の発想を色々出して行くことはできないでしょうか。

神谷博行(第14代会長)



任意団体

基本的に我々は任意団体であるから、例えば親団体があつてその団体の路線を見ながら動く必要がありません。形にとらわれずに、やっていくということが長い目で見ると会の発展になると思います。また我々会長経験者は現役員が何をやっても応援していく姿勢を置いていくというのが必要です。みんながやろうと言つてやっているんだから、正しい答えを求めるとか、そんなことを考えないでいいんじゃないでしょうか。

山田 英佐夫(第17代会長)



刺激し合える人間関係

最近設備を入れたが、常に前向きな経営を考えている、会のメンバーはみんな頑張っているから自分も負けていられないという気持ちにさせてくれる。お互いにいい意味で刺激しあえる会であつてほしい。また、「協力」や「応援」ということに関しては、私もいろいろな所で物凄く助けられた。こういう人間関係は十日会でなければ味わえない。

遠藤清孝(第19代会長)



2008年6月24日 小石川後楽園

「涵徳亭」かんとくてい

● テーマ1 「今後どのような団体であり続けるべきか?」

人とふれあう KEY WORD 修練の場として

私が会長の時も、運営について、皆様方は意見を持ちながらも必ず応援してくれました。その時の会長と役員が一丸となって「討論」「司会」「協力」を行い活動していく中で、これらの経験の積み重ねが、高浜先生の言うところの社会での修練という言葉に繋がってくるのだと思います。しかし、修練と言ってもつらいものではなく、人と人の繋がりを楽しみながら経験できることも当会の特徴だと思います。通常の会員でも十分なメリットがありますが、チャンスがあれば若手の会員の皆様には役員として会に参加されることをお勧めします。今後の十日会については、自由闊達に討論出来て、協力し合える人達で構成された会であれば良いと考えております。

斎藤晴久(第22代会長)



常に考える集団

運営には、各会長のカラーがあるので、それが会の中でどう活かせるかだと思います。一年目は、会長として自分を育てて頂いたと言う意識がありました。考えるための知識、考え方を皆さんから教わったと思います。何でも常に考えてないと、その場になんてアイディアは浮かんでこない。常に考えるというのが、十日会のあるべき姿であると私は思います。

太田幸一(第23代会長)

座談会

KEY WORD

人材の育成

会の活動のなかで勉強させてもらい、その人間が会社に戻り、組合に出て活躍することで、業界へ貢献できると思います。結局自分の為が、業界の為になるんですよね。

太田幸一（第23代会長）



60周年
テーマ

2 「業界に何かできることがないか？」

KEY WORD

業界の推進力

「組合員は大人で、青年部が高校生だとすると、十日会は大学生のようなものだ」ついぶん昔の理事長が、こんなことを言わされた。もちろんそのような会ではない。またよく卒業したなどと言う言い方をするが、それも間違いた。十日会は自主独立の会であって、だれにも気兼ねしないで、なんでも出来る所に良さがある。活発な活動がひいては業界の推進力となる。

遠藤清孝（第19代会長）



まずは業界人としての自分を磨くこと

最初から業界のことはあんまり考えなくてもいいと思う。任意団体だから会員のことを第一に考えればいい。そのうち会で揉まれて人間的に成長すれば、支部の人たちからも、支部長やってくれ、理事長やってくれと言ってもらえることもあるかも知れないが、それは結果の問題であって、まずは自分達にとつてどうやって為になる会にするかということを考えればいいんじゃないかな。

永田一雄（第13代会長）



KEY WORD

行政に物を申す

基本的には中小零細企業は、組合や組織がないとやっていけない。昔から共通のテーマで会を中心にして集まっていたが、今後は業界として行政に物を申さないと駄目になってきてる。共通点として、業界としての意見や、こうあるべきだとかいう部分にテーマがシフトしてきていると感じます。役員の皆さんには将来的には業界のことが考えられるようになつてもらいたい。

八幡順一（第11代会長）

**KEY WORD 結果として
業界に貢献**

「業界に貢献する」を目指すのではなく、会の中で一生懸命やる過程で人間形成がなされ結果として、そういう言う人材がいろんな業界で活躍できるのだと思う。結果を目的にしてしまうと、おかしくなるから、まずは会の活動を頑張ってやっていけば良いのではないですか。

山田 英佐夫(第17代会長)

KEY WORD 綱領の精神

日本鍍金協会は、産業の中核にあり、任意団体としてこれほど大きな、そしてしっかりとした団体は他に類を見ない。産業の興隆に多大な貢献をしたにもかかわらず、その負を今になって払わされようとしているめつき業界。我々3会が協力し合って何か打つてはないものだろうか? 3つの綱領が泣いている。

菊池忠男(第15代会長)

KEY WORD 業界の存続

我々がこの先、めつき業をどこまで存続させられるかの話になってしまふ。国内で確立された仕事がこの先も海外へ移行することは避けられない。従来型の仕事量の安定確保が出来なくなつて来ている今、来る新分野への対応技術を身につけ、各自が会社の存続を図ることが業界への貢献になる。

石川雅一(第16代会長)

KEY WORD 社会への貢献度をアピール

環境規制を守っていることを売り文句にするのではなく、いわゆる、社会に対しての貢献を前面に打ち出すべきかと思います。東京都鍍金工業組合の必要不可欠な役割である行政との繋がりという貢献とは別に、我々は有志団体として、めつき技術の社会貢献度をアピールしていくことが、十日会として業界の為にできることではないかと思っています。

斎藤晴久(第22代会長)

KEY WORD 後進の育成

若手を育てて欲しいなという気持ちがあります。まだ後輩達を育てるまで行ってないから、後輩を引っ張ってきて一緒に活動していくことで、それが十日会の存続にもなるし、後進の育成は業界への貢献にもなる。

神谷博行(第14代会長)

座談会

60周年
テーマ3
受け継いでいくこと

KEY WORD 知識や情報の引き出し

役員のみなさんは役員会や例会などで、自分から知識や情報をどんどん吐き出してしまうと、自分の引き出しが少なくなるので、色々な人からの吸収が必要になると思います。そういうときにどの人を講師に招いたほうがいいとかいうアドバイスをして力になればと思っています。物事について順序立てて先々話して、役員の力を引き出していくというスタイルの運営をされる会長は見ていて安心です。

上村福子(幹事)

KEY WORD 企業のバロメーター

役員をやって9年目になります。事務局の業務の特性上、私は基本的に役員に言われたことにたいして仕事をしていますが、その限られた中でも、会の活動に尽力できればと思っています。例会に出席されている会社に関しては業績が良いのかなあとかいう印象があります・・・笑

宮部圭典(事務局)

「今後の運営について」

KEY WORD 仲間づくり

十日会やJESに参加させて頂いて、仲間が出来た。こういう事は、他の業界から見ると不思議でしようがないらしいんです。なんで同業者の中で仲間がそこまでできるんだ?って。めつき業界って、ざくばらんに会えて、仲間が出来るって事が本当に羨ましがられるんですよ。次の世代の方にもそういう会を受継いで行ってもらえればと思います。

柴田 徹(副会長)





業界の明るい未来

私たちの業界が先行きもう少し明るくなる方向に少しでも意識の流れが起きるように、一部でもいいから役に立てるような活動が、この十日会にあって、やっぱりめつきを続けて行こう、続けて行きたいという人が少しでも残っていくという、活動ができるればいいんじゃないかなあという気がしています。

上原裕司（副会長）



人間形成の場

人前に出て話すのが苦手でしたが、いろいろ経験させてもらって自分なりに成長することができたと思います。役員になり、勉強させてもらつて、感謝しています。

梅田 伊三夫（幹事）



人を惹きつける活動

自分が所属している会を考えた時、出席することに積極的になる会とそうでない会ができるわけですけれども、その会の中にいて居心地がいいと感じる方に、より積極的に参加する結果になっていると思います。僕にとって十日会はそういう会であり、会の活動を通して多くの人たちにそう感じていただけるよう、役員のひとりとして力になっていきたいと思います。

内藤喜達（編集）



共通の研究テーマに代わるもの

役員として会の運営に関わり、刺激を受け色々と悩み考えていく過程で、業界の役に立てる人間形成が行われるとするならば、各々の技術が多様化して同じテーマについて討論することができなくても、自己研鑽の場として会が存続していくのではないかでしょうか。

八幡義一（会計）



新しい発想による業界・社会への貢献

先輩達の偉大な足跡にとらわれずに、若い役員の今の発想やいろいろな意見を引き出して行きたいと思います。例会でも企画でも、まずは自分達の為になることを考え、まず自分の会社に持ち帰って実践しようと思える企画が出来れば、しいてはそれが先に広がって業界のみならず、社会への貢献になるという今後の運営のイメージがつかめました。

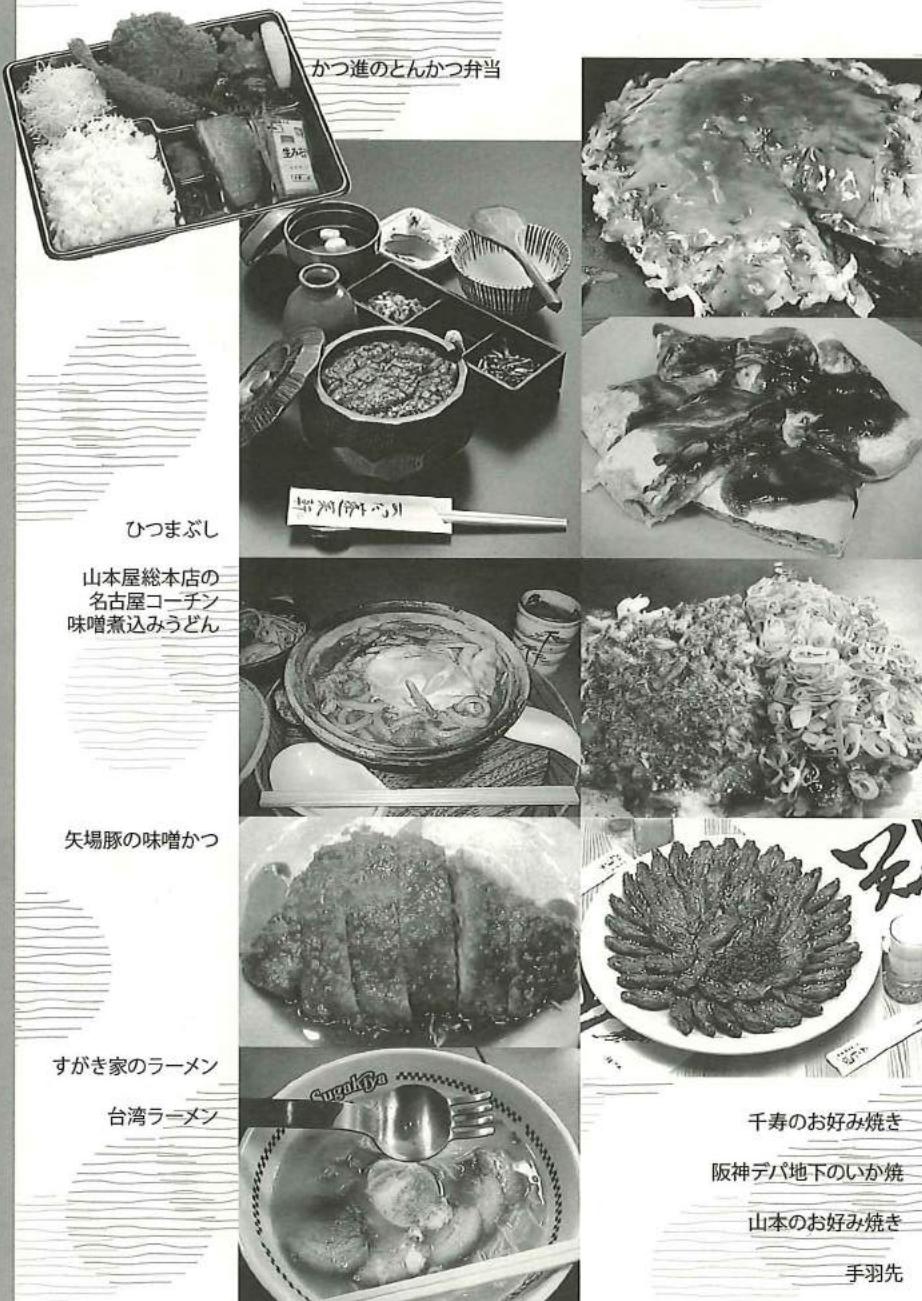
石川英孝（会長）

『めつきを天職とすることによって、日本に奉仕する』という創立の精神を忘れず、我々は情報の収集、技術の習得と共に、将来にわたり公私の活動において、『討論する、司会する、協力する』の修練を続けてきた。60周年を迎えた今日も、自己研鑽の場としての十日会の活動が、多くの優れた人材を輩出し、業界のみならず、社会に大きく貢献している。

今回特別に座談会が企画されたが、年1回「歴代会長会議」が行われる。歴代会長と現役員の意見交換を行い、主に会の運営について「討論」している。歴代会長の中には組合幹部がいるため、会の運営だけでなく、業界の今後や、行政からの情報、企業の経営手法など、いち早く貴重な情報が入手できる場である。

3

JES ご当地の美味しい食べ物



& 美味しいスイーツ



徳太郎のきんつば



うさぎやのどら焼き



長命寺の桜餅



赤福



川口駅前の太郎焼



竹隆庵岡埜のこごめ大福



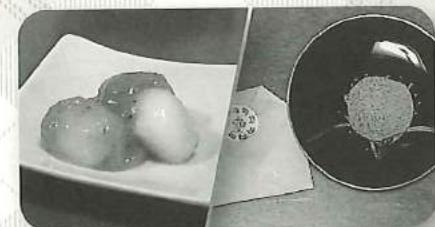
コメダ珈琲店の
シロノワール



堂島ロール



ぬれ煎餅



堺のくるみ餅、けし餅

湯島の丘の赤い屋根

今回この60周年記念誌を編纂するに当たり、十日会室に眠っている写真を改めて確認してみることにしました。そしてこの「湯島の丘の赤い屋根」が見つかったのです。

何か60周年記念誌に使える写真はないか。そんな写真探しの作業中にその写真はみつかりました。

写真には黒板を前に歌を披露しているらしき人物が写っています。そして黒板にはこのような詞が書かれていました。

湯島の丘の 赤い屋根
 J・E・P・S 会館の
 鐘が鳴ります キンコンカン
 若い世代が来たのです
 みんながシッカリ 手を組んで
 めっきの天職 守りましょう



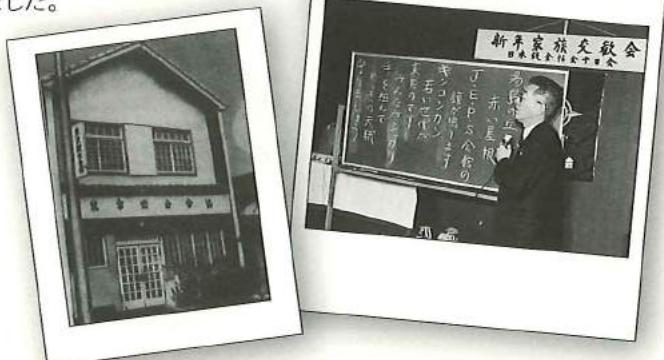
菊池先輩に確認したところ、この詞は十日会が創立した昭和23年ごろに大ヒットした「鐘のなる丘」の替え歌で、歌を披露されている方は井上喜夫氏のこと。昭和39年に十日会の会長をされていた大先輩です。

この写真は「湯島の丘の赤い屋根」お披露目時のもの。もしかしたら作詞は井上喜夫大先輩かも知れません。

いざれにせよ、この短い歌詞の中にもギュッと詰まった十日会の精神を感じられます。

「みんながシッカリ 手を組んで めっきの天職 守りましょう」。

60周年の節目の年に、先輩からの
 貴重なメッセージを、またひとつ
 頂いた気がしました。



めつき業界は ユコが面白い

素人171人に聞きました
へえ～世の中の人って「めつき」について
こう感じてるんだあ～

これが2008年の最先端技術
めつきは進化し成長する

マンガで見る十日会 ②
「ろ過機開発物語」

マンガで見る十日会 ③
「液分析とペロメーター」

コラム(上村福子さんと役員会)

素人171人に聞きました



世の中の人って
「めつき」について
こう感じてるんだある

Q1

めつきって何?

Q2

めつきって
どこに使われて
いるの?

Q3

めつきの
イメージは?

●アンケートサンプル
男女比：男113人 女58人

Q1

金物のお化粧



70代女性 無職

塗装???

50代女性 パート

鉄。固いもの

20代男性 会社員

化学反応で物質を定着させること

その他
(わからない・知らないを含む)

40代男性 外食産業



高級金属風にするもの



30代男性 果子製造

めっき
って何?

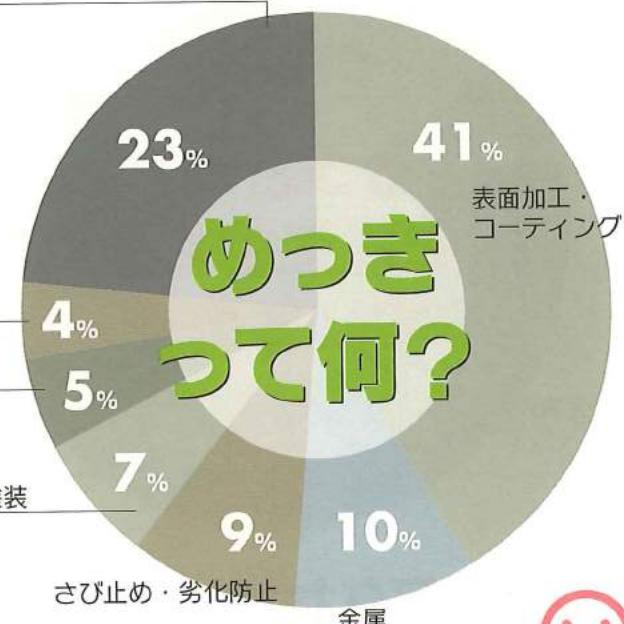
金めっきなど

薬品を使う・
化学反応

塗装

さび止め・劣化防止

金属

ズバリ!
さび防止!?

20代女性 会社員

銀めっき、金メッキ。

40代女性 宝石輸入販売業

鉄の表面をピカピカにした物のような…。



30代男性 会社員

考
察

Q1、めっきって何?

めっきの塗り方ってどんな方法でしょうか?

お客様から頂く電話でたまに、「めっきを塗ってください」と頼まれることがあります。若いころは、「めっきはペンキみたいに'掛け'でぬるわけではなく、水溶液中に電気を…」と説明しましたが、最近はめんどくさいので、「ハイハイ、どんな仕様で?」と商売に徹してしまいます。

しかし、この「塗る」には今でも抵抗があります。電話を切った後も、「めっきはやっぱり施(ほどこ)したり、付(つ)けたりするものだよなあ」とつぶやきます。

アンケートにあるように、「めっき=塗装」と思っている人は、第

四位の7%でした。

あえて「塗る」にこだわってみましたが、本来のめっきの意味、すなわち、装飾・防食・新たな機能の附加ととらえるならば、塗装も目的とするところはおなじです。細かい突っ込みを入れれば、業界には電着塗装みたいに、塗装とめっきの中間に位置するような技術もありますが…。

アンケートを取る前は、「言葉は知っているが、どんなものかわからない」という人が半分くらいいるのでは?と思っていましたので、ほぼ全員が概ね正確にめっきのことを認識しており、この結果は意外でした。純粹に「わからない・知らない」と答えた人は6%でした。

Q2

ネックレス、指輪、時計などなど

70代女性 無職

時計のバンド



60代女性 無職

ハーレーダビッドソンや自転車



40代男性 携帯電話キャリア会社



めっきって どこに使われ ているの?

オートバイ、車

30代男性 会社員

携帯電話・
電気製品



金めっきとか聞いたことがあります。トロフイーとか? 何を使われてるかは知らないです。

30代男性 ウェブデザイナー

携帯電話、アクセサリー

30代女性 会社員

金メッキ、銀メッキ、半田メッキの基板回路。 SDカードの端子金メッキ

30代男性 半導体

照明の部品、がま口の口金、バインダー、キャスター、...

50代女性 主婦



Q2、めっきってどこにつかわれているの?

女性(=宝飾品) VS 男性(=車・バイク)
はっきり傾向が出て興味深い結果になりました。第一位の「宝飾品」(30%)と答えた人の中の女性の割合は59%です。それに対し、第二位の「自動車・バイク」(24%)と答えた人の中の男性の割合は90%です。身の回りにある金属製品(めっきされたもの)で気に入っているものがどのようなものなのかを表しているのではないかと思います。つまり、女性は宝飾品(アクセサリーなど)、男性は自動車やバイクの部品といった物になるようです。

考 察

Q3、めっきのイメージ

昔のめっきは悪かった。
よく、「めっきがはげる」という表現をすることがあります。最近のめっきは、はげることはなくなっていますが、子供の頃(40年以上前)めっきははげたものでした。トイレの水洗タンクの下のパイプは、まるで海水浴で日焼けした背中の皮のように、ピリピリとおもしろくはげた記憶があります。手元の広辞苑でめっきの項を引くと、「がはげるとあります、『外面の飾りがとれて悪い中身が露出する。本性があらわれる。地金が出る。』と書かれています。めっきを職業とする私としては、めっきは良いものであると自負していますが、世の中の一般的な人のめっきに対するイメージはこんなものなのでしょうか?

アンケートの「めっきのイメージは?」にあるように、一位は「きれい・高価・さび止め等の効果がある」(33%)のプラスのイメージでした。ちょっとホッとしています。しかし、その反面、二位「にせもの・うそ・はがれやすい」(2

Q3

高級感 

20代男性 自動車整備工

20代男性 社会保険労務士
 表面だけをしつかり見せかけるイメージが強い。メッキが剥がれるというように、

3K 

40代男性 会社員

昔はいいイメージはなかったけれど、
今の技術はすばらしいと思います。
はげないしわからないから。

 40代女性 会社員



20代女性 会社員
 はがれてしまうイメージ

 本物に見せるなど、すぐはがれ、本質が出てくる偽物。
人間的には嘘つきや見栄張りと悪い意味合いに使いますねえ。

50代女性 デパート勤務

 悪い、、、以前、1品物の注文をしたら断られた。
やっとみつけたところも、メッキがとれてしまった。。。

30代男性 職業不明バイク乗り

2%)、三位「安っぽい」(12%)、四位「3K・毒物」(11%)とマイナスのイメージが続きます。全体としてはプラスのイメージが33%、マイナスのイメージが45%となり、マイナスのイメージのほうが多いことがわかります。これは残念なことです。話は変わりますが、十日会の発足当時は、「物資も無ければ技術も無い」時代だったと思います。それが、日本の高度成長とともにここまでたどり着きました。物資については戦後直後という特殊な事情があったと推測されます。技術は・・・これが、十日会の本来の目的とすることでした。「まんがJ」にあるように初めの会の名は「おしゃか(=不良品)の会」といったそうです。おしゃかが出来たことをあえて皆に知らせることで、そこから原因を探る。今でいう「失敗学」といったところでしょうか。これが十日会の根柢にある精神です。

 安っぽい感じ。
嘘つぽい感じ。

20代女性 飲食業店員

50代女性 主婦

つるつるして綺麗です♪

 毒薬!?

30代女性 飲食業

 安ものを高価に魅せる!

20代男性 学生

 ニセモノ、安物???

40代女性 製造業

 環境に悪い 40代男性 会社員

 肌に悪いイメージ

20代女性 主婦

■今後の十日会 明日に挑む会として、今後の10年をどう考えるのか?2つの目標を挙げようと思います。ひとつは技術革新です。技術は日々進歩します。もし、過去から十分努力し、もうこれ以上進歩はないと考えたら、その時点で衰退は始まります。ですから、技術向上の追究は絶対に外せません。もうひとつはイメージづくりです。物が売れるか売れないかは、その物に対するイメージで決まります。いろいろなことをやった結果としてイメージが良くなるのでなくて、積極的に「イメージをつくる」のです。つまり、後から結果がついてくるのではなくて、結果を意識して行動をするということです。具体的な方法はここでは書きません。(書けません)。よく討議して決めていくべきと思っています。また、そう言う場であって欲しいと願います。

10年後にもう一度同じアンケートを取って、プラスのイメージがマイナスのイメージより大きくなるように会員は日々努力することを、この場で提案します。

これが 2008年の

最先端技術!!

めっきは進化し成長する

はじめに

18～19世紀にイギリスを皮切りに起こった産業革命以降、先人達の意識と明晰な頭脳から生み出された「技術」は、人類を古代・中世の精神文明から近代の物質文明へと誘った。産業革命はその意味で、人類にとって引き返すことの出来ない分水嶺となった。

その善し悪しは別として、一旦解き放たれた「技術」は高々二百年足らずの歳月を経て、それまで人類の畏敬の対象であった「神」に代わる巨大な信仰対象として、恐るべき成長を遂げた。それは今もなお、未知の世界を求めて成長を続けている。

もとより、本稿では文明論や技術論を本意とするものではない。「めっき・表面処理」の視点から、新たな展開の可能性を考えてみる時、「技術」それ自体が持つ不可思議な「自己増殖性」を認めないわけにはいかないということなのだ。

鳥のように自由に空を飛びまわりたい——その強い願いが思念エネルギーとして集中し、意志化して飛行機という機械を創り出した。そしてわずか百年の間に、初期の「空を飛ぶ技術」はさまざまに増殖し、宇宙ロケットや探査衛星、宇宙衛星、はたまた宇宙ステーションにまで進化した。めっき・表面処理もまた、同じように「技術」である以上、現状に留まる事は不可能である。一人蚊帳の外というわけにはいかないのだ。このことを言いたいがために、一見無関係とも思える産業革命を引き合いに出した。以下が本論。

めっきは成熟した技術か？

日頃、現場に浸り切っていると、めっき・表面処理はいかにも十年一日の如き停滞感の漂う旧い技術と感じられることが少なくない。そこには「新技術」の欠片（かけら）すらなく、よもや華々しく変貌を遂げる半導体の世界と「彼我の技術レベル」を引き比べることなど考えもつかない。

確かに、日々受注品のめっき加工に追われ、品質と納期に腐心する現実は、我が身と我が社が「新技術」と隔離された世界に置かれていることを痛感させられるかもしれない。

だが、である。もし、その実感から逃れられないとするならば、それは単に、多くの当事者が「めっき業界」という小さな閉鎖空間に自らを押し込んでいるだけに過ぎないのであって、決して「めっき・表面処理」自体が「技術の進化」過程から取り残されていることを意味しているわけではない。

「めっきは成熟技術だ」といわれる。それが事実であるとしても、そのことは「もはや新技術開発の余地はない」とことと必ずしも同義ではない。20世紀後半から、多くの産業が最先端技術によって支えられ、革新的な発展をしてきたのだが、それら先端技術の多くは産業が発展する過程で提示されたさまざまなニーズに呼応しつつ、既存技術をベースに生み出されたものであり、戦後生まれの表面処理もまた大いに触発され、さまざまに分岐し、進化し続けてきたといえるのではないか。めっきも畢竟（ひっきょう）、時代の節目ごとに新たな役割を見出し、進化している。

試みに、十日会が発足した昭和23年以降のめっきとその周辺技術の変貌ぶりを、10年スパンで振り返ってみるといい。決して成熟した技術ではないことを思い知るはずである。

「温故知新」から「温故創新」へ

「温故知新」という諺がある。「ふるき（故）をたずね（温）てあたらし（新）きを知る」という意味であるが、これは「技術」という視点からも示唆に富む言葉だ。

技術は決して無からは生まれない。画期的な新技術はあたかも、まったくのゼロから生み出されるかのように思われがちであるが、そうではない。思考や経験の積み重ねから、時にひらめきとなり、時に発見となって、新たな技術展開が可能となる。長い時間経過の中で意識エネルギーの集中がなされ、思考や経験の脈絡が整理し直されることが重要なのだ。まさに温故知新そのものではないか。最近、「温故創新」という造語も目にする。「ふるきを訪ねてあたらしきを知り、よって新しきを創る」。まさに技術創製そのものを表した言葉とはいえないだろうか。

無電解ニッケルめっきを例にとってみよう。

この技術は1946年、米国において発明されたもので、従来の電気めっきや化学めっきとはまったく異なる反応機構による新しいめっき技術であった。金属イオンを還元析出させるという「めっきの原理」自体は古くから知られていたわけで、電子の代わりに還元剤を利用するところに無電解ニッケルめっきの新規性があった。

工業化は1953年、米国GATC社により実現し、「C(K)atalytic Nickel Generation = 触媒ニッケルめっき法 (Kanigen)」と命名されて、特許登録された。戦後の昭和30年にGATC社と技術提携して日本カニゼンが設立され、爾來（じらい）わが国においては同社の独占技術となった。

この無電解ニッケルめっきが急速に普及し始めたのは、今から30数年前のことである。特許が切れた事で、以前からその技術の優位性に着目していためっき薬品メーカーが一斉に無電解ニッケル

めっき薬品を製造販売、普及に火がついた。

そして今日、無電解ニッケルめっきは機能めっきを代表するめっきとして、確固たる地位を築いている。

ここまで話であれば、結局のところ「めっきは古い技術だ」で終ってしまう。「新しいと思っていた無電解ニッケルの技術ですら、55年もの歴史があるのか」と。

だが、その実態はといえば、決して停滞に甘んじていたのではない。むしろ「技術」なるがゆえに、時代のニーズに敏感に反応し、自己増殖を遂げ、進化を続けてきたのである。

無電解ニッケルの進化

めっき専業者の数が年々減少を続ける中で、無電解ニッケルめっきを手がける工場は増加している。機能めっきのニーズが多様化し、拡大していくことが背景にある一方で、無電解ニッケルめっき自身の多彩な進化も大きく貢献している。

その主役を張る Ni-P 合金めっきは、その目的に応じて P の比率を（低リン～中リン～高リン）と自在に制御できる高度な技術になっている。また、Ni-B 合金めっきは電子部品に不可欠の技術であるし、Ni-P-B 合金めっきは耐熱性、耐摺動性などの特性が評価され、ある種の自動車部品に採

用されている。同様に耐摺動性や滑り性、耐摩耗性などの特性をもつ Ni-P-PTFE 複合めっきも独自の存在感を示す技術である。

最近では、硬質クロムめっきを凌ぐ硬度が実現できる Ni-P-B-W 合金めっきも注目されている。

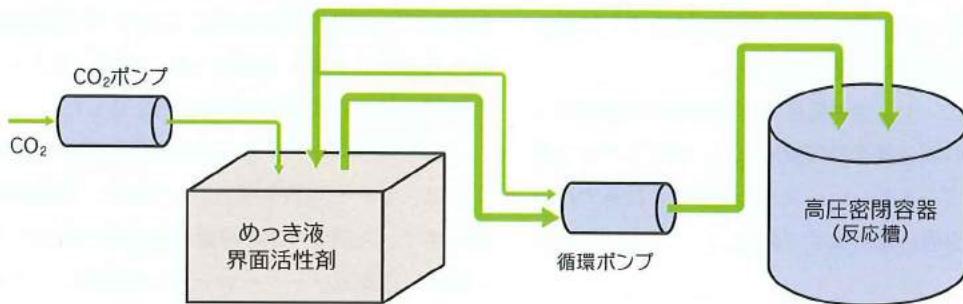
それだけではない。黒色無電解ニッケルめっきも確固たる市場を作り上げている。

こうした皮膜の多様化だけではなく、浴自体の進化も見逃せない。例えば浴の安定剤として不可欠の触媒金属は、世界的な鉛フリー化の流れを受けて従来の Pb から Bi や S に切り替わっているし、さらに重金属フリー化の動きも活発化していると聞く。

無電解ニッケルめっきで最大の課題である浴の長寿命化についても、数社の薬品メーカーから電気透析膜を利用する一つの解が示されている。イニシャルコストや完成度からみれば必ずしも満足のいくものとはいえないが、より確実性の高いプロセス開発に挑戦しようとする技術者も出現している。

無電解ニッケルめっきだけをみても、かくのごとき進化の世界を繰り広げているのだ。他の身近なめっきにも、同様の世界が広がりつつあることを知っておきたいものである。周辺の表面技術の進化についても、然りである。限りある紙面を借りて、その一端を垣間見てみよう。先ずは湿式めっきである。

超臨界めっきの概念図



超臨界めっき

工業化には多くの高いハードルがあって、その普及にはまだ多少の時間を要するとみられるが、「超臨界めっき」は多くの可能性をもつ技術の一つといえるだろう。従来のめっき技術では超えることが出来なかった幾つかの課題——例えばピンホール。薄い皮膜でもピンホール皆無が実現できれば、めっきの適用分野は大きく広がる。

この技術は「超臨界流体」という気体と液体が共存できる限界点（限界温度、圧力）を超えた物質の状態を利用している。つまり、どこにでも入り込む気体の「拡散性」という性質と、成分を溶かし出す「溶解性」という液体の性質とを兼ね備えたユニークな流体を使って、電気めっきでは避けることができない水素ガスを流体中に溶かし込み、皮膜への付着を防ぎつつ、析出するナノサイズの結晶核が緻密な薄膜に成長することでピンホールレスのめっきを創り出そうという技術である。

超臨界状態は圧力容器で作られる。超臨界めっきは、二酸化炭素 (CO_2) とめっき液、界面活性剤を容器内に封入し、圧力と温度をかけて行なう。そのため、通常の開放型めっき槽の感覚からすると、イニシャルコストや投入ワークに対する制約など、とても量産向きではないと思われ勝ちである。

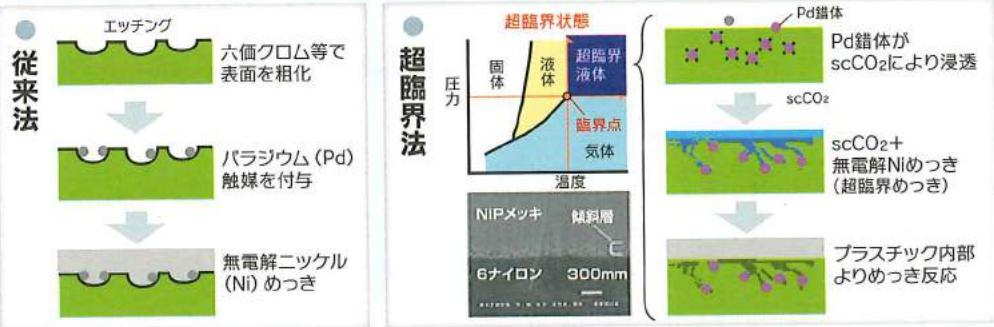
るが、戦後登場した真空蒸着を想起してみれば、必ずしも「工業化=絵空事」とはいえないことが実感できるのではないか。単に真空容器内を高温にし、金属蒸気を作るだけであった世界が、今では後述するような PVD や CVD という最先端技術に変貌しているのだ。

事実、超臨界流体はマイクロカプセルの作製など医薬品や化粧品の分野では欠かせない技術になっているし、最近では射出成形時におけるプラスチックの改質（有機金属錯体を溶解させた超臨界流体を金型と成形体の隙間に導入し、成形品表面のスキン層に金属錯体を含浸させる）研究も開発が進められている。ちなみにこの技術は、プラスチック表面近傍の有機金属錯体を成形時の熱で還元し、無電解めっきの触媒核として、環境負荷の高い化学物質を使った従来のプラスチックめっき前処理をこれに置き換えることを狙ったものである。

超臨界流体に金属錯体を溶かし込み、樹脂を投入することで膨潤した樹脂内部に錯体を拡散させ、これを核として電解による超臨界めっき（Ni-P 合金）を行なう方法も、エッティング液としての 6 倍クロムを使用しない「超臨界ナノプレーティングシステム」として開発されている。

これらの技術はいずれも日立マクセルが昨年 9 月に発表している。発表資料によれば、従来の

超臨界流体を利用したクロム酸フリーのプラスチックめっきプロセス。（日立マクセル資料より）



エッチング法では粗化が難しかった高耐熱性プラスチック(PPS、PBT、PAなど)にも高い密着性のめっきが可能としており、PA(6ナイロン)では従来法の2倍の密着強度(20N/cm)を得ているという。また、ヘッドランプのリフレクタに同法を応用し、従来の真空蒸着の代替技術として、《Ni-Pめっき～厚膜Cuめっき～Ni-Pめっき～Agめっき》という20μmの皮膜構成を持った反射鏡を実用化する目途が立っているという。

似たような手法で、各種繊維に超臨界流体を活用し、無電解めっきを行う技術も確立している。

これは、有機金属錯体を溶解した超臨界流体に繊維を投入することで、膨潤した繊維内部に錯体を拡散する。この錯体を熱還元して遊離金属とし、これを含有する繊維を取り出して、無電解めっき液に浸漬するのである。プラスチックめっき同様に、金属を核としてめっきが行われる。

非晶質めっきの世界

先に記述した無電解ニッケルめっきは皮膜中のP含有率が高くなると結晶性を持たない非晶質皮膜となる。

この非晶質めっき皮膜の研究も意欲的に進められている。ここではすでに実用化されているクロムめっき系について報告しよう。

クロムめっきは硬質皮膜として古くから一大市場を形成している技術である。單一めっき皮膜としてはHv1000前後という最高硬度を持ち、各種ロールやシリング、シャフト、ピストンリングやロッド、各種金型など、その適用事例は枚挙に遑がない。

しかし多くの産業分野で活躍する工業用めっきでありながら、「もう少し硬さや耐摩耗性が欲しい」という声も聞こえていた。

そのニーズに応えためっきが、Cr-C合金めっきである。電気めっきで合金化するこの技術は、すでに20年以上も前に研究論文が発表されているから、決して新しい技術とはいえない。しかし工業化はおろか、肝心のめっき専業者でこの合金めっきを知っている人がどれほどいるだろうか。ましてや非晶質めっきに興味を持つ専業者となると、数えるほどではないか。

報告によれば、有機錯化剤を含むクロムめっき浴からは、非晶質構造を持ったCr-C合金めっきが得られる。Cr-C合金めっき浴として提唱されているものには、クロム酸水溶液に蔥酸やギ酸などの有機酸を反応させた3価クロムと6価クロムの混合浴、種々の有機酸を添加した3価クロム浴などがあり、いずれも電気めっきでCが合金化する。電解時にめっき溶液中のカルボン酸の還元により、電極表面上で原子状炭素が形成され、これ

図 热処理による非晶質めっきの硬さ変化

- 非晶質Cr-C合金めっき
- 非晶質Ni-W合金めっき
- 非晶質Ni-P合金めっき
- 工業用クロムめっき
- ニッケルめっき

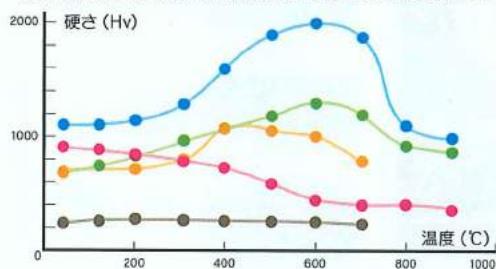


表 非晶質めっきの種類(二元合金系)

| 金属 - 半金属 | 金属 - 金属 | 金属(-水素) |
|----------------------|------------------------------|----------------------------|
| 電気めっき | | |
| P系(17~33at%) | W系(20~33at%) | Cr(-H) Ni(-H) Pd(-H) |
| Ni-P Co-P Pd-P | Ni-W Fe-W Co-W Cr-W | |
| B系(22~33at%) | Mo系 | |
| Ni-B | Ni-Mo Co-Mo Cr-Mo | |
| C系(10~13at%) | その他 | |
| Cr-C | Co-Ti Fe-Cr Co-Re | |
| S系(30~46at%) | | |
| Ni-S Co-S | | |

()内は非晶質めっきの報告が多い組成範囲

がCr原子と結合して皮膜に共析されると考えられている。

この皮膜は加熱により、非晶質→準安定状態→安定状態という変化過程で、金属あるいは化合物の結晶析出が起こり、いわゆる析出硬化によって硬さが著しく増加する。ちなみに硬質クロムめっきは200°C以上の加熱により硬度は急激に低下するが、この非晶質皮膜は400~700°Cの加熱により、析出時の硬度1100Hvが1600~2000Hvにまで向上する。従って、高温下で耐摩耗性を要求される機械部品に有効な表面技術として、一部の工業用めっき専業者では実用化されている。

C以外ではWやMoなど、それ単独では電析できない金属を、CrやFe、Ni、Coといった鉄族金属と共に析せることができるという。

非晶質めっきは一般に、再結晶温度が高く、熱安定性に優れているため、耐摩耗性や耐食性皮膜として、さまざまな合金めっきの応用研究が進められている。大阪府立産業技術総合研究所表面化学グループはその中でも意欲的な研究開発を行なっている機関であり、非晶質めっきにイオン交換膜を利用する事で、不溶性陽極界面で酸化されやすい有機錯化剤のような成分をめっき液中に添加使用できるプロセスを開発、新たな合金めっきの創製にも取り組んでいることを付記しておきたい。図及び表は同研究所の資料より抜粋した。

クエン酸ニッケルめっき

次に東京都鍍金工業組合の委託研究から生まれた技術として、クエン酸ニッケルめっき浴を紹介したい。これはニッケルめっき浴の主成分の一つ、pH緩衝剤としての硼酸成分(B)が、水質汚濁防止法及び下水道法により環境規制物質に指定されたことを受け、1998年に都工組が東京都立産業技術研究センター(土井正氏)に「ホウ素フリー

のニッケルめっき浴の開発研究」を委託した結果として生まれた技術である。

適用される基本浴は従来のワット浴であって、硼酸をクエン酸に置き換えるだけの単純な組成である。クエン酸は有機酸であり、浴中のNi²⁺をキレートしてクエン酸ニッケル錯体とするため、より弱い硼酸ニッケル錯体を作るワット浴からの電析皮膜より微細な皮膜が得られる理屈である。実際、クエン酸浴の無光沢皮膜は細かな粒状析出物で、同じワット浴からの無光沢皮膜と比べて硬度は約2倍(ワット浴:250~300Hv、クエン酸浴:500Hv)と報告されている。

硼素規制に対応でき、皮膜の耐食性や二次加工性にも優れ、クロムめっきのつき回りも改善されると、良いこと尽くめのクエン酸ニッケルめっきである。それにも拘らず、その普及は遅々として進まない。何故か。

答えは簡単で、クエン酸という強いキレート作用を持つ有機錯化剤を添加しためっき浴であるために、多くのめっき工場では現在の排水処理系に支障を来たすことが明らかなのである。

今後の課題としては、排水系を分別、独立したラインとして本浴のメリットを生かすか、あるいはイオン交換膜などの活用によりクエン酸を排水せず、再利用するクローズド化を検討することが急務なのではないだろうか。

真空系(PVD、CVD)の進化

湿式めっきに対する乾式、いわゆる真空系の表面技術を紹介する。

まずPVDの一つ、イオンプレーティングである。この工法から得られるナノレベルの金属薄膜「不連続蒸着」が、携帯電話に代表されるモバイル機器の筐体デザイナーにとって、数年前から注目すべき光透過膜技術となっている。

文字や記号など特定部位のみ光を透過させる金属筐体は、数十年前に二色成形めっきという「射出成形+プラスチックめっき技術」のコラボで実現され、一世を風靡した。金属部分はABS樹脂上のプラスチックめっきであり、光透過部分はPC樹脂という組み合わせがミソであった。

昨年来、日本初の技術として携帯電話の世界で話題になっている光透過技術は、当時のそれとはまったく趣を異にするものである。認証される筐体全面は明らかに金属そのものであるのに、内側からは光文字が透過する。

通常の金属表面処理であれば、皮膜は金属そのものであって光を透過させない。ところがこの技術では、見た目は金属なのにLED光を透過するのだ。

類似した技術は4年ほど前に生まれていた。当時、タマゴ型をしたオール金属外観という携帯電話「PENCK」を記憶されているだろうか。金属ボディであるにも拘らず、内蔵アンテナは正常に機能しているという、それまでの常識を覆したこの表面技術は、ケータイ大国・韓国のトップメーカーであるサムスン電子の機構開発技術者を大いに混乱させたものである。

一般常識として、めっきなどの金属皮膜は電波を透過しない。一定以上の厚さをもつ金属皮膜は電波を吸収するからである。

ところが「PENCK」ではイオンプレーティングによって「電波が透過するナノレベルのSnの薄膜」を透明なプラスチック(PC樹脂)筐体に形成することで、この常識を飛び越えた。

その技術がさらに進化して、光を内部から透過する金属外観の筐体が出現した。

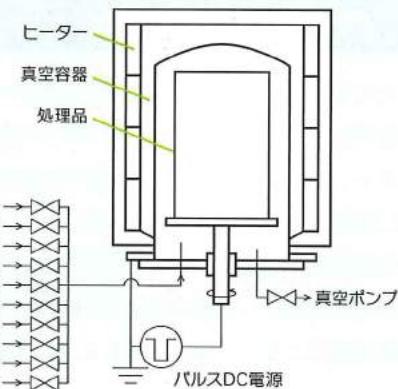
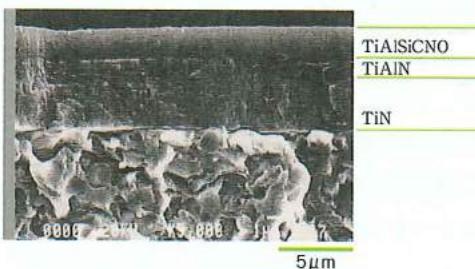
すでに述べたように、この技術の鍵は金属薄膜にある。それもナノレベルでの薄膜であって、蒸着したSnやIrの粒子がお互いに非連続であるところがミソである。つまり非導通の金属薄膜であるから電波障害は発生しないし、見た目は金属なのに内側から光が透過する。いってみれば、筐体全面に拡がる金属粒子と金属粒子の「隙間」から可視光が「もれる」というイメージになろうか。粒子が繋がってしまうと、サブミクロンの波長領域である可視光を透過させることができなくなる。故に、「不連続蒸着」と呼ばれるわけである。

工程は、透明なPC樹脂の表面にまずSnやIrの密着性を保証する透明なアンダーコートを施し、次いで金属薄膜を蒸着、さらに保護膜としてUVクリアなどの透明なトップコートを施す。つまり「プロセス技術」なのである。

トップに透明なカラーコートを施せば、多彩なカラー金属外観を実現することもできる。

ナノレベルでの膜厚コントロールがこの技術のノウハウと思われるが、イオンプレーティングに

量産型プラズマCVDの装置概略図と作製されたコンポジット薄膜(TiN/TiAlN/TiAlSiCNO)の断面SEM像。〈オリエンタルエンジニアリング技術資料より〉



十年以上の実績を有する企業はござって、モバイル筐体の「不連続蒸着」に参入しており、競争は激化している。トップコートの耐摩耗性や耐擦傷性など、実使用時の耐久性向上が今後の課題ではあろう。

成形品に蒸着する手法以外に、転写フィルムに不連続蒸着を施し、インモールドで一体成形する工法も開発されている。大型の自動車部品などで採用が始まった技術である。

従来からのプラスチックめっきでは、どのように頑張っても、「不連続蒸着」のような幻想的な光透過性を実現することはできない。お互いに棲み分けが進む加飾技術といえるのではないだろうか。

次にCVDである。

この技術も PVD 以上の勢いで進化を続けていく。ちなみに、最近よく耳にする DLC（ダイヤモンド・ライク・カーボン）は PVD 法のイオンプレーティングだけでなく、P-CVD（プラズマ CVD 法）でも作製されている。

真空系での化学的気相法である CVD は、真空容器内にプラズマを発生させ、薄膜成分を外部からのガス注入により行い、プラズマ化学反応を起こして薄膜を作製する。従って、注入するガスの種類を選択し、組成を調整することで、自然界には存在しない多彩な複合薄膜を作製することが可能となる。

例えば、P-CVD 法で実現できる TiAlSiCNO という、一見「何じゃこりゃア」と呼びだしたくなるような皮膜組成を持ったナノコンポジット膜がある。この場合に注入するガスは例えば、Ti が $TiCl_4$ ガス、Al が $AlCl_3$ ガス、Si が $SiCl_4$ ガス、C が CH_4 ガス、N が NH_3 ガスといった具合である。膜構造は多層、傾斜組成層であり、皮膜物性は硬度が $1500\sim5000\text{ Hv}$ 、その耐熱温度は $750\sim1000^\circ\text{C}$ という驚異的な数値を示す。硬質系の湿式めっき

では及ぶべくもない。

湿式法の電気めっきや無電解めっきに慣れ親しんだ多くのめっき専業者にとって、真空系の表面技術はいかにも物理的な印象が強く、取っ付き難い技術であった。

しかし現実には、十年以上も前からすでに何社ものめっき専業者がイオンプレーティングに代表される乾式の表面技術を導入し、多様化する顧客ニーズに対応した技術展開を行なっているのである。めっき技術が進化する以上に、周辺技術も進化を続けているのだ。

「我々には無関係な技術だね」と言わず、日頃からせめてウォッキングだけでもしておきたいものである。

忘れてはいけない「素材」との対話

最後に、めっきにとって最も大切な相棒である素材について言及しておきたい。

一例をマグネシウムに取る。

マグネシウム合金素材がノート PC 筐体への適用を皮切りに、一種のブームを巻き起こしたこととはまだ記憶に新しい。とはいえ、すでに十年以上も前の現象である。実用金属の中で最軽量という利点が、「より薄く、より軽くしたい」という開発者のニーズに合致し、採用が加速した。普及に貢献した表面処理は塗装下地処理としての化成処理であった。やがて携帯電話の内・外装部品にも採用が進み、「猫も杓子もマグネシウム」という時期を経て、外装品では（化成処理+塗装）という加飾に飽き足らなくなったデザイナーから、金属外観の要求が出始めた。すでに6~7年前から韓国の携帯電話ではマグネシウム合金製のフロントパネルに電気めっきを施した機種が何種類も発売されており、高級感を演出する上でめっきは重要な役割を果たしていた。

しかし電位を考えた時、マグネシウム合金はめっきされる金属とはまったく正反対に位置する卑な金属である。つまり極めて腐食しやすい金属であるということであって、電位の貴な銅やニッケルと直接接触する状況においては、めっき皮膜のピンホールを通して接触腐食という現象が避けられない。これを避けるため、韓国の場合は、皮膜構成は（ジンケート処理～青化銅ストライク～青化銅めっき～ピロリン酸銅めっき～硫酸銅めっき～光沢ニッケルめっき～クロムめっき）という信じ難いものとなっていて、めっきのトータル膜厚も $50\mu\text{m}$ と、くるまのスペックを超えたものであった。しかも素材欠陥を少しでも隠すため、バレル研磨～バフ研磨は不可欠であった。このようなものづくりを日本で推奨出来る訳がない。だからといって、めっき厚を薄くすれば24時間の塩水噴霧試験で間違いなく大量の白錆が噴き出すだろう。

以上は、素材として比較的耐食性の良好なAZ91D合金（ダイカスト材）に関する話である。最近、めっき専業者に話が来るというマグネシウム合金は圧延材（プレス材）である事が多く、それはAZ31と呼ばれる合金だ。この素材の耐食性は最悪である。生半（なまなか）な化成処理では塩水噴霧の8時間も持たない。仮に良好な密着力を持った電気めっきが施せたとしても、 $40\mu\text{m}$ を超えるような膜厚にしない限り、実使用には耐

えることが出来ない。

話が長くなつたが、要は素材の弱点を知らずに安直な対応をすることは自らの首を絞めることになるということなのだ。マグネシウム合金に限らず、少なくとも難めっき素材に対しては、最低限、電子顕微鏡程度の表面解析装置を駆使するくらいのことが出来なくてはいけない。顧客先に対して、素材や加工状態についてひと講釈もふた講釈も出来るような裏付けデータを用意する努力が要求される。

もうひとつ、筆者が注目している新素材について紹介しておきたい。その名は「金属ガラス」、耳にしたことがあるだろうか。韓国では「リキッドメタル」と呼ばれている。れっきとした日本発の新材料である。東北大学金属材料研究所から生まれたこの技術は今や世界中の金属材料研究者が新材料の創製に取り組んでいる注目の新素材なのだ。

溶かした金属を急冷（過冷却）すると、原子配列がまったく不規則なアモルファス、即ち非晶質金属になる。これを「金属ガラス」と呼んでおり、 $200\sim300^\circ\text{C}$ 程度の高温で容易に変形するという粘性流動に優れるため、従来鋳造が不可能とされたTiなどの精密鋳造品を作製することができる。しかも結晶質金属にくらべて強度、耐食性、磁性、二次加工性に驚異的な特性を有している。Fe系、Ni系、Cu系、Ti系、Zr系、Mg系などさまざまな金属を基材とする合金（3成分以上）で多彩



トータル $50\mu\text{m}$ という
厚付けの装飾めつきが施された
Mg (AZ91D) ダイカスト製
フロントブラケット
(韓国製)

な金属ガラスが作られるようになっている。すでにTi製ゴルフクラブのヘッドにも採用されているし、4年ほど前には韓国において、実際にTi系金属ガラスで鋳造（ダイカスト）したモバイル筐体の試作品を目にしている。恐らく向こう10年以内には広く利用されるようになっているのではないか。その時、装飾目的にせよ機能目的にせよ、めっきが必要とされる局面は十分に考えられるのだ。

いずれにせよ、めっきは素材あっての表面技術

である。

かつて「金属皮膚科の名医」というキャッチコピーを掲げためっき薬品メーカーがあった。これはそのまま、めっき専業者が標榜しなければならないキャッチコピーといえるのではないか。まさに戦陣訓ではないが、「素材を知り、周辺技術を知り、己を知れば百戦危うからず」である。

これから多少なりとも他社との差別化を図ろうとするなら、日々素材との対話を繰り返し、素材を知り尽くす努力を怠ってはならない。

あとがき

「めっき新技術」というテーマを、独断と偏見により思いつくまま書き連ねてみた。それだけに企画委員の狙いを大きく外れ、期待はずれの内容になったかもしれない。ご容赦いただきたい。

新技術に関して、お伝えしておきたいものはまだまだある。それ程に技術は日々、進化を遂げている。例えば「導電性有機薄膜+めっき」のハイブリッド技術などは本来、ページを割いて記述する必要があるのかもしれないし、環境や資源に関わるリサイクル新技術についても大いに論ずる必要があると考えている。

こうした新技術なり環境技術なりを、専業者が単独で取り込むことなど、所詮は無理な注文であろう。どうしたってある程度の時間と資金、人材は欠かせない。

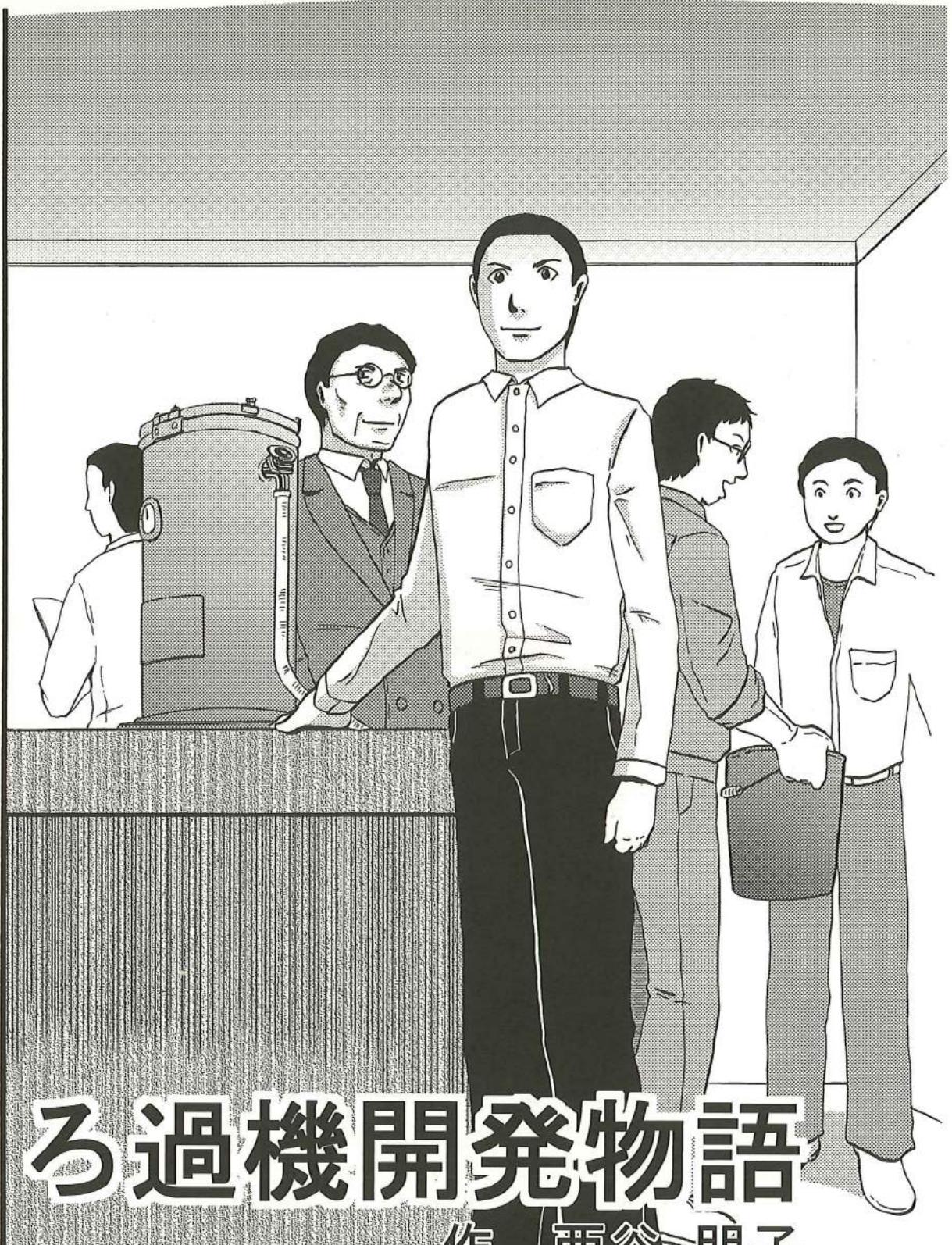
その意味でも、何社かの専業者が協力して、大学をはじめとする各公的機関とのコラボレーションを積極的に検討し、実現する時代になってきたと言えるのではないか。

また、個人的な思い入れではあるが、既存の技術も決して捨てたものではないと常々考えている。古くから実用化されていて一見、「ありふれた」技術でも、創意工夫により、あるいは手間隙をかけることで、それらに新しい生命を吹き込み、新技術として蘇らせることは可能なのではないだろうか。それは何も、めっきだけに囚われるものではない。めっきと印刷、あるいはめっきと塗装など、既存の技術とのコラボは現実に十日会会員企業で実用化されている複合表面処理であり、組み合わせによっては新規性を持った技術としてデザイナーへのインパクトは強いはずである。

存外、中小零細なめっき専業者にとって、既存技術にこだわり続けることがグローバルなものづくりの世界にあって、自社の存在感を發揮できる唯一の道なのかもしれない。

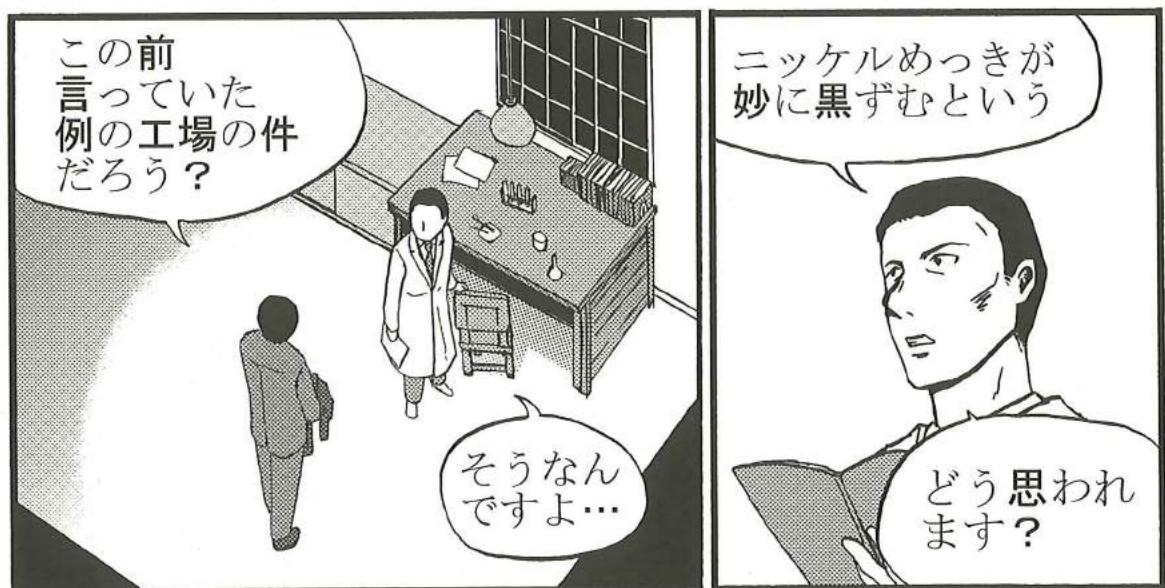
十日会60周年記念誌“最先端めっき’08”企画委員会

2008年6月24日 記



ろ過機開発物語

作 西谷朋子





そこはろ過機を導入しているんだよ

ろ過機！

こんなに違うものですか

しかしあんな高価な物はとても…

そう

町工場には購入できない

英國には10年間鑄びないニッケルめつきを輸出している企業もある

これから国際競争が激化すれば—

中小の工場では…

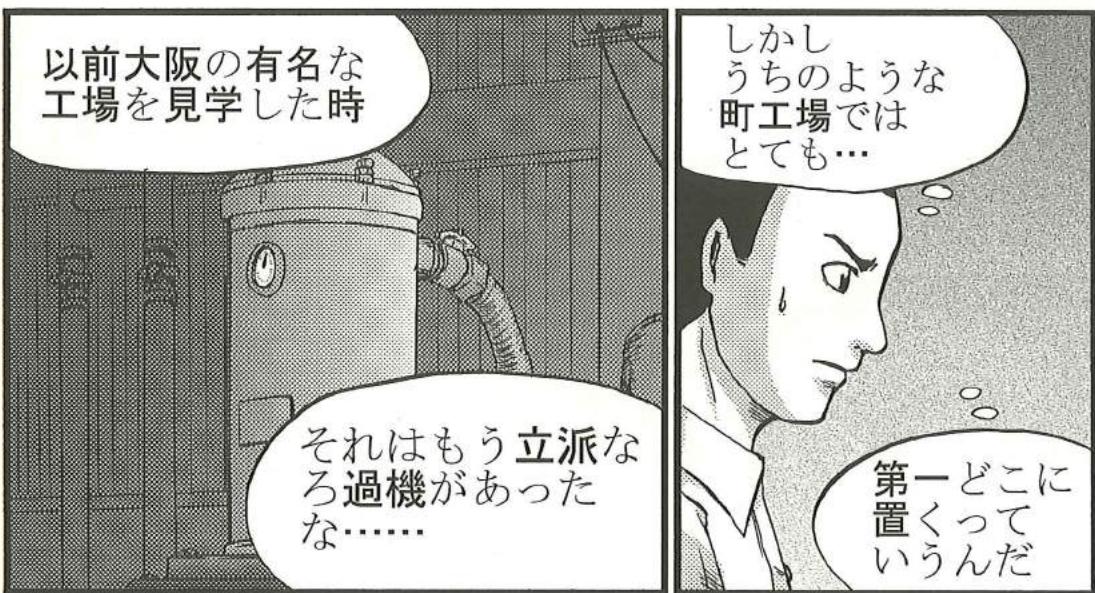
世界にたちうちできなくなるぞ！



これについては
十日会の例会でも議題となり
活発な意見が交わされた



福井 通祐

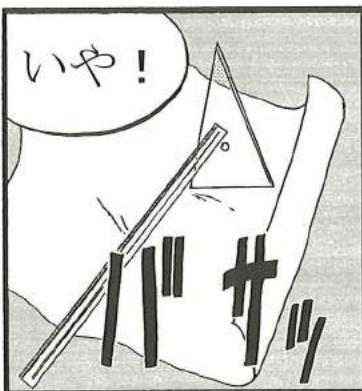


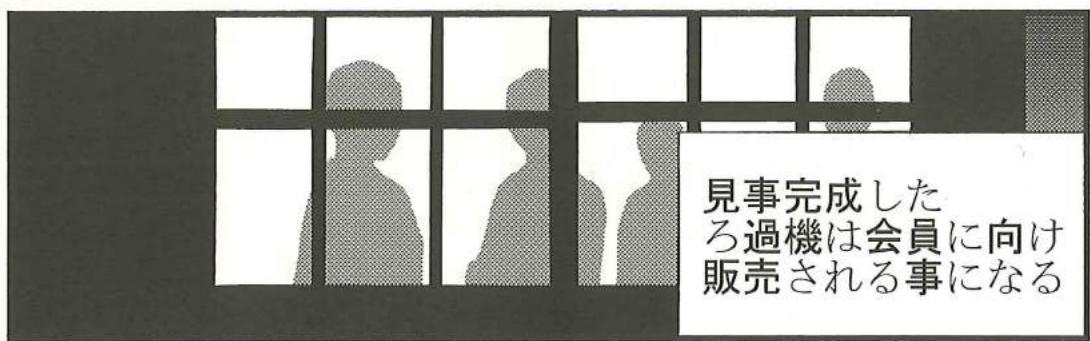
以前大阪の有名な
工場を見学した時

それはもう立派な
ろ過機があった
な……

しかし
うちのような
町工場では
とても…

第一どこに
置くって
いうんだ





業界全体の発展を
目指しての決断で
あつた

目に見えて
品質が改善
されましたね

ろ過機普及の
賜物だな…！

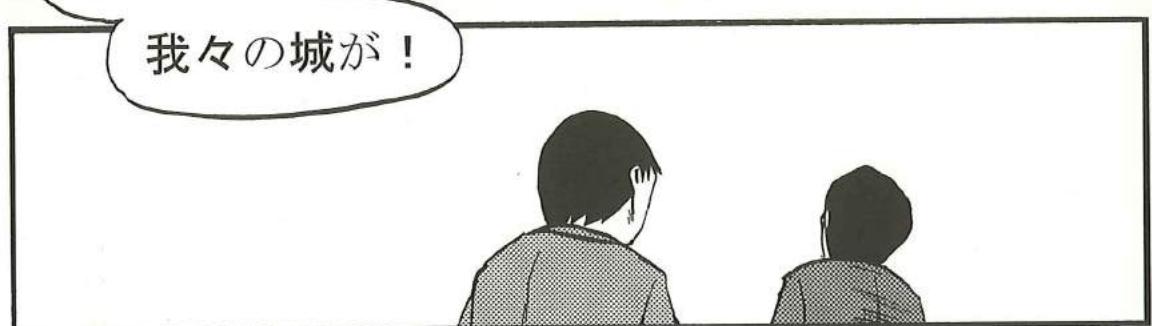
これで世界と
戦える…

我々町工場
でも！



液分析と ベロメーター

作 西谷 朋子

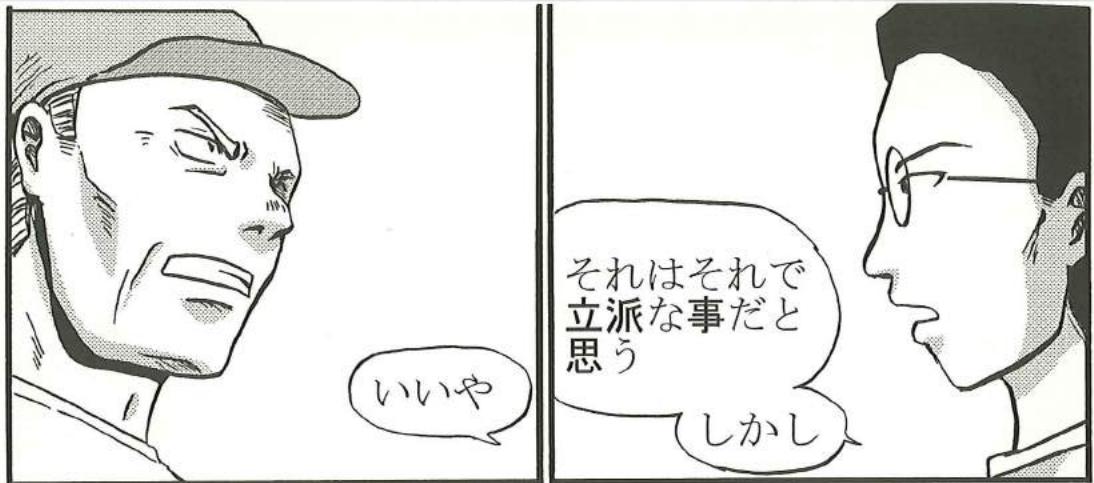


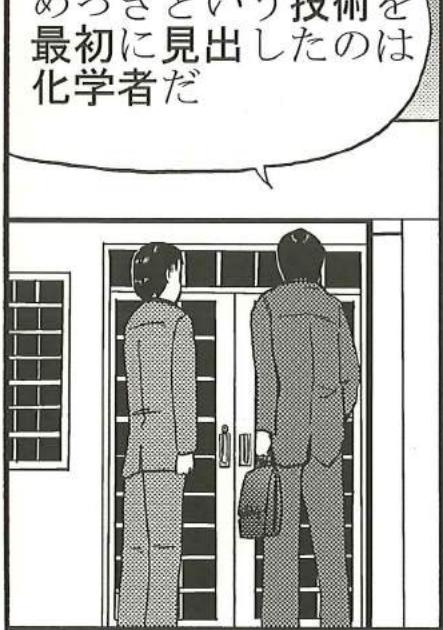


業界は未だ
経験を頼りにコツを掴み
勘を磨いていく
職人気質の世界であった









「経験のみを尊び
秘伝のみを金科玉条とし
学問を軽んじると

実用新案的進歩はあっても
原理的革新的飛躍は
ありえない」

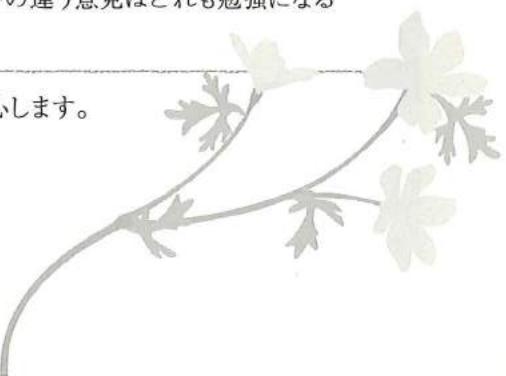
田嶋の金言である

東京鍍金会館の
建設により
分析力が向上——

田嶋は生涯めっき技術の
進歩を目指し
研究に身を捧げた

上村福子さんと役員会

- 毎回、美味しいおやつを持参して戴いている十日会のマドンナ的存在。
今日の役員会は何が出てくるのか(申し訳ございませんが)役員会の楽しみの一つでもある。
- 何か困ったことがあると上村さん!必ず解決の糸口を見出してくれる無くてはならぬ人・上村さんと言えば役員のご意見番であり、役員のみならず歴代会長を陰で支え続けてきた名軍師。
- 女性ならではの観点や発想はもはや役員会に無くてはならぬ存在。
- いつも温かく見守ってくれることに感謝しております。
- 役員会の一番の楽しみは上村さんの持ってきたくれる差し入れ!
- 女性ならではのきめ細かい心づかいを考えた意見を伝えてくれる。
- 私の会長時代にも上村福子さんの発案により何度も助けられた。
- 役員会にいつも美味しいスイーツを持ってきてくれる。
- いつも優しく暖かく後輩を見守ってくれる上村福子さんには心より感謝している。
- いつも美味しいお菓子を戴き有難うございます。
- 役員会では上村さんならではのポイントを抑えたコメントが勉強になります。
- いつも差し入れ有難うございます。どれも美味しいのでいつも楽しみにしています。
- 先輩方から常に仰がれる様に、レベルの違う意見はどれも勉強になることばかりです。
- 役員も上村さんのお墨付きを戴くと安心します。



十日会名簿 とJES

十日会名簿
(会員紹介)

マンガで見る十日会 ④
「日本鍍金協会設立物語」

JESご紹介

コラム
(JESでの交流について)

名譽会員(1名)

| 会員名／役職 | 会社名／代表者名／業種 | アドレス |
|--------|-------------|------|
|--------|-------------|------|

| | | |
|----------------------|----------|--|
| Ezra A. Blount 顧問 | M.F.S.A. | |
|----------------------|----------|--|

相談役(1名)

| | | | |
|--------------|-------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 姫野 正弘 理事長 | 東京都鍍金工業組合 東京公害防止協同組合 | 〒182-0021 調布市調布ヶ丘3-6-1 京王電化工業(株) | TEL.0424-83-1900 FAX.0424-83-1954 |
|--------------|-------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|

特別会員(2名)

| | | | |
|------|--|----------------------|--------------------------------------|
| 村楨利弘 | | 〒300-0067 土浦市東都和11-5 | TEL.0298-23-6918 FAX.0298-23-6918 |
|------|--|----------------------|--------------------------------------|

| | | | |
|--------------|-------------------------|------------------------|--------------------------------------|
| 土井 正 工学博士 | (地独) 東京都立産業技術 研究センター | 〒115-8586 北区西が丘3-13-10 | TEL.03-3909-2151 FAX.03-3909-2590 |
|--------------|-------------------------|------------------------|--------------------------------------|

正会員(66社)

| | | | | |
|----------------|-----------------------|------|--|--------------------------------------|
| 遠藤 清孝 専務取締役 | (有) 朝日鍍金工場 ・電気めっき業 | 遠藤 清 | 〒132-0025 江戸川区松江4-20-11 http://www.asahi-mex.co.jp/ | TEL.03-3653-3431 FAX.03-3652-2225 |
|----------------|-----------------------|------|--|--------------------------------------|

| | | | | |
|-----------------|---------------------|--------|---|--------------------------------------|
| 山田 英佐夫 代表取締役 | (株) 東電工舎 ・電気めっき業 | 山田 英佐夫 | 〒130-0001 墨田区吾妻橋3-10-9 http://www.azuma-p.co.jp/ | TEL.03-3622-8111 FAX.03-3622-8107 |
|-----------------|---------------------|--------|---|--------------------------------------|

| | | | | |
|----------------|--------------------|-------|--|--------------------------------------|
| 野澤 宗司 代表取締役 | 足立工業(株) ・電気めっき業 | 野澤 宗司 | 〒120-0023 足立区千住曙町22-8 http://www.adachi-kogyo.com/ | TEL.03-3881-6138 FAX.03-3881-6130 |
|----------------|--------------------|-------|--|--------------------------------------|

| | | | | |
|-----------------|-----------------------|--------|-------------------------|--------------------------------------|
| 新井 嘉喜雄 代表取締役 | (有) いわき製作所 ・電気めっき業 | 新井 嘉喜雄 | 〒134-0084 江戸川区東葛西9-23-1 | TEL.03-3680-6171 FAX.03-3687-3010 |
|-----------------|-----------------------|--------|-------------------------|--------------------------------------|

| | | | | |
|----------------|------------------------|-------|--------------------------|--------------------------------------|
| 上原 裕司 代表取締役 | (有) 上原メッキ工業 ・電気めっき業 | 上原 裕司 | 〒335-0063 埼玉県川口市東本郷764-8 | TEL.0482-82-1590 FAX.0482-82-3567 |
|----------------|------------------------|-------|--------------------------|--------------------------------------|

| | | | | |
|-------------|---------------------|-------|---|--------------------------------------|
| 宮崎 繁治 課長 | 上村工業(株) ・めっき薬品製造 | 上村 寛也 | 〒103-0011 中央区日本橋大伝馬町12-7 http://www.uyemura.co.jp | TEL.03-5646-2525 FAX.03-5645-2511 |
|-------------|---------------------|-------|---|--------------------------------------|

| | | | | |
|----------------|----------------------|-------|-----------------------|--------------------------------------|
| 上村 福子 代表取締役 | (株) 上村 ・めっき材料総合商社 | 上村 福子 | 〒114-0001 北区東十条3-8-13 | TEL.03-5390-2871 FAX.03-5390-2875 |
|----------------|----------------------|-------|-----------------------|--------------------------------------|

正会員

| 会員名／役職 | 会社名／代表者名／業種 | アドレス | |
|-------------------|--|--|--------------------------------------|
| 永田 一雄 代表取締役 | (株) 梅田鍍金工業所 ・電気めっき業 | 〒123-0851 足立区梅田3-16-1 http://umeda-plating.hoops.ne.jp/ | TEL.03-3880-1271 FAX.03-3889-8530 |
| 石垣 安浩 営業企画部 | 荏原ユージライト(株) ・表面処理薬品・装置及び関連器材の製造販売 | 〒110-0016 台東区台東4-19-9 山口ビル7 http://www.eu.ebara.com/ | TEL.03-3833-0321 FAX.03-3833-5075 |
| 大沢 俊孝 代表取締役 | (株) 大沢鍍金工業所 ・電気めっき業 | 〒144-0033 大田区東糀谷6-3-1 http://www.jod.or.jp/oosawa.files/oosawa.html | TEL.03-3744-6751 FAX.03-3744-6753 |
| 太田 幸一 専務取締役 | 太田鍍金工業(株) ・電気めっき業 | 〒124-0014 葛飾区東四ツ木2-10-17 http://www16.ocn.ne.jp/~otamekki/ | TEL.03-3692-4560 FAX.03-3693-0020 |
| 岡田 茂 代表取締役 | (株) オカダテックス ・表面処理装置設計・製作 | 〒278-0013 千葉県野田市上三ヶ尾261-9 http://www.okadatecs.co.jp/ | TEL.0471-24-4151 FAX.0471-25-6684 |
| 鉄石 力 | 奥野製薬工業(株) ・めっき工業薬品製造・販売 | 〒123-0865 足立区新田3-8-17 http://www.okuno.co.jp/ | TEL.03-3912-9241 FAX.03-3914-9241 |
| 籠利 達郎 代表取締役 | (有) 篠利鍍金工業所 ・電気めっき業 | 〒131-0045 墨田区押上3-40-7 | TEL.03-3612-4294 FAX.03-3612-7382 |
| 神谷 博行 代表取締役 | 神谷電化工業(株) ・電気めっき業 | 〒124-0012 葛飾区立石2-18-8 http://www.kamiyamekki.com/ | TEL.03-3695-1304 FAX.03-3695-1346 |
| 湯川 和也 課長 | キクヤピーム(株) ・表面処理、設備資材専門商社 | 〒110-0015 台東区東上野1-28-9 http://www.kikuyapm.co.jp/ | TEL.03-3832-6281 FAX.03-3832-1607 |
| 吉岡 英則 東京営業所 係長 | キザイ(株) ・表面処理薬品の及び濾過器の製造販売 | 〒103-0001 中央区日本橋小伝馬町9-10 http://www.kizai-chem.co.jp/ | TEL.03-3662-8871 FAX.03-3661-8636 |
| 木下 健次 代表取締役 | 木下電化工業(株) ・電気めっき業 | 〒131-0043 墨田区立花4-34-8 http://www.kinosita-denka.co.jp/ | TEL.03-3613-0646 FAX.03-3613-0648 |
| 上市 孝志 代表取締役 | (株) 共和機器製作所 ・回転バレルメッキ装置、乾燥機、自動メッキ設備 | 〒334-0012 埼玉県鳩ヶ谷市八幡木2-15-15 http://www.kyowa1970.jp/ | TEL.048-281-6940 FAX.048-285-2093 |
| 二木 一郎 営業部長 | (株) クリタ ・化学工業薬品卸売 | 〒130-0025 墨田区千歳1-3-5 http://www.kk-kurita.co.jp/ | TEL.03-3631-9101 FAX.03-3633-3811 |

正会員

| 会員名／役職 | 会社名／代表者名／業種 | アドレス | | |
|------------------|---------------------------------------|-------|--|--------------------------------------|
| 菊池 忠男 代表取締役 | 光陽鍍金(株) ・電気めっき業 | 菊池 忠男 | 〒124-0001 葛飾区小菅3-15-11 | TEL.03-3602-6815 FAX.03-3603-1718 |
| 小島 一浩 専務取締役 | (有) 小島鍍金工業所 ・電気めっき業 | 小島 君男 | 〒120-0041 足立区千住元町27-16 | TEL.03-3881-2858 FAX.03-3881-2863 |
| 近藤 澄男 代表取締役 | 近藤耐酸槽(株) ・めっき設備製造 | 近藤 澄男 | 〒116-0014 荒川区東日暮里1-11-5 | TEL.03-3806-1711 FAX.03-3806-1714 |
| 宮田 昌幸 代表取締役 | (株) 三共 ・精密濾過器、ポンプ、アノードパック販売 | 宮田 昌幸 | 〒114-0024 北区西ケ原4-49-7 | TEL.03-3949-7741 FAX.03-3949-7909 |
| 石川 雅一 専務取締役 | (株) 三恵工業所 ・電気めっき業・アルマイド処理 | 石川 潔 | 〒116-0013 荒川区西日暮里5-1-18 | TEL.03-3891-6718 FAX.03-3807-6244 |
| 阿部 裕士 東京支店長 | (株) 三進製作所 ・一般機械器具製造業 | 柳下 幸一 | 〒170-0002 豊島区巣鴨1-9-11 http://www.sanshin-mfg.co.jp/ | TEL.03-3942-0251 FAX.03-3947-8291 |
| 佐久間 芳明 東京営業所長 | (株) サンシンメンテナンス ・ろ過器及び部品販売修理、改造工事施工 | 柳下 幸一 | 〒170-0002 豊島区巣鴨1-9-11 | TEL.03-3947-1551 FAX.03-3947-8291 |
| 村松康裕 常務取締役 | (株) 三松 ・めっき材料総合商社 | 村松 泰直 | 〒144-0051 大田区西蒲田7-57-11 http://www.sanmatu.co.jp | TEL.03-3733-7131 FAX.03-3739-0322 |
| 玉村聰二郎 取締役営業部長 | 三明化成(株) ・化学工業薬品の卸売 | 木村 壽 | 〒141-8615 品川区西五反田1-21-7 http://www.sunmay.co.jp/ | TEL.03-3490-3031 FAX.03-3493-6326 |
| 笹川 孝司 営業部営業課長 | サンライト(株) ・化学工業薬品製造 | 松田 武雄 | 〒335-0005 埼玉県蕨市錦町1-13-12 | TEL.048-442-3810 FAX.048-445-5704 |
| 渋谷 均 代表取締役 | (株) シブヤ電機 ・めっき設備、直流電源の設計・製造 | 渋谷 均 | 〒174-0065 板橋区若木1-9-15 | TEL.03-3935-7511 FAX.03-3550-5784 |
| 斎藤 晴久 代表取締役 | シリバーメッキ工業(株) ・電気めっき業 | 斎藤 晴久 | 〒116-0011 荒川区西尾久7-16-7 http://www.sepi.co.jp/ | TEL.03-3800-3166 FAX.03-3800-3548 |
| 廣嶋 力 東京営業所 所長 | (株) スイレイ ・設備設計施工及びメンテナンス | 加納 昌武 | 〒184-0012 小金井市中町4-14-15 http://www.suirei.co.jp/ | TEL.042-313-8357 FAX.042-313-8358 |

正会員

| 会員名役職 | 会社名/代表者名/業種 | アドレス | |
|--------------------|---|---|--------------------------------------|
| 中川 士郎 代表取締役 | (株)セムコーポレーション 中川 士郎 ・水質関連機器を製造・販売 | 〒113-0021 文京区本駒込1-10-25 http://www.cemco.jp | TEL.03-3946-3335 FAX.03-3946-0675 |
| 南 忠男 代表取締役 | (有)大啓ケアー 南 忠男 ・めっき排水処理業 | 〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎町 1386-25 | TEL.0489-24-0833 FAX.0489-24-0834 |
| 池田 憲治 営業部部長 | 大日工業(株) 小倉 攻一 ・電子回路基板への無電解ニッケル | 〒124-0011 葛飾区四ツ木5-16-11 http://www.dnk-mekki.com/ | TEL.03-3691-9501 FAX.03-3691-9504 |
| 小松 雄一郎 営業部課長 | (株)タイホー 山口 伸一郎 ・金属表面処理剤製造販売 | 〒332-0003 埼玉県川口市東領家2-37-18 http://www.taihogroup.co.jp/ | TEL.048-223-6786 FAX.048-223-7714 |
| 狐塚 保之 代表取締役 | 立石電化(株) 狐塚 保之 ・電気めっき業 | 〒124-0013 葛飾区東立石2-15-17 | TEL.03-3691-6285 FAX.03-3694-3406 |
| 谷口 和美 代表取締役 | 谷口ヒーターズ(株) 谷口 和美 工業用電熱器製造 | 〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号 580-104 | TEL.0438-63-3116 FAX.0438-63-6931 |
| 音羽 伸哉 代表取締役 | (株)中央製作所 後藤 安邦 ・電気機器製造販売 | 〒142-0041 品川区戸越3-1-18 第百生命ビル5F | TEL.03-3788-1571 FAX.03-3788-5481 |
| 大塚 淳生 代表取締役 | (株)テクノオオツカ 大塚 淳生 ・電気めっき業 | 〒116-0013 荒川区西日暮里5-27-2 グリーンリーフ大塚 http://www3.ocn.ne.jp/~techno-o/ | TEL.03-3805-5903 FAX.03-3805-5904 |
| 廣井 由記也 東京担当 | ディップソール(株) 前薗 元 ・表面処理薬品(製造販売)メガ一 | 〒104-006 中央区銀座1-3-9 6F http://www.dipsol-jp.com | TEL.03-3535-3155 FAX.03-3535-3161 |
| 中村 博 代表取締役 | (株)電測 中村 博 ・めっき膜厚測定器製造 | 〒164-0011 中野区中央2-31-5 http://www.densoku.com | TEL.03-3365-4411 FAX.03-3371-1287 |
| 坂手 保弘 専務取締役 | (株)トーテック 小谷野 英勝 ・電気めっき業 | 〒153-0064 目黒区下目黒2-13-7 http://www.tohtec.co.jp/ | TEL.03-3493-0231 FAX.03-3779-5296 |
| 大村 雅史 取締役営業技術担当 | (株)都南ビーピー 大村 功作 ・電気めっき業 | 〒153-0051 目黒区上目黒4-5-1 http://www.tonanbp.co.jp/ | TEL.03-3719-8221 FAX.03-3760-9027 |
| 清村 進之 営業部長 | 内外ハイグラス(株) 竹ヶ原 攻 ・めっき用各種タンク、スクラバーの製造販売 | 〒101-0044 千代田区鍛冶町1-6-17 http://www.naigai-hg.com/new3.htm | TEL.03-3256-4055 FAX.03-3256-4063 |

正会員

| 会員名／役職 | 会社名／代表者名／業種 | アドレス |
|------------------|---------------------------------------|--|
| 繩田 万喜子 代表取締役 | (有) 繩田鍍金工業所 繩田 万喜子 ・電気めっき業 | 〒123-0851 足立区梅田5-11-5 http://www.sogata-kk.co.jp/ TEL.03-3887-1301 FAX.03-3852-1095 |
| 金子 実 営業部 | 日本表面化学(株) 兼子 義章 ・金属表面処理剤メーカー | 〒160-0004 新宿区四谷3-13 SEABRIDビル http://www.jasco-kk.co.jp/ TEL.03-5367-6381 FAX.03-5367-4545 |
| 小室 昭進 代表取締役会長 | 日本プラント工業(株) 小室 昭進 ・表面処理設備トータルプランナー | 〒120-0015 足立区足立2-40-16 http://www.nippon-plants.co.jp/ TEL.03-3852-1161 FAX.03-3852-1165 |
| 野上 悟 代表取締役副社長 | 野上化学工業(株) 野上 敬 ・電気めっき業 | 〒114-0012 北区田端新町1-11-13 http://www.nojo-chemical.co.jp/ TEL.03-3894-5195 FAX.03-3800-5195 |
| 長谷川 徹 代表取締役 | 長谷川鍍研資材(株) 長谷川 徹 ・材料商 | 〒110-0013 台東区入谷2-30-7 http://www.nagaharakenko.co.jp/ TEL.03-3872-1191 FAX.03-3872-1193 |
| 内田 悅美 代表取締役 | 光鍍金工業(株) 内田 悅美 ・電気めっき業 | 〒179-0081 練馬区北町1-8-7 http://www.hikarimekki.com/ TEL.03-3934-0334 FAX.03-3931-7125 |
| 石川 英孝 専務取締役 | (株) ヒキフネ ・電気めっき業 | 〒124-0014 葛飾区東四ツ木2-4-12 http://www.hikifune.com/ TEL.03-3696-1981 FAX.03-3694-4511 |
| 大村 卓司 代表取締役 | 福井精鍍工業(株) 大村 卓司 ・電気めっき業 | 〒130-0011 墨田区石原2-8-13 http://www.techno-city.sumida.tokyo.jp/cgi-bin/sumida/guide/dt.cgi?id=01961 TEL.03-3624-2751 FAX.03-3624-2754 |
| 福井 通人 取締役社長室長 | 福井電化工業(株) 福井 順子 ・電気めっき業 | 〒272-0126 千葉県市川市千鳥町11 http://www.fukuidenka.co.jp/ TEL.047-396-2331 FAX.047-396-2338 |
| 内野 孝 代表取締役 | 富士電機工業(株) 内野 孝 ・整流器メーカー | 〒160-0073 新宿区百人町1-21-22 http://www.fujidenki-k.co.jp/ TEL.03-5925-0512 FAX.03-5925-0513 |
| 風見 浩司 営業 | 不二ケミカル(株) ・めっき材料設備販売 | 〒110-0003 東京都台東区根岸5-1-12 http://www.bischemical.co.jp/ TEL.03-3876-1011 FAX.03-3876-0050 |
| 柴田 徹 代表取締役 | (有) 扶桑電化上平井工業所 柴田 徹 ・電気めっき業 | 〒124-0025 葛飾区西新小岩5-7-22 http://www.fusou-ep.jp/ TEL.03-3697-7225 FAX.03-3697-7235 |
| 内藤 喜達 総務部長 | 平和工業(株) ・電気めっき業 | 〒143-0003 大田区京浜島2-2-4 http://www.heiwakogyo.com/ TEL.03-3790-1031 FAX.03-3790-2828 |

正会員

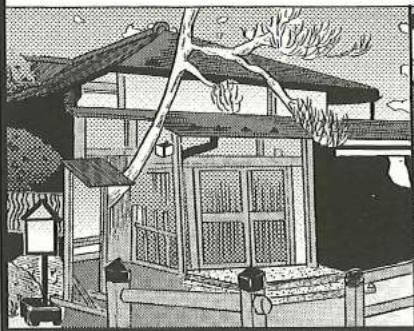
| 会員名／役職 | 会社名／代表者名／業種 | アドレス | |
|-------------------|------------------------------|---|--------------------------------------|
| 草間 誠一郎 代表取締役 | (株)三ツ矢 ・電気めっき業 | 草間 誠一郎 〒141-0031 品川区西五反田3-8-11 http://www.mitsuyanet.co.jp/ | TEL.03-3492-7191 FAX.03-3492-7194 |
| 梅田 伊三夫 取締役総務部長 | ミナモト電機(株) ・工業用電熱器製造 | 梅田 源次郎 〒124-0025 葛飾区西新小岩3-14-21 http://www.minamotoelectric.co.jp/ | TEL.03-5671-3710 FAX.03-5671-3878 |
| 江原 弾 工場長 | メイホー(株) ・電気めっき業 | 江原 一美 〒144-0033 東京都大田区東糀谷6-3-1 http://www.meiho.com/ | TEL.03-3744-6761 FAX.03-3744-6763 |
| 鈴木 啓之 係長 | メルテックス(株) ・表面処理薬品・装置の製造販売 | 下郡 慎治 〒331-0811 埼玉県さいたま市北区 吉野町2-2-4 http://www.meltex.co.jp/ | TEL.048-665-2107 FAX.048-652-1515 |
| 八幡 義一 | 八幡鍍金工業(株) ・電気めっき業 | 八幡 順一 〒132-0035 江戸川区平井5-20-9 http://yahatamekki.com/ | TEL.03-3617-7707 FAX.03-3617-7709 |
| 塚越 祐介 | ユケン工業(株) ・めっき薬品製造メーカー | 犬塚 昌夫 〒146-0095 大田区多摩川1-18-3 http://www.yuken-ind.co.jp/ | TEL.03-3759-5291 FAX.03-3759-5297 |
| 五十嵐 重男 | (株)渡辺熱理興業 ・設備業 | 渡邊 加寿子 〒123-0864 足立区鹿浜3-29-11 http://www.netsuri.co.jp/ | TEL.03-3899-4612 FAX.03-3897-2618 |
| 報道(4社) | | | |
| 須崎 秀喜 代表者 | スザキ企画 ・報道 | 須崎 秀喜 〒272-0802 千葉県市川市柏井町 2-1419-4 | TEL.047-338-1222 FAX.047-338-1222 |
| 浅川 元伸 | 表面技術ジャーナル社 ・報道 | 浅川 元伸 〒101-0026 千代田区神田佐久間町 河岸70 | TEL.03-3851-0695 FAX.03-3851-0695 |
| 事務局 | 日本鍍金材料協同組合 ・協同組合 | 西山 雅憲 〒103-0025 中央区日本橋茅場町2-13-8 http://www.plama.or.jp/ | TEL.03-3666-2416 FAX.03-3666-3114 |
| 太田 洋平 | 産業通信(株) ・報道 | 中島 新一郎 〒103-0001 中央区日本橋小伝馬町 18-1 | TEL.03-3662-8736 FAX.03-3661-7317 |

日本鍍金協会 設立物語



作 福田 健太朗

昭和23年11月15日
小石川後楽園 涵徳亭——



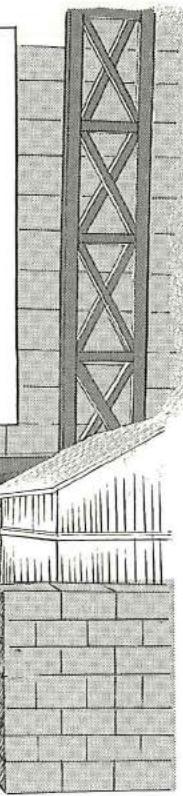
十日会は高浜二郎氏の強い
呼びかけにより、志を同じくする者
十名が会合したのが始まりである。

その結成から十数年——
各地区において様々な
研究団体が誕生し——



独自の活動によって
めつき業界の発展のため
不断の努力が続けられていた。

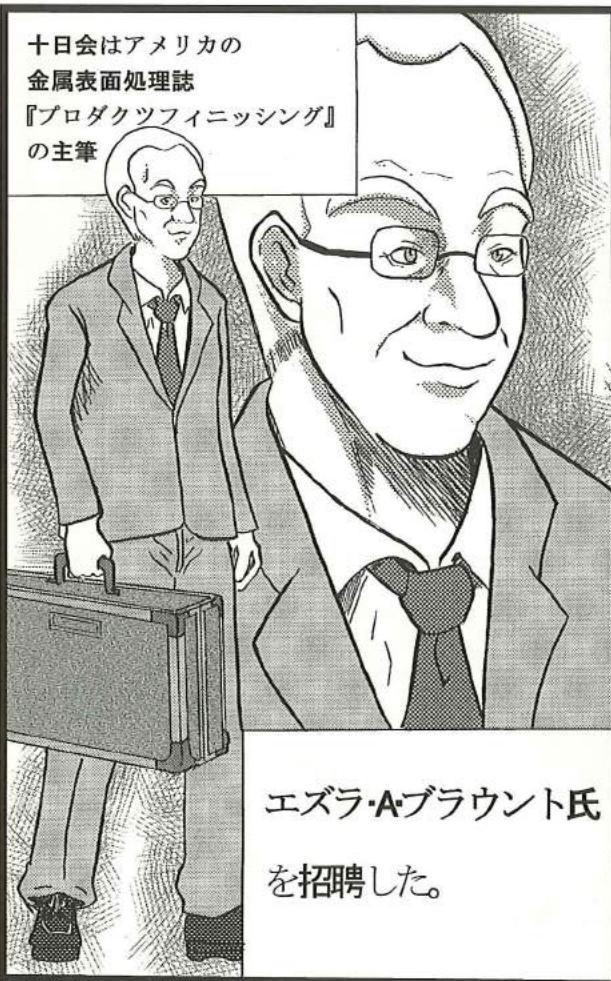
十日会は
大阪の鍛友会、
名古屋の名鍛会
との間で工場見学や
技術交流を行い、
定期的に交歓会を
催していた。



そんな中
昭和35年
8月4日——

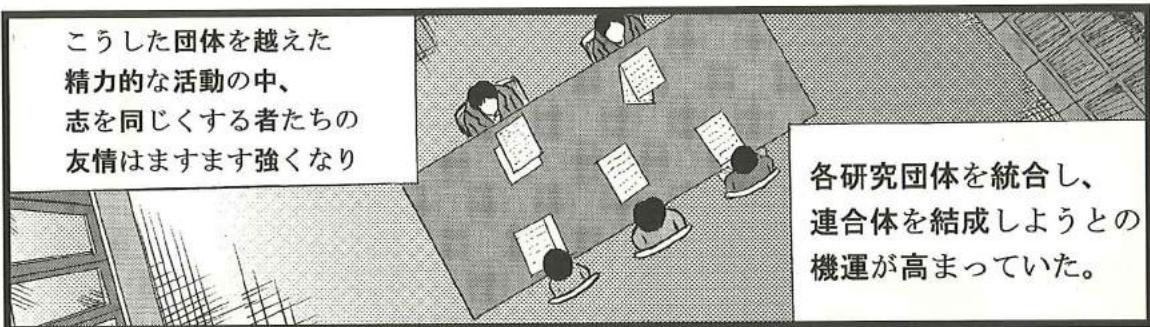


十日会はアメリカの
金属表面処理誌
『プロダクトフィニッシング』
の主筆



東京、大阪、名古屋で
講演会を開催し、





※後に鑑友会と鑑生会が一本化され青研会となる。

そしていよいよ機は熟す。
東京 十日会
大阪 鍍友会
名古屋 名鍍会 の三団体による一



日本鍍金協会(JES)が
結成されたのである。

昭和36年6月25日
名古屋ニューナゴヤホテルで
行われた結成大会——
初代会長には
十日会小嶋政夫氏が就任した。



日本鍍金協会の発足に
あたり協会の道標として
綱領を定め宣言した

私達は良識ある
日本鍍金協会認定大会
日本人の誇りを
以って行動したい

私達は鍍金工業を
通じて日本産業の
興隆に寄与したい

私達は開拓者の
精神を以って業界の
推進力となりたい

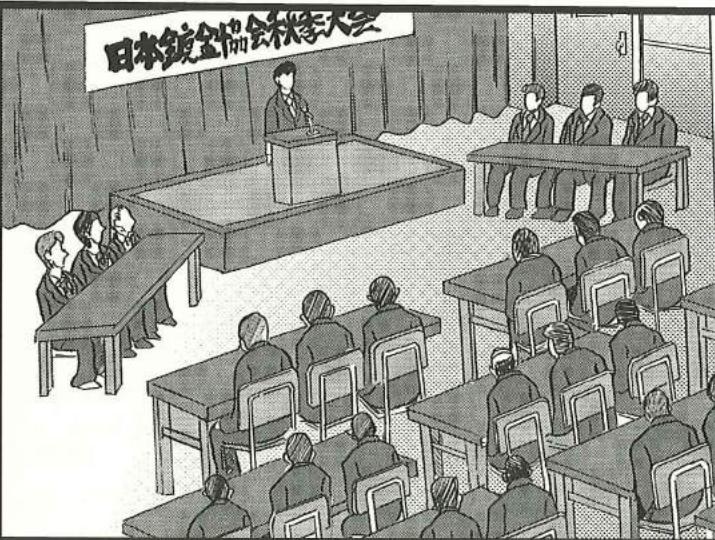
三団体の団結により
活動を開始した
日本鍍金協会――

全鍍連組織を縦糸に例えれば
日本鍍金協会は横糸の組織と言える。
日本めっき業界の組織強化に
貢献している。

毎年、挙行される
年次大会では――

各会の会員家族が
一堂に会し、親睦を深めた。
この試みは業界に先駆けた
ものとして瞠目された。

各会の活発な
活動のもと毎年
年次大会、秋季大会が
開催されている。



2007年6月 合同役員会議
めっき見積もり大会
非鉄金属高騰のおり
めっき単価について徹底討論



日本鍍金協会の
会員から今日のめっき業界を
背負って立つ多くのリーダー
が誕生している。



J.E.S.

日本鍍金協会
Japan Electroplating Society.

日本鍍金協会とは

- 一. 私達は良識ある日本人の誇りを以って行動したい
- 一. 私達は鍍金工業を通じて日本産業の興隆に寄与したい
- 一. 私達は開拓者の精神を以って業界の推進力となりたい

昭和36年6月25日、この綱領を採択して日本鍍金協会が結成された。以来、十日会（東京）・名鍍会（名古屋）・青研会（大阪）、各会の活発な活動をもとに、毎年、年次大会、秋季大会を開催し、研修事業等を実施するとともに親睦を図っている。

十日会（東京）、名鍍会（名古屋）、青研会（大阪）の3会は、地域を越えた同業者同士の深い交流を実現し、50年弱の歴史を刻んでいる。同業者間での情報交換や、業界を盛り上げて行く為の意見交換など貴重な交流を体験出来る会である。



第47回年次大会

◎会員企業数：242社（十日会67社・名鍍会70社・青研会105社）平成20年9月1日現在

◎入会資格：十日会、名鍍会、青研会に所属している事

◎年度行事

- (1) 年次大会：会議（現況報告、事業報告、業界動向）、懇親会、会長引き継ぎ、宿泊、家族同伴可、その他企画
- (2) 合同役員会議：役員引き継ぎ、会議（JES運営、事業報告、現況報告、その他）、懇親会
- (3) 秋季大会：工場見学会、会議（現況報告、事業報告、業界動向）、懇親会、日帰り

*1年毎に幹事会を持ち回り（幹事会よりJES会長選任）

◎国歌齐唱

大会開催時に齊唱する。日本の国歌である「君が代」を歌う機会と言えば、サッカー日本代表戦の時か、JESの大会で歌う事くらいしか無い。現代の多くの日本人で君が代を年間一回でも歌う人は少ない。日本人としての誇りを感じる瞬間であり、気が引き締まる瞬間である。

◎毎年各会持ち回り運営

各会運営幹事が毎年趣向をこらし、開催場所や企画を考える。その企画や行った事の無い場所へ行く事も楽しみの一つである。

◎地域を越えた仲間との交流の素晴らしさ

- 東京、名古屋、大阪と地域を越えた業界人とのリアルな情報交換は他では得られない貴重な情報である。
- 年に2~3回しか会えないのだが会えば真剣に討論したり、酒を酌み交わしながら冗談を言い合ったりできる、そんな仲間達に会えることは楽しみのひとつである。
- 日本鍍金協会に集まる人たちは、人間味溢れる人が多く、活気があり刺激を受ける。

◎金バッジ

日本鍍金協会のバッジであるが、真ん中の赤い石が昔はルビーだったと言われている。しかし、この金バッジを皆で付けていると何の会なのかと聞かれる。確かに派手で目立つバッジであるが、会員は皆誇らしげに堂々と付けている。



JESでの交流について

- 地域の異なる同業者と交流が出来る（情報交換）。
- 協会を通じての工場見学が出来る。
- 工場見学、幹事の交流、宿泊を通じての仲間作り。
- 各会の景況がわかってとても役立ちます。
- 仕事の相談が出来る。
- 自動車以外の業種の現状がわかる。
- 年に3回の会合ですが東京、名古屋、大阪の状況がダイレクトに聞くことができ大変意義があると思います。
- 人づてでなくリアルの東京、名古屋、大阪の情報が大会、合同役員会を通じて得ることができる。
- 同業、異業種の交流。
- 東京、名古屋、大阪の方々との交流は仕事の内容や現状も様々ですがとても興味深く刺激を受けます。お酒の席が盛り上がりると人間味溢れる方々ばかりで楽しい時間が過ごせます。
- 各地域の特色や状況などがわかり大変参考になるし、お互いに切磋琢磨し競い合いながら共に栄えるという感じがして大好き。他の会と合流する前に自らのテンションをあげて改札口を出る！
- 3代にわたりJESとは深い関係にある。初めて参加した三谷温泉の年次大会では何もかも圧倒されましたが、皆さん活気に満ち溢れ誇らしく感じました。
- 違う地域の業界人と交流が持てて大変に面白いと思う。
- 情報交換などについてもざっくばらんに話してくれる。
- 年に2～3回しか会わないのだが会えば真剣に討論したり、酒を酌み交わしながら冗談を言い合ったり、仲間達に会える楽しみのひとつ。
- 地域差を強く感じる反面、どこも一緒だなと感じて安心出来る事もあり、色々な面で視野が広がる交流だと思います。



十日会賞・ 十日会会則

十日会会則

年度別十日会会賞受賞者名簿
十日会賞表彰規程

ゴルフ会リザルト

コラム
(十日会運営について)

十日会会則

(名称及び組織)

- 第1条 本会は十日会と称す。
- 第2条 本会は鍍金業並びに鍍金に関係あるもので組織する。
- 第3条 本会の事務所は東京都文京区湯島1-11-10東京都鍍金工業組合内におく。

(目的及び事業)

- 第4条 本会は会員相互の親睦を基調として鍍金技術、経営技術の研究発達を図り、日本鍍金協会及び関係諸団体と連携し、業界の発展向上を期するを目的とする。
- 第5条 本会は目的を達成するため次の事業を行なう。
1. 技術の研究及び普及
 2. 工場設備の改善並びに経営合理化の研究
 3. 講習会及び講習会の開催
 4. 諸文書の翻訳並びに紹介
 5. 製品展示会の開催
 6. 優良工場の見学
 7. 材料製造工業の見学並びに優良製品
製造の奨励
 8. 技術会員の育成
 9. 会員並びにその家族の吉凶に対する
慶弔
 10. その他本会の目的を達するのに必要な事項

(会員)

- 第6条 本会の会員は正会員、技術会員、名誉会員、特別会員の4種とする。
- 第7条 正会員は鍍金業及び鍍金に関係ある業務を営む企業の経営者、もしくはそれ

に準ずる者とし、正会員は日本鍍金協会の会員となる。

2. 技術会員は会員企業内の技術指導の責任的地位にあるもので、正会員の推薦のあった者とする
3. 名誉会員は特に本会に趣旨に賛同するもので、役員会の推薦によるものとする
4. 特別会員は本会の趣旨に賛同し、本会の活動に積極的助言を与える物で、役員会の推薦のあった者とする

- 第8条 本会に入会しようとする者は、正会員2名以上の紹介により、住所、氏名、生年月日を記入し、入会金壱万円をそえて会長に申し込むものとする。会長は役員会に諮り入会を了承する。

(脱退)

- 第9条 本会を脱会しようとする者は、脱会届を会長に提出するものとする。

(除名)

- 第10条 会員は次の各項に該当する時、役員会の決議により除名されることがある。
1. 本会の事業をさまたげると認められる行ないがあった場合
 2. 会員相互の利益に反するような行ないがあると認められる場合
 3. 3ヶ月以上理由なく欠席し、本会の趣旨に賛同しない者

(休会)

- 第11条 本会を休会しようとする者は、休会理由を明記して、その旨を会長に届け出

ることを要する。

(役員)

第12条 本会に次の役員をおく。

1. 会長 1名
2. 副会長 2名
3. 運営委員 若干名
4. 日本鍍金協会役員 若干名

第13条 会長は最高責任者として、本会を代表し、会務を掌握する。

第14条 副会長1名は会長を補佐し、会長事故ある時はその職務を代行するものとする。
副会長1名は運営委員長として、運営委員を掌握し、本会の運営に当たる。

第15条 運営委員中に涉外、会計、編集担当をおく。

1. 涉外委員は官庁並びに諸団体との交渉連絡を司る
2. 会計委員は本会の財務を司る
3. 編集委員は本会の編集記録として司る

第16条 役員は総会において選挙により選出し、互選を以って担当を決定する。

第17条 役員の任期は4月1日より1ヶ年とし再選を妨げない。補欠者の任期は前任者の任期とする。

第18条 本会に顧問及び相談役をおくことができる。

1. 顧問は業界の長老または技術、経営、経理の専門家及び本会の功労者を委嘱する
2. 相談役は業界の先輩にして有識者を委嘱する

(会議)

第19条 本会の会議は定期総会、臨時総会、月例会、役員会の4種とする。

第20条 定期総会は毎年度終わりに開き、事業報告、決算報告を審査し、役員の改選を行なう。臨時総会は役員会が必要と認めた時に隨時開催するものとする。

第21条 月例会は毎月10日に開く。

第22条 役員会は会長が必要と認めた時に開催する。

第23条 会議は出席会員の半数以上の同意によって決議を行なうものとする。

(財務)

第24条 本会の経費は会費及び寄附金その他の収入を以ってこれにあてる。

第25条 会費は年額4万円也とし、日本鍍金協会年会費6千円を含む。

休会中の会員の会費は正会員の半額を納入するものとする。

納入した入会金及び会費はいかなる事情があっても返還はしない。

第26条 本会の会計年度は毎年3月1日に始まり、翌年2月末日をもって終わる。

第27条 本会則の改正は総会出席会員の半数以上の同意によるものとする。

付則

第28条 本会会則は昭和42年9月11日より施行する。

昭和48年4月10日 会費改正

昭和63年4月11日 会費ほか一部改正

 年度別十日会賞受賞者名簿

| | | |
|-----------|---------|--|
| 1期・昭和47年 | 永井 淑晴 様 | めっき専業工場における排水処理対策に多大な貢献のほか。 |
| 2期・昭和48年 | 持田 有信 様 | 永年の毒劇物取扱者試験準備講習会講師としての功績ほか。 |
| 3期・昭和49年 | 加瀬 敬年 様 | 永年の高等職業訓練校講師としての功績を高く評価。 |
| 4期・昭和50年 | 中村 実 様 | 光沢銅めっき法・濃厚シアン廃液処理法。クローズドリサイクルシステム研究ほか。 |
| 5期・昭和51年 | 古川 茂 様 | 城南処理センター初代所長として濃厚廃液の処理に対する運営管理に専念された功績による。 |
| 6期・昭和52年 | 押切 芳之 様 | 永年の高等職業訓練校講師としての功績を高く評価。 |
| 7期・昭和53年 | 足立 支部 様 | 公害防止の徹底と省資源化を目標とした足立方式、近年のクロム排水のクローズド化。イオン交換再生作業の共同化及び教育映画の編集などの功績による。 |
| 8期・昭和54年 | 江原 猛二 様 | 昭和45年法律改正により排水基準が強化されたとき除害後における排水中のシアン・クロム濃度の正確かつ簡易な測定方法として簡易比色分析器を開発し、東京をはじめ広く全国に普及に図った功績による。 |
| 9期・昭和55年 | 矢部 賢 様 | 電気めっき業における公害源の除害技術を改良しつつ技術開発に努力され組合員に公害防止の重要性と防止意識の高揚に多大なる貢献をされた。 |
| 10期・昭和56年 | 石川 進 様 | めっき業界に公害問題が発生した当初から指導的立場に立ち公害防止技術の開発、普及に尽力された功績。当組合の委員を多年にわたり歴任し後継者の育成に献身的努力された功績ほか。 |
| 11期・昭和57年 | 鈴木 昭一 様 | 職業訓練校、毒劇物講習、各講師、技能検定委員等の役職を永年にわたり在職され、めっき技能向上に多大なる貢献をされた功績による。 |
| 12期・昭和58年 | 横山 一男 様 | 粉じん作業特別教育指導員としての功績、公害防止実態調査に貢献された功績、訓練校講師としてめっき技術向上に多大なる功績をされた功績。 |
| 13期・昭和59年 | 柴 文人 様 | 11年の永きに亘り、技能検定員としてめっき業界の技術振興に寄与された功績ほか。 |
| 14期・昭和60年 | 細井 義一 様 | 技能検定委員及び委員長を務め、めっき技能者の技術水準の向上と人材育成に尽力し、業界の振興に寄与した。また、本部委員、役員等を務め組合の健全な発展と組織運営に寄与した等の功績による。 |
| 15期・昭和61年 | 該当者無し | |
| 16期・昭和62年 | 米倉 茂男 様 | 13年の永きに亘り、東京通産局主催の電気めっき廃水巡回指導の指導員として、業界の無公害化・作業環境改善等に貢献された。また、永年に亘り、組合主催の研修会において、講師を務めるなどの組合の事業運営に積極的に貢献し、電気めっき業界の発展に寄与された功績による。 |
| 17期・昭和63年 | 佐藤 二郎 様 | 永年に亘り、組合役員として業界に貢献。特に教育委員会委員長として、組合員師弟、従業員の人材養成の要である高等職業訓練校の充実に多大の貢献をした功績による。 |

| | | |
|-----------|--------|---|
| 18期・平成1年 | 小橋秀寿様 | 永年に亘り組合役員として業界に貢献。特に環境委員長として、公害防止管理規約の立案、成立等、今日の公害防止事業の基盤を作つた功績による。 |
| 19期・平成2年 | 西原一夫様 | 永年に亘り組合役員として業界に貢献。とりわけ副理事長時代広報委員会を担当、組合事業のPRに尽力され、又、百周年記念誌編集委員長としての功績ほか。 |
| 20期・平成3年 | 下浦岩夫様 | 東京鍍金公害防止協同組合の技術委員会委員として協同組合の技術的な運営に献身的に尽力されたことによる。 |
| 21期・平成4年 | 遠藤雅夫様 | 城南処理センター副所長として公害防止協同組合の事業に協力して、20年にわたる無災害記録の維持に大きく貢献されたことによる。 |
| 22期・平成5年 | 和田勝様 | 城南処理センターのシアン無害化施設の建設における献身的な尽力による。 |
| 23期・平成6年 | 板橋利次様 | 昭和60年から4期にわたり広報委員長として活躍。広報発刊の基盤を作られた功績による。 |
| 24期・平成7年 | 青木正様 | 組合事業所からの有害産業廃棄物の収集運搬業務を無事故で円滑に遂行された事による。 |
| 25期・平成8年 | 瀬田新二様 | 教育委員会副委員長、環境委員会副委員長、環境担当副理事長などを歴任され、組合及び業界発展のため誠意努力され、組合運営に有形、無形の多大な貢献をされた事による。 |
| 26期・平成9年 | 葛飾支部様 | 昭和60年から毎年葛飾区産業展に参加し、地場産業としてのめっき産業を地域住民にPR。また組合常設展示場における趣向を凝らした展示物を具現化された努力と行動力による。 |
| 27期・平成10年 | 川上洋一様 | 永年に亘り技能検定業務を通じてめっき技能者の技術評価を進めた結果、技能者に技能向上の意欲を持たせることになった。また、環境問題では昭和58年以来、所属支部の公害防止自主管理本部長として、事故発生の原因究明、設備改善の指導に加え、技術的指導を当該事業所に与えるなど、地域めっき事業者のレベルアップに尽力されたことによる。 |
| 28期・平成11年 | 太田豊一様 | 永年に亘り技能検定と職業訓練校に尽力し、平成8年には、合併した技能教育委員会を担当し、一貫して訓練校の教育訓練、技術向上に貢献し、訓練校も週3日から週2日へ変更、全鍍連主催のめっき技術コンクールに訓練生全員が参加できるように尽力した。 |
| 29期・平成12年 | 小倉芳夫様 | 情報化事業において組合のホームページ創りをリードするとともに組合員事業所を対象としたホームページ講習会を企画実施して啓発・普及に努めた。また、人材・教育の面では経営・技術の両面から経営者及び中堅技術者層の知識の涵養と意識改革のために有益な講演会を開催。組合員事業の発展と組合運営の指針として受け継がれ、将来にわたって有形・無形の貢献をなすものである。 |
| 30期・平成13年 | 梅本喜四郎様 | 東京都鍍金工業組合向島支部において、支部役員を16年務められ、支部長理事、常任理事として活躍。組合本部においては、旧出資証券と新出資証券の発行に際し、1年有余のご労苦と情熱を重ね、また定期款及び規約等検討委員会委員として、組合定期款作成に大変な尽力を尽くされた功績による。 |

| | | |
|-----------|--------|--|
| 31期・平成14年 | 該当者無し | |
| 32期・平成15年 | 石川進造 様 | 永年に亘り支部運営に多大なる貢献をされ、葛飾区産業展への出展においては展示品の製作やめっき技術の提供・サービスなど並々ならぬ熱意と努力、そして創造性を發揮され、めっき製品のイメージ向上と需要開拓に大きな成果をあげ、支部組合員の厚い信頼を得て名実ともに葛飾支部の強固な基盤を築いた。また、新技術の開発に於いて、困難な問題に直面しながらも着実に成果を上げ、めっき業界の発展・向上に寄与してきたこと。 |
| 33期・平成16年 | 菊池忠男 様 | 昭和58年5月、当該組合理事の要職に就任して以来、今日に至る21年間余、終始、めっき技術の向上に精励・自己研鑽に励み、また、持前の研究心や努力を傾むけ、業界が直面する技術課題に真正面から取り組み、数々の成果を挙げたこと。一方、後進の育成にも、力を注ぎ、技能検定試験での合格率の向上、排水処理技術を担う若手技能者の育成、職業訓練校での、訓練をとおして、業界を支える人材の育成に尽力したこと。 |
| 34期・平成17年 | 該当者無し | |
| 35期・平成18年 | 八幡順一 様 | 平成3年5月、当該組合理事の要職に就任して以来、今日に至る15年間余、終始、めっき技術の向上に精励・自己研鑽に励み、また、持前の研究心や努力を傾むけ、業界が直面する技術課題に真正面から取り組み、数々の成果を挙げたこと。一方、後進の育成にも、力を注ぎ、技能検定試験での合格率の向上、排水処理技術を担う若手技能者の育成、職業訓練校での、訓練をとおして、業界を支える人材の育成に尽力したこと。現在も高等職業訓練校の校長として、引き続き後進の指導に当っていること。 |
| 36期・平成19年 | 石原祥江 様 | 昭和57年より昭和63年、平成3年、平成6年から平成18年までの19年間にわたり、東京都鍍金工業組合高等職業訓練校の講師として教壇に立ち、めっき素地材料・安全衛生の科目を担当してきました。また、実技の授業も担当し、訓練生に実験を通じ様々な技術を指導し、人材育成、教育事業に貢献されました。また、平成13年8月より17年3月までの3年8ヶ月は、東京都鍍金工業組合の技術顧問、組合員の技術相談員として、業界に貢献されてきました。 |
| 37期・平成20年 | 永田一雄 様 | 東京都鍍金工業組合の理事、支部長理事、常任理事として、永年組合運営に貢献され、委員会は広報委員会委員、環境委員会委員を歴任し、現在は環境委員会副委員長として、環境保全に尽力されております。また、東京都鍍金工業組合高等職業訓練校の講師として教壇に立ち、亜鉛めっき・亜鉛合金めっき・後処理を担当して人材育成、教育事業に貢献されてきました。めっき業界だけではなく、関連する団体(表面技術協会や東京鉄錆協同組合、関東鉄錆工業協同組合等)で講師を務め、バレルめっき、亜鉛めっき、3価クローム化成皮膜、環境問題、P R T R法等について講演を行いめっき業界のおかれた状況、めっき技術についての理解と啓蒙をはかり、新しい技術の普及に努めてこられました。 |



東京都鍍金工業組合《十日会賞表彰規程》

(目的)

第1条 日本鍍金協会「十日会」が創立20年事業として、東京都鍍金工業組合（以下「工業組合」と称す）に基金を寄贈して十日会賞を創設、めっき業界の発展、及び業界のイメージ向上等に特別の功績、並びに功労があった団体、又は個人を工業組合総代会に於いて表彰することを目的とする。

(表彰の対象)

第2条 表彰の対象は、下記項目に該当し、十日会賞選考委員会（以下「選考委員会」と称す）で推薦された者を、工業組合理事長が表彰する。

- (1) めっき技術に関する改善、改良に著しく顕著な功績があった者
- (2) 時代の要請に応える新しい技術の開発、又は普及に著しく貢献した者
- (3) 省資源、省力化、省エネルギー、無公害化等、作業環境改善技術の開発、普及に著しく貢献した者
- (4) 1～3項の技術を、業界に普及する努力をし、かつ、その功績が顕著な者
- (5) めっき業界の健全なる発展に寄与し、工業組合、協同組合が行う事業運営に格別の功績があった者

(選考委員会の開催)

第3条 理事長は毎年1月開催の理事会に諮り、十日会賞受賞者選考に関する人事の承認を得て、委員長に受賞候補者の選定を諮問しなければならない。

(委員の総数)

- 第4条 選考委員会は10名以上、13名以内の委員を以って構成したプロジェクト委員会とし、委員の任期は2年間とする。
- 2 任期途中に於いて事故、又は辞任等により委員数が10名以下となった時は委員を補充することができる。
 - 3 補充された委員の任期は前任者の残任

期間とする。

(正副委員長及び委員)

第5条 正副委員長及び委員は次の通り定める。

- 1 委員は十日会、工業組合、学識経験者を以って構成する
 - 1-1 十日会（3）会長、前会長、副会長とする
 - 1-2 工業組合（7）技能教育担当副理事長、技能教育、総財務、広報、環境各担当委員長とする。但し工業組合委員長組織が変更された時は、新組織の委員長とし、7名を超えることができない。
 - 1-3 学識経験者（3）理事長が指名する
- 2 委員長は技能教育担当副理事長とする。但し、工業組合委員会組織が変更された時は、理事長の指名とする
- 3 副委員長は1名とし、技能教育委員長とする。但し、工業組合委員会組織が変更された時は、高等職業訓練校を所管する委員長とする。

(選考委員会の招集、議決)

第6条 選考委員会の招集は、委員長が書面を以て委員に開催の通知をする。

- 2 委員長が事故あるときは、副委員長が委員を招集する。
- 3 委員会の議長は委員長とし、議事は委員の過半数が出席し、議決はその過半数以上の賛成を得て決し、可否同数の時は議長がこれを決する。
- 4 委員長は議事進行に当たり規程項目の運用に疑義を生じた時は、執行部に判断を仰ぐものとする。

(表彰候補者の推薦)

第7条 表彰候補者の推薦は各支部長が本、支部役員及び支部員と協議して若干名の候補者を選考委員会宛に推薦する。但し、支部長は他の支部長に協議して、同一候補者を協同して

選出し推薦することができる。

2 選考委員長は出席委員の過半数の賛成を得て、委員会独自の候補者を選定し表彰候補者として推薦することができる。

(推薦書類)

第8条 表彰候補者を選出し推薦を行う時は、下記の推薦書類を添付して選考委員会宛に提出しなければならない。

- (1) 所属団体の長、又は会社代表者の推薦書
- (2) 所属団体又は会社における役職
- (3) 本人の履歴書又は団体における履歴書
- (4) 本人が行った具体的な業績又は功労
- (5) 所属団体における具体的な業績又は功労
- (6) 表彰に特記したい事項

(受賞者の選出)

第9条 選考委員長は各支部長、又は選考委員会で推薦した表彰候補者の選出理由を各推薦書類に基づき委員に説明し、各委員の意見を聴取すると共に議決により、正副各1名の受賞者を選出する。

2 選考委員長は選出された正受賞者に、受賞の諾否に関する打珍を行い辞退された時は、副受賞者について同様な打珍を行う。

3 正副受賞者共に辞退した時は、速やかに選考委員会を開き、再度候補者の選考を行わなければならない。

4 選考委員会は各支部長から1名の推薦もなく、且つ、委員全員の決議により当期に適切な受賞対象者がいない時は、受賞者の選出は次年度に見送る事ができる。

(次期受賞候補者)

第10条 選考委員長は、委員の過半数の賛成を得て当期受賞者の選に漏れた候補者を、次年度に選考すべき対象者として推薦する事ができる。

(委員の守秘義務)

第11条 委員は受賞者の選出経過、理事長への答申、及び理事会での報告等の事項については承認まで知り得た情報を他に漏らしてはならない。

(表彰の方法)

第12条 被表彰者は毎年1名とし工業組合通常総代会の席上で行い、理事長が賞状及び記念品を贈呈して受賞者の栄誉を称えこれを表彰する。

2 記念品は諸般の事情により、金一封とする事もある。

3 表彰者が事故等により出席できない時は、その家族に贈呈することができる。

(全国鍍金工業組合連合会表彰への推薦)

第13条 理事長は全鍍連が行う表彰候補者として、受賞者を理事会が推薦した時は、全鍍連執行部に表彰候補者として推薦することができる。

2 工業組合選出の全鍍連役員は表彰候補者が受賞する様、関係部門に働き掛けるものとする。

(十日会賞の基金)

第14条 十日会賞の表彰に要する資金は十日会20周年記念資金、及びこの表彰主旨に賛同し寄贈された金員を基金とし、運用益を原資とする。

2 副賞として贈呈する記念品の購入資金、又は金一封の限度額は基金の運用益以内を原則とし、支出限度額は別に定める。

(規程の改廃)

第15条 規程は毎年受賞者の選定が終了し、受賞が確定した時期に選考委員会が各項目の見直しを行い、改廃案を作成して理事会に提案し承認を得て改廃することができる。

(付則)

第16条 昭和54年11月14日 制定施行

十日会表彰内規

1 賞状に記載する文面の原案は事務局にて作成し、選考委員会にて協議し決定する。

2 副賞として贈呈する記念品は、受賞者の意向を打診し、物品又は旅行宿泊券等を贈呈できる様留意する。

但し、委員会の協議により諸般の事情を勘案して現金、又は有価証券を以って副賞とすることができる。

3 副賞の拠出限度額は毎年150,000円程度を目安とする。

十日会 ゴルフ会リザルト ●

| 大会名 | 優勝 | 第2位 | 第3位 | BB | BG |
|------|--------|-------|-------|--------|-------|
| 第1回 | 宮田 栄次郎 | 金田 留雄 | 木下 健治 | 小松 国浩 | 木下 文良 |
| 第2回 | 大沢 秀夫 | 繩田 忠治 | 小林 邦雄 | 八幡 順一 | 大沢 秀夫 |
| 第3回 | 直海 和夫 | 後藤 哲夫 | 仲俣 一三 | 狐塚 保之 | 岩崎 俊男 |
| 第4回 | 大沢 章二 | 直海 和夫 | 中井 久二 | 八幡 順一 | 大沢 章二 |
| 第5回 | 上村 福子 | 今泉 好隆 | 直海 和夫 | 大場 植寅 | 直海 和夫 |
| 第6回 | 小林 邦雄 | 狐塚 保之 | 小松 国浩 | 西矣田 邦夫 | 繩田 敏治 |
| 第7回 | 小松 国浩 | 今泉 好隆 | 中井 久二 | 黒須 吉雄 | 繩田 敏治 |
| 第8回 | 細井 肇 | 伊藤 英正 | 仲俣 一三 | 富田 康祐 | 大沢 章二 |
| 第9回 | 狐塚 保之 | 仲俣 一三 | 直海 和夫 | 長島 紘太郎 | 直海 和夫 |
| 第10回 | 八幡 順一 | 仲俣 一三 | 黒須 吉雄 | 石川 雅一 | 仲俣 一三 |
| 第11回 | 木下 健治 | 近藤 澄男 | 今泉 好隆 | 井上 喜夫 | 近藤 澄男 |
| 第12回 | 中井 久二 | 上村 福子 | 金田 留雄 | 永田 一雄 | 大沢 章二 |
| 第13回 | 近藤 澄男 | 伊藤 英正 | 細井 肇 | 狐塚 保之 | 大沢 章二 |
| 第14回 | 小松 国浩 | 繩田 忠治 | 大沢 章二 | 大沢 秀夫 | 大沢 章二 |
| 第15回 | 上村 福子 | 仲俣 一三 | 繩田 敏治 | 柳下 和彦 | 大沢 章二 |
| 第16回 | 細井 肇 | 小林 邦雄 | 柳下 和彦 | 大場 植寅 | 細井 肇 |
| 第17回 | 小松 国浩 | 繩田 忠治 | 柳下 和彦 | 堀米 清 | 大沢 章二 |
| 第18回 | 遠藤 清孝 | 今泉 好隆 | 保坂 晃一 | 仲俣 一三 | 高倉 利守 |
| 第19回 | 青木 弘 | 今泉 好隆 | 小室 昭進 | 小林 邦雄 | 青木 弘 |
| 第20回 | 清村 進之 | 上村 福子 | 繩田 敏治 | 永田 一雄 | 高倉 利守 |

| 大会名 | 優勝 | 第2位 | 第3位 | BB | BG |
|--------|--------|-------|-------|--------|-------|
| 第 21 回 | 鶴見 文雄 | 繩田 敏治 | 小倉 攻一 | 小室 昭進 | 小倉 攻一 |
| 第 22 回 | 神谷 博行 | 上村 福子 | 小倉 攻一 | 遠藤 清孝 | 小倉 攻一 |
| 第 23 回 | 小室 昭進 | 小林 邦雄 | 黒須 吉雄 | 神谷 博行 | 高倉 利守 |
| 第 24 回 | 太田 真一 | 中村 強 | 台 大五郎 | 岩倉 文明 | 高倉 利守 |
| 第 25 回 | 仲俣 一三 | 竹ヶ原 攻 | 高倉 利守 | 太田 真一 | 高倉 利守 |
| 第 26 回 | 上野 啓司 | 繩田 敏治 | 保坂 晃一 | 小室 昭進 | 繩田 敏治 |
| 第 27 回 | 小林 邦雄 | 八幡 順一 | 上野 啓司 | 小室 昭進 | 小林 邦雄 |
| 第 28 回 | 仲俣 一三 | 内藤 隆夫 | 中井 俊晴 | 小室 昭進 | 仲俣 一三 |
| 第 29 回 | 上野 啓司 | 大村 公二 | 清村 進之 | 堀米 清 | 繩田 敏治 |
| 第 30 回 | 小林 邦雄 | 近藤 澄男 | 繩田 敏治 | 堀米 清 | 高倉 利守 |
| 第 31 回 | 仲俣 一三 | 今泉 好隆 | 小室 昭進 | 長橋 久雄 | 高倉 利守 |
| 第 32 回 | 八幡 順一 | 小松 国浩 | 小林 邦雄 | 山田 英佐夫 | 斎藤 晴久 |
| 第 33 回 | 清村 進之 | 長橋 久雄 | 繩田 敏治 | 石川 雅一 | 繩田 敏治 |
| 第 34 回 | 内藤 隆夫 | 八幡 義一 | 森 克夫 | 山田 英佐夫 | 内藤 隆夫 |
| 第 35 回 | 山田 英佐夫 | 小倉 攻一 | 中川 士郎 | 菊地 利博 | 小倉 攻一 |
| 第 36 回 | 梅田 高広 | 今泉 好隆 | 遠藤 清孝 | 森 克夫 | 小林 邦雄 |
| 第 37 回 | 中川 士郎 | 今泉 勇 | 二木 一郎 | 小室 昭進 | 中川 士郎 |
| 第 38 回 | 山田 英佐夫 | 竹ヶ原 攻 | 小倉 攻一 | 上野 啓司 | 小倉 攻一 |
| 第 39 回 | 二木 一郎 | 大沢 俊孝 | 遠藤 清孝 | 森 克夫 | 大沢 俊孝 |
| 第 40 回 | 遠藤 清孝 | 内藤 隆夫 | 小林 邦雄 | 山田 英佐夫 | 小林 邦雄 |
| 第 41 回 | 二木 一郎 | 斎藤 晴久 | 内藤 隆夫 | 菊地 利博 | 内藤 隆夫 |
| 第 42 回 | 遠藤 清孝 | 上村 福子 | 清村 進之 | 今泉 勇 | 小林 邦雄 |
| 第 43 回 | 小室 昭進 | 笠井 正夫 | 今泉 勇 | 岡田 茂 | 小林 邦雄 |

| 大会名 | 優勝 | 第2位 | 第3位 | BB | BG |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 第 44 回 | 梅田 高広 | 竹ヶ原 攻 | 繩田 敏治 | 齊藤 晴久 | 岡田 茂 |
| 第 45 回 | 大沢 俊孝 | 上野 啓司 | 小島 一浩 | 森 克夫 | 小島 一浩 |
| 第 46 回 | 内田 悅美 | 二木 一郎 | 高倉 利守 | 小室 昭進 | 内田 悅美 |
| 第 47 回 | 清村 進之 | 上村 福子 | 新井 嘉喜雄 | 八幡 順一 | 清村 進之 |
| 第 48 回 | 繩田 敏治 | 小林 邦雄 | 中川 士郎 | 小室 昭進 | 小林 邦雄 |
| 第 49 回 | 池田 憲治 | 山田 英佐夫 | 清村 進之 | 齊藤 晴久 | 清村 進之 |
| 第 50 回 | 内田 悅美 | 岡田 茂 | 中川 士郎 | 仲俣 雅行 | 内田 悅美 |
| 第 51 回 | 遠藤 清孝 | 大沢 俊孝 | 小林 邦雄 | 竹ヶ原 攻 | 遠藤 清孝 |
| 第 52 回 | 繩田 敏治 | 荒井 博 | 太田 罗一 | 国分 大輔 | 繩田 敏治 |
| 第 53 回 | 新井 嘉喜雄 | 繩田 敏治 | 中川 士郎 | 八幡 順一 | 新井 嘉喜雄 |
| 第 54 回 | 齊藤 晴久 | 太田 幸一 | 石川 英孝 | 近藤 澄男 | 新井 嘉喜雄 |
| 第 55 回 | 上野 啓司 | 上市 孝志 | 八幡 義一 | 八幡 順一 | 繩田 敏治 |
| 第 56 回 | 上村 福子 | 池田 憲治 | 石川 英孝 | 石垣 安浩 | 繩田 敏治 |
| 第 57 回 | 新井 嘉喜雄 | 狐塚 保之 | 上村 福子 | 石垣 安浩 | 新井 嘉喜雄 |
| 第 58 回 | 内藤 隆夫 | 石川 英孝 | 山田 英佐夫 | 梅田 伊三夫 | 内藤 隆夫 |
| 第 59 回 | 狐塚 保之 | 梅田 伊三夫 | 山田 英佐夫 | 柴田 徹 | 新井 嘉喜雄 |
| 第 60 回 | 石川 英孝 | 内藤 喜達 | 今泉 勇 | 池田 憲治 | 繩田 敏治 |
| 第 61 回 | 狐塚 保之 | 山田 英佐夫 | 繩田 敏治 | 八幡 順一 | 繩田 敏治 |
| 第 62 回 | 繩田 敏治 | 二木 一郎 | 石川 英孝 | 福井 通人 | 繩田 敏治 |
| 第 63 回 | 太田 幸一 | 清村 進之 | 石川 英孝 | 梅田 伊三夫 | 清村 進之 |
| 第 64 回 | 齊藤 晴久 | 石川 英孝 | 遠藤 清孝 | 上市 孝志 | 石川 英孝 |
| 第 65 回 | 山田 亮 | 新井 嘉喜雄 | 山田 英佐夫 | 福井 通人 | 新井 嘉喜雄 |
| 第 66 回 | 上市 孝志 | 二木 一郎 | 能登 朋有 | 太田 幸一 | 清村 進之 |

現役員の言葉

7

十日会運営について

■十日会創立の精神を今後も守り続ければと思います。

■業界人の有志団体である十日会が60年間もこのように活発に会運営してこれたことは素晴らしいことであり、先輩達が会の伝統を受け継ぎ、後世へ伝えてきた結果だと思います。これも自由に討論する気風があることと協力し合う気風があることだと思っている。

■十日会の中でも一番好きな「報恩」を常に考えて先輩方にそして若手に対し何ができるのかを考えながら運営していきたい。

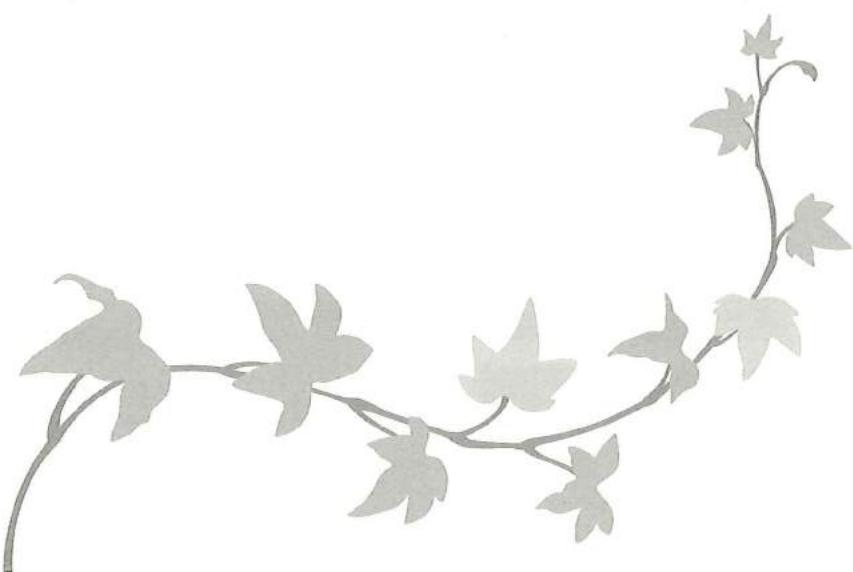
■“いかに各会員企業に生かせる内容にするか”と言うことに尽きると思います。

■役員の人数が不足しているので会員の方に役員として会と関わる時間を長く持てるような形にしていくことも必要なかなと思います。

■微力ながら力になりたいと思っています。

■会員の方々が例会で取り上げて欲しいと思っている事を上手く吸い上げて、会の運営に反映させていくのも一計かと思います。

■それぞれアイデアを持ち合うことで、多岐にわたるテーマを勉強出来ていると思います。



業界
クランペーン

めつき業界 タウンページ

一発検索!
五十音順別



あの仕事、

あ

| | |
|----------------|---------|
| アトテックジャパン 株式会社 | 184 |
| 株式会社 アペックスワールド | 185 |
| 株式会社 上村 | 221 |
| 上村工業 株式会社 | 186 |
| 株式会社 SPF | 216 |
| 荏原ユージライト 株式会社 | 200 |
| 大原研材 株式会社 | 216 |
| 株式会社 オカダテックス | 221 |
| 奥野製薬工業 株式会社 | 178・179 |

か

| | |
|--------------|-----|
| カワハラメタル 株式会社 | 222 |
| 関東金誠 株式会社 | 217 |
| 関東鍍金工業厚生年金基金 | 201 |
| キクヤピーエム 株式会社 | 187 |
| キザイ 株式会社 | 217 |
| 木田精工 株式会社 | 188 |
| 木村鍛研材工業 株式会社 | 222 |
| 株式会社 共和機器製作所 | 189 |
| 小金商事 株式会社 | 190 |
| 近藤耐酸槽 株式会社 | 202 |

さ

| | |
|-----------------|---------|
| 株式会社 三進製作所 | 180・181 |
| 株式会社 三松 | 218 |
| 三明化成 株式会社 | 203 |
| サンライト 株式会社 | 204 |
| 株式会社 島谷技研 | 191 |
| 株式会社 シミズ | 205 |
| 株式会社 スイレイ | 218 |
| 株式会社 関根商店 | 223 |
| 株式会社 セムコーポレーション | 192 |



この仕事は我が社にお任せ!

た

| | |
|--------------|-----|
| 有限会社 大啓ケアー | 223 |
| 株式会社 タイホー | 219 |
| 谷口ヒーターズ 株式会社 | 219 |
| 株式会社 中央製作所 | 199 |
| ティップソール 株式会社 | 193 |
| 株式会社 電測 | 206 |
| 東京鍍金公害防止協同組合 | 207 |
| 東和工機 株式会社 | 208 |

な

| | |
|---------------|-----|
| 内外ハイプラス 株式会社 | 194 |
| 日本電工 株式会社 | 209 |
| 日本表面化学 株式会社 | 210 |
| 日本プラント工業 株式会社 | 211 |
| 株式会社 野坂電機 | 195 |

五十音順別

は

| | |
|----------------|-----|
| 長谷川鍍研資材 株式会社 | 220 |
| 不二ケ三カル 株式会社 | 212 |
| 富士電機工業 株式会社 | 213 |
| 株式会社 フレックスサービス | 224 |

ま

| | |
|-------------|-----|
| 株式会社 マニヤ | 220 |
| ミナモト電機 株式会社 | 196 |
| ミヤマ 株式会社 | 197 |
| 室町金属 株式会社 | 224 |
| 目黒工業 株式会社 | 225 |
| メルテックス 株式会社 | 214 |
| 森幸鍍金材料 株式会社 | 215 |

やわ

| | |
|--------------|---------|
| 株式会社 山本鍍金試験器 | 182・183 |
| ユケン工業 株式会社 | 198 |
| 株式会社 渡辺熱理興業 | 225 |

★十日会を応援する元気な企業が勢ぞろい!

めつき業界 タウンページ



一発検索! 種類別(順不同)

【表面処理薬品】

前処理剤

| | |
|---------------|---------|
| サンライト株式会社 | 204 |
| 奥野製薬工業株式会社 | 178-179 |
| アトテックジャパン株式会社 | 184 |
| 上村工業株式会社 | 186 |
| ティップソール株式会社 | 193 |
| 日本表面化学株式会社 | 210 |
| キザイ株式会社 | 217 |
| 株式会社タイホー | 219 |
| ユケン工業株式会社 | 198 |
| 荏原ユージライト株式会社 | 200 |
| メルテックス株式会社 | 214 |
| 株式会社シミズ | 205 |

めつき薬品・光沢剤・添加剤

| | |
|---------------|---------|
| 奥野製薬工業株式会社 | 178-179 |
| ユケン工業株式会社 | 198 |
| 上村工業株式会社 | 186 |
| 株式会社タイホー | 219 |
| 日本表面化学株式会社 | 210 |
| ティップソール株式会社 | 193 |
| キザイ株式会社 | 217 |
| アトテックジャパン株式会社 | 184 |
| 株式会社シミズ | 205 |
| 荏原ユージライト株式会社 | 200 |
| メルテックス株式会社 | 214 |

種類別
(順不同)



**後処理剤**

| | |
|---------------|---------|
| 奥野製薬工業株式会社 | 178-179 |
| ユケン工業株式会社 | 198 |
| 上村工業株式会社 | 186 |
| 株式会社タイホー | 219 |
| 日本表面化学株式会社 | 210 |
| ティップソール株式会社 | 193 |
| キザイ株式会社 | 217 |
| アトテックジャパン株式会社 | 184 |
| 株式会社シミズ | 205 |
| 荏原ユージライト株式会社 | 200 |
| メルテックス株式会社 | 214 |

めつき材料商社

| | |
|-------------|-----|
| 小金商事株式会社 | 190 |
| キクヤピーエム株式会社 | 187 |
| 不二ケミカル株式会社 | 212 |
| 三明化成株式会社 | 203 |
| 森幸鍍金材料株式会社 | 215 |
| 株式会社上村 | 221 |
| 株式会社関根商店 | 223 |
| 大原研材株式会社 | 216 |
| 株式会社三松 | 218 |
| 室町金属株式会社 | 224 |
| 長谷川鍍研資材株式会社 | 220 |
| 株式会社マニヤ | 220 |
| 関東金誠株式会社 | 217 |
| 木村鍍研材工業株式会社 | 222 |

種類別
(順不同)

【表面処理薬品】

めつき業界 タウンページ



一発検索! 種類別(順不同)

【表面処理設備・機器】

設備

| | |
|--------------|-----|
| 株式会社野坂電機 | 195 |
| 株式会社共和機器製作所 | 189 |
| 株式会社島谷技研 | 191 |
| 木田精工株式会社 | 188 |
| 日本プラント工業株式会社 | 211 |
| 近藤耐酸槽株式会社 | 202 |
| 東和工機株式会社 | 208 |
| 株式会社オカダテックス | 221 |

付帯機器

| | | |
|-----------------|----------------|---------|
| 整流器 | 富士電機工業株式会社 | 213 |
| | 株式会社中央製作所 | 199 |
| ろ過機 | 株式会社三進製作所 | 180-181 |
| | 株式会社アペックスワールド | 185 |
| | 三明化成株式会社 | 203 |
| | 日本電工株式会社 | 209 |
| | キザイ株式会社 | 217 |
| ヒーター・乾燥機・ボイラ | 三ナモト電機株式会社 | 196 |
| | 株式会社共和機器製作所 | 189 |
| | 株式会社渡辺熱理興業 | 225 |
| | 谷口ヒーターズ株式会社 | 219 |
| タンク | 内外ハイグラス株式会社 | 194 |
| | 近藤耐酸槽株式会社 | 202 |
| ポンプ・攪拌器 | 株式会社アペックスワールド | 185 |
| | 株式会社セムコーポレーション | 192 |
| その他(治具) | 目黒工業株式会社 | 225 |
| その他(アンド・チタンケース) | 株式会社SPF | 216 |

排水設備・メンテナンス

| | |
|----------------|---------|
| 株式会社三進製作所 | 180-181 |
| 株式会社セムコーポレーション | 192 |
| 有限会社大啓ケアー | 223 |
| 株式会社スイレイ | 218 |

計測器・分析器・試験器

| | |
|----------------|---------|
| 株式会社山本鍍金試験器 | 182-183 |
| 株式会社アペックスワールド | 185 |
| 株式会社中央製作所 | 199 |
| 株式会社電測 | 206 |
| 株式会社フレックスサービス | 224 |
| 株式会社セムコーポレーション | 192 |

産業廃棄物運搬等

| | |
|--------------|-----|
| ミヤマ株式会社 | 197 |
| 東京鍍金公害防止協同組合 | 207 |
| カワハラメタル株式会社 | 222 |

種類別
(順不同)

【表面処理設備・機器】

【その他】

| | |
|--------------|-----|
| 関東鍍金工業厚生年金基金 | 201 |
|--------------|-----|

世界へ、未来へ躍進する
**技術の
オクノ**

Jump to the world and the future

Outstanding Company, OKUNO

無電解めっき薬品

プリント配線板用処理薬品

プラスチックめっき用処理薬品

金属表面処理薬品

アルミニウム合金用処理薬品

焼き付け用ガラスカラー

無鉛ガラスカラー

精密電子部品材料

OKUNO

奥野製薬工業株式会社

OKUNO CHEMICAL INDUSTRIES CO., LTD.

本社／〒541-0045 大阪市中央区道修町4-7-10 大阪表面処理営業部 TEL(06) 6968-6931 営業所／
URL <http://www.okuno.co.jp> 東京支店 TEL(03) 3912-9244 東北・信州・京浜・浜松・広島・九州
E-mail kaihatsu@okuno.co.jp 名古屋支店 TEL(052) 871-1601 総合技術研究所

環境対応型無電解ニッケルめっき液

鉛・重金属フリー無電解ニッケルめっき液

トップニコロンLF・GEシリーズ

重金属フリーの環境対応型無電解ニッケルめっきです。

用途に応じ3タイプをラインアップ。

ELV、WEEE & RoHS指令に安心して対応できます。

一般用連續使用型無電解ニッケルーリン

製品名

特徴

トップニコロン LP-GE

析出皮膜は退色性、耐薬品性および耐変色性に優れている。

トップニコロン MP-GE

析出皮膜は光沢、レベリングに優れ、浴の老化に伴う光沢低下も少ない。

トップニコロン HP-GE

析出皮膜は熱処理無しで、約700Hvの高硬度が得られている

3価クロム化成処理剤

ESコートシリーズ

環境対応型の亜鉛めっき用3価クロム化成処理剤であり、

各種亜鉛めっき皮膜に適用可能です。

ESコートシリーズでは、淡い～桃色のタイプがあり、外観耐食性が優れています。

白色タイプ（有色クロメート代替）

製品名

特徴

ESコート A

淡い黄色～桃色外観が得られ有色クロメートと同等の退色性

ESコート A-S

ESコートと併用することで耐食性が向上（コロイダルシリカ含有）

ESコート B

黒色タイプ（黒色クロメート代替）

製品名

特徴

ESコートブラック SOP

均一な黒色外観と耐食性が向得られる。

ESコート KT-8

ESコートブラック SOP用仕上げ剤。
光沢外観が得られ耐食性についても向上する。



高性能精密ろ過機 エコエースプラス®

従来モデルを徹底的に改良！

- 糸巻きカートリッジ使用時のろ過性能アップ
- 呼び水タンク大型化で操作性アップ 従来機比1.6倍
- 部品点数削減と部品改良でメンテナンス性アップ
- 従来機比平均23%省スペース化を実現



EAX1型

EAX2型

EAX3型

EAX4型

EAX8型

その他の製品は当社ホームページをご覧ください

URL : <http://www.sanshin-mfg.co.jp>

Performance Eco Ace

設置スペース

例：従来機種EA12型と改良型EAX12型の比較



EAX12型

EAX16型

EAX24型

EAX32型

 Sanshin
MFG.CO.,LTD.

東京支店

tel 03 - 3942 - 0251



めっき 山本鍍金試験器は めっき用試験器・分析器の 専門メーカーです。

ビーカーサイズ～100L程度の各種実験用セットやMEMS・マイクロマシン・半導体・陽極酸化等の先端技術に欠かせない実験装置、その他試作や小規模生産も可能な装置など、様々なニーズに対応しためっき装置をご用意しております。

B-89-01LAK ピーカーKUN



ピーカー使用時のアノード・カソードの固定が自由自在です。電気めっき・無電解めっきに使用できます。1Lピーカー用、2Lピーカー用のそれぞれアクリル製とPP製がございます。

- 1Lピーカー用:B-89-01LAK-01 ピーカーKUN1000(アクリル製)
/B-89-01LAK-02(PP製)
2Lピーカー用:B-89-02LAK-01 ピーカーKUN2000(アクリル製)
/B-89-02LAK-02(PP製)

B-89-CRH ピーカーめっき用縦型揺動装置



"衝撃揺動"と"滑らか揺動"の2タイプを用意。
高さ調節とスピード調整が自由自在です。

- B-89-CRH-M1 ピーカーめっき用縦型揺動装置1型(衝撃揺動)
B-89-CRH-M2 ピーカーめっき用縦型揺動装置2型(滑らか揺動)

B-89-CRH-EL ピーカーめっき用縦型揺動装置



A-55-PCR200 パドルカソードロッカー200

「パドル搅拌装置」「カソードロッカー」どちらの用途にも使用できます。
ピーカーKUNとの相性も◎高さは自由に調整でき、ストロークも4段階調整可能です。

A-55-PCR200 パドルカソードロッカー200

YAMAMOTO-MS

ANALYZER FOR A WIDE RANGE OF PLATING SOLUTIONS

B-72-SG ひずみゲージ式精密応力計

基板のひずみをセンサーによって計測することで、めっき内部応力をリアルタイムに測定します。度の測定で各めっき時間(皮膜厚さ)での応力を測ることが可能です。センサーで得られたデータは電源に接続されたPCIに即座に入力され、煩雑な計算を行わなくとも自動的に応力が算出されます。また一度めっきを施した膜上に再度めっきを行うといった場合でも応力測定を行うことができます。



B-72-SG ひずみゲージ式精密応力計

A-52-ST シリコンウェハ用めっき実験水槽セット

透明アクリル製でオーバーフロー型の水槽です。ミニミニフィルターで常時ろ過を行いながら使用します。標準型のパドルと標準型のシリコンウェハ専用のカートリッジが付属します。標準サイズは2~12inchとなりますがご要望により、ご希望の装置を製作致します。(完全密閉型と非密閉型治具、水平式等がございます)

意匠登録 第1098827号 特許数件取得済み



A-52-ST シリコンウェハ用めっき実験水槽セット

B-76-02 てのりバレル

バレル容量15ml程度の小型バレルです。小型バレルは少量生産に適しており、省スペース化が図れるほか液量も少なく環境に優しいという利点があります。またダミー量も少なく済みます。

バレルは従来のものに加え、色々なサイズを製作しております。



B-76-02 てのりバレル

常設のショールームもございますので、商品を実際ご覧になりながらご案内することも可能です。ご希望の方は下記までご連絡ください。(事前予約制)
特注品も製作も行っております。

株式会社 山本鍍金試験器

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-28-1 (JR代々木駅東口下車徒歩3分)

TEL 03-3352-2475 FAX 03-3350-0775

Web site: <http://www.yamamoto-ms.co.jp> E-mail: info@yamamoto-ms.co.jp



3価クロムめっき トライクロムプラス

特 長

- ・6価クロムを使用しないため、作業環境の改善に繋がります。
- ・0.05~0.2μm/min.のめっき速度が得られ、めっき時間の短縮が計れます。
- ・TCレジンによる連続不純物除去が可能です。
- ・コゲ、かぶり、ホワイトウォッシュの発生がありません。

3価クロムめっきと6価クロムめっきの比較

| | 3価クロムめっき | 6価クロムめっき |
|-----------------------------|---------------|--------------|
| クロム濃度 (g/L) | 20~24 | 75~150 |
| pH | 2.5~3.0 | 1以下 |
| 陰極電流密度 (A/dm ²) | 5~20 | 10~30 |
| 温 度 (°C) | 25~40 | 35~50 |
| 攪 は ん | 空気及び揺動 | — |
| アノード | グラファイト | 鉛-錫合金 |
| めっき速度 (μm/min.) | 0.05~0.2 | 0.1 |
| 最大めっき厚み (μm) | 5以上 | 100以上 |
| 均一電着性 | △ | × |
| つき廻り性 | △ | × |
| 析出構造 | マイクロポーラス | ノンマイクロポーラス |
| 色 調 | 深味金属色 | 青味金属色 |
| 後 处 理(電解クロメート) | 必 要 | 不 要 |
| CASS試験(80時間) | レイティング No.9.5 | レイティング No.10 |
| 大気暴露試験(1年間) | レイティング No.10 | レイティング No.10 |

*CASS試験 (JIS-H-8502)

*大気暴露試験(当社 幸田工場にて)



画期的な 隔膜式圧力計

【両面表示隔膜式圧力計】



表面

側面

裏面

※台湾・韓国特許取得済、日本特許申請中

【特長】

- 両面表示（指示）（※両面仕様のみ）
表と裏から指示部が確認できて、作業性抜群
- 耐蝕性抜群
隔膜ホルダー部、標準HT PVC製
液仕様により、PP製もございます
- コンパクト設計
表示部φ60、隔膜ホルダー部も小型設計
- 既設圧力計の更新が簡単
標準で7通りの接続方式より選択可
- 豊富なオプション仕様
株・ブルドン管材質変更
上・下限接点付
脈動防止虫付、他



片面隔膜式圧力計

※その他各種圧力計、取り揃えております

株式会社アクア・テクノス代理店



株式会社 アペックスワールド

〒341-0035 埼玉県三郷市鷹野4-31-6
TEL 048-955-1131 FAX 048-955-1135

自吸式ろ過器 ケミファイン



【特長】

- レイアウト自由自在
自吸ポンプのため、設置場所を選ばず！
- 抜群の自吸高さを実現
最初の呼び水（約600cc）で自吸高さ2m！
- 超コンパクト設計
従来のフィルタ装置に比べて約1/3のサイズ！
- カートリッジは幅広く対応
標準φ62～φ115まで対応
- 納入時、標準でφ115太巻き型搭載！
- 液垂れしないカートリッジ交換
※水槽よりも高い位置への設置が条件

【用途】

- 研究・開発の実験設備のろ過用に最適
- 試作ラインのろ過用に最適
- 小型生産ラインのろ過用に最適
- 薬品清澄のろ過用に最適

※その他ケミカルポンプ、取り揃えております

株式会社ワールドケミカル
東日本総代理店



Technologies of Uyemura extending to the world

Uyemura Group Companies

- | | |
|--------------------|--|
| • Japan | C.Uyemura & Co., Ltd. Sumix Corporation |
| • USA | Uyemura International Corporation |
| • Hong Kong | Uyemura-Solar Co., Ltd. |
| • Taiwan | Taiwan Uyemura Co., Ltd. Taiwan Uyemura Technology Co., Ltd. |
| • Thailand | Sum Hitech Co., Ltd. |
| • China | Uyemura-Solar (Shenzhen) Co., Ltd. Uyemura (Shanghai) Co., Ltd. |
| • Singapore | Uyemura International (Singapore) Pte., Ltd. |
| • Malaysia | Uyemura (Malaysia) Sdn. Bhd. |

ウエムラは
先端めつき技術を
トータルに提供する
開発提案型企業です。

表面処理技術のリーディングカンパニー

上村工業株式会社

本社 大阪市中央区道修町3-2-6 TEL.06-6202-8871
支社 東京都中央区日本橋大伝馬町12-7 TEL.03-5645-2525
支店 名古屋市西区菊井1-20-11 TEL.052-571-5381
海外 米国・香港・中国・台湾・シンガポール・マレーシア・タイ
<http://www.uyemura.co.jp/>

地球環境への配慮も忘れません

私達一人一人が取り組む重要テーマとして 地球温暖化 オゾン層破壊 酸性雨
といった問題にどのようにかかわれるかを常に考えております

化学製品
工業薬品
試薬

めつき
プリント配線基板用
薬品 機材

アルマイ特
ネームプレート用
薬品 機材

研磨用機材

表面処理用電源装置
公害防止用機器
労働安全用具

貴金属加工用機材
研磨剤 工具
分析 回収

表面処理資材の専門商社

キクヤピーエム株式会社

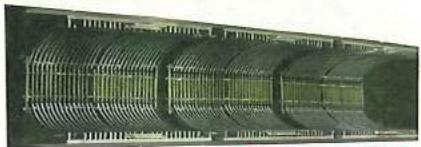
本 社 〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-9
TEL:03-3832-6281 FAX:03-3832-1607
IP 050-3161-9220(KDDI)

配達センター 〒123-0858 東京都足立区本木西町7-8
TEL:03-3890-5748 FAX:03-3890-5786
IP 050-3161-9284(KDDI)

E-mail office@kikuyapm.co.jp
Home Page <http://www.kikuyapm.co.jp>

木田精工は亜鉛めっき装置、ジンケート浴の常識を変えたクロムフリー対応高速亜鉛めっき技術・ジンガープロセスでめっき業界を革新します。

KQPアノード



特許取得済

溶解槽



特許取得済

めっき薬品管理システム

めっき薬品管理システムは、ジンケート浴での亜鉛、苛性ソーダの濃度管理、濃度調整作業を自動的に行うことが可能です。また光沢剤などの薬品補給も自動的に行えます。従来は人手で非常に手間のかかったこれらの作業が全て自動化され作業員の負担を劇的に軽減します。

●特 徴

★苛性ソーダ専用補給装置

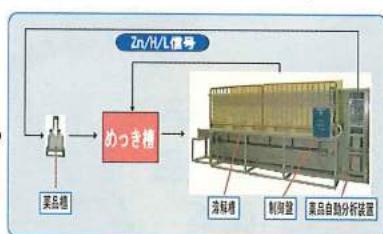
薬品自動分析装置にて濃度管理を行いジンケート浴に必要な苛性ソーダの補給を自動的に行います。

★亜鉛濃度自動調整

薬品自動分析装置にて濃度管理を行い、亜鉛濃度もリアルタイムに自動的に調整されます。

★安定品質

濃度管理、薬品補給が全て自動化されたので安定した処理を行うことが可能です。



スタッドバレル

スタッドバレルは従来バレルと比べてコストパフォーマンスに非常に優れています。またメンテナンス時間短縮や環境負荷軽減などこれまでのバレルでは類を見ない画期的なものです。21世紀のエコ経営、地球環境にやさしい時代のニーズを極めた商品です。



特許出願中

●特 徴

★薬品の持ち出し量半減

開口率40%の微細スリットにより循環効率が向上し従来のバレルと比べて薬品持ち出し量を半分に削減。

★耐熱温度向上

従来のバレルはPVC素材であったために60°C以上のメッキ温度では溶解する問題がありました。スタッドバレルはPP素材なので90~100°Cまでのメッキ温度でも可能。

★バレルメンテナンス費用・期間削減

従来バレルでは一部破損した場合には溶接などのメンテナンス手間がかかっていましたがスタッドバレルは薄いスタッドパネルが多積層されているので低価格、短期間でメンテナンス可能です。



KIDA
KIDASEIKO CO., LTD.

木田精工株式会社

KIDASEIKO CO., LTD.

<http://www.kidaseiko.co.jp/>

【お問合せ】

〒579-8025 大阪府東大阪市宝町13-26

TEL (072) 982-4636 FAX (072) 982-4637

E-mail: info@kidaseiko.co.jp

共和のメッキ機器 スーパーシリーズ

極少ロット用・実験用 超小型メッキ装置 (スーパーマイクロシリーズ)

最近のメッキ装置の需要の中で一番多いのが、極少ロットや実験用へ対するものです。共和では、汎用メッキ装置で得たノウハウをそのまま応用した超小型メッキ装置を販売しています。小さいが機能は本格的。ミニバーレル、卓上振動式メッキ装置、ミニ乾燥機等充実したラインナップを揃えています。従来の自動メッキラインや汎用手動メッキ装置で蓄積したメッキ条件を活用でき、また逆に、この極少ロット用・実験用超小型メッキ装置で得たデータを自動メッキラインへ活用できます。只の実験用装置では終わらせません。



スーパーバレル 共和のバーレルは何種類もの超精密工作機械で作られます。メッキ効率の高いこと、蓋にはさらなること、極小製品が内面に付着したり引っかかったりしないこと、曲がりやすく折れやすい部品でも一切変形しないこと、メッキ液の更新に優れていること、内部の攪拌効率に優れていること、まんべんなく均一に通電すること、アミの張替えが容易であること等、当たり前のことですが実際に現場でできていますか。共和のバーレルなら大丈夫です！数多くの特許やノウハウが活きています。高付加価値・高品質を体験してください。

搅拌抜群！均一メッキ厚！
共和BFバタフライ偏芯型バーレル

振動装置 スーパープレーティー



| | 単槽型（連槽タイプは別仕様） | 2連槽型 |
|-----------|-------------------------------------|-----------------------------|
| 本体 | 特殊ロッカーボルブ（3相200V 0.2kW） | |
| 制御盤 | ロッカーボルブ用インバーター / ろ過槽on/off / 温調デジタル | |
| タンク | FRP製500Wx600Lx550H（容量120L） | FRP製500Wx1210Lx550H（容量240L） |
| 除湿ブローバー基板 | 特製CU/FB10x30 スライド型 | |
| 昇降ブローバー基板 | CU/FB製ブローバー 10x30 スライド型 | |
| アノードケース | 水中チタンケース / PVC製特殊配管用特製ケース（各種オプション） | |
| ろ過槽 | 特殊吸引方式 / 噴流搅拌 / 活性炭チャッパー（オプション） | |
| 加热・冷却 | オプション | |

スーパープレーティー独自の振動ストロークとインバーター制御による可変スピードコントロールとの調和が、バーレル内部のメッキ製品をダイレクトに刺激します。バーレル内攪拌の効率化、メッキ厚の均一化、メッキ時間の短縮化はもちろん、例えば、リッド、パッケージ部品、極小チップ部品、極細線材、変形もの、重なり製品、極小ボール、キャップ部品等…可能性は無限です。また、効率的なイオン拡散による陽極溶解度の促進や、陽極スライム除去等により生産効率の向上し、またメッキ液のスローライングパワーの向上により、メッキの高速化・緻密な層状析出・均一電着性が更に上がってきます。併せてメッキ液のミキシング効果で、温度分布の均一化等により、空中ミストの減少もたいへん注目されています。



極小製品対応！！
共和ビス止め張替式アミ張りバーレル



乾燥機 スーパードライヤー

変形シミなし、溶剤不要、超高速乾燥！

- ◇超高速・超風量により水気を一気に吹き飛ばし、シミの発生を抑制します。
- ◇乾燥製品は静止したまま！ チップ ningなし。変形、欠け、傷つき一切なし！
- ◇極小微細部品も飛散しません。
- ◇リッド製品、パッケージ製品、極小チップ部品、板形状、極細線材、重なりもの、変形もの等の製品に特に威力を発揮します。

| 型式 | | 101型 |
|--------|------------|--|
| 寸法 | 本体寸法 | W800 × D1200 × H1760 |
| | 乾燥室寸法 | W320 × D345 × H30 |
| プロア | | 5.5 kW |
| 加熱 | 電気仕様 | 16.0 kW |
| | 蒸気熱仕様 | 55kgf/cm ² (4MPa) ヒーター2.0 kW相当 |
| 制御方式 | | タッチパネル/ゲート/2段温調による統合制御方式 |
| 運転モード | ①強制予備冷風モード | 設定/非設定の選択可 |
| | ②本乾燥モード | 時間/温度の任意設定 |
| | ③結露防止モード | 時間/温度の任意設定 |
| 標準乾燥時間 | | 2分～5分(60°C) |



製造 株式会社 共和機器製作所

販売 映光精機株式会社

〒334-0012 埼玉県鳩ヶ谷市八幡木2-15-15

ホームページ www.kyowa1970.jp TEL 048-281-6940
メールアドレス info@kyowa1970.jp FAX 048-285-2093



小金商事株式会社

メッキ材料・非鉄金属・工業薬品

〒125-0035
東京都葛飾区南水元4丁目22番7号
TEL : 03-3600-0251
FAX : 03-3600-0610
E-mail : kogane@oregano.ocn.ne.jp

テラ（地球）に優しく!
テラを綺麗に!



環境問題に誠実に向合い
取組む企業です。



<http://www.koganeshoji.co.jp>

取扱製品

- 金属表面処理関連《脱脂剤、洗浄剤など》
- アルカリ銅メッキ関連
- 酸性銅メッキ関連《含焼銅ボール、添加剤など》
- クロムメッキ関連《液体アンカー、無水クロム酸など》
- 研磨砥石関連《ロール研磨、シリンダー研磨など》
- 加工関連《チタン》
- 一般薬品関連《排水薬品、一般試薬など》
- 装置・設備関連《メッキ設備、FRP工事など》
- 排水及び環境設備関連《イオン交換システムなど》
- その他《濾過機、カートリッジなど》



メッキ用銅ボール



特殊型チタンバスケット



チタン白金電極板



メッキ槽FRP張替工事(施行例)



1978年創業以来、当社は金属表面処理装置の設計製作を専門に行ってきました。

当社は、設計部門、製造部門、制御部門を社内に配備することで、製作すべき装置に対して一貫した生産体制を築き、良いものをより安くご提供してまいりました。

様々な形で培ってきたノウハウが詰まった当社製品を使用いただければ、きっと納得いただけるはずです。ぜひ一度、島谷技研でめっき装置を作ってみて下さい。

営業品目

●電解めっき装置

- チップコンデンサー：パレル式 Ni-Snめっき装置
- リードフレーム：フープ式 Ni-Auめっき装置
- プリント配線板：ラック式 Ni-Auめっき装置
- その他機械部品：装飾めっき、機能めっき用装置

●無電解めっき装置

●めっき実験装置

- ブース型手動ライン
- オーダーメイドめっきユニット

●電着塗装装置

●化成処理装置

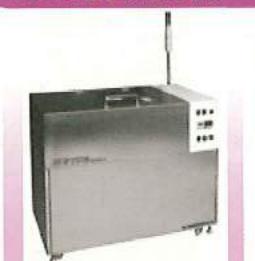
●前・後処理装置

●その他表面処理装置全般

ラック式 自動電解めっき装置
—水切乾燥インライン型—



めっき装置関連製品



B.D.D.吸引乾燥装置

処理カゴ内のワーク間に熱風を通過させる原理により、微細工業部品をすばやく乾燥。急速に乾燥させるのでしみが残りにくく、静止状態で乾燥させてるので傷やひび割れが全く無い。



V.D.真空乾燥装置

通常の乾燥では熱風が届かない複雑な形状の部品も、真空域における沸点降下の原理により乾燥させる。また、アルミダイカスト製品のマイクロクラック内部に浸透した水分も完全除去。



D.D.水切乾燥装置

プリント配線板、平板形状物の乾燥に最適。液面を降下させることにより、ウォーターマークを徹底追放。蒸発水分量を限りなく最小に抑えることで、サイクルタイムの短縮、省エネルギー消費を実現。



ドラフトチャンバー

機能別、大小さまざまな形態のドラフトチャンバーを提供いたします。また、希望スペックに沿ったカスタムメイド品も製作可能。

株式会社 島谷技研

| | | | |
|-------------|---|-------------------|-------------------|
| 本 社 | 〒581-0014 大阪府八尾市中田4-128-1 | TEL.(072)924-2796 | FAX.(072)924-2797 |
| 東大阪T/C | 〒577-0035 大阪府東大阪市御厨中1-17-22 | TEL.(06)6782-6601 | FAX.(06)6782-6602 |
| e-mail | shimatani@shimatani.com.jp | | |
| H.P.address | http://www.shimatani.com.jp | | |

カタログご請求はお気軽に！！

水と生きる

水は私たち生命あるものが生きていくうえで欠かせないものです。

私たちの生命線でもある「水」の環境をよりよくし、そして次世代につなげていくために、

私たちの挑戦は止むことはありません。

21世紀の環境に配慮した「環境関連企業」として、水処理分野や理化学、先進農業分野まで幅広く各専門分野で

高度な技術を持つ、内外のメーカーと提携し、幅広い企業活動を行っています。

私たちセムコーポレーションは、長年の経験と実績を生かし、

水環境から派生するさまざまな環境に配慮した取り組みを行っていきます。



地球上の水環境を守る、21世紀型環境企業。それがセムコーポレーションです。

CEMCO 株式会社セムコーポレーション

本社：〒113-8638 東京都文京区本駒込1-10-25 Tel.03(3946)3335(代) Fax.03(3946)0675(代)

東京営業部：〒112-0001 東京都文京区白山5-36-9-7F Tel.03(3946)3033(代) Fax.03(5840)6701

東京支店：〒112-0001 東京都文京区白山5-36-9-7F Tel.03(3946)3201(代) Fax.03(5840)6701

大阪営業所：〒530-0045 大阪府大阪市北区天神西町5-17-701 Tel.06(6367)0377(代) Fax.06(6367)0740

長野営業所：〒394-0085 長野県岡谷市長地小萩3-10-25 Tel.0266(28)8101(代) Fax.0266(28)8107

北陸営業所：〒326-0822 栃木県足利市田中町932-7-205 Tel.0284(72)2610(代) Fax.0284(72)2620

台湾：〒111 台湾台北市士林区忠誠路二段56號3F Tel.02(2836)8603(代) Fax.02(2832)1148

上海：〒200042 上海市余姚路288号A棟206 Tel.21(6231)7631(代) Fax.21(6230)9736

<http://www.cemco.jp>





○前処理剤／めつき薬品・光沢剤・添加剤／後処理剤

技術と経験と
知識で
地球環境を守る
会社でありたい

Challenge!

No.1 Dipping Solution for Metal Surface Finishing in the world

ディップソール株式会社

〒104-0061 東京都中央区銀座1-3-9 TEL 03-3535-3150(代表)FAX 03-3535-3161
<http://www.dipsol-jp.com>

FRPの総合メーカー

耐水 耐酸 耐アルカリ 耐クロム 耐溶剤

FRPは他の耐蝕材料に比べて、耐蝕性能が高く
さらに、軽い、強いなどの特徴を備えております。
各種、用途に合わせて幅広く利用されております。



取扱品目

ハイグラスタンク

鍍金槽 アルマイト槽 薬品貯槽 排水処理槽
貯水槽 活魚槽

ハイグラスライニング

鉄 コンクリート PVC ゴム ステンレス

FRP製耐蝕機器

スクラバー 脱臭塔 グレーチング 洗浄塔

屋上 ベランダ 各種防水工事

創業50年の信頼と実績

内外ハイグラス株式会社

本社 〒 101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-6-17

Tel 03-3256-4055 Fax 03-3256-4063

千葉工場 〒 283-0114 千葉県山武郡九十九里町真亀861

Tel 0475-76-9331 Fax 0475-76-9338

URL <http://www.naigai-hg.com>

E-mail chiba-factory@naigai-hg.com

豊富なソフトと頑丈なハードで 日本のものづくりを力強く支え続けます。

ものづくりはハードからソフトの時代へ。

野坂電機は貴重な資源の回収再利用も視野に入れた表面処理のトータルシステムプランナーとして、日本のものづくりを力強く支え続けます。

環境と資源。これからの製造業では二つのエコをめざす経営が不可欠です。野坂電機は圧力透析装置を中心機器として、めっき工場の環境対策と資源回収利用に有効なシステムを提案致します。



圧力透析装置



全自動めっき装置(オペレット HR 型)



ST.NOSAKA(タイ)



本社工場(東京・京浜島)



NOSAKA ASIA(タイ)



株式会社野坂電機

URL: <http://www.nosaka.co.jp>

〒143-0003 東京都大田区京浜島 2-2-2 電03-3790-1531 Fax03-3790-0024

海外製造拠点: NOSAKA ASIA Co.,Ltd.(タイ) ST.NOSAKA Co.,Ltd.(タイ)

信頼の技術。ミナモトのヒーターと乾燥機

◇ヒーター

- 耐酸石英ヒーター
- 耐アルカリヒーター
- ステンレスヒーター
- チタンヒーター
- カーボンヒーター
- テフロンヒーター

◇機械器具

- 自動温度調節器
- 熱風循環式乾燥機
- ベーキング炉
- 熱風発生器



MINAMOTO ELECTRIC CO., LTD.

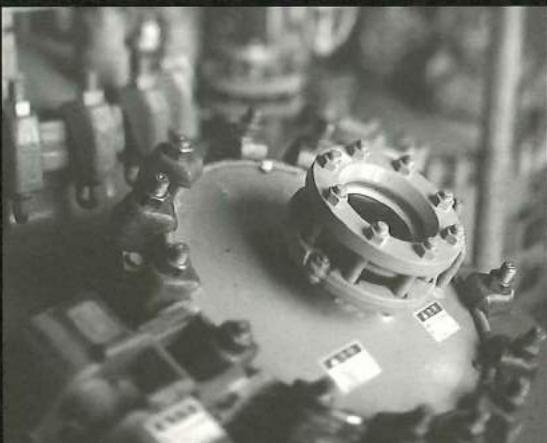
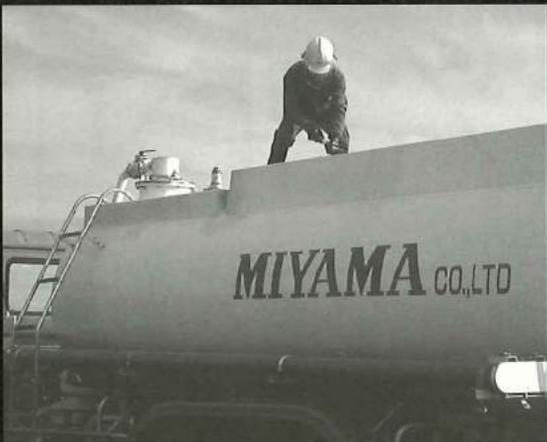
〒124-0025 東京都葛飾区西新小岩 3-14-21

TEL 03-5671-3710

ミナモト電機株式会社



提供するのは環境技術。



- RoHS対応分析
- 原因究明分析（製品の不具合原因、職場環境、工場周辺環境の改善相談）
- 作業環境測定（特化物、有機溶剤、粉じん等）
- 産業廃棄物の収集運搬・処分・減量化
- 再資源化（酸・金属資源の回収・再生、各種有価物のリサイクル）
- イオン交換樹脂の交換・再生
- 土壤・地下水の調査分析・浄化
- 工場・設備の洗浄・解体・処理・浄化

総合環境企業

ミヤマ株式会社

■本社／〒381-2283 長野市丹波島一丁目1番12号 TEL.026(285)4166

ホームページアドレス <http://miyama.net/> E-mailアドレス koho@miyama.net

■東京営業所／〒144-0034 大田区西糀谷3丁目20番4号米山第2ビル1F TEL.03(3745)1152

表面処理のパイオニア

YUKEN

人に、地球に優しい製品づくりをめざします

パワナ®

各種洗浄剤

金属表面処理全般の前処理工程に使用される脱脂剤です。金属表面に付着している油・酸化物などの汚れを取り除きます。

メタス®

各種表面処理剤

亜鉛めっき光沢剤及びクロメート剤の他、高品質を有した各種機能めっき光沢剤等により、あらゆるお客様のニーズにお応えします。

各環境規制への対応

- ◆亜鉛系めっき用 各種3価クロム化成処理
- ◆各種鉛フリーめっきプロセス



ユケン工業株式会社

本社・工場・技術センター 〒448-8511 愛知県刈谷市野田町場割50番地
TEL: 0566-21-7311(代)
FAX: 0566-24-7622 http://www.yuken-ind.co.jp

営業所

- 東京 ☎ 03-3759-5291
- 東北 ☎ 0197-61-3077
- 北関東 ☎ 048-524-2722
- 神奈川 ☎ 0466-45-0671
- 静岡 ☎ 053-453-1421
- 名古屋 ☎ 052-625-4881
- 大阪 ☎ 06-6974-5600
- 広島 ☎ 082-509-3443
- 九州 ☎ 093-644-8808

Hii-VERTORO

DC-DC コンバータ方式



耐環境性に優れたプラスチック成型
リモコンボックスの採用と多機能な
制御を標準装備し、多製品の表面処理
に使用できる高力率・省電力を実現し
た直流電源装置です。

HVS4E型



Power Master

DC-DC コンバータ方式



PMD1型…多機能型 (12V 200A)



PMP2型…パルス同期型 (12V 200A)



PME1型…ボリューム型 (12V 200A)



PMS1型…シンプル型 (12V 5A)

電子部品の機能めっき・貴金属めっき・実験研究などに使用できる多機能で
高性能な小型直流電源装置です。

株式会社 中央製作所

URL <http://www.chuo-seisakusho.co.jp/>

本社・工場 〒467-8563 名古屋市瑞穂区内浜町 24 番 1 号

TEL052-821-6110 (代) FAX052-821-9154

東京支店 TEL03-3788-1571 (代) FAX03-3788-5481

大阪支店 TEL06-6966-0600 (代) FAX06-6966-0603



常に技術の最先端へ

荏原ユージライトの表面処理技術は、
グローバルな技術の発展と環境の未来のために
進化を続けます。

Global Technology

<http://www.eu.ebara.com/>

〒110-0016 東京都台東区台東4-19-9 山口ビル7 TEL.03-3833-0321 FAX.03-3833-5075

荏原ユージライト株式会社

〈国内〉本社営業部、大阪支店、名古屋支店、高崎支店、浜松営業所、九州営業所、海外業務統括部

〈海外〉中国、台湾、韓国、タイ、ベトナム、メキシコ

いま、時代は[企業年金]です。 [厚生年金基金]です。

関東鍍金工業厚生年金基金——事業の安定に！社員の福祉に！

加入員 (にとってのメリット)

事業主 (にとってのメリット)

年金額が多くなり、受給条件が有利になる

退職金の標準化によって、経営の安定化をはかれる

自分の生活設計に応じた給付を受けることが可能になる

税制上の優遇措置を受けることができる

社外積立ての効果がありしかも積立金の安全性が確保される

従業員の福利厚生の充実で優秀な人材が集まる

基金の実施する福祉施設事業を利用することができます

会社のイメージの向上にやくだつ

「厚生年金基金」には、
かずかずの特典があります。

生涯の生活設計は[3本の柱]で

国の年金
厚生年金・国民年金など

企業年金
厚生年金基金など

自助努力
個人貯蓄など

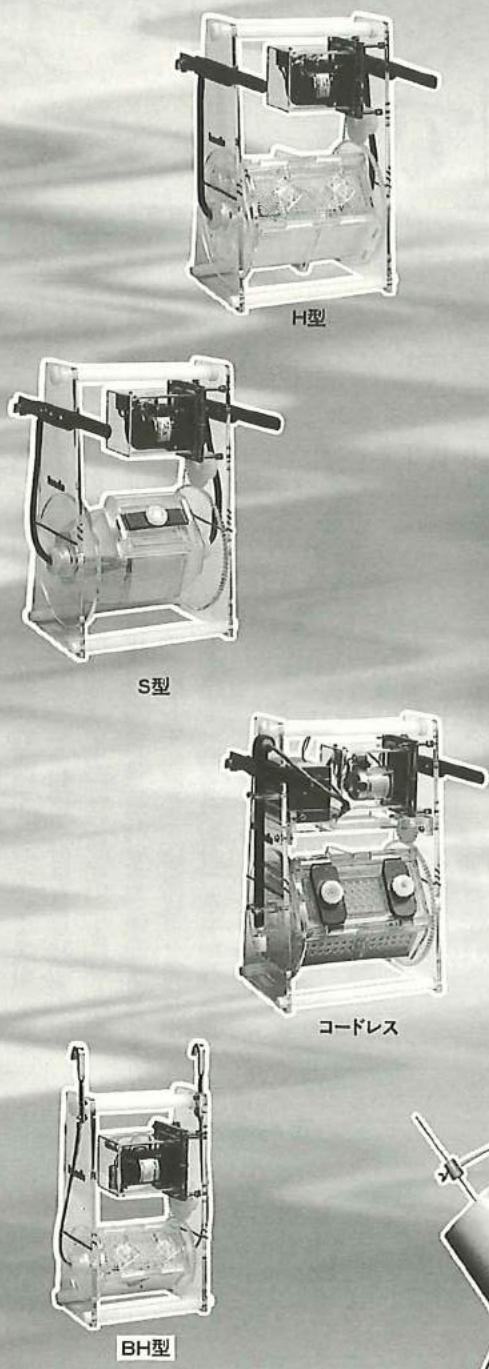
人生80年時代、年金制度の充実は国民的課題となっていますが、企業もまた、就業年齢の高齢化＝退職金・年金問題への早急な対応を迫られています。その解決策として、「企業年金」への期待がいまほど高まっているときはありません。「厚生年金基金」は、公的年金を補完する企業年金の中核的存在、いわば車の両輪です。厚生大臣の認可を得て設立、国の年金にプラスアルファした年金や一時金の給付、独自の福祉事業を実施しています。



■メッキ基金へのお問合せ・加入お申し込みは――☎03(3814)2736／東京都文京区湯島1-11-10――へ

kondo

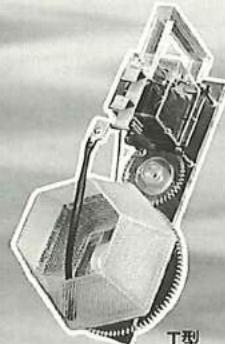
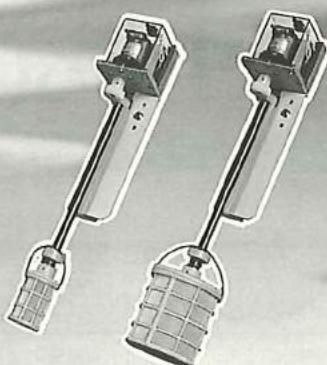
ポータブルバレルめっき装置 コンプレーター Series



用途に合わせてお選び下さい。

あらゆる形状の部品のめっき作業が効率良く行なえます

オビリークバスケット



吊下げ型

営業品目

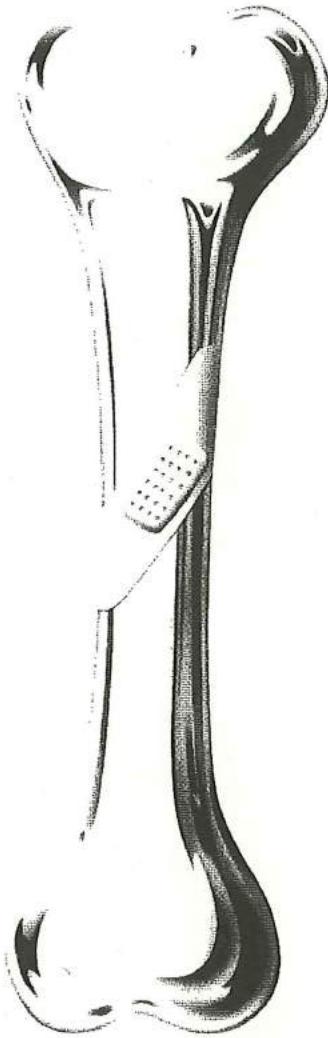
- 表面処理設備一式
- 自動めっき設備
- 電鋳装置
- 帶線状自動めっき装置
- ステンレス・鉛・塩ビ・アクリル・FRP・PP・ゴム加工工事
- 自動回転めっき装置
- コンプレイション洗浄機各種
- ダクト工事
- プリント基板処理装置

kondo 近藤耐酸槽株式会社

本社 〒116-0014 東京都荒川区東日暮里1-11-5 ☎03-3806-1711㈹
工場 〒270-2231 千葉県松戸市稔台6-8-11 ☎0473-62-0288㈹



メッキだって歳をとる。
だから：



SIFCO SELECTIVE PLATING セレクトロン・プロセス

メッキ槽を使わずに「その場」で、補修などの高度かつ緻密なメッキ作業が行なえる「セレクトロン・プロセス」。船舶・航空機の補修から金型の補修やプリント基盤端子の金メッキまで、広範な用途に使用できる、部分電気メッキ法の最新鋭です。

 三明化成株式会社

本社 〒141-8615 東京都品川区西五反田1-21-7 TEL 03-3490-3031

川崎本社(本社営業部) ☎044-333-3031 URL <http://www.sunmay.co.jp>

相模原営業所 ☎042-757-0111 北関東営業所 ☎0276-75-3031

岩手営業所 ☎0197-22-5351 山梨営業所 ☎0551-25-4331

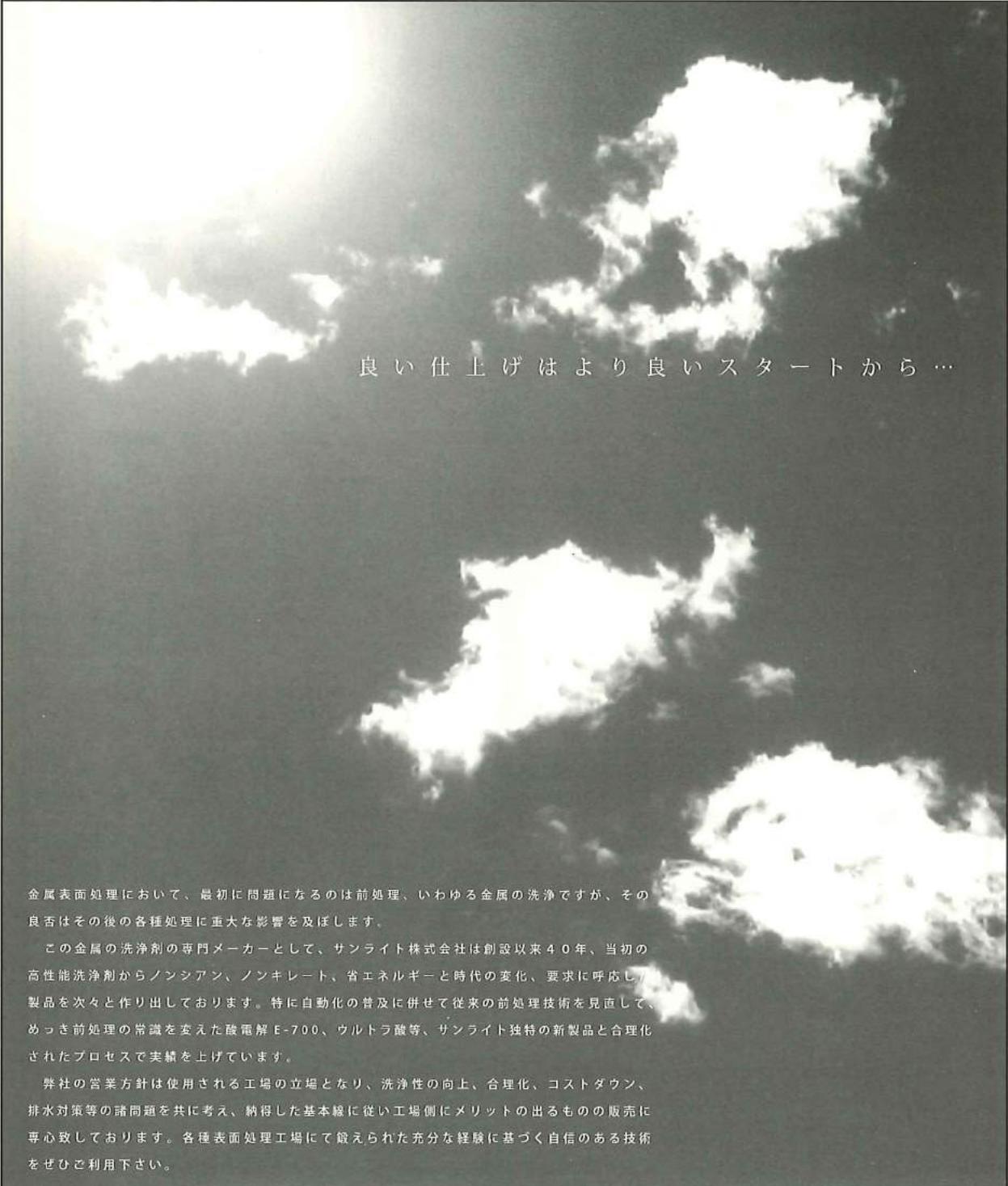
福島営業所 ☎024-557-8666 西日本営業所 ☎058-392-1323

〈海外現地法人〉

三明国際有限公司(香港) 852-2412-2882

THAI SANMEI Co.,LTD(タイ) 66-2238-4660

三明(広州)商貿有限公司(中国広東省) 86-20-8752-1980



良い仕上げはより良いスタートから…

金属表面処理において、最初に問題になるのは前処理、いわゆる金属の洗浄ですが、その良否はその後の各種処理に重大な影響を及ぼします。

この金属の洗浄剤の専門メーカーとして、サンライト株式会社は創設以来40年、当初の高性能洗浄剤からノンシアン、ノンキレート、省エネルギーと時代の変化、要求に呼応し、製品を次々と作り出しております。特に自動化の普及に併せて従来の前処理技術を見直して、めっき前処理の常識を変えた酸電解E-700、ウルトラ酸等、サンライト独特の新製品と合理化されたプロセスで実績を上げています。

弊社の営業方針は使用される工場の立場となり、洗浄性の向上、合理化、コストダウン、排水対策等の諸問題を共に考え、納得した基本線に従い工場側にメリットの出るもの販売に専心致しております。各種表面処理工場にて鍛えられた充分な経験に基づく自信のある技術をぜひご利用下さい。

—— 時を追つて益々好評・真価を發揮する ——

予備酸洗を省略
酸電解 E-700 シリーズ

フロン・エタン代替洗浄剤
ソーパー DX・ソーパー K

1液でニッケルを剥離!
サンストリップ N-400



サンライト株式会社

本社 〒335-0005 埼玉県蕨市鈴町1-13-12 TEL 048-442-3810
名古屋営業所 〒452-0802 名古屋市西区比良2-301 TEL 052-503-3320

低VOC & 鉛フリー

E L E C O C O A T

カラー電着塗装プロセス 新規意匠性にカラー電着を提案します。

- 1 金属光沢を活かした豊富なカラーを実現
- 2 薄膜塗装でステンレス材やめっき皮膜の指紋付着防止の効果
- 3 樹脂めっきにはUV硬化タイプの電着塗装

機能性電着プロセス

樹脂特性を活かしたコーティング

ネガ型フォトレジスト電着

耐シアン性に優れためっきマスキング用フォトレジ電着
リードフレーム、コネクター等

ポリイミド樹脂系電着

耐熱電気絶縁コーティング
各種電気デバイス、基板材料等

フッ素樹脂系電着

低摩耗性、非粘着性、非汚染性を付与した塗膜を形成
カメラ部品、精密部品等

精密電気絶縁電着

エッジ被覆性に優れた電気絶縁コーティング
モーター部品、ソレノイド部品等

アルミ用 化成処理 プロセス

ALメイトプロセス
塗装密着性に優れた
クロムフリー
化成処理プロセス

マグネ用
化成処理
プロセス

MZメイトプロセス

塗装密着性に優れた
クロムフリー
化成処理プロセス

クロムフリー防錆処理

環境対応の表面処理

めつき用
防錆処理
プロセス

クロムフリーACR

3価クロムめつきや
スズ系合金めつきの
クロムフリー
防錆処理プロセス

●お気軽にお電話ください。

06-6971-3888

URL <http://www.shimizu-corp.co.jp>

表面処理の新時代を追求する

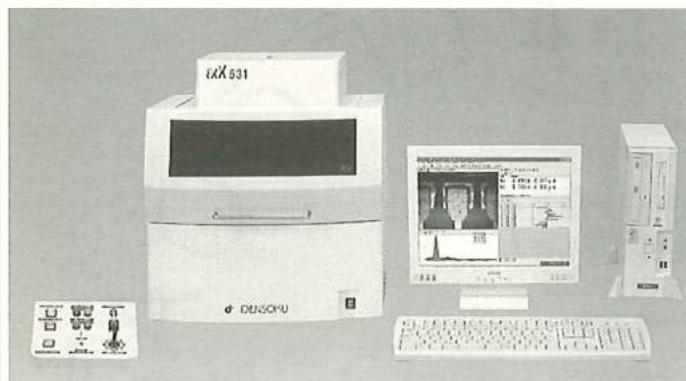


株式会社

シミズ

T537-0024 大阪市東成区東小橋1丁目9番18号

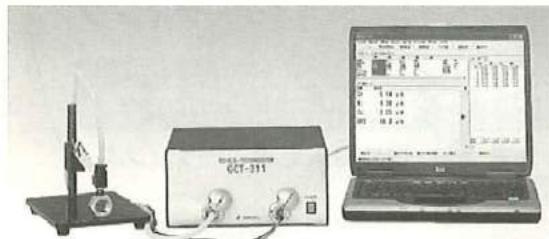
お客様とのお付き合いを大切にしたい。



蛍光X線式膜厚計 EX-X-531

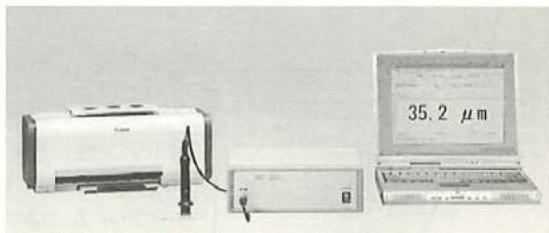
- ニューメリックフィルタの他に2種類のメカニカルフィルタを標準装備
 - コリメータの最小が $0.1 \phi\text{ mm}$ で極微小部の測定可能
 - マウス・クリックによる位置合せまた、多点連続自動測定が可能
 - オートフォーカス機能により敏速・正確に測定位置を確保
 - 測定物の画像を含む測定結果報告書を簡単に作成
 - 測定物のめつき付着分布をビジュアルに表示
 - 自己診断機能により、トラブル解消に敏速対応
- x線管の使用時間と耐久時間表示機能を付加

電解式膜厚計 クーロテクノスター GCT-311



- Cr/Ni/Cu/Fe・樹脂 等 多層膜を精度良く測定。
- Sn/Cuは純Sn層と合金Snを別々に測定。
- ・極薄から厚い皮膜まで幅広く測定。
- ・トリニッケル、ダブルニッケル、その他電位グラフ測定可能。
- ・測定エリア 1.7 2.4 3.4 ϕ

電気抵抗式膜厚計 RST-231



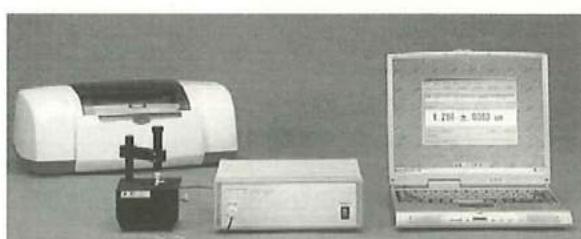
- ・絶縁物上の金属皮膜を短時間に高精度で測定可能。
- ・4探針プローブの採用により両面基板や多層基板も裏面や内部層の影響を受けず高精度の測定が可能。
- また、較正や測定の操作が簡単。
- ・2種類の測定レンジの選択で $1\sim180 \mu\text{m}$ の金属皮膜の測定可能。
- ・40チャンネルの登録が可能。又測定データをチャンネル毎に保存でき、測定データに対し統計項目を設定し統計処理の作成が可能。

渦電流式膜厚計 ダーメス DMC-211



- ・非金属上の蒸着膜(10nm以上)が測定できます。
- ・Zn/Fe、金属上の非金属皮膜
(アルマイト・塗料/Al・Cu・Ni等)の測定。
- ・どちらか一方が金属であれば測定可能。
- ・短時間で測定データをどんどん取り込めます。
- ・ONライン測定可能。

ペータ線式膜厚計 ペータテクノスター BTC-221



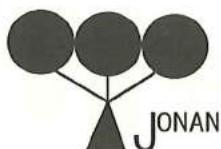
- ・プラスチック上の塗料が測定できます。
- ・金属上の薄皮膜($0.1 \mu\text{m}$ 以上)が測定できます。
- ・薄い皮膜から厚い皮膜まで幅広く測定できます。
- ・原子番号の差が大きいほど精度良く測定できます。

株式会社 電 測

〒164-0011 東京都中野区中央2丁目31番5号 TEL(03)3365-4411 FAX(03)3371-1287

E-mail: eigyo@densoku.com

Home-page: http://www.densoku.com



めっき業界の共同処理施設

シアン濃厚廃液無害化処理施設



JQA-EM5493



JAB
EMS Accreditation
RE006

祝 十日会 創立60周年

東京鍍金公害防止協同組合 城南処理センター

〒144-0033 東京都大田区東糀谷6-3-1

TEL 03(3743)2256 FAX 03(3743)2257

E-mail tctca@mub.biglobe.ne.jp

URL http://www.tmk.or.jp/jonan/jonan.html

環境保全のパイオニア・資源回収に貢献する 城南処理センター

産業廃棄物のご用命は 城南処理センター

多くの方が組合に加入して、施設を利用しています。

出資3口 3万円、賦課金月額 200円

土壤汚染状況調査 環境大臣 指定調査機関

廃棄物処理法の許可内容

- ・特別管理産業廃棄物収集運搬業許可(東京都) 許可番号 第1368003658号
 - (1)業の区分：収集・運搬(保管・積替えを含む)
 - (2)産業廃棄物の種類：①廃アルカリ ②特定有害産業廃棄物(汚泥)
- ・特別管理産業廃棄物処分業許可(東京都) 許可番号 第1378003658号
 - (1)業の区分：中間処理(シアン化合物の分解)
 - (2)特別管理産業廃棄物の種類：①廃アルカリ ②特定有害産業廃棄物(金属等を含む廃棄物)
- ・産業廃棄物収集運搬業許可(東京都) 許可番号 第1310003658号
 - (1)業の区分：収集・運搬(保管・積替えを含む)
 - (2)産業廃棄物の種類：燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、以上8種類(これらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く)

収集運搬許可 (大森興産㈱) : [関東]東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉県、千葉市、茨城県

栃木県、宇都宮市、埼玉県、群馬県、山梨県 [信越]新潟県 [東海]静岡県、浜松市、名古屋市

[近畿・中国]大阪市、東大阪市、神戸市、倉敷市

その他の地域は、ご相談下さい。

マルチ キャリア式 メッキ装置



当社の歴史が誇る集大成

表面処理装置の総合メーカー

槽上キャリアー移動により、槽にゴミが落ちるのを防止(侵入)する為天井・装置側面にアクリル板を設置し、よりよい排気効率をはかる。
マルチキャリア・タイプは、1つのキャリアでバレルと治具(引っ掛け)が簡単に交換可能。
ランダム制御により少量多品種に最適。



東和工機株式会社

本社工場 〒181-0005 東京都三鷹市中原3-10-27

TEL 0422-45-4126 FAX 0422-45-4128

伊那工場 〒396-0011 長野県伊那市日影652-1

TEL 0265-78-2802 FAX 0265-73-2625

URL <http://www.towakoki.co.jp>

NDミニクロパックシリーズ Fe・Cuイオン除去塔

3価クロム化成処理液精製塔

NDミニクロパックシリーズ「3価クロム化成処理液精製塔」は3価クロム化成処理液中のFeイオンやCuイオンを重金属吸着樹脂を充填した精製塔にて吸着除去することを目的とします。

3価クロム化成処理浴の寿命を延ばすことが可能になり、浴の更新により発生していた産業廃棄物を減少させ、コスト削減に貢献します。

特徴

①簡単な運転・管理方法

化成液をポンプでミニクロパックに循環通液させるだけです。日常の管理としては循環流量の確認のみです。定期的な浴成分の分析チェックが別途必要です。

②多彩な販売方法

販売方法はレンタル、売切、リースからご選択できます。

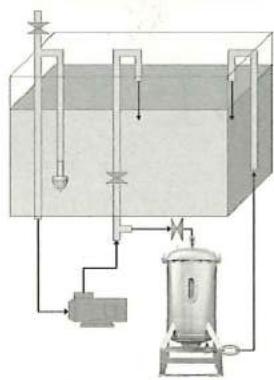
③コスト削減、廃棄物量削減

化成液の寿命を延ばすことにより3価クロム化成処理薬剤の使用量を減らす事が可能です。又、廃液発生量も減少しますので産業廃棄物の減量化につながります。

④仕上がり品質の安定

鉄・銅イオン濃度の変動がなくなり、仕上がり品質が安定します。

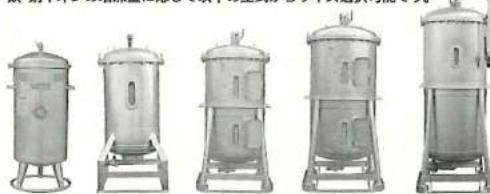
設置フロー



※流量調整用のバイパス配管が必要です。

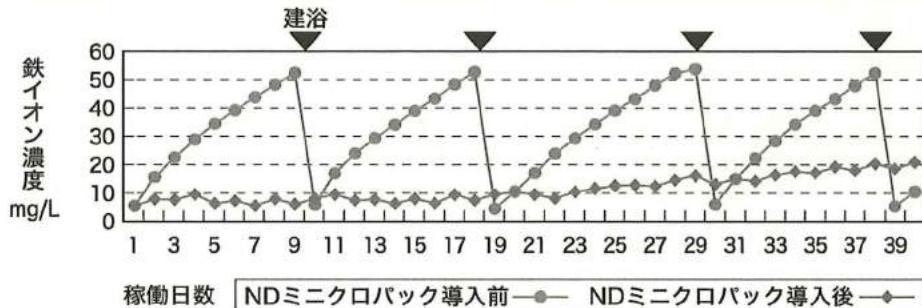
型式と設置寸法

鉄・銅イオンの増加量に応じて以下の型式からサイズ選択可能です。



| 型式 | 塔式 | 設置寸法(1塔当り)単位:mm | 運転重量(kg/塔) |
|--------|--------|------------------|------------|
| CR-40 | | Φ360×H947 | 65 |
| CR-150 | | □600×1,410～1,450 | 260 |
| CR-350 | H(1塔式) | □800×1,745～1,765 | 600 |
| CR-550 | | □900×2,055～2,270 | 900 |
| CR-700 | | □1,000×2,309 | 1,200 |

鉄イオン濃度推移比較



Nippon Denko CO., LTD.

日本電工株式会社 環境システム営業部 E-mail e-system@nippondenko.co.jp
〒104-8112 東京都中央区築地1-13-14 NBF東銀座スクエア 東京本社:03-3546-9333



Eco Live Together

●トライナー シリーズ

三価クロム化成処理剤
TR-173、TR-175、TR-185

●ハイパージンクシリーズ

均一電着型ジンケートめっき光沢剤
7900(回転用) / 9000(静止用)

<http://www.jasco-kk.co.jp>



日本表面化学株式会社

本 社：〒160-0004 東京都新宿区四谷3丁目13番
TEL (03) 5367-6381

- 営業部・海外部：(0467) 58-1131
- 名古屋支店：(052) 389-4031
- 大阪支店：(06) 6787-7531
- 東北営業所：(0223) 29-2412
- 北関東営業所：(0270) 31-0277



先進の表面処理プラントテクノロジーが、
新しいモノづくりと活性ビジネスを支えます。

PRODUCTS

表面処理機械装置

- ◆ セパレートタイプ
- ◆ エレベータータイプ
- ◆ 地上走行キャリアタイプ
- ◆ 天井走行キャリアタイプ
- ◆ 片持走行キャリアタイプ
- ◆ チューンタクトタイプ
- ◆ フープメッキ装置
- ◆ 手動タイプ
- ◆ プッシュヤーバータイプ

表面処理付帯設備

- ◆ 制御盤関連
- ◆ 排気装置関連
- ◆ 直流電源関連
- ◆ 熱交換器関連
- ◆ 治具ラッキング関連
- ◆ チタンケース関連
- ◆ 床耐薬品防止工事
- ◆ 冷却機関連
- ◆ ろ過機関連

廃水処理装置

- ◆ 廃水処理装置 ◆ CDドライヤー ◆ タンク ◆ 脱水機 ◆ 攪拌機 ◆ 計装機器



日本プラント工業株式会社

Nippon Plant Kogyo

本社 〒120-0015 東京都足立区足立2-40-16

TEL 03-3852-1161

工場 〒374-0123 群馬県邑楽郡板倉町飯野2334-1

TEL 0276-82-2521

URL <http://www.nippon-plant-kogyo.co.jp/>

- めっき薬品、表面処理薬品、めっき関連機器、めっき装置
 - 排水処理設備、及び還元剤
 - 研磨材料（各種取り揃えています）
 - 非鉄金属（精一杯努力致します）
- ☆ カーボン板（得意商品です）
- ☆ 自社製品、水切り剤 FM-50（ご好評頂いております）
シミ防止に強力な威力を發揮します。
- ☆ 引っ掛け、カゴ、チタンケース等修理、etc

お客様と共に成長したいと思っています
どんな事でもお電話下さい



不二ケミカル株式会社

〒110-0003 東京都台東区根岸 5-11-36

TEL 03-3876-1011~2

FAX 03-3876-0050

FPSシリーズ整流器

超小形・軽量化・省エネタイプ

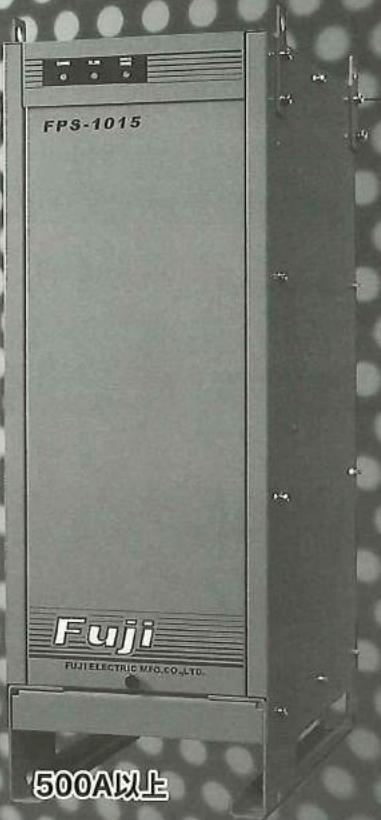
電圧・電流リップが小さく、高速応答

完璧な保護装置

多彩なオプション、
外部信号回路付き



100A~300A



信頼ある技術、サービスをお客さまに

めっき用電源装置を造り続けて50年。豊富なノウハウと高い技術力を集結して、めっき工業のニーズにお応えします。

直流積算電流計



FAH-500M

出力：リレー接点 1a (AC200V 3A MAX)

メモリー機能：積算数・各種設定値等
(リチウム電池バックアップにより10年間 at25°C)

操作は簡単、
ワンタッチで
機能は充実

フリー電源
(AC90~AC264V)



投込型振動子SUV型 Submersible Transducer Type



富士電機工業株式会社

[<http://www.fujidenki-k.co.jp>]

●本社 〒169-0073 東京都新宿区百人町1-21-22
TEL.03-5925-0512 FAX.03-5925-0513

●工場 〒189-0002 東京都東村山市青葉町2-40-7
TEL.042-393-7411 FAX.042-396-1731

環境対応 表面処理薬品

鉛フリー無電解ニッケルめっき薬品

| 製品名 | リン含有率 (wt%) | 用途 | 特長 |
|---------------------|----------------|---------|--|
| メルプレート NI-6522LF | 6~8 | プリント基板 | ・次工程の置換金めっきによる腐食が少なく、はんだ接合信頼性が高い ・析出速度 10~13 μm/h |
| メルプレート NI-7505LF | 6~8 | L TCC基板 | ・中性浴のため、基板、回路、レジストへのアタックが少ない ・析出速度 約 26~28 μm/h |
| メルプレート NI-2260LF | 6~9 | 精密機械部品 | ・連続補給による長期使用可能 ・析出速度 16~20 μm/h |
| メルプレート NI-2280LF | 8~11 | 精密機械部品 | ・連続補給により長期使用可能 ・析出速度 14~18 μm/h |
| メルプレート NI-2290LF | 10~12 | 精密機械部品 | ・皮膜の光沢調整が容易 ・析出速度 12~15 μm/h |

重金属フリー無電解ニッケルめっき薬品

| 製品名 | リン含有率 (wt%) | 用途 | 特長 |
|---------------------|----------------|--------|---|
| エンプレート NI-426 | 1~3 | 電気端子部品 | ・めっき皮膜は高硬度、低応力、低電気抵抗ではんだ濡れ性良好 ・析出速度 20~24 μm/h |
| メルプレート NI-6509MF | 6~8 | 電子部品 | ・析出速度およびはんだ接合強度の浴老化による変化が小さい ・析出速度 10~15 μm/h |

アルカリノーシアン電気銅めっき薬品

| 製品名 | 特長 |
|---------------|---|
| メルカバー CF-2120 | ・アルカリノーシアン電気銅ストライクめっき浴 |
| メルカバー CF-2130 | ・厚付け用アルカリノーシアン電気銅めっき浴 ・各種素材への下地めっきや浸炭防止処理として使用可能 |
| メルカバー CF-2140 | ・印刷ロール用ノーシアン電気銅ストライクめっき浴 |

微生物利用の万能タイプアルカリ脱脂剤

| 製品名 | 素材 | 特長 |
|---------------------|--------------------|---|
| メルクリーナー Bio-1150 | 金属、プラスチック等 各種素材 | ・素材に付着した油分の除去・分解により浴中への堆積を防止 ・補給のみで半永久的に使用可能 |

Meltek メルテックス 株式会社



本社 〒103-0004 東京都中央区東日本橋 2-28-5 (協和ビル) TEL. 03(3865)0175 FAX. 03(3865)0174
URL <http://www.meltek.co.jp/> E-mail sales@meltek.co.jp

■営業第1課, 2課 TEL. 048(665)2107 ■大阪営業所 TEL. 06(6943)5683 ■台湾事務所 TEL. 886-34202050
■東北営業所 TEL. 022(295)7040 ■九州営業所 TEL. 092(472)2861 ■MELTEX(HOLTD), TEL. 852-24208938
■名古屋営業所 TEL. 052(211)6274 ■海外部 TEL. 048(665)2114 ■深圳事務所 EL. 86-755-82300121

私たちは自然との調和を目指しています Happy Forest Company

モノを美しく仕上げる

製品に込められた想いを輝かせる

[RE : 再生] = それが私たちの仕事です

Rebirth

再生・蘇生

Recycle

リサイクル

Refresh

リフレッシュ

Reassurance

自信・確信

Relationship

関係



モリコーは全ての表面処理業を支援できるサービス業です

環境 ISO14001:2004 品質 ISO9001:2000

<中央鍍金工業協同組合員 認証>

鍍金材料・工業薬品・研磨材発売元

森幸鍍金材料株式会社 MORIKO Electroplating Materials Inc.

○本 社／東京都港区浜松町2-12-19

○事業本部／東京都大田区京浜島2-2-3 Tel:03-3790-1081(代表)~6 Fax:03-3790-8556

○ホームページ／<http://www.morikou.com/> ○メール：info@morikou.com



無隔膜式・添加剤消耗抑制 不溶性陽極

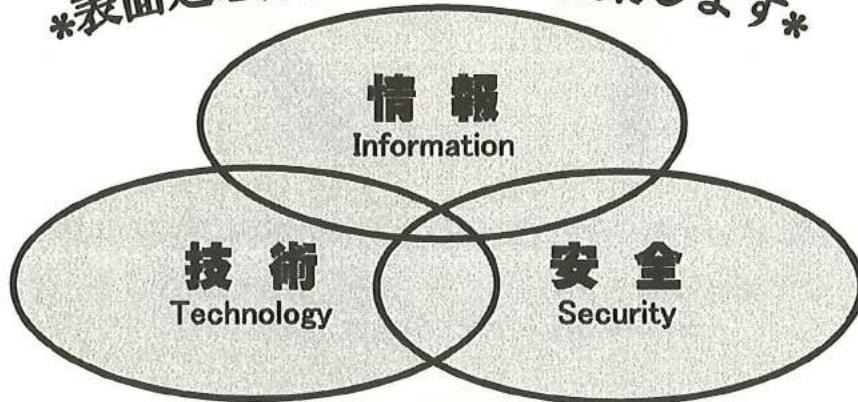
Easy Maintenance,
Saving Additives

New!

IrO₂電極+

<http://www.spf.co.jp> 本社 052-871-4121 東京 03-5806-3231

表面処理業界の未来へ提案します



営業品目

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 表面処理薬品・化学工業薬品製造・販売 | 4. 表面処理工場向け |
| 2. 機械・器具 & 表面処理装置・設備設計・施工 | 「T・S方式セキュリティシステム」 |
| 3. 排水・排ガス処理装置施工・メンテナンス | 5. 産業廃棄物処理・土壤汚染状況調査 |

大原研材株式会社

〒124-0005 東京都葛飾区宝町1-3-11
TEL. 03-3697-3241
FAX. 03-3697-8915
<http://www.ohara.co.jp/>

みなさまのニーズに……
即、お応えできる材料商社

関東金誠株式会社

●取り扱い商品

非鉄金属／めっき材料／研磨材料

本 社 〒123-0844 東京都足立区興野1丁目14番19号 TEL 03(3852)7221/FAX 03(3852)7224
 高崎営業所 〒370-1207 群馬県高崎市綿貫町746番地 TEL 027(346)3925
 静岡営業所 〒420-0816 静岡県静岡市葵区沓谷6丁目3番10号 TEL 054(261)9255

アルミ・アルミ合金上へのめっき法

スーパージンケートプロセス SZ II

スーパージンケートプロセスは、アルミ及び各種アルミ合金にめっきするための最も優れた前処理法です。簡単な操作と処理工程で、従来の方法と比較にならないほど密着の良いめっきを得ることができます。めっき後の耐熱試験も200℃で3時間以上、ビリ、フクレなしという優秀な結果を得ております。高純度のアルミから一般アルミダイキャストに至るまで、ほとんど全てのアルミ合金素材にあらゆる種類のめっきを施すことができます。また、無電解ニッケルめっき専用としてSZ NNもございます。



ゆたかなノウハウ 新しい表面処理
キサイ株式会社



本社・東京営業所 〒103-0001
 東京都中央区日本橋小伝馬町9-10
 TEL(03)3662-8871 FAX(03)3661-8636
<http://www.kizai-chem.co.jp>
 E-mail info@kizai-chem.co.jp

海外代理店 台湾・韓国・マレーシア/シンガポール・タイ・インドネシア・香港・中国

大阪営業所 TEL(06)6943-5561 FAX(06)6943-5563
 横浜営業所 TEL(045)782-3085 FAX(045)782-3523
 名古屋営業所 TEL(052)522-1221 FAX(052)522-1223
 高崎営業所 TEL(027)325-6571 FAX(027)325-6975
 横浜研究室TEL(045)782-3085 厚木工場TEL(046)241-5161

SANMATSUはプラントプランナー。

SANMATSUは、受注、保管、配送という従来の流通業務に加えて、表面処理薬品・資材、機械設備・機器等の商品に、専門的な情報を与え、また新技術のノウハウを提案し、新たな付加価値を誕生させてユーザーに提供することが、これからのお業の使命であると考えます。

また、**SANMATSU**はプランニング・設計から製作・建浴・メンテナンスまで一貫して供給できる、表面処理業界唯一の総合プラントプランナーでもあるわけです。生産現場のニーズに即して開発された優れたハードウェアと、あらゆる産業分野でのシステムを構築し、半世紀間蓄積してきた豊富なソフトウェアが、**SANMATSU**への高い信頼を形作っています。

加えて、豊富な経験を持つ**SANMATSU**のスタッフが、付属機器類、排水処理装置、試験分析器具等を、ユーザーの最適な商品としてセレクトするとともに、有効活用するためのノウハウも提供しております。お気軽にご相談ください。

めっき材料総合商社 **SANMATSU**



株式会社 三 松

本社 〒144-0051 東京都大田区西蒲田 7-57-11 TEL. 03-3733-7131 FAX. 03-3739-0321

湘南 〒251-0046 藤沢市辻堂西海岸 2-14-45 TEL. 0466-34-1711 FAX. 0466-34-0581

横浜 〒221-0024 横浜市神奈川区恵比須町 7-5 TEL. 045-461-6088 FAX. 045-461-6077

水処理でお考えになられていること・お困りになられていることをお聞かせ下さい。

表面処理分野（鍍金・塗装）でご活躍される皆様の水に関するあらゆる問題に取り組み、最適システムをご提案いたします。

株式会社 **スイレイ** 東京営業所

所長 廣嶋 力

〒184-0012 東京都小金井市中町 4-14-15 プエト小金井 201

TEL. 042-313-8357 FAX. 042-313-8358

URL <http://www.suirei.co.jp>

E-mail t-hiroshima@suirei.co.jp



株式会社 タイホー

亜鉛めっき用後処理剤、光沢剤、脱脂剤
めっき設備、めっき各種機材

現場と環境にやさしい商品づくりで
亜鉛めっきの未来を拓く

〒332-0003 埼玉県川口市東領家 2-37-18
TEL:048-223-6786 FAX:048-223-7714
<http://www.taihogroup.co.jp>

新世代商品

★ 信用ある薬液加熱メーカー ★

TG BRAND

強酸・強アルカリ・純水向

あらゆる薬液加熱にやさしいテフロンヒーター

潜水UU・フロン[®]ヒーター

【特許潜水】

新効果! ●

(E (安全マーク) 認証

新しい視点“美しさも機能”に耐久力と
特許潜水仕様を加え、液にやさしい
浅いタンクに高容量なテフロンヒーター!

ALL TEFLON made 90°C MAX使用

- PFA被覆(SUSシーズ内管)1mm厚
- 4P3相アース付、画期的モデル
- 槽の底から昇温できる温度均一仕様
- ヒーターの表面温度を下げた新技術
- ※モデル多種、テフロン足・ホルダー付等
- ※230V4P 0.5, 1, 2, 3, 4, 6kW
- ※投込UU・フロンもある。
- ※海外向高電圧400Vも製造可



好評!

新世代商品

ヒーター用温度調節器

TGX★安全型 STX 省エネ・節電・省人化をサポート

気くばりANZEN
警報機能付

ヒーターの新世代化と共に、「タニコン」シリーズ温調も
「デジタル」に新世代化します。ヒーター保護もテフロン。
【安全型】は空吹き防止テフロンレベルセンサー付。

TG 热の世界から生産ラインのグレードをサクセス!

信頼のグローバルブランド — SINCE 1947 —



谷口ヒーターズ 株式会社

■千葉事業所 本社 東京都品川区
〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦2号580-104
TEL:0438(63)1113(代) FAX:0438(63)6931
[E-mail] tg@taniguchi-heaters.com
[ホームページ] <http://www.taniguchi-heaters.com>
●新世代商品・「テフロンヒーターいろいろ」カタログご進呈●

鍍金薬品・装置・研磨材料

長谷川鍍研資材株式会社

〒 110-0013 東京都台東区入谷2-30-7

TEL 03(3872)1191(代)

fax 03(3872)1193

営業品目

化学工業薬品・金属表面処理薬品・非鉄金属・貴金属
公害処理装置・UV洗浄装置・薄膜ガラス自動洗浄装置
研磨剤・各種試験薬・測定装置等

めっき材料の総合商社
株式会社 マミヤ

〒131-0041 東京都墨田区八広1丁目31番11号

TEL 03-3611-4121 FAX 03-3618-0381

倉庫 東京都墨田区八広3丁目3番6号

UEMURA

株式会社上村

代表取締役 上村福子

本社 〒113-0034 東京都文京区湯島3-10-5

TEL 03-3839-7790

営業所 〒114-0001 東京都北区東十条3-8-13

TEL 03-5390-2781(代) FAX 03-5390-2875

祝60周年

株式会社オカダテックス

千葉県野田市上三ヶ尾261-9

TEL:04-7124-4151 FAX:04-7125-6684

<http://www.okadatecs.co.jp/>

重金属を含む汚いは廃棄からリサイクルへ
貴金属、非鉄金属リサイクル

カワハラメタル株式会社

東京都江戸川区篠崎町4-17-1

TEL:047-487-0552 FAX:03-3670-5244

URL:<http://www.kawaharametal.com>

メツキ製品・機械設備

木村鍍研材工業株式会社

代表取締役 佐 藤 篤 太 郎

〒110-0015

東京都台東区東上野1-17-7

TEL 03-3832-2251

FAX 03-3832-3461

メッキ設備とメッキ資材

株式会社関根商店

○ めっき材料商社

代表取締役

関根喜一

本社 東京都台東区日本堤 2-19-2

TEL 03-3876-1401 FAX 03-3876-1404

秋田営業所 秋田県秋田市土崎港南 3-9-20

TEL 018-857-0556 FAX 018-846-6130

排水処理設備・メンテナンス

有限会社大啓ケアー

代表取締役

南忠男

〒 340-0022

埼玉県草加市瀬崎町 1386-25

TEL 0489-24-0833

FAX 0489-24-0834

○ 排水設備・メンテナンス

膜厚計のスペシャリスト。
40年のXRF(蛍光X線分析)経験を集結した
オックスフォードインスツルメンツ社の膜厚計の販売

株式会社フレックスサービス

千葉県八千代市高津東4-8-26
TEL:047-487-0552
<http://www.flex-service.com/>

室町金属株式会社

取締役社長

岩川重雄

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町2-14-3

TEL 03-3263-1611 FAX 03-3237-7394

鍍金用治具総合メーカー

目黒工業株式会社

代表取締役 **目 黒 澄**

〒131-0032

東京都墨田区東向島2-8-7

TEL 03-3614-1326

FAX 03-3619-4615

創業以来52年の経験と実績!!
鍍金の加温・冷却・乾燥のことなら

株式会社渡辺熱理興業

東京都足立区鹿浜3-29-11

TEL:03-3899-4612 FAX:03-3897-2618

<http://www.netsuri.co.jp>

【編集後記】

周年行事実行委員長の次の十日会会長経験者が記念誌の編集委員長を努めるのが慣例になっている。今回の60周年行事実行委員長である遠藤氏の次の十日会歴代会長が私であったため、編集委員長に就任した。内容についての企画立案は元々嫌いではないが、締切スケジュールを決めて原稿を集め、内容の確認作業をして行くという作業は苦手科目である。不安を持ってのスタートであった。

編集委員会が発足したのは、十日会60周年行事のちょうど1年前である2007年11月であった。スタート時には、石川会長、遠藤実行委員長と方針について話し合い、本誌の編集方針を“これから10年に挑む”と決定した。

表装デザインである表紙の“挑”は方針から採った文字であり、裏表紙の四角は一つが10年を意味しており右肩上がりにステップアップして行く十日会をイメージしている。50周年から今日に至る業界は、環境規制など大

きな変化のあった10年であった。そして70周年に向かう今後の10年も大きな変革期である事は容易に想像出来る。過去を知り未来に挑むことが大事である。そんな想いから、より良い70周年を迎える為に決定した方針であった。その方針を基に3つの企画コンセプトを決めた。1つ目は、十日会の歴史と伝統、そして会の魅力を多くの人に伝える。2つ目は、十日会会員に限らず業界人なら楽しめる読み物にする。3つ目は、一度読まれたら終わりではなく、読み返してもらえる読み物にする。この3つのコンセプトを基に、各役員がそれぞれ練ったアイディアを皆の前でプレゼンし、協議して企画を作っていた。採用される企画、されない企画があったが、この作業は面白かった。良い企画を考えてくれたおかげで、記念誌の企画構成までは順調であった。しかし、記念誌を作るという作業において素人集団である我々が形にして行くことは大変な苦

労の連続であった。

各企画の担当者を決め、出版製作スケジュールを作り進めて行くが、都度壁にあたり、あっと言う間に10ヶ月が過ぎてしまった。しかし、各担当者が自分の企画を成功させるべく一生懸命にやってくれたおかげでイメージ通り、いや、期待以上に出来上がったと自負している。編集委員数13名という少数だったため、各自に掛かる負担は大きなものであったが、誰一人弱音を吐かず、仕事が終わってから遅く迄議論と編集に努めてくれた。

私は、十日会会員である事を誇りに思っている。今迄多くのことを十日会の活動を通じて教わって来た。その良さの全てをこの記念誌で伝える事は無理であろうが、この記念誌を読んで戴いた時に、少しでも十日会の良き伝統と会活動を知って戴き、業界人として未来に挑む気持ちを少しでも後押しするきっかけになれば幸甚である。

今回の記念誌作りの力になってくれるはずであった50周年の編集委員長を努めた故繩田敏治氏へのレクイエムにするべく、編集委員が一丸となって、討論し、協力してできあがった記念誌である。

製作過程で十日会の過去の歴史を学んで行くうちに、有志団体である十日会が60年間続いて来たことに改めて感激した。先輩諸兄の偉業に感謝と敬意を表するとともに、今後もこの良き十日会精神を未来に向かって引き継いで行かなければならないと強く思った。

最後に、協賛してくださった多くの企業様、貴重な時間を割いてご意見賜った歴代会長各位、協力してくれた会員各位、そして、完成迄一緒にになって苦労してくれた仲間である編集委員の皆さん心より感謝申し上げる。

十日会創立60周年記念誌編集委員長

齊藤 晴久



桃

創立 **60** 周年記念誌

日本鍍金協会 **十日会**

2008年11月16日 発行

■発行

日本鍍金協会 十日会
東京都文京区湯島1-11-10 めつきセンター内
Tel.03-3814-5621 Fax.03-3816-6166
<http://www.tokakai.com/>

■編集

「十日会60周年記念誌」編集委員会

■編集協力

株式会社ウォールニクス
株式会社メディアダイブ

■ブックデザイン・DTP 株式会社トウーステップ

■印刷製本

株式会社大熊整美堂

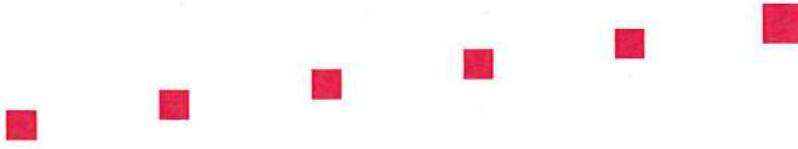
©2008日本鍍金協会 十日会 Printed in Japan

※本書の内容を無断で複写・複製することは法律で定められた場合を除き、著作権・出版権の権利侵害となります。

※本書の内容は2008年10月現在のものです。



卷四十一



日本鍍金協会
十日会